

演 習 林 年 報

2023 年度活動報告等

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
2024.11

はじめに

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林は、森林を対象とした教育・研究の場を提供するために設置された研究科附属施設です。130 年近い歴史を有し、学内のみならず、広く国内外の教育・研究機関から学生実習や多様な研究のフィールドとして利用されています。目的に応じて、千葉、北海道、秩父、田無、愛知、富士、伊豆の 7 箇所に設置された地方演習林の合計面積は、約 32,300 ha で、東京 23 区の面積の約半分に相当し、東京大学が管理する土地の 99%にも達します。地方演習林と弥生キャンパスには計 23 名の専任教員、約 70 名の事務職員・技術職員、さらには研究員や非常勤職員など多くのスタッフが在籍し、森林の維持管理のみならず、宿泊施設、固定試験地、長期データの蓄積等の豊富な研究基盤を支え続けています。

2023 年度は演習林「教育研究計画 2021～2030」（2020 年度策定、2025 年度見直し）の 3 年目にあたります。新計画で施行した地方演習林と 7 つの常置専門委員会との 2 軸からなる組織体制は軌道に乗っています。2023 年 5 月 8 日には、すべての地方演習林で、コロナ以前の活動レベルに戻りました。今後は新計画にもとづき、さらなる演習林の諸機能の向上を目指す所存です。

また、2023 年度には東京大学の目指すグリーントランスフォーメーションに演習林も挑戦すべく、概算要求提案や産学連携を目指すタスクフォースの活動も活発に行われました。演習林産材の学内利用の促進も引き続き実施しています。こうした活動の結果、2024 年度から「フォレスト GX/DX 協創センター」が発足する運びとなり、同センターの設立計画について内外への情報発信を積極的に行いました。

このような状況の中で、2023 年度の演習林の教育・研究活動やそれらの成果をまとめた年報を発行する運びとなりました。ぜひ演習林活動の記録をご一読いただき、今後とも演習林へのご支援をよろしくお願いいたします。

2024 年 5 月

東京大学大学院農学生命科学研究科
附属演習林長 古井戸 宏通

目次

はじめに

第1部 附属演習林報告

1. 全体組織	2
2. 企画部	3
3. 教育・社会連携センター	8
4. フィールドデータ研究センター	10

第2部 常置専門委員会報告

1) 大学教育委員会	14
2) 研究委員会	16
3) 社会連携委員会	23
4) 国際委員会	25
5) 森林管理委員会	27
6) 環境安全委員会	29
7) 管理運営委員会	30

第3部 地方演習林報告

1) 千葉演習林	34
2) 北海道演習林	36
3) 秩父演習林	38
4) 田無演習林	40
5) 生態水文学研究所	42
6) 富士癒しの森研究所	44
7) 樹芸研究所	46

資 料

1. 大学教育	
1) 大学院講義等	50
2) 学部講義等	52
3) 他大学の非常勤講師（委嘱あり）	55
4) その他の講義・実習対応	56
5) 4研究室の所属メンバー	60
6) 所属学生の学位論文	61
7) 森林生態圏管理学大講座ゼミ	62
8) 演習林 教育・社会連携センターゼミ	66
9) 実習等	67
2. 研究	
1) 教職員の論文等	71
2) 学会発表等	75
3) 著書	82

4) 演習林を利用して行った論文等	83
5) 受賞・特許等	89
6) 外部資金によって行われた研究	90
3. 社会連携	
1) 学外各種委員会等委員	93
2) 小中高等学校への対応	97
3) 公開講座・セミナー等	100
4) 学会・研究・市民教育等における講師等（招待講演を含む）	102
5) 演習林報告・演習林	108
6) morikara	109
7) 新聞・雑誌・放送等	110
8) 地方自治体等との協定	113
9) SNS の運用	114
4. 国際	
1) 交流事業・国際シンポジウム・国際共同研究	115
2) 海外渡航	117
3) 外国人研究者・学生等の来訪	118
5. 森林管理	
1) 管理面積集計表・林相別蓄積集計表・植栽樹種	122
2) 立木伐採量	124
3) 育林実行量	125
4) 素材生産総括表・土木実行総括表・道路現況	127
5) 演習林林産物収入細分表	128
6. 環境安全	
1) 安全・防災のための講習会等	129
2) 資格取得のための講習等	130
3) 災害発生状況・山火事予防活動	131
7. 管理運営	
1) 令和5年度技術職員等試験研究・研修会議	132
2) 技術職員研修	133
3) 事務職員研修	134
8. 組織図	
地方演習林・センター	
1) 千葉演習林	135
2) 北海道演習林	136
3) 秩父演習林	137
4) 田無演習林	137
5) 生態水文学研究所	138

6) 富士癒しの森研究所・	138
7) 樹芸研究所・	138
8) 企画部, 教育・社会連携センター, フィールドデータ研究センター・	139
常置専門委員会	
1) 大学教育委員会・	141
2) 研究委員会・	141
3) 社会連携委員会・	144
4) 国際委員会・	145
5) 森林管理委員会・	145
6) 環境安全委員会・	146
7) 管理運営委員会・	147
9. 人事・	148
10. 予算・収入	
1) 予算・	149
2) 収入・	149
11. 委員会・会議等	
1) 演習林規則に則って開催された委員会・会議・	150
2) その他委員会・会議・	150
12. 利用状況	
1) 千葉演習林・	151
2) 北海道演習林・	160
3) 秩父演習林・	165
4) 田無演習林・	174
5) 生態水文学研究所・	183
6) 富士癒しの森研究所・	190
7) 樹芸研究所・	197
13. 各演習林所在地および連絡先・	201

第 1 部 附属演習林報告

1. 全体組織	…	2
2. 企画部	…	3
3. 教育・社会連携センター	…	8
4. フィールドデータ研究センター	…	10

2023 年度 演習林活動報告

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（以下、附属演習林）は東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林規則（以下、附属演習林規則）に基づき設置されており、その第一条に、林学・林産学に関する基礎的及び応用的な試験・研究を行うとともに、学生の実習に便宜を与えることを目的とすることを定めている。

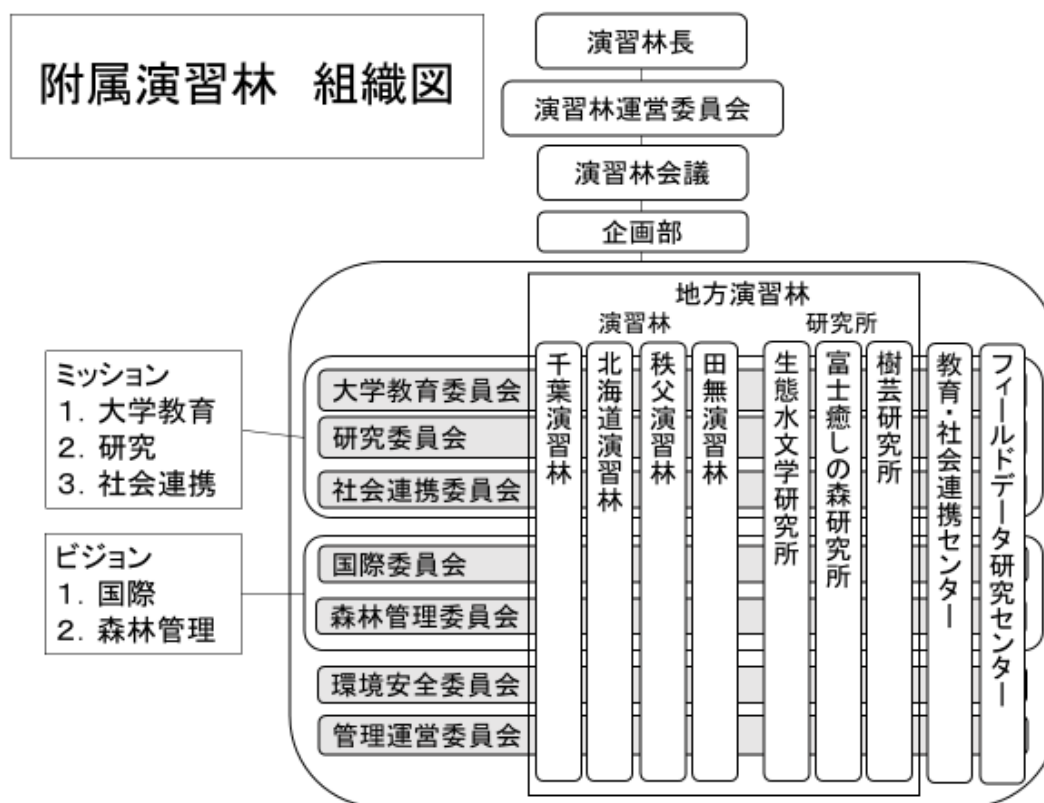
附属演習林は 10 年間を単位とし附属演習林全体を集約した「教育研究計画」により運営されている。現計画の期間は 2021～2030 年であり、2023 年度は 3 年度目にあたる。本計画は第一部（附属演習林計画）、第二部（常置専門委員会計画）、第三部（地方演習林計画）の 3 部で構成されている。

第 1 部 附属演習林報告

教育研究計画 2021～2030 の第一部は、基本方針、大学教育、研究、社会連携、国際、森林管理、環境安全、管理運営、組織について定めている。このうち大学教育、研究、社会連携、国際、森林管理、環境安全、管理運営についてはそれぞれ専門委員会を常置して実行することを第二部で定めているため、第一部では主に「組織」について活動を報告する。

1. 全体組織

演習林長および演習林運営委員会を頂点として、演習林会議および企画部のもとに、基本方針として定めているミッション、ビジョンを実現するために常置した 7 つの専門委員会と地方演習林との関係を明確化した組織体制を構築し、2021 年度当初から運用した。



2. 企画部

企画部は、演習林会議の下で、附属演習林内、研究科内、東京大学内、東京大学外を対象とした企画調整（大学教育、研究、社会連携、国際、森林管理、管理運営、人事、財務等）を担当し、地方演習林、教育・社会連携センター、フィールドデータ研究センターの相互連携を促進すると定められている。2023 年度に行った主な対応は以下のとおりである。

【1】新型コロナウイルス感染症に関連する対応

研究科長の指示により、各地方演習林は、所在地の状況を勘案の上、演習林長が制限レベルを設定することとなっている。2022 年度までは、地方演習林ごとの制限レベルを演習林長が定め、レベル変更の都度、研究科長および専攻長・附属施設長会議に報告してきた。2022 年度末の時点で、田無演習林のみがレベル B、他の地方演習林はレベル A となっていたが、2023 年 4 月 1 日に田無演習林のレベルを A に変更し、すべての地方演習林のレベルが A となった。2023 年 5 月 8 日から全学のレベルが S となったことを踏まえ、すべての地方演習林のレベルも S とした。

【2】グリーン・トランスフォーメーション (GX)

演習林の GX への挑戦については、2021 年度に演習林会議で審議・合意した内容を 2021 年 12 月の OEG s シンポジウムや広報誌「弥生」74 号（2022 年春号）で示した後、2022 年 8 月 18 ～19 日に国立台湾大学が主催した第 9 回アジア大学演習林コンソーシウム・シンポジウム（SAUFC）（オンライン）や 2023 年 3 月にガジャマダ大学と東大演習林が共催した国際シンポジウム、2023 年 3 月に研究科が主催した「GX を巡る科学と政策ダイアログ」で GX の取り組み紹介、2025 年度施設概算要求として「フォレスト GX/DX 協創ベース」の要求、演習林産材学内販売 WG の組織、北海道演習林・田無演習林産材で作成した箸の UTCC での販売、研究科 9 号館の看板を田無演習林産材で制作、2024 年度概算要求教育研究組織改革分（組織整備）として「森林 GX 協創センターの設置」を研究科に提案、といった一連の活動を進めてきた。

これらに引き続き、2023 年度は以下の活動を行った。

1) 2024 年度概算要求教育研究組織改革分（組織整備）

演習林から研究科に対して行った「森林 GX 協創センターの設置」の提案について、名称が「農学生命科学研究科附属演習林の組織整備：フォレスト GX/DX 協創センターの設置」に変更された後、研究科からの要求順位 1 位で本部に提案された。2023 年 5 月 12 日に行われた全学ヒアリングに蔵治企画部長が参加した。2023 年 6 月 5 日に文科省大学研究基盤整備課への事前相談があり、事前に追加資料を作成した。当日は蔵治企画部長が出席した。2023 年 6 月 6 日の全学予算委員会で、本提案は全学順位 2 位で文科省に要求することが決定した（全学の提案 54 件中、文部科学省への要求 27 件）。

2023 年 6 月 14 日の演習林会議において、これまで設置してきた「FDRC の発展的改組による概算要求 TF」を発展的に改組し、フォレスト DX/GX 協創センター設立準備室を設置する提案を行い認められた。準備室の活動に必要な予算として、「フォレスト GX/DX 協創センター設置準備室の設置とスタートアップ」計 8,522 千円を研究科研究科機能強化経費に提案し、2023 年 7 月 13 日の予算委員会で認められた。メンバーの人選を進め、2023 年 7 月 19 日の演習林会議において、設立準備室長（久保田耕平・演習林長）、設立準備室長補佐（蔵治光一郎・企画部長・平尾聡秀・フィールドデータ研究センター長）、部局間連携（研究）担当（楠本大・研究委員会委員長）、研究テーマ 1「大規模・高精度の森林データ整備」（尾張敏章・森林管理

委員会委員長), 研究テーマ2「炭素吸収量推定の精緻化・見える化」(尾張), 研究テーマ3「土壌炭素蓄積も考慮した森林管理」(平尾), 部局間連携(人材育成)担当(福井大・大学教育委員会委員長), 国際連携担当(尾張), 産学協創担当(安村直樹・管理運営委員会委員長), 社会協創担当(齋藤暖生・社会連携委員会委員長), 地方演習林連絡調整担当(楠本(千葉演習林), 尾張(北海道演習林), 平尾(秩父演習林), 竹本周平助教(田無演習林), 安村(生態水文学研究所), 福井(富士癒しの森研究所), 齋藤(樹芸研究所))を報告した(このうち竹本助教は人事異動のため2023年9月1日より前原忠助教に交代)。

2023年9月4日, 研究科経理課を通じて, 本部財務課より概算要求中の「フォレストGX/DX協創センター」が文科省から財務省への要求事項となった旨の連絡と査定結果の通知と資料再作成の通知があった。査定結果を踏まえ, 教員の要求人数および役割を見直し, 以下のように再整理した。

- ・女性准教授 1人

Nature-based solutions を学内外に展開し, 森林へのグリーン投資を通じて, 本センターのミッションの下で事業を統括する役割を果たす(実務家教員)。

- ・助教 1人

本部・部局間連携によるGX/DX研究を推進するため, 現場でのプロジェクトのマネジメントを行う役割を担う(若手教員)。

- ・高度専門職人材 2人

- ・URA 1人

GX/DX研究の企画立案・進捗管理支援

- ・産学官連携コーディネーター 1人

産学協創・社会協創としてGX/DX研究の成果活用促進

またKPIについても以下のように再整理した。

【効果1】 KPI: 東京大学への森林グリーン投資件数

(実績値1件: 2023年度, 目標値7件: 2028年度) 10→7へ変更

KPI: 森林GX/DX国際拠点大学数

(実績値7件: 2023年度, 目標値10件: 2028年度) 変更なし

【効果2】 KPI: 森林GX/DXに関する民間企業・自治体との連携協定数

(実績値1件: 2023年度, 目標値7件: 2028年度) 10→7へ変更

【効果3】 KPI: 他部局と連携した森林GX/DXに関する教育プログラム数

(実績値0件: 2023年度, 目標値7件: 2028年度) 10→7へ変更

その後, 財務省から閣議を経て国会に提出された2024年度予算案は, 2024年3月2日に衆議院で可決成立した。

予算措置されることを見越し, 部局間連携を具体的に推進するため, すでにフィールドデータ研究センター(FDRC)と連携して研究を行ってきた情報基盤センターの小林博樹教授が2024年4月1日より附属演習林を兼務することを2023年12月21日教授会に提案し, 認められた。新規雇用する特任准教授, 特任助教, URA, 産学官連携コーディネーターの公募を進め, 特任准教授については2024年2月15日教授会で, 特任助教については2024年2月8日専攻長・附属施設長会議で, それぞれ審議の上認められた。附属演習林規則の改正を2024年2月15日教授会に提案し, 認められた。

フォレストGX/DX協創センターの設立計画について学内外, 国外に向けて積極的に発信した。2023年10月21日に東京大学弥生講堂一条ホールで行われた第65回東京大学農学部公開セミナーにおける尾張准教授の発表「森林DXから森林GXへ: 北海道演習林の挑戦」, 2023年12月

7日に国立台湾大学で行われた Agriculture Parallel Session, NTU-UTokyo Joint Conference 2023 における尾張准教授の講演「Green and digital transformation of forest management and planning」, 2023 年 11 月 16 日のデジタル空間社会連携研究機構第 7 回定例会における水内助教の発表「森林の風致・ランドスケープと水土保全機能の把握」, 2024 年 2 月 7 日に山上会館で行われた第 2 回東京大学地域連携シンポジウム「遠隔地施設における所在地自治体との地域連携」における蔵治教授の講演「演習林と所在地自治体が連携した取り組み」, 2024 年 2 月 22 日に山中湖村公民館で行われた「富士癒しの森研究所の研究 2023」での福井講師の講演等で, フォレスト GX/DX 協創センターの設立計画について紹介した。

2) 2026 年度施設概算要求

2025 年度の施設概算要求の結果は不採択であったが 2024 年度と同様の A 評価であった (2023 年度以前の要求は B 評価)。2026 年度施設概算要求は研究科と協議し, 研究科から本部に提出する 2 件には採用しないが来年度以降に提出する予定の案件の一つとしてフォレスト GX/DX 協創センターの人材育成・研究・国際連携・産学協創・社会協創に資するために都市と森林をつなぐハブとして機能するベース施設という位置づけで埼玉県下影森地区に「フォレスト GX/DX 協創センター秩父ベース」を要求した。

(埼玉県下影森) フォレストGX/DX協創センター秩父ベース

附属演習林に新設されたフォレストGX/DX協創センターの
人材育成・研究・国際連携・産学協創・社会協創に資するために
都市と森林をつなぐハブとして機能するベース施設

<教育>

学部学生・大学院生にGX/DX教育を行い、専門的知見と幅広い視野を兼ね備えた人材を育成する施設

<研究>

東京大学が有する森林の管理と利用に関する分野横断型研究を促進し、森林GXの基盤を強化する施設

<産学連携・協創>

研究者・学生、地域団体、民間企業間の連携・協創によって木材資源・非木材林産物の活用を促進し、森林へのグリーン投資を呼び込む施設



フォレストGX/DX協創センター秩父ベース



演習林産材を用いたZEB

教員室・学生室

学内外の研究者や学生が長期滞在して研究することに対応



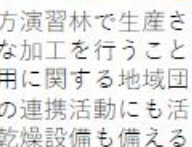
木材実験室・ 林産物実験室・ 試料保管室

木材の物性等の木材利用に関する実験、有用成分や新素材等の特用林産物に関する実験を行うことが可能。試料保管スペースも併設



木材加工室・ 木材乾燥室

全国に広がる地方演習林で生産された木材の高度な加工を行うことができ、木材利用に関する地域団体や民間企業との連携活動にも活用できる。木材乾燥設備も備える



多目的室

メインキャンパスとつないで遠隔講義やアクティブ・ラーニングを行うことのできるICT機器設備を備え、産学連携や地域社会との協創に向けた会議やイベントに活用

施設前の広場と展示室を有機的に連結した開放的なエントランス



展示室

東京大学のGX/DXの取り組みや成果を公開するとともに、社会連携活動を行うためのフレキシブルなオープンラボとしても活用できる。ミュージアムショップを併設

秩父演習林の宿泊施設と直結した研究者・学生専用エントランス

施設概算要求「フォレストGX/DX協創センター秩父ベース」(埼玉県下影森地区)

3) 演習林産材の学内利用

東京大学内で演習林産材の利用事例を増やすため、2022 年度から演習林産材学内販売 WG を組織して活動した。2023 年度に秩父演習林で製材品をストックする倉庫が完成したほか、千葉演習林で民間企業との共同研究に資するための木材を生産するための立木伐採、造材、運材、桎積、北海道演習林で製材、秩父演習林で伐採、造材、運材、製材を進めた。北海道演習林、田無演習林に続き富士癒しの森研究所産材で制作した箸、北海道演習林及び秩父演習林産材で制作したボールペンを UTCC での販売を開始した。東京大学運動会硬式野球部に北海道演習林産材で制作したバットを贈呈した。演習林産材で家具を作ることについて、カリモクグループが興味をもってくださり、地方演習林・弥生地区・産学協創リエゾンオフィスに呼びかけて愛知県東浦町の家具工場、製材工場の見学を行った。カリモクグループからの提案で、フォレスト GX/DX 協創センターが置かれる 1 号館 1 階 117-1 号室に北海道演習林産材で制作した本棚、机、椅子を現物寄付していただいた。JR 東日本と東京大学の産学協創協定により 2024 年度末に開設される予定の「東京大学 GATEWAY Campus」の家具に演習林産材を使用することについて打診があり、相談を進めている。



バット贈呈式の様子



贈呈されたバット

【3】タスクフォース（TF）の設置

2021, 22 年度に引き続き、時限的な課題に対応するために、以下のタスクフォースを設置して対応した。なお概算要求 TF はフォレスト GX/DX 協創センター準備室の設置に伴い役割を終えた。産学協創 TF は 2024 年 3 月 31 日をもって解消し、2024 年 4 月 1 日より社会連携委員会の中に産学協創を担当する組織を新たに設置し、フォレスト GX/DX 協創センターの中に設置される産学協創部門とともに産学協創案件に対応する計画である。

- ・概算要求 TF（平尾（長）、楠本、齋藤、久保田、蔵治）
- ・産学協創 TF（安村、鴨田、齋藤、當山、鈴木、久保田、蔵治）

※當山助教は 2023 年 9 月 30 日に退職

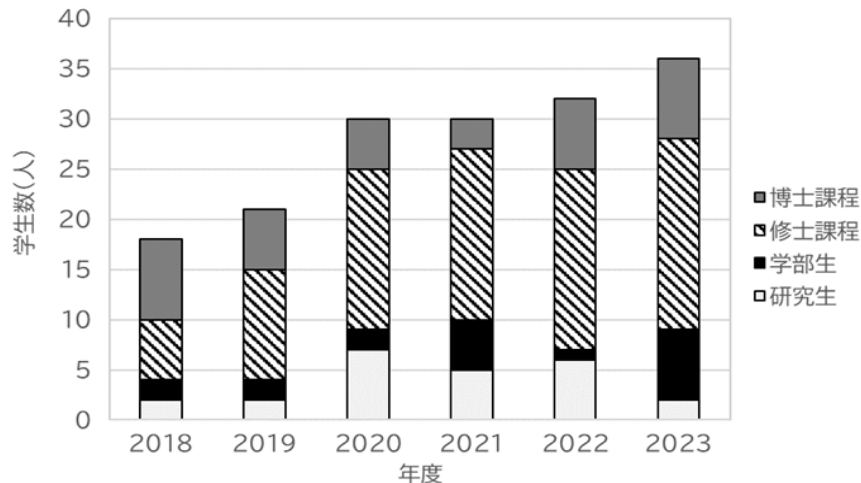
【4】農学リテラシー講義

農学部全学部生の必修科目である W ターム「農学リテラシー」において、「フィールドにおける環境安全管理」と題する講義の一部を演習林として開講当初より担当してきている。2022 年度までは企画部長が講師を務めてきたが、2023 年度は新しい試みとして環境安全委員会に担当教員の人選を依頼し、委員会の人選により坂上助教が担当した。

3. 教育・社会連携センター

【1】大学教育

附属演習林教員の指導を受ける大学院生・学部生は弥生地区に机を置いて学生生活を過ごす。所属学生数は2020年度から大きく伸び、2023年度には35名を超える規模となっている（図－1）。



5月1日時点の演習林所属学生数の推移（特別聴講生を除く）

当センターは、週1回のゼミと指導教員との連携による個別指導を通じて、演習林に所属する学生（博士課程学生8名、修士課程学生19名、4年生7名、研究生2名、合計36名）の卒論、修論、博論研究等の指導・支援を行うとともに、特別聴講生1名も含めて学生生活全般が円滑に行えるようにケアを行った。2023年度は全てハイブリッド形式で実施した。学生の人数が多いこと、ハイブリッド形式のゼミがうまく機能していないことを鑑み、2023年11月から新しいゼミの実施方法を議論し、4つのユニットに分割し、毎週、どこかのユニットが行うこととし、基本的に対面で学生は大学に来るという方針に変えた。



弥生キャンパスでの避難訓練に参加している様子

新規進学生・入学生を中心として、過去にハチ毒アレルギー検査を受けていない学生全員に対してハチ毒アレルギー検査を病院・クリニックにて行ってもらった。陽性反応が出た学生にはエピペンを処方してもらい、万一の事態に対応できるようにした。また、演習林・弥生地区ユニットとして、学生・職員で研究避難訓練に参加し、いざというときの避難方法の確認を行った（図-2）。

関連専攻の学部・大学院のガイダンスを担当し、演習林における教育研究の説明を行った。演習林教員で担当している講義のスケジュール調整、教養学部講義、演習林ゼミ等の教育推進に関わる経費管理等を通じて、演習林の教育活動を支援した。

【2】社会連携

演習林の社会連携活動の拠点として、特に社会連携委員会と連携した活動を実施した。特に、ウェブサイト、morikara、弥生等の広報媒体を通じて、演習林の社会貢献に関する広報活動に関わる実務を企画部と調整しながら実施した。

また、演習林出版局の書籍の販売に関して、経理課とのやり取りを行うとともに、在庫管理を行った。なお、2023年4月から2024年3月までの演習林出版局の書籍の販売実績は、地方演習林、生協（農学部・駒場書籍部）多摩六都科学館、UTCC、アマゾンを含めて、419冊、299,432円であった。なお、昨年度から始まったアマゾン販売については、企画部と連携して発送業務を担当した。

弥生地区として、関係する委員会と協力して各地方演習林の社会連携活動を取りまとめ、専攻長・附属施設長会議に毎月報告した。また、教育目的での演習林利用希望者に対して、当該地方演習林との連絡調整を行い、必要な情報を提供した。学術分野では、演習林編集委員会の主事として、「演習林報告」、「演習林」の編集作業を行った。また、演習林内の委員会活動が円滑にできるよう、農学系事務との連絡調整を行うとともに、経費執行等の支援をした。さらに、企画部、フィールドデータ研究センターと連携し、研究目的で演習林を利用する利用者に情報を提供した。

2024年度から弥生地区を改組し、教育・社会連携センターは企画部、フォレストDX/GX協創センターにその機能を移管することになり、その準備を行った。

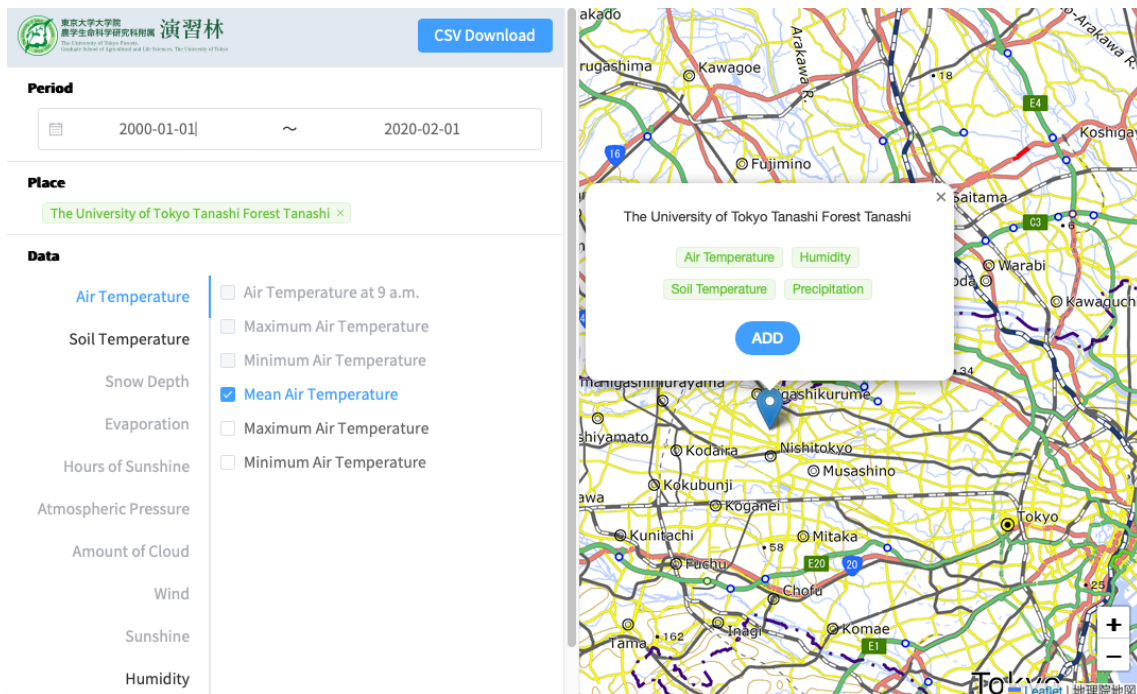
4. フィールドデータ研究センター

フィールドデータ研究センターでは、演習林のデジタルトランスフォーメーション DX に取り組んできた。演習林データのデータベース構築を進め、デジタルアーカイブズ構築事業の取りまとめを行うとともに、DX に関する学内外の組織との連携・協力を担っている。2023 年度は、学内他部局と連携して森林データ公開システムを整備運用し、演習林データの学内外の利用促進に取り組むとともに、演習林データを活用した研究や講義、アウトリーチ活動等の支援を行った。

【1】データベース構築

すでに公開されているフィールドデータ等を統合的に整理し、ユーザーフレンドリーで国際的に利用可能なデータベースを構築することを目指して、気象データおよび動物データを対象とした森林データ公開システムの開発を進め、学内連携によるデータ活用社会創成プラットフォーム mdx の活用に取り組んだ。気象データ公開システムは、研究委員会長期生態系データ担当気象水文水質部門が作成・公開している気象月報の雑誌「演習林」で公開済みのデータについて、2022 年度に構築したデータ公開システムへのデータ入力および公開 Web ページの追加を行った。動物データ公開システムは、研究委員会長期生態系データ担当生物部門が作成公開している自動撮影カメラデータについて、2022 年度に開発した、調査地で記録された動画ファイルをクラウドストレージにアップロードし、属性情報と共に検索ダウンロードできるシステムをベースとして、撮影された動物種の判別作業を Web 上で行うシステムの開発を行った。

また、人材育成に関する取り組みとして、研究委員会長期生態系データ担当固定試験地部門・フィールドデータ研究センター合同研修「ファイルメーカーと試験地電子野帳」を実施した。



気象データ公開システム

【2】デジタルアーカイブズ構築事業

農学コンテンツ業務として、東京大学デジタルアーカイブズ構築事業の支援を得て、演習林が所蔵する歴史的に価値のある図面や写真をデジタル化し、その画像資料をアーカイブするためのデータベース構築を行った。2023 年度事業では、大判図面 129 枚（北海道演習林 109 枚、生態水文学研究所 20 枚）、プリント写真 100 枚（北海道演習林）、スライド写真 2000 枚（北海道演習林）を委託と一部直営でデジタル化し、公開に向けた準備を進めた。また、2024 年度事業についても、プリント写真 83 枚（千葉演習林）、スライド写真 2000 枚（北海道演習林）、大判図面 5 枚（富士癒しの森研究所）、航空写真と図面 11 枚（北海道演習林）、樺太演習林の実測図面 1 枚（北海道演習林）、塔成式 8 mm フィルム（動画）1 本をデジタルアーカイブ化するべく、デジタルアーカイブズ構築事業への申請を行った。



千葉演習林所蔵モウソウチク開花周期実証試験地画像データベース

【3】学内外の組織との連携・協力

研究データの管理およびオープンアクセス化に関する動向に対応し、東京大学研究データ管理・利活用ポリシーおよび東京大学オープンアクセスポリシーに則り、演習林の研究データの管理・保存・利活用事業を計画実施するために、学内外の研究データ管理にかかわる支援を行う組織（学内：情報基盤センター、学外：国立情報学研究所）との連携・協力を進めた。特に、国立情報学研究所、東京大学情報基盤センターや複数の大学・研究機関によって構成されるデータ活用社会創成プラットフォーム mdx の担当者と定期的なミーティングを行い、新技術動向の情報収集を行うとともに、演習林の今後のデータ管理と活用について検討を行った。

また、演習林の設置当初から保管・管理してきた歴史的資料群についてもデジタル技術を活用した利活用に向け取り組んだ。デジタルアーカイブズ構築事業で公開を進めた画像・図面のほかに、地方演習林で管理してきた学術的価値を有する事務文書（往復文書綴など）について、東京大学の歴史的な資料の管理活用に関する専門の学内組織である文書館と連携し、地方演習林における管理現状などの情報収集し、今後に向けた検討を進めた。

第 2 部 常置專門委員會報告

1. 大學教育委員會	...14
2. 研究委員會	...16
3. 社會連携委員會	...23
4. 國際委員會	...25
5. 森林管理委員會	...27
6. 環境安全委員會	...29
7. 管理運營委員會	...30

第2部 常置専門委員会報告

(1) 大学教育委員会

2023年4月7日(金), 6月2日(金), 9月1日(金), 12月1日(金), 2024年2月9日(金)に委員会を開催した(12/1以外はオンライン)。その他, 6月29日(木)と1月15日(月)に臨時委員会(オンライン)を, 5月にメール審議を1回行なった。

【1】教育活動に関する情報の共有

- 1) 教養学部講義の情報を収集し, 取りまとめを行った。また, 教養学部講義の実施について情報を共有した(情報収集部門)。
- 2) 演習林年報の教育活動に係る資料について, Google スプレッドシートを活用して情報収集を行った(情報収集部門)。
- 3) 全国大学演習林協議会の公開森林実習について, 今年度は東大から「森林と溪流と土砂の測量実習ー地形や山から川に流れ出る土砂を測ろうー」(生水研) および「森林科学総合実習ー北海道の天然林生態系とその持続的管理ー」(北演) の実習提供を行い, 生水研の実習に1名の参加があった(公開森林実習部門)。

【2】教育活動に関する情報の発信

- 1) これまで教員紹介パンフレットとして活用してきた「科学の森で学ぼう」に代わり, 名称や体裁, 内容を刷新した「演習林への進学ガイド」を5月に作成した(情報発信部門)。
- 2) 広報誌 morikara 2号, 3号の教育トピックスに記事を提供した。今後の提供記事内容, 担当などについて議論した。

【3】教育技術の向上

特に助教の教育技術向上について, どのような方策がありうるか検討した。フィールドでの実習に携わる機会はあるものの, 講義スキルを磨く機会には個人差があり, 組織としての有効な対策を見出すことはできず継続審議とした。

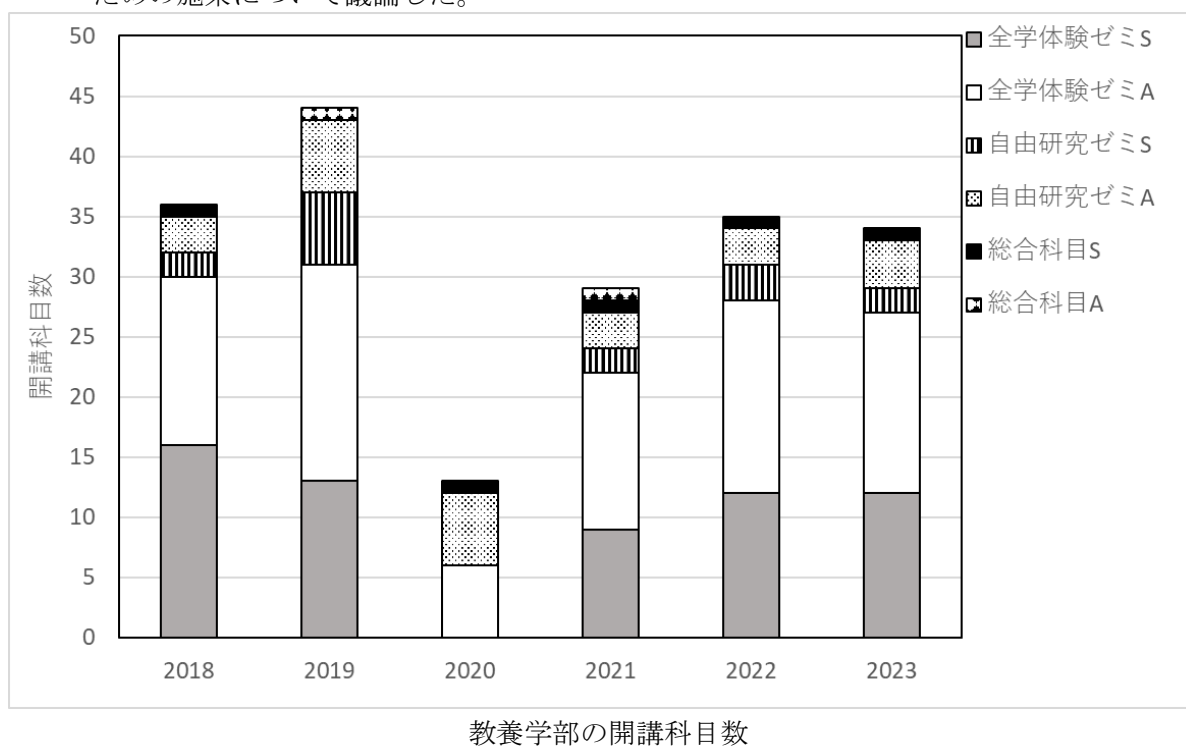
【4】教育に関連したプロジェクトの検討

海南大学サマースクール(7/8-17)の受け入れを千葉演, 富士研, 都内で行なった。国立台湾大学サマープログラム(9/21-26)への学生派遣を体験活動プログラムとして行ない, 9名の学生, 大学院生が参加した。(国際部門)。

【5】教育活動に関するその他支援

- 1) 月に1回開催される演習林ゼミの全体のスケジュールを調整し, 進行を担当した。今年度の学部4年生, 修士2年生の人数が多かったため, 12月のゼミは2回行い, うち1回は午前・午後の終日で行った。また, 2月の演習林ゼミで2研究室によるパラレルセッションの試行を行なった(演習林ゼミ部門)。
- 2) センターゼミの役割と今後のあり方について議論した。
- 3) 本委員会が取り扱う経費の支出基準を改訂し, それに伴う執行手続きの改訂に向けて議論をおこなった(経費執行部門)。
- 4) 学部教育改革経費の一部を用いて, 実習等の受入れに当たって各地方演習林で必要となる高額物品の購入を支援した。

5) 次年度に新設予定のフォレスト GX/DX 協創センターにおける教育関係の KPI を達成するための施策について議論した。



(2) 研究委員会

研究委員会は、主に、森林に関するデータの収集・整備・公表、教職員の研究活動の推進および研究業績の集計、複数地方演習林にまたがる研究案件の調整を担う。2023 年 6 月 6 日にオンライン会議を開催し、2022 年度の活動および 2023 年度の計画について報告した。その他の議題が生じた場合には、適宜メールによる審議を行った。

【1】森林を中心とした自然環境の動態に関するデータの観測、整備、公表

委員会内の長期生態系データ担当に、気象水文水質、生物、固定試験地の 3 部門を置いた。担当コーディネーターがとりまとめるデータ解析研究会については、2023 年度の活動は行われなかった。各部門の活動として下記の 1)～3) を行った。

1) 気象水文水質部門

「教育研究計画 2021-2030」に基づいて観測を実施している。2023 年 10 月 3 日に担当者会議を行い、観測体制、データの状況、年間計画等について相談した。

[1] 気象分野

東京大学演習林では、これまで最長で 100 年を超える期間、気象観測を継続してきた。現在の観測システムは 2001 年から稼働し、現在は 6 地方演習林を網羅する合計 15 か所の観測地で観測を行っている。

気象水文水質部門で責任をもつ I 種観測地は札郷（千葉）、前山（北海道）、小赤沢（秩父）、白坂（生態水文）、青野（樹芸）の 5 地点、観測項目は気温、湿度、降水量、日射量、風速、風向である。I 種以外の観測地は II 種として各地方演習林の裁量で観測や全演でのデータ公開を行っているが、気象水文水質部門として各地方演習林で対応が困難な案件についてのサポートは継続している。

本年度は、長期メンテナンス計画に基づいて定期的・計画的に行っている I 種観測地 5 地点の湿度計感部を交換した。北海道演習林の札郷露場の風向風速計および、樹芸研究所青野の HOBO データロガーが故障したため交換した。

観測データは演習林ホームページで観測の翌々月には公表している。2022 年のデータは観測体制とともに「演習林」第 69 号（2024 年 3 月発行）に 2022 年気象年報・月報として掲載された。「演習林」の投稿規定に従い、月報はレポジトリのみの公表となる。

2018 年度から大学院農学生命科学研究科が推進している「農学コンテンツの情報化のためのプラットフォーム構築」事業との関連で、過去に「演習林」で公表されているがデジタルデータを公表していないデータに関して、デジタルデータを作成し、公表する作業を進めた。

2023 年度 各地方演の観測地と観測項目

演習林名		千葉演			北海道演		秩父演				田無演	生態水文学研			樹芸研	
I種とII種の別		I	II	II	I	II	I	II	II	II	II	I	II	II	I	II
観測地		札郷	清澄	新田	前山	山部	小赤沢	栃本	大血川	ワサビ沢	第一苗畑	白坂	東山	穴の宮	青野	加納
観測項目	気温	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	△(△)
	地温							○(○)				○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	
	湿度	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	△(△)
	降水量	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	
	日射量	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)		○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	
	風速	○(○)		○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)				○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	
	風向	○(○)			○(○)	○(○)	○(○)	○(○)				○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	
	積雪					○(○)										
	降雪深					△(△)										
	積雪深					○(○)		○(○)								

(○)観測公表項目、△観測しているが公表していない、()内は代替機器の有無

〔2〕水文学質分野

観測は、降水量、流出量、渓流水質については2003年から、降水の水質については2011年から実施している。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所において、降水量と流出量の観測を行うとともに、定期的に降水と渓流水を採取し水質分析をおこなう。千葉演習林での観測は森林生物地球科学研究室の協力を得ている。データは各演習林と生態水文学研究所で保管・管理している。今年度の観測体制と観測地点、活動内容の詳細を以下に示す。

i) 降水量・流出量観測

降水量は転倒マスの転倒回数の記録値、流量は5分間隔で瞬間水位を観測し、日降水量・日流出量へ整理して生態水文学研究所に報告した。千葉演習林の日降水量・日流出量の計算は森林生物地球科学研究室、それ以外のデータ回収と計算はそれぞれの演習林で行っている。

ii) 降水・渓流水の試料採取と分析

千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所で降水と渓流水を月に1度採取してpHとECを計測し、分析担当者へ送付した（樹芸研究所の降水は8月採取から）。樹芸研究所は7月採取分までは加納観測地点での降水量1mm以上の降水を出勤日毎に採取した。秩父演習林の水試料のpHとECの計測は4月採水分のみ生態水文学研究所で、5月からは秩父演習林で行った。

水試料の分析は一部を除き、生態水文学研究所で行った。樹芸研究所の4～7月分の降水は樹芸研究所で行う。分析項目は降水、渓流水とも Na^+ 、 K^+ 、 Mg^{2+} 、 Ca^{2+} 、 SO_4^{2-} 、 NO_3^- 、 Cl^- 、pH、ECの9項目である。樹芸研究所の4～7月分の降水については、上記9項目に NH_4^+ を加えた10項目である。

分析結果は水試料を採取した各演習林の担当者がとりまとめ、生態水文学研究所に報告した。

iii) 観測結果のとりまとめと公表

日降水量、日流出量、降水と渓流水の水質分析結果を生態水文学研究所でとりまとめた。今年度は2021年1月～12月の観測結果を「演習林」第69号（附表は東京大学学術機関リポジトリ）で公表した。また、とりまとめたデータを図化し、データのクオリティーチェック等に役立てた。

iv) その他

機器更新計画に従い樹芸研究所のpH・EC計および生態水文学研究所のpH電極の更新、秩父演習林で観測開始のためのpH・EC計購入を行った。生態水文学研究所白坂の水位計が故障したため交換した。10月10～12日に秩父演習林で流量観測に関する研修を行い、バケモノ沢量水堰堤の水位-流量関係を確認した。

2023年度の各地方演習林の観測項目、及び2020、2021年データの公表状況

演習林名		千葉演習林				北海道演習林		秩父演習林		生態水文学研究所		樹芸研究所			
観測地		新田	袋山沢A	袋山沢B	袋山沢C	東郷ダム	丸山沢	ワサビ沢	バケモノ沢	白坂	白坂(本谷)	青野	加納	2号沢	3号沢
I種とII種の別		I	I	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	II	I
降水量	2023年度観測実施	○				○		○		○		○			
	2021年日降水量公表	○ ^a				○		○ ^a		○ ^a		○ ^a			
流出量	2023年度観測実施		○	○	○		○		○		○			○ ^c	○
	2021年日流出量公表		○	○	○		○				○			○	○
降水水質	2023年度観測実施	○				○		○		○		○ ^b	○ ^b		
	2021年降水水質公表	○				○		○		○			○		
	2020年降水水質公表	○													
渓流水水質	2023年度観測実施		○	○			○		○		○			○ ^c	○
	2021年渓流水水質公表		○	○			○		○		○			○	○

^a 気象報告で公表済(演習林67号)だが、水文・水質報告にも掲載予定

^b 樹芸の降水水質観測は7月採取まで加納で行い、8月採取から青野に変更

^c 樹芸の2号沢流出量、渓流水水質観測は、7月まで実施し8月から廃止

2) 生物部門

[1] 植物分野

演習林内に生育する維管束植物（自生種・導入植栽種）のインベントリーおよびモニタリングを目的として、Ⅰ種およびⅡ種の活動を行なった。Ⅰ種の活動として、各演習において維管束植物（自生種・導入植栽種）を対象に、さく葉標本の採取および作製、作成済み標本の管理、生態写真の撮影を継続した。また、田無演習林、富士癒しの森研究所において樹木実生と下層植生、北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所において樹木実生のモニタリング調査をそれぞれ実施した。千葉演習林は、千葉県中央博物館より、木本1種（ヒノキバヤドリギ）の標本3点の提供をうけた。Ⅱ種の活動として、北海道演習林では、特定外来生物であるオオハングソウの分布調査を継続した。その他の活動として、「2023 年度東京大学デジタルアーカイブズ構築事業」において、標本画像の公開、標本データの整備を進めた。

2023 年度の各演習林の調査結果（植物）

演習林名	2023年度採取				2023年度末	植生モニタリング調査	
	調査日数	調査人員	標本種数	標本点数	総標本種数	調査日数	調査人員
千葉	0	0	1	3	928	0	0
北海道	0	0	0	0	945	1	3
秩父	3	6	40	77	907	1	3
田無	1	1	1	1	308	1	4
生態水文	0	0	0	0	1202	1	2
富士	0	0	0	0	417	1	3
樹芸	0	0	0	0	628	1	2

[2] 脊椎動物分野

i) 脊椎動物（鳥類を除く）分野

脊椎動物グループでは、演習林内に生息する脊椎動物（鳥類を除く）のインベントリーおよびモニタリングを目的として活動を行った。自動撮影カメラ調査を千葉3地点・北海道3地点・秩父7地点・田無2地点・生態水文6地点・富士3地点・樹芸2地点の全26地点で行った。附属演習林教育研究計画（2021～2030）期間の重点調査分類群である地上性小型哺乳類（齧歯目・モグラ科・トガリネズミ科）（以下、小型哺乳類と略記）および魚類については、田無演習林において小型哺乳類を対象とした捕獲調査を2023年6月21日から6月23日に、北海道演習林において魚類を対象とした捕獲調査を2023年10月3日から5日に実施した。両生類・爬虫類については、各地方演習林において目撃情報を収集した。その他の活動として、各地方演習林担当者によるオンライン会議を、2024年1月10日に開催し、各地方演習林の活動状況等をグループ内で共有する機会を設けた。また、フィールドデータ研究センターが推進する演習林データのDXの一環として進められている、自動撮影カメラ調査のデータベース構築について、オンライン打ち合わせを2024年2月5日に行った。

ii) 鳥類分野

Ⅰ種の活動として繁殖期ポイントセンサス調査（公式調査）を実施した。常勤のⅠ種調査員が不在の田無演習林と富士癒しの森研究所は隔年で他地方演習林から調査員を派遣する計画であるが、2023年度は調査年ではなかったため調査は実施しなかった。Ⅰ種のその他の活動として、2026年度に予定している雑誌「演習林」での鳥類目録第4版の公表に向けて確認種の整理作業を継続したほか、一括管理されている鳥類の生態写真について2022年度までに撮影し

た画像の収集を行った。なお、Web サイト「東京大学演習林の鳥たち」ではエッセイを 2 編追加したほか、2021 年度までに撮影されトリミングが終了した 204 枚の画像について、2023 年度中の公開を目指して編集作業を進めた。

Ⅱ種の活動として、千葉演習林と生態水文学研究所で巣箱調査、秩父演習林で標識調査と冬季のラインセンサス調査を実施した。公開講座などの活動として、千葉演習林では鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」(4 月, 12 月)を開催し、生態水文学研究所では犬山市立今井小学校探鳥会(4 月, 6 月, 11 月, 2 月)での講師を担当した。2024 年 2 月にオンラインによる担当者会議を開催し、今年度の活動報告と来年度の活動予定および課題の検討を行った。

2023 年の各演習林の調査結果 (鳥類)

	確認種合計		調査回数		調査人員		調査別確認種	
	科	種	公式調査	任意調査	公式調査	任意調査	公式調査	任意調査
千葉演	26 (2)	45 (2)	7	72	7	75	23	42 (2)
北演	33 (1)	77 (1)	12	59	20	59	50	61 (2)
秩父演	31 (3)	71 (7)	12	93	14	98	44	66 (7)
生態水文	31 (10)	60 (18)	4	29	8	37	20	59 (18)
富士癒し	34 (9)	72 (16)	3	66	3	66	36	70 (17)
樹芸研	28 (6)	48 (9)	4	31	4	31	19	45 (10)
田無演	8 (0)	18 (0)	0	6	0	6	0	18 (0)

確認種の分類は日本鳥類目録改訂第 7 版 (日本鳥学会 2012) に従った。確認種数には演習林隣接地域での記録も含む。公式調査はポイントセンサス法またはラインセンサス法により行った調査、任意調査は公式調査以外の業務の際の一時的な確認・記録、録音・センサーカメラによる記録、巣箱調査等を指す。

iii) 昆虫分野

本年度もピットフォールトラップを用いた地表徘徊性甲虫相の調査を実施した。2008 年から演習林間で共通の方法による定期的・定量的な採集を行っており、採集された標本は北海道演習林に集められている。調査地は、各演習林内に 2 ヶ所 (富士癒しの森研究所は 1 ヶ所) を設定し、5 年間隔で交互に移動している。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、田無演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所では、2018 年より 2022 年まで 1 地点目の調査地で採集を行い、2023 年から 2 地点目の調査地に戻して採集を実施した。富士癒しの森研究所では、調査地が 1 ヶ所しか設定されていないため、当初から同じ場所で実施している。2008~2012 年の同定結果は、雑誌「演習林」へ投稿した。2013~2017 年は同定が済み次第、以降は 5 年毎の公表を目標とする。また、各演習林を利用した研究論文からの昆虫相のリスト化は共通フォーマットを作成し直し、各演で整理でき次第順次公表することを目標とする。その他の活動として、各調査地においてセルロースフィルター分解速度調査を行い、今後 5 年毎 (富士は 10 年毎) に行う予定である。

2023 年度の各演習林の調査結果（昆虫）

演習林名	調査地	調査日			
		1回目	2回目	3回目	4回目
千葉	独鈷山（42林班）内	5/26-29 ①	7/10-13 ①	8/21-24 ①	10/16-19 ①
北海道	岩魚沢大型試験地（49林班と48林班）境界内	6/1-6③	7/3-6 ①	8/16-21 ⑤	9/25-29 ②
秩父	二次林試験地（18林班）内	5/26-29 ②	7/4-7/7⑤	9/11-14 ⑩	10/16-19 ④
田無	第一苗畑西側垣根沿い（22小班）内	5/12-15 ①	6/29-7/3 ③	8/21-24 ①	10/13-16 ①
生態水文	穴の宮試験地（30,31林班）内	5/23-26 ①	6/20-23 ①	9/19-22 ①	10/17-20 ⑤
富士	長期生態系プロット（3林班）内	6/8-12 ②	7/21-24②	9/1-5 ④	10/12-16 ①
樹芸	クスノキ林（3林班）内	5/12-15 ⑩	7/7-10 ⑩	9/1-24⑩	10/20-23①

○はタトウ数

3）固定試験地部門

固定試験地部門では、教育研究計画 2021～2030 において、1）各地方演習林における固定試験地のメタデータ・測定データの収集とデータベース化、2）ユーザーフレンドリーで国際的に利用可能なデータベース構築・ウェブ公開等の支援、3）I 種試験地の選定と収集、整備、公表、の3つを活動方針としている。

1）については、前年度に引き続き、固定試験地データベースの整備と、それに向けた各地方演習林の測定データの整理・紙資料（野帳）の電子ファイル（PDF）化を進めた。今年度は、約 1100 回分の調査野帳を PDF 化し、約 303 回分の調査データの電子化、約 270 回分の入力内容の確認を行った（2024 年 2 月末時点での 3 月末までの見込み数を含む）。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林においては、研究委員会経費および学部機能強化経費から補助者に謝金を支出して作業を行った。2024 年 3 月 31 日現在、固定試験地データベースには、1,197 試験地、4,720 回の調査履歴、立木 84,798 本の計 425,464 測定分（1 本 1 回の測定を 1 測定とするが、枯死や欠測などで実際には測定していないデータも含む）のデータが登録されている。次年度のさらなる整備を進めるため、2023 年 9 月には「2024 年度東京大学デジタルアーカイブズ構築事業」に応募したが、結果は不採択であった。

2）については、整備が完了したデータベースのうち、外部公開が可能なデータは、2020 年度から運用を始めたデータ公開用データベース UTFEEP（The University of Tokyo Forests Experimental and Ecological Forest Plots, 日本語名：「東京大学演習林毎木調査試験地データベース」）に搭載した。2024 年 3 月 31 日現在、UTFEEP には、665 試験地、2,797 回分の調査履歴、立木 84,797 本の 415,114 測定分のデータが掲載されている。オンキャンパスジョブを利用して、学生にデータベースのエラーチェックを依頼し、発見されたエラーの修正を行った。

3）については、I 種試験地の具体的な選定に向けた検討作業を引き続き進めた。本年度は人工林 I 種試験地について、各地方演より候補となる試験地の情報収集を行い、候補となる試験地のリストを作成した。

2024 年 2 月 8 日に、フィールドデータ研究センター（FDRC）との共催で研修「ファイルメーカーと試験地電子野帳」を開催し、データベースソフトであるファイルメーカーの基礎的講義・演習と、試験地部門において実用化されている電子野帳についての講習を行った。固定試験地部門担当者・FDRC 職員・その他希望者合わせて 17 名が参加した。

部門全体会議は、オンライン開催で 2024 年 2 月 26 日に行った。全体の活動進捗報告、各地

方演習林の当部門担当者から試験地データの整備状況の報告，次年度の活動計画，I 種試験地選定，データの管理方法，備考項目の統一化に関する議論・意見交換を行った。

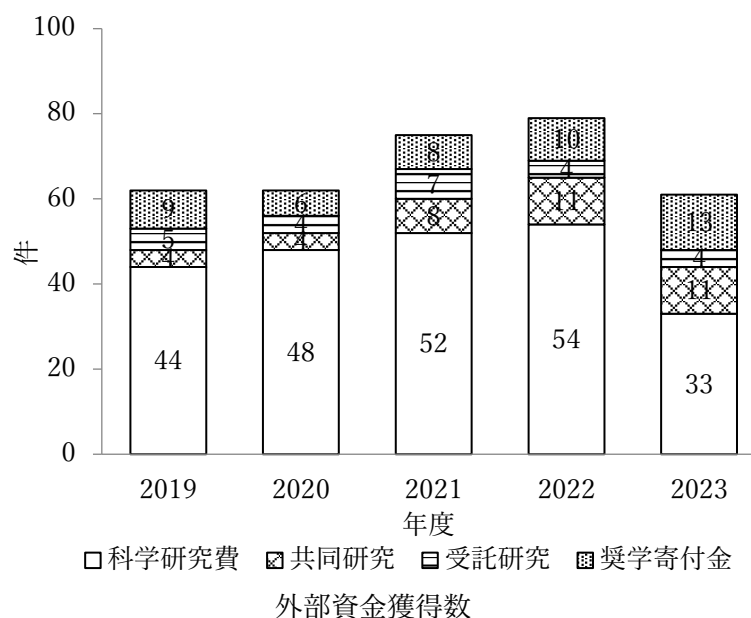
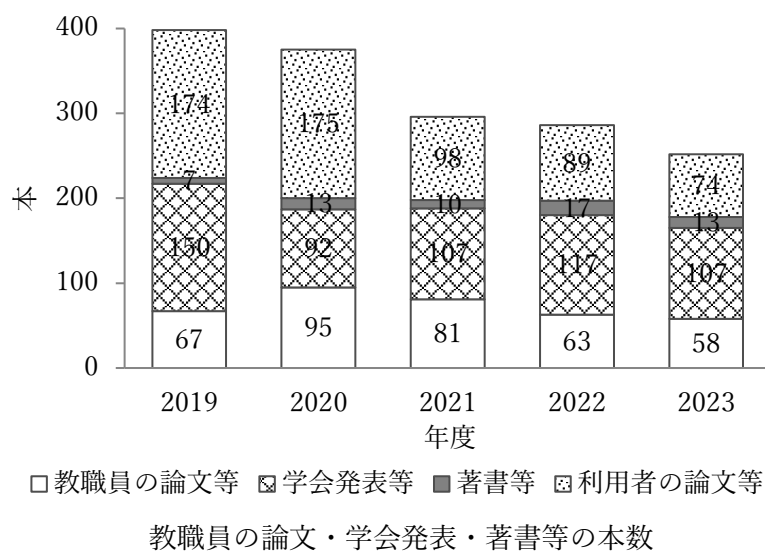
【2】森林を中心とした自然環境および森林と人間の関わりに関する専門的な研究の推進と研究業績の集計

1) 研究活動の推進

演習林の教員間の新たな共同研究の発足を支援するための検討を行った。

2) 研究業績の集計

演習林教員の外部資金獲得および論文・学会発表等業績等の情報を収集・リスト化し，運営委員会資料や演習林年報に掲載する研究活動資料として企画部に情報提供した。



3) 演習林の国際的研究活動への協力

演習林が取り組む国際的な研究活動として、研究委員会が取り組む事業はなかった。

4) 海外の組織との協定等の締結

海外の組織との協定（MOU, LoI など）や素材移転合意書（MTA）の締結について演習林教員からの申請はなかった。

【3】演習林全体もしくは複数の地方演習林に関わる研究利用案件の調整

演習林全体もしくは複数の地方演習林に関わる研究利用案件はなかった。

（３）社会連携委員会

委員会会議を５回（４・６・９・１２・３月、いずれもオンライン）開催した。

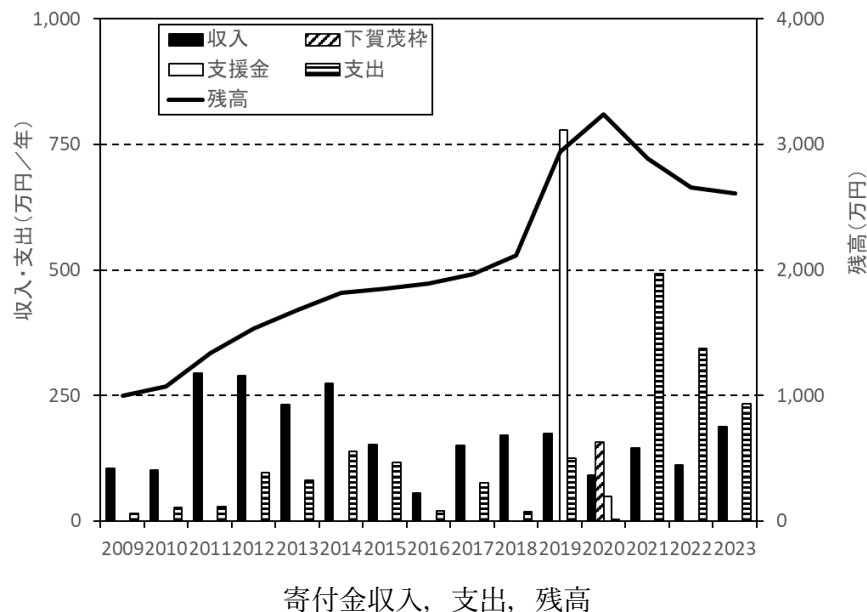
【１】アウトリーチ

１）出版広報部門

- ・広報誌「morikara」を創刊し、第１号（５月）、第２号（１１月）を発行した。
- ・「概要 2023（全演版・各演版）」の日本語版および英語版を発行した。
- ・「演習林報告」149号を電子媒体で発行した。「演習林」68号、69号を電子媒体で発行した。
- ・全演ウェブサイトでの情報発信を行なった。「研究トピックス」30件（３月末時点）、「メディア掲載情報」58件（３月末時点）、その他イベントや公募情報を発信した。広報誌「morikara」ページの新規作成のほか、ウェブサイト内の各種情報の更新を行なった。過去の「演習林」「演習林報告」掲載記事のUTokyo リポジトリへのリンク更新作業を行なった。
- ・Amazon で演習林出版局の書籍 16 種類、113 冊を販売した。東京大学コミュニケーションセンター（UTCC）で演習林出版局の書籍 9 種類、37 冊を販売した。

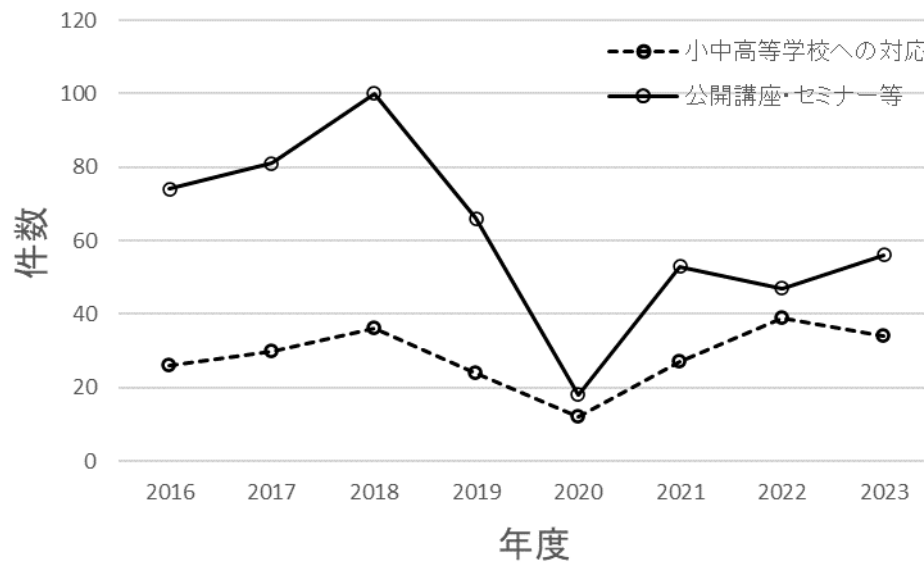
２）育成資金部門

- ・2023 年度の寄付は 14 件、2,200,000 円（東京大学基金取り分含む）であった。



【２】連携推進

- ・UTCC と連携し、東大演習林グッズ販売の支援をおこなった。東京大学演習林のおはし 590 膳、秩父演習林のマグネット 319 個を販売した。演習林出版局の販売対象書籍のうち 1 種類の販売を停止し、新規に 3 種類の販売を開始した。2023 年度末時点の対象販売書籍は 8 種類となった。
- ・各地方演習林/センターにおいて、小中学校等への対応 34 件、公開講座・セミナー等 56 件が実施された。



小中高等学校への対応と公開講座・セミナー等の件数

- ・GX/DX を盛り込んだ地域連携協定の展開をはかるため、地方自治体との間で結ばれている協定に関する情報を集約した。
- ・全学の地域連携タスクフォースが主催するシンポジウムに協力し、登壇者の調整および各演の連携状況に関する話題提供を行った。

【3】その他

- ・「森林レクリエーション」誌において、全演および各地方演習林の紹介を行った。
- ・研究科社会連携リエゾンオフィスが主催するシンポジウムに登壇する教員の推薦に関する調整を行った。
- ・NHK 教育番組の制作に協力し、東京演習林に関する画像を提供した。

(4) 国際委員会

演習林国際委員会は、おもに、各国の大学演習林との「国際交流」「教育研究」「その他」の交流計画の作成・実施を任務としている。2023 年度は、COVID-19 による規制が 5 月の連休明けに解除されたため、COVID-19 以前とほぼ同様に国際交流が行われた。

【1】国際交流

文科省プロジェクトによる戦略的パートナーシップでは、演習林は、ソウル国立大学校 (SNU)、国立台湾大学 (NTU)、スイス連邦工科大学チューリッヒ校／チューリッヒ大学 (ETZH/UZH) との交流を 2018 年から 6 年間続けてきた。文科省のプロジェクトは 2023 年度で終了するが、SNU と ETZH/UZH の 2 つの大学とは東京大学独自の予算で戦略的パートナーシップを継続することが決まっている。ETZH/UZH に関して、浅野友子講師のカウンターパートの UZH の Ilja van Meerveld 博士が応募していたマッチングファンド (Seed Fund UZH Global Strategy and Partnerships Funding Scheme - University of Tokyo) が採択された。2024 年 3 月 11-15 日に Ilja 博士と Marc Vis 氏が生態水文学研究所に来所し、現地視察と研究打ち合わせを行った。あわせて関連する研究を行う教員、学生とワークショップなどを行った。NTU の主催で 2023 年 12 月に開催された NTU-UTokyo Joint Conference 2023 において、森林科学・生物材料科学 パラレルセッションを 12 月 6 日にハイブリッド方式で開催し、80 名（東大 33（学生 11、教員 18、技術職員 4）、NTU 47（学生 15、教員・研究員 26、スタッフ 6））が参加した。

【2】教育研究

NTU のサマープログラム (9/21-26) に体験活動プログラムとして学生派遣を行なった（学部生 3 名、大学院生 7 名）。2023 年 7 月 6 日から 17 日まで海南大学 (HU) からサマープログラムの学生 10 名と教員他 5 名を受け入れた。また、本学の体験活動プログラムにより学部 1 年生から大学院修士 2 年生まで合計 7 名と教員 2 名が海南島を訪問した。学術交流協定に基づく特別聴講学生として 2022 年 10 月から 2023 年 9 月までと 2023 年 10 月から 2024 年 9 月までにそれぞれ 1 名ずつ HU の学生を受け入れた。また、森林生物機能学研究室の教員 3 名による HU 学生を対象とした特別講義を 2023 年 11 月 26 日～30 日にハイブリッド形式で行った。

【3】その他

2023 年度の SNU 農学生命科学大学との部局学生交流覚書更新にあたって、演習林の教員 2 名が幹事教員として参画することになった。令和 6 年度日本学術振興会 (JSPS) 研究拠点形成事業 (B. アジア・アフリカ学術基盤形成型) に研究交流課題「アジアの森林 GX/DX を先導する長期観測フィールドの国際連携プラットフォーム」(代表：鎌田直人教授) で申請を行った（結果は不採択）。令和 6 年度 JSPS 二国間セミナー (中国 NSFC) に HU と「アジアの森林生態系に対する将来の気候変動の影響緩和への挑戦」(代表：鎌田直人教授) で申請を行った（不採択）。令和 6 年度東京大学農学国際交流事業に、「アジアの森林 GX/DX を先導する長期観測フィールドの国際連携プラットフォーム」に関するシンポジウムをベトナムで開催する費用を申請した（採択）。おもにインターン生を受け入れるための受け皿として、2023 年 2 月からの 1 年間、演習林として申請した国際短期プログラムで、イタリア・サッサリ大学の学部学生 1 名が 1 月から 4 月まで 3 か月間、生態水文学研究所および北海道演習林に滞在する。引き続き 2024 年 2 月からの 1 年間、演習林として国際短期プログラムの枠を 5 名申請した。2023 年 10 月から 2024 年 9 月までの予定で農学共同研究員として海南大学の梁懷月講師を田無演習林で受け入れた。タイ国の農林水産系大学学部長会一行の北海道内の大学附属施設および国公立研究所の

視察の調整をカセサート大学林学部長より依頼され、2024 年 5 月と 9 月の 2 回にわたり訪問
予定機関とスケジュール調整を行ったが、2 回とも参加者が最少催行人数に満たなかったこと
から中止となった。

（５）森林管理委員会

４月２６日に第１回委員会を開催し、前年度の活動内容を振り返るとともに、本年度の組織体制と活動計画を確認・共有した。

【１】全演的な森林の現況把握

管理担当では、前期計画中の森林現況調査の結果を反映させて算出した 2022 年度の演習林樹木の CO₂ 吸収量データを本学環境安全本部に提出し、「東京大学環境報告書 2023」に掲載された。

【２】森林管理計画の進行管理と助言

管理担当では、「2022 年度森林管理の総括」として、地方演習林ごとに今期教育研究計画（2021-2030）における 2022 年度の進捗状況および育林実行量や林道・歩道維持管理等の森林管理実施状況をまとめ、全演で情報を共有した。

【３】森林病虫獣害への助言と対応

病虫獣害担当では、生態水文学研究所 74 林班の松くい虫対策に関する活動を行った。2022 年度から静岡県が 74 林班とその周辺における伐倒駆除に対する予算を約 10 分の 1 に減らすことになり、病虫獣害担当で検討した結果、演習林予算による伐倒駆除は行わず、今期に計画していた殺線虫剤の樹幹注入を前倒しして行うことになった。そのため、2021 年度から 3 年連続で、委員会予算で樹幹注入用の資材（グリーンガード・エイトおよびグリーンガード・ネオ）を購入し、技術職員の研修を兼ねて、2023 年度は 182 本のクロマツに樹幹注入を行った。担当教員 3 名のほか、生態水文学研究所の技術職員 5 名と、他演の技術職員 6 名が参加した。前年度と同様に、樹高の高いマツに対しては有効成分濃度が高く注入薬液量が少なく済むグリーンガード・ネオを用いた。注入したクロマツのうち 70%ですべての薬液を吸収した。また、ニッソーグリーンと新規防除薬剤の開発に係る共同研究を 2023 年度から始めたが、事情により 2024 年度の試験を中止して、試験木として準備したクロマツ 60 本のうち 21 本に樹幹注入を行った。冒頭の理由から 2023 年春までに枯死したマツの伐倒駆除を十分に行えなかったため、2023 年度は前年度よりもさらに被害量が増加した。一方で、湖西市は 12 月補正予算案で事業費 5,400 万円をつけ、74 林班周辺のマツに対して、樹幹注入と 2023 年度枯死木の伐採を行うこととなった。

上記の理由から 2023 年春までに枯死したマツの伐倒駆除を十分に行えなかったため、2023 年度は前年度よりもさらに被害量が増加した。一方で、湖西市は 12 月補正予算案で事業費 5,400 万円をつけ、74 林班とその周辺のマツに対して、樹幹注入と 2023 年度枯死木の伐採を行うこととなった。

ナラ枯れに関して、2021 年度に富士癒しの森研究所から森林病虫獣害担当に、事務所脇のミズナラ 2 個体を守るための指導の依頼があり、忌避剤としてヒノキチップをミズナラ樹幹に設置する予防を行ってきた。しかし、2 週間ごとにヒノキチップを準備する人工の負担が大きかった。そこで、人工削減の観点から、2023 年度は富士癒しの森研究所の判断により、枝打ちしたヒノキの枝をそのままミズナラ樹幹に設置して、1 ヶ月ごとの交換とした。しかし、2 個体ともカシノナガキクイムシの穿孔を受けて枯死した。

【4】空間情報の整備と活用

技術担当・空間情報技術部門では、国土地理院等が公開している基盤地図情報を探索し、有益な情報な整備した。千葉演習林では、高精度 GNSS 受信機（DG-PR01）を活用した保護樹の位置情報、林況調査、新植地図面の作成、保育間伐地・土場の測量を行った。また、UAV-LiDAR を用いた主伐地の点群データ取得、UAV-LiDAR と地上 LiDAR を用いたヒノキの樹高・上部直径の測定、GIS による林道被災箇所の図面作成を行った。北海道演習林では、本年度の施業区域と植栽予定地の全ての空中写真を UAV によって撮影し、植栽予定地については面積算定に活用した。また、ArcGIS Pro を用いた本年度施業区域の林相図作成、Survey123 を用いた動物目撃調査、鳥類任意調査の記録、林況調査や現地検討会、収穫調査、伐採監護への Field Maps の活用を行った。さらに、UAV-LiDAR の今後の活用に向けて、飛行高度等の設定を変えて計測を試行した。秩父演習林では、DG-PR01 を用いて境界調査や黒石実験地の GIS データ化を行った。また、タブレット端末の GIS データや携帯電波受信状況データを更新した。さらに、2021 年に実施された大血川地区の航空レーザー測量成果が存在することを確認した。田無演習林では、境界沿いの万年堀とフェンス設置個所の位置図を作成・提供した。生態水文学研究所では、UAV 空中写真を用いて松の枯損状況調査を行った。また、Survey123 や Field Maps を用いて薬剤注入予定木や危険木の調査を行った。さらに、G 空間情報センターで公開された登記所備付地図の電子データから境界の図化に取り組み、74 林班について境界図面を作成した。富士癒しの森研究所では、タブレット端末と ArcGIS online、File Maker、Field Maps、Survey123、を活用してナラ枯れ被害木の調査や林内の危険木情報の調査を行い、危険木の伐採計画を策定した。また、DG-PR01 を用いて LTER プロットの杭の位置情報を整備した。樹芸研究所では、タブレット端末と Field Maps、DG-PR01 を用いて演習林境界、林小班の測量を行った。加納学習林と青野研究林 4 林班の境界測量が完了し、4・5 林班の林班界測量が完了した。長期生態系プロットの調査木の照合に Field Maps を利用した。

【5】技術の習得と継承

空間情報技術部門では、10 月 17～19 日に生態水文学研究所で GIS 技術指導者養成研修会を開催した。本研修会には 8 名が参加した。水内佑輔助教を講師に迎え、「ArcGIS Pro と Survey123 を利用して森林の生態系サービスの把握手法を考える」をテーマに研修を実施した。ノート PC に RTK-GNSS 受信機（DG-PRO 1）を Bluetooth 接続して、ArcGIS Pro により測位する方法を学んだ。また、Survey123 の調査シートを作成し、屋外に出てタブレットに位置情報や写真を入力して森林景観の評価を行った。各演の活動として、千葉演習林では軽込勉技術専門職員が講師となって毎月 GIS 勉強会を行い、複数名で行政関連の図面作成が可能となった。

技術担当・基礎技術部門では、伐倒に関する初歩的な技術の習得と継承を目的に「2023 年度森林管理委員会技術担当基礎技術部門伐木グループ研修」を 2 月 14～16 日に千葉演習林で開催した。研修には、講師の鈴木祐紀技術専門員と五十嵐勇治技術専門員を含め、各地方演習林から 8 名が参加した。事前に千葉演習林で選木した樹木（スギ 60 年生）を講師の指導のもと伐倒し、初歩的な伐倒作業、狙った所への伐倒方法、かかり木の処理方法などを習得した。作業終了後、103 年生人工林伐採現場と搬出土場を見学し、本研修の振り返りと意見交換会を行った。

(6) 環境安全委員会

【1】目的

- 1) 事前にリスクを取り除き、事故災害が起こりにくい体制を整える。
- 2) 発生してしまった事故災害から学び、組織の安全意識を高める。

【2】活動方針

- 1) 教育研究活動や森林管理業務における環境安全管理の実効を高める。
- 2) 外部者の地方演習林への入林に関する環境安全管理の実効を高める。
- 3) 事故発生に際しては事故原因を徹底究明し、組織一体となって再発防止に努める。

【3】活動結果

1) 教育研究活動や森林管理業務における環境安全管理活動として、以下の①～③の対象別に、環境安全管理上の課題のリストアップ、検討、チェック、見直しを行う（MSの実施）。

- ① 附属演習林に所属する教職員の日常業務等
- ② 附属演習林に所属する教員が代表教員となって行う学生実習等
- ③ 附属演習林に所属する学生の調査研究等

地方演習林ごとにMSにしっかりと取り組み、研究科環境安全管理室に報告した。

2) 外部者の地方演習林への入林に関して、「積極的安全配慮義務」および「公の営造物を適切に管理する義務」を果たすために、以下の①～⑥の対象別に必要な措置を講ずる。

①無断立入・事実上の利用 ②自由見学・一般公開等 ③一般参加者募集行事・視察・見学等 ④演習林業務への学外者の協力・サポート（ボランティア） ⑤教育利用 ⑥研究利用

本件に関して、研究科環境安全管理室に協力して「附属施設における安全管理の考え方」の策定を目指してきたが、方針を切り替えて、まず演習林の「安全管理の考え方」の策定を目指すことにした。現在、環境安全室と具体的な「案」について協議を行っており、実施可能性と有効性を併せ持つ現実的な対応指針を検討し、策定を目指す。

3) 研究科環境安全管理室との連携を密にし、事故原因を徹底究明し、再発防止策を検討し開示する。

毎月開催される農学部環境安全管理室会議に出席して、情報の収集にあたった。特に共有すべき情報は演習林会議を通して周知した。一例として、休日に学生のみで実験した際に発生した火災事故は演習林にとっても身近かつ重要な案件であると注意喚起した。

また、今年度の農学生命科学研究科および演習林の事故災害多発を受けて、毎年実施される技術職員等試験研究・研修会議において「事故災害報告に学ぶこと」というタイトルの講義を行った。演習林で実際に起こった事故は再び起こり得る事例であるので、事故災害報告に学ぶことの重要を確認した。

4) 地方演習林間の情報交換を密にして安全意識を高める（環境安全研修）。

秩父演習林において第1回環境安全研修を管理運営委員会と共同開催した。研修内容は秩父演習林から提案された「フルハーネス型墜落制止器具に関する特別教育」とした。他演から5名、秩父演から5名が受講した。研究科環境安全管理室から講師派遣の協力をいただいた他、千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林の技術職員が講師を担当し、座学と実技の研修を行った。

(7) 管理運営委員会

2023年5月26日, 9月1日, 10月11~16日(メール), 12月15日, 2024年3月22日にオンラインで開催した。

「ミッションの実現のために必要な手段, 人材育成プログラムについて, 全演的な調整を担う。また全演的な情報収集, 演習林の長期構想の検討を行う」ことを活動方針に掲げ, 次の6つの活動を行った。

【1】土地・建物・車両等

ミッション実現の必要な手段である, 生産(収入)の確保, 土地, 林道・歩道, 重機・車両・マイクロバス, 宿泊施設研究・実験施設の6項目のうち, 「重機・車両」の2項目について, 2021年度に策定した10ヶ年更新計画に則して事業を進めた。2023年度更新計画の実行にあたっては, 各地方演と情報を共有し, 更新における業者との契約および納品状況等について情報管理を行った。

【2】インターネット環境

各演担当者および全演アドバイザーで構成する「ネットワーク担当」を組織し, インターネット環境の管理運営を担当した。全演アドバイザーは月に一回の定例会を開催し, メーリングリストの管理, UT-CERTに関連した情報セキュリティ対応業務, データベースソフトのライセンス管理とサーバ管理, Webサーバおよびサイボウズサーバの運用管理, UTNET部局担当として全学のネットワーク管理への協力, 地方演のインターネット接続およびUTokyoWi-FiやNASの運用も含むネットワーク環境整備, など変化の著しい情報技術の最新動向を注視しながら演習林のインターネット環境について検討し, 日常的な管理運営業務を行なった。今年度は, 秩父, 田無, 富士, 樹芸の地方演においてネットワーク環境整備の技術的サポートを出張して行った。また, 地方演のNASのバックアップ手段を検討し生水と弥生のNASで試行した。さらに, 2027年にサイボウズがサイボウズクラウドに移行することに伴って全演で今後使用するグループウェアを選定する必要があるため, サイボウズクラウド以外の選択肢としてMicrosoft365のアプリ群の試用を開始し検討を行った。

【3】サバティカル

全学, 研究科, 演習林がそれぞれ定めるサバティカルに関する規則を改めて確認した。1月8日演習林長より教員宛に文書を発出し, サバティカル取得を奨励した。

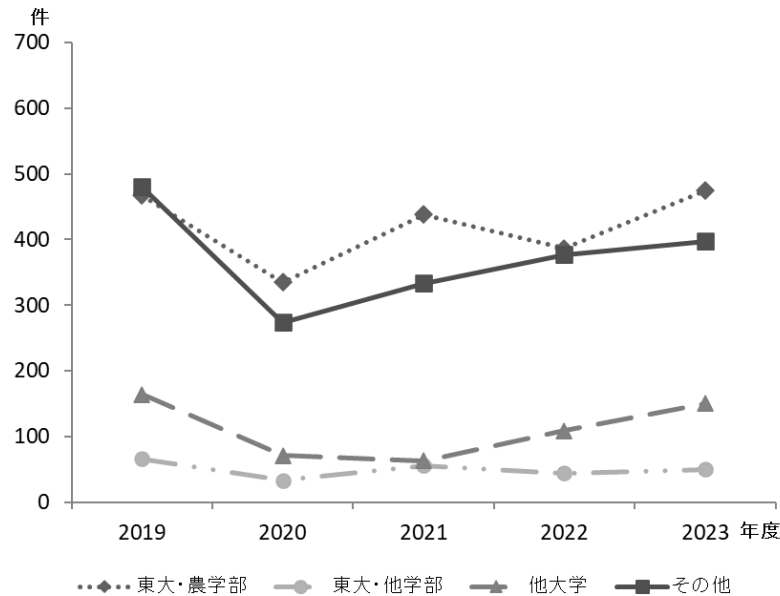
【4】研修

演習林技術職員等試験研究・研修会議は富士癒しの森研究所がホストとなり, 10月31日は対面で共通テーマ「演習林産木材の利用」に関する発表が7件, 自由テーマとして研究成果や日常の業務の成果についての発表が2件あった。11月1日は鴨田重裕准教授・環境安全委員長「事故災害報告に学ぶこと」, 蔵治光一郎教授・企画部長「東京大学の科学研究における行動規範(研究倫理)」のハイブリッド講義の後, 富士癒しの森研究所の木材の活用事例や保管場所などを見学し, 意見交換を行った。

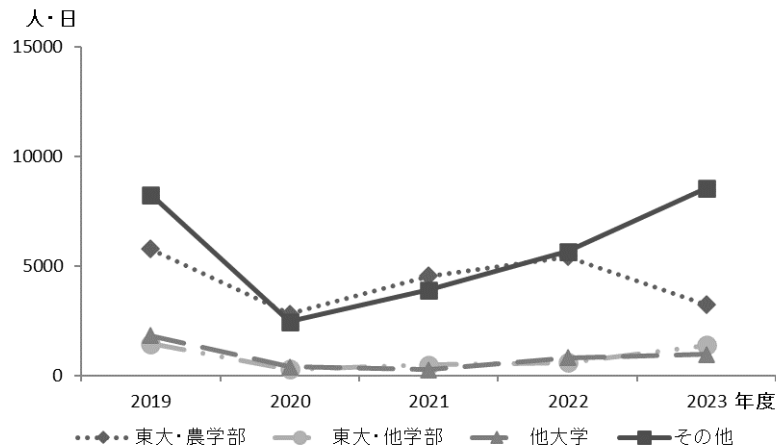
技術職員等試験研究・研修会議の報告書について, フィールドデータ研究センター, 教育・社会連携センターとも連携しながら, 編集・印刷を担当した。

【5】全演的な情報収集

2021年5月の演習林会議で決定した「全演的な情報収集」の基本的考え方および個別具体的な対応方針に基づき, 利用者実績, 専攻長・附属施設長会議資料, 運営委員会及び年報の資料作成のための情報収集を行った。



利用件数の過去5年間の推移



利用者延べ人数の過去5年間の推移

ロードレース大会利用人数（富士癒しの森研究所 2023年度は7,600名）を除く

【6】演習林の長期構想の検討

長期構想とは、自分が東大演習林を去ったあとの東大演習林のあるべき姿を思い描くことであると定義した。長期構想像の中に自分自身は存在しないので、東大演習林全体を俯瞰することになる。

長期構想班では、各地方演習林の独自色が濃い東大演習林という組織は全体としてどのような方向に進むべきなのか組織の目的を明確にすること、そのために各地方演習林がどのように機能することができるかを検討することに取り組む。私たち演習林という組織は農学という実学から乖離すれば存在意義を失いかねない。バーチャルではない広大な森林を預かり、管理することを通して、大学生に・大学に・社会に対して何を伝え、何を提起するべきか。効率を高めることを大事とする日々の活動の中で忘れがちなその様なことに思いをつなぎ留めることが重要である。

3月7日に実施した会合では、7地方演習林のあり方、職員の年齢構成と技術継承、組織横断的な連携や議論の必要性について話し合われた。

第 3 部 地方演習林報告

1. 千葉演習林	… 34
2. 北海道演習林	… 36
3. 秩父演習林	… 38
4. 田無演習林	… 40
5. 生態水文学研究所	… 42
6. 富士癒しの森研究所	… 44
7. 樹芸研究所	… 46

第3部 地方演習林報告

(1) 千葉演習林

【1】大学教育

2023年度は、専門教育として、農学部2科目（森林科学基礎実習Ⅰ，森圏管理学実習），理学部1科目（地球環境学科野外調査実習Ⅰ），大学院農学生命科学研究科1科目（生圏システム学特論）を対面で実施し、のべ242人日の学生が受講した。他大学では京都大学，千葉大学，筑波大学，茨城大学の実習を各1件受け入れた。教養教育として、全学体験ゼミナール5科目（危険生物の知識（春編），徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう，木材のこと〜，房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ，危険生物の知識（秋編），房総の森と生業（なりわい）を学ぶ）と総合科目1科目（森林環境資源学）を対面実施し、計181人日が受講した。体験活動プログラム（「東大の森」の教育研究を支えよう！）を実施した。卒論研究5件，修論研究6件，博論研究6件の利用を受け入れ，学生の研究活動を支援した。

【2】研究

研究課題のうち、1)スギ・ヒノキ人工林の施業・管理では、2022年度に導入した地上レーザー測量機器とUAVレーザー測量機器の運用を開始した。2)暖温帯生態系の動態および保全では、自動撮影カメラによるシカ生息密度調査を継続し、2022年度の密度を4.6〜6.2頭/km²と推定した。千葉県立中央博物館との協定に基づき昆虫相や菌類相の調査を実施した。ヒメコマツ荒樫沢3個体の繁殖量モニタリングと高芽接ぎ調査を実施した。3)林木育種と増殖技術の確立では、抵抗性クロマツ候補9系統の一次検定を千葉県森林研究所と共同で行った。アカマツ挿し木の発根と光合成との関係を明らかにするため、二酸化炭素を処理する実験を行った。

長期データの収集と公表に関しては、人工林長伐期施業試験地の定期調査および一連の例年実施の調査を実施した。複層林施業試験地，人工林成長試験地（箕輪試験地），郷台モウソウチク開花周期実証試験地のデータ整理を進めた。人工林長伐期施業試験地のデータペーパーが受理された。

研究利用は42課題（学生の研究活動を含む）を受け入れた。また，利用者説明会の名称を利用者交流会と改め，研究結果の簡単な紹介や感想・要望などの共有を主眼として，ハイブリッド形式で開催した。その他，千葉演習林組織として10課題の研究を行った。

森林資源を利活用した循環型社会の構築を目指し，西松建設株式会社と，社会実験型実証研究に向けた共同研究契約を2024年3月28日に締結した。

【3】社会連携

計画通り，地域交流協定に基づく鴨川市との共催事業「野鳥の巣箱をかけよう」にて観察会および巣箱作りを開催した。また，君津市とも協定に基づき，公民館活動の「松丘探検隊地域の事を学ぶ」を実施した。高校生ゼミナールを千葉大学との共催で開催するとともに，千葉県立中央博物館との連携イベントを実施した。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し，感染対策が緩和されたことから，森林博物資料館一般公開を4年ぶりに開催した。学内特別ガイドは引き続き不開催とした。郷台林道の一般公開は5月に開催した。計画通りFacebookおよびInstagramによる情報発信を継続した。「関東ふれあいの道」は，モミ・ツガのみちのみ通行でき，アジサイのみちは依然として通行止めとなっている。

【4】国際

7月には中国海南大学（サマープログラム）から人工林管理・動植物の観察と調査方法の研修を18名受け入れた。外国人留学生を含む教育研究利用は15件あり，参加留学生数はのべ20名であった。

【5】森林管理

天然林の森林現況資源調査として14〜27林班で28カ所（24小班分）を調査した（暫定値）。

生産林においては、2021 年度に実施した主伐の亀ノ沢 21C にて新植を実施し、面積合計 0.6ha（スギ 1,200 本（約 0.46ha）、ヒノキ 550 本（約 0.14ha）、教育特別林としてスギ 190 本（約 0.027ha））を新植した。保育作業として、下刈り 1.47ha、除伐 0.77ha、保育間伐 3.85ha（直営 0.54ha、請負 3.19ha、伐木グループ研修 0.12ha）を計画通り実施した。TSCP 促進事業である J-クレジットプロジェクトについては、東ノ沢 11C3-2 で保育間伐を実施した。保護樹調査（全個体数 86 本）については演習林に投稿した。2023 年度からスギ・ヒノキコンテナ苗（約 1,700 本）生産を始めた。また、今澄 40C6 で主伐を、請直で実施した。生産された素材丸太（約 550m³）は共同研究プロジェクトで使用するために 2023 年度中に販売する。また、炭材としてカシ類を 9.99m³ で販売した。

【6】環境安全

2022 年度に引続き教育研究安全衛生マネジメントシステムを実施し、リスク低減対策を進めるとともに作業前のラジオ体操とツールボックスミーティングを行い安全作業への意識向上に努めた。しかしながら 2023 年度は、公用車の物損災害、玉切り作業による損傷事故、出勤中のバイク転倒による損傷事故が発生した。玉切り作業中の事故およびバイク転倒による事故は重大災害に繋がりがかねない災害であることから再発防止に向け検討を行い対策等について情報共有した。また林内に複数ヵ所設定しているランデブーポイントや林道状況などについて消防署と供に確認作業をおこなった。勤務時間外における SMS を使った緊急連絡の訓練を実施した。清澄学生宿舎での火災発生を想定した消防総合訓練を実施した。新型コロナウイルス感染症対策については、本学の指針に沿って 5 月の連休明けに 5 類に移行するまで活動制限および感染予防・感染拡大防止に努めた。

【7】管理運営

土地は 9 月に千葉県へ 2149 m²売払を行なった。建物では、清澄作業所他照明改修を行なった。林道では、9 月 9 日に発生した台風 13 号による林道被害 65 箇所のうち、本沢林道 9 箇所、猪ノ川林道 4 箇所を文科省へ災害復旧申請を行った。測量・設計について 2023 年度完了し、施工については 2024 年度完了予定である。残りの被害箇所については直営で対応した。本沢林道坂本橋架け替え工事を行い、2024 年度も継続する。その他として、林道路肩補強として L 型擁壁設置を直営で一杯水林道（約 37m）、仁ノ沢林道（約 31m）を実施した。また、実習や調査等で使用する歩道として、長尾、中ノ背、今澄、大窪、風致林の各歩道の手入れを進めた。

【8】組織

4 月 1 日から今まで特任専門職員（特定短時間有期雇用）であった職員を特任専門職員（特定有期雇用）として 1 名採用した。また、4 月 1 日から特任専門職員（特定短時間雇用）1 名、6 月 1 日から特任専門職員（特定有期雇用）1 名を採用した（3 月末退職）。9 月末に助教 1 名退職。戦略会議・運営会議・教員会議・事業計画会議・安全衛生委員会をそれぞれ月 1 回開催した。

（２）北海道演習林

【１】大学教育

農学部授業科目「森林科学総合実習」を担当実施した。卒業論文研究 8 件（東京大，北海道大，北海道教育大，帯広畜産大，酪農学園大，東京農業大，山形大），修士論文研究 2 件（東京大，帯広畜産大），博士論文研究 2 件（東京大）の実行を支援した。ICT を活用したフィールド遠隔教育として，駒場キャンパスで行う教養学部前期課程主題科目「学術フロンティア講義：デジタル空間社会における研究と社会実装最前線」，弥生キャンパスで行う農学部授業科目「森林生態圏管理学」と「森林環境科学汎論」で遠隔ライブ講義を実施した。教養学部授業科目「全学体験ゼミナール：雪の森林に学ぶ～北海道演習林」を開講した。本学の体験活動プログラムを実施して学部生計 4 名を受け入れた。

【２】研究

森林生態分野では，生態遺伝特性と遺伝子資源の保全を目的として，トドマツ標高別産地試験地（4 カ所）および富士系カラマツ特性試験地の測定を行った。野生動物の生態については，エゾシカのライトセンサスと自動撮影装置による野生動物モニタリングを継続実施した。生物多様性の把握とモニタリングに関しては，動植物の生物相・分布域など生物情報の収集を継続した。気候変動に対する生態系応答については，気象観測，水文水質観測，主要樹種のフェノロジー観測を継続した。

森林経営分野では，林分施業法の科学的・技術的基盤の強化に向けて，天然林施業試験地（固定標準地）の測定を継続するとともに，2024 年度施業予定の全林班（約 1,300ha）において無人航空機（UAV）空撮を実施し施業計画立案に活用した。トドマツとストロブマツの立木密度試験地（1969 年植栽）の計測を行った。UAV 空撮画像と機械学習を用いた針葉樹と広葉樹の樹冠被覆分類に関する論文を公表した。2024 年度施業予定地での森林管理における UAV オルソ画像活用の試みと，森林内における最新型 UAV-LiDAR の計測試験の結果について報告した。住友林業寄附研究として，UAV 写真測量を用いたカラマツ高齢人工林の林分パラメータ推定に関する論文を公表した。農林水産省農林水産技術会議・2023 年度戦略的国際共同研究推進委託事業のうち二国間国際共同研究事業（スロベニア共和国との共同研究分野）の委託先に選定され，相手国側研究機関であるリュブリャナ大学（スロベニア）と共同研究契約を締結した。更新・保育施業による天然林再生技術の確立に向けて，群状択伐と樹冠下地がきによって天然更新を促進する試験的取り組みを継続した。広葉樹優良木の管理・育成技術の開発に関して，サントリー株式会社および北日本木材株式会社との共同研究契約を締結し，UAV 空撮画像と深層学習を用いたミズナラの樹冠抽出に関する論文を公表するとともに，ウイスキー樽用材として有用な香気成分を多く含有するミズナラ個体を立木の状態で特定する手法の開発のためミズナラ伐採木 30 個体から材料（幹材と枝・冬芽）を採集した。また，北海道演習林全域の遺伝構造の分析を進めた。多様な人工林施業技術の開発に向けて，針葉樹 3 種のコンテナ苗と裸苗の植栽木の生長計測をおこなった。

森林生態系管理分野では，森林施業が生態系プロセスに与える影響を検出するための各種データを継続して取得した。1981 年の風害後の復旧処理を行った風害復旧試験地の成長経過を計測した。森林および周辺地域に被害を及ぼす可能性がある種および保全すべき種の生育状況把握と管理に向けて，環境省の保全調査，希少生物の繁殖に配慮した施業スケジュールの調整に協力した。自動撮影装置によるアライグマの生息実態モニタリングを継続した。2022 年度に引き続き，特定外来生物に指定されているオオハングソンソウの分布調査を継続した。森林の生態系サービスの評価に向けて，各種試験地および蓄積調査を継続し，森林炭素蓄積に関する基礎的データを収集した。水に関する生態系サービスと林分施業法との関係解明に向けて，従来か

ら流量観測を行っている丸山沢と熊ノ巣沢に加えて、住友林業寄附研究の一環として、新たに本沢での流量や河川濁度の計測を開始した。

【3】社会連携・国際

初等・中等教育支援として、富良野市教育委員会が演習林内で展開する森林学習プログラム推進事業に全面的に協力した。技術者教育として、官公署・国有林、北海道立北の森づくり専門学院、林業団体等の研修会・視察見学等計 9 件を受け入れた。一般公開事業として、短時間セミナー、大麓山ハイキング登山会、親子向け公開セミナー、神社山自然観察路一般公開を開催した。第 65 回東京大学農学部公開セミナーにおいて、「森林 DX から森林 GX へ：北海道演習林の挑戦」の題目で講演を行った。

国際化に関して、チェコで開催された IUFRO 1.05 & 1.09 研究部会合同国際会議において基調講演を行い、北海道演習林が実践する異齢林管理計画のデジタル・トランスフォーメーション (DX) の取り組みを紹介した。台湾で開催された NTU-UTokyo Joint Conference 2023 の農学パラレルセッション (研究科レベル) において発表を行い、北海道演習林における森林管理計画のグリーン・トランスフォーメーション (GX) と DX の取り組みを紹介した。JICA 研修「地域住民の参加による持続的な森林管理」を受け入れた。イタリアのサッサリ大学からインターンシップ生 1 名を受け入れた。

【4】森林管理

立木伐採は資材量で 19,328m³ (天然林 11,224 m³, 人工林 8,104 m³) を実行し、うち 1,348m³ について素材生産・販売を行った (直営 1,059m³, 委託販売 289m³)。林産物の販売額は合計 98,226,298 円で、内訳は立木が 46,989,455 円、素材 (委託販売を除く) が 15,289,096 円、委託販売 (銘木市売) が 35,200,110 円、雑件売り払い (板材等) が 747,637 円であった。山出苗生産 (出荷) 本数は 19,835 本 (トドマツ 7,160 本, エゾマツ 9,420 本, アカエゾマツ 3,255 本), 山出購入苗 2,000 本 (クリーンラーチ), 地拵, 植付, 下刈の実行面積はそれぞれ 24.48ha, 19.92ha, 45.55ha, 林道改良距離は 70.66km, 崩壊修繕と予防が 9 箇所であった。森林保護に関して、春期に山火予消防活動 (監視および啓発) を、春と秋に野鼠発生予察調査を、冬期に北海道猟友会富良野支部および富良野市と共同でエゾシカの有害獣駆除 (1 回) を、森林被害巡林調査を計 3 回、それぞれ実施した。

【5】環境安全、管理運営

環境安全に関して、北演安全の日 (10/23) に事務所や構内の環境整備を実施した。例年実施している蜂対策講習会・交通安全講習会・建物火災避難訓練・スノーモービル安全運転講習会を実施した。事故災害発生件数は 11 件で 2022 年度 (9 件) より増加した。事故災害のうち、車両の物損事故が 6 件、ハチ刺され 3 件、脚立からの落下による骨折が 1 件、チェーンソー操作中の骨折が 1 件であった。ヒヤリハットは 2 件であり、車両走行中のタイヤナット外れが 1 件、スノーモービルの路外落下が 1 件であった。ダニ刺されは 12 件 (病院受診なし) であった。無人航空機の利用に関しては、東京大学のガイドラインに従い、飛行を環境安全管理室に申請して利用にあたっている。

管理運営に関して、宿泊施設利用料金および食費等料金を改定した。西達布川の一部区域 (81,779.06 m²) を河川用地として北海道へ売却した。施設修繕準備金で麓郷森林資料館外壁塗装・建具他修繕工事を行った。チップーシュレッダー (コマツ SR3501-2015) を本学附属牧場へ保有部署変更した。2022 年度に購入契約したホイールローダが納品され、更新前の古い機種は売却した。125 周年記念事業企画準備 WG を設置し、3 つの班 (記念式典, 記念誌, 英文書籍) においてそれぞれ企画準備を進め、北海道演習林創設 125 周年記念支援基金を設置した。

(3) 秩父演習林

【1】大学教育

1) 学部・大学院生の教育

本学の学部 5 名，修士課程 6 名（うち他研究科 1 名），博士課程 2 名，および他大学の学部 4 名，修士課程 3 名の学位論文研究を受け入れ，指導・助言，調査地への送迎，調査補助，調査地の維持管理，データ提供などの協力を行った。この中から，卒業論文 6 篇（うち他大学 1 篇），修士論文 4 篇（うち他大学 2 篇），博士論文 1 篇が作成された。学部の実習 2 件（森林生物学専修・森林環境資源科学専修，生物素材化学専修・木質構造科学専修），大学院の現地研修 1 件（アグリコクーン）を受け入れた。

2) 教養教育への参画

全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」，「秋の奥秩父を巡る」を宿泊形式で開講した。また，全学体験ゼミナール 1 件を受け入れた。

【2】研究

1) 森林の生態系プロセス

環境省のモニタリングサイト 1000 事業に係るブナ・イヌブナ林の毎木調査および落葉落枝・落下種子量調査を実施した。長期固定試験地について，2019～2022 年度に実施した針葉樹人工林試験地，および 2022 年度に実施した二次林試験地の定期毎木調査の結果を雑誌「演習林」に投稿した。また，民間企業との連携により，奥地 25 林班の不成績人工林を天然林に誘導する試みとして，2022 年度に皆伐を行った区域にシカ排除柵を設置するほか，27 林班で 2017 年に発生した山火事によって延焼した区域（大面積プロットの斜面上方）において，植生回復の促進を目的として簡易土留め工とシカ排除柵の設置を行った。外部の研究者と締結した覚書に基づき，ライブモニタリングシステムによる森林景観と樹木フェノロジーの記録，鳥類相の遠隔調査，環境教育教材の開発に関する研究が行われた。なお，滝川流域 6 地点のうち 5 地点における溪流水の水質モニタリングを終了した。

2) 生物多様性の保全

環境省のモニタリングサイト 1000 事業として地表徘徊性甲虫の調査を継続した。

3) 生態系の適応的管理

民間企業との連携により，シカ排除柵試験地（30 箇所×内外 2 調査区）の樹木実生調査，センサーカメラによるシカ密度調査を実施した。なお，大血川・栃本（入山，ワサビ沢）の両団地，および黒石実験地・影森苗畑でカシノナガキクイムシの侵入を確認した。

4) 長期生態系データ

全演的な活動を実施するほか，気象水文水質部門の気象分野では II 種観測と高所気象観測を継続し，更新計画に則って機器を更新した。生物部門の脊椎動物分野では大型哺乳類のライトセンサスおよび鳥類の越冬期ポイントセンサスと通年のバンディング調査を行った。固定試験地部門では長期固定試験地の新規測定データのデータベース化を行った。

5) 利用者ガイダンス・発表会

5 月 23 日にオンラインで開催し，利用の手引きと要旨集（40 題所収）を配布した。利用者発表会では外部から 41 名の参加を得て 14 題の口頭発表が行われた。

【3】社会連携

秩父地域の木材業・森林・林業の普及啓発を目的とする「木が香る秩父フェスティバル」（5 月・11 月，道の駅ちちぶ），「ちちぶ木の駅プロジェクト」（12 月）に参加した。また，埼玉県ナラ枯れ被害対策，全国植樹祭の秩父地域での推進，特別天然記念物カモシカ，埼玉県特定鳥獣保護管理，甲武信ユネスコエコパーク，秩父地域森林林業活性化，秩父地域鳥獣害対策にか

かわる委員会等に参加した。影森苗畑を活用するカエデ見本林の造成に向け、地域の NP0 法人と山引苗および種子の採集を行った。小中高校への対応では、埼玉県立秩父農工科学高校の樹木採集実習（7 月）を受け入れた。公開講座は「東大の森林で昆虫採集」（日帰り、7 月）、を開催した。秩父演習林ボランティア会「しおじの会」は、ガイドツアー「しおじの会と東大秩父演習林を歩こう」（6 月・11 月）の他、下刈り、樹皮ガードメンテナンス、歩道巡視、お土産づくり（木工品）、樹木園保全などの活動にのべ 104 名が参加した。社会発信では、イベント情報メールの配信を行った。「東京大学の森」育成資金は、新たに 8 件の寄付をいただいた。5 月には「東京大学の森」育成資金イベント「秩父演習林見学会」を開催し、5 組 13 名の方に来訪いただいた。

【4】国際

所属教員 2 名が海南大学（中国）での講義を対面あるいはオンラインで実施した。

【5】森林管理

育林実行量は、下刈 1 箇所（0.10ha）、獣害対策がクマ剥皮防除樹皮ガード保守管理 1 箇所（1.78ha）であった。埼玉県水源地域の森づくり事業によりクマ剥皮防除樹皮ガード保守管理 2 箇所（1.70 ha）を実施した。この他に目的を終えたシカ防護柵の撤去（2 箇所）をボランティアの協力を得て実施した。直営の土木実行量は、車道維持が 29,325m、林道改修が 20m、歩道維持が 15,830m、モノレール維持が 4,812m（3 路線）であった。ナラ枯れは秩父市内でも確認され、空間情報関連では、高精度 GNSS 受信機、レーザーコンパスを活用した GIS データの整備を行ったほか、UAV の操縦技能の向上に努めた。

【6】環境安全

各種ガイドラインについては、秩父演習林内での無人航空機（UAV）の飛行に関するガイドライン「秩父演習林における無人航空機（UAV）の飛行について」の策定（4 月 10 日）と「秩父演習林における新型コロナウイルス対応ガイドライン」、「秩父演習林レベル別利用基準」の改正（5 月 10 日）を行った。

各種研修・講習会として、環境安全委員会・管理運営委員会の共催による第 1 回全演環境安全研修「フルハーネス型墜落制止器具に関する特別教育」を提案し実施した（12 月）。その他、秩父演習林の自主的な取り組みとして、2022 年度導入したフォークリフト（定格荷重 900kg）を用いた安全運転講習会（6 月）、森林火災を想定した消防訓練とクマよけスプレーの使用訓練（8 月）、秩父消防本部指導による建物火災を想定した避難訓練と消防訓練（1 月）、秩父警察署員を講師とした交通安全講習会（1 月）を行った。

その他、定期的な取り組みとして、教育研究安全衛生マネジメントシステム会議（5、9、2 月）、火災リスクアセスメントと壁面付設コンセントの確認、ハチ毒アレルギー検査と必要に応じたエピペンの貸与、公用車自主点検、公用車運転前後のアルコールチェックを行った。また、2023 年度発生した公用車による物損事故 4 件とハチ刺され 2 件の災害について、事故要因や対策の検討を行い、再発防止に努めた。

【7】管理運営

施設の整備では、川俣学生寄宿舍のコンクリート擁壁新設工事と秩父事務所の少量危険物貯蔵庫新設工事を実施した。影森苗畑に木材ストックヤードが完成し、GX に関する東京大学の取り組みに協力する目的で、2022 年度伐採・製材したミズナラ材等を保管している。路網の維持管理では、林道・作業道・歩道・モノレールの維持（年度末集計）を行った。工事としては、東谷林道小滝橋の補修工事を実施した。秩父での全国大学演習林協議会秋季理事会・総会の開催に協力したほか、全国大学演習林協議会関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修を実施した。

（４）田無演習林

【１】大学教育

農学部および大学院の実習 5 件、講義 1 件の実施を受け入れた。農学部の実習には連携する生態調和農学機構による実習 1 件が含まれている。教養学部の全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」は社会連携イベントである「子ども樹木博士」と関連付け、田無演習林が主体となり実施した。また、体験活動プログラム「いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう」を実施した。卒業論文研究等では卒業論文 5 名（うち本学 3 名）、修士論文 8 名（うち本学 6 名）、博士論文 4 名（うち本学 4 名）の利用があった。教育利用全体での延べ利用者数は 591 名であった。

【２】研究

単回・通年利用を含め 24 件の申請があり、延べ 181 人の研究利用があった。卒論等の課題研究を含めた研究的活動は 41 件であり、内容別には生物・生態系に関する研究が 35 件と 8 割を超え、非生物系の研究が 7 件となっている。これらに加え、田無演習林独自研究としてブナ科樹木萎凋病の初期侵入過程を調査した。分野の異なる利用者との交流を深め、研究可能性をさらに広げることを目的とした研究利用者交流会を例年通り 6 月に実施した。

【３】社会連携

2023 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による活動制限が解除され、小中学生向け講座（子ども樹木博士認定会）を 6 月 4 日と 11 月 5 日の 2 回実施した。小中学校から校外学習の受入依頼が 4 件、中学校の職場体験が 2 件あった。そのほか、非営利団体の見学が 4 件、七夕用のササの分譲が 2 件あった。平日の一般見学の受け入れについては 2023 年度から再開され、4 月から 1 月までの来演者数は 1,563 名であった。休日公開は事前申込不要で 5 回行い 693 名来演した。12 月 3 日に学内教職員向けとして「リース作り体験会」を実施し 46 名が参加した。また、新たな試みとして連続講義による公開講座「松の世界」を前後半各 3 回ずつ実施した。基本的には育成資金の寄付者を対象としているが人数に余裕がある限り一般からの応募者も受入れ、前半 5 名、後半 10 名の参加者があった。

このほか、樹木剪定作業により生じた枝葉を花材・園芸資材として東京都板橋市場にて委託販売した。シラカシ大径木の丸太を箸材として製材・販売し、（株）兵右衛門が作成した箸は東京大学コミュニケーションセンターで販売している。

2023 年度も引き続き社会連携活動として森林教育パートナー（小中学生の森林教育関連授業の補助を中心に活動をおこなうボランティア）の募集をして、5 月 15 日に研修を実施し、15 名が森林教育パートナーとなり、子ども樹木博士認定会など 12 回の活動に延べ 52 名が参加した。

【４】国際

2023 年 10 月より農学共同研究員として中国・海南大学の梁懷月講師を受け入れた。梁氏は 2024 年 9 月まで 1 年間滞在する予定である。梁氏以外に外国人研究者の来訪はなかったが、外国人学生による教育利用が 4 名あった。

田無演習林の教員が 8 月にフィレンツェで開催された 13th EVPMC 2023 meeting に参加し、また 12 月に国立台湾大学で開催された NTU-UTokyo Joint Conference 2023 にオンラインで参加した。さらに 3 月に富士癒しの森研究所で開催された International Research Meeting of Forest Culture Science in East Asia (FOCUSEA) には主催者の 1 人として参加した。

【５】森林管理

実習および研究用としてアカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキの実生苗の育成を行い、研究者から委託された苗木育成のための苗畑管理（灌水や除草等）も行った。また、試験地として整備されたフィールドの適切な管理を行うため、下草刈り等の作業を行った。

田無演習林では、年間を通して多数の利用者が林内見学を目的として来演する。安全に見学利用してもらえるように、散策路沿いや樹木園の休憩場所の枯損木および危険木の伐採を、小径木については直営で、大径木については請負で行った。枯損枝、掛り枝についても、スローラインや高所作業車を用いて直営で除去した。強風・降雪時には、倒木や落枝による事故を未然に防ぐため、一般見学を中止した。敷地境界からはみ出した枝の処理や境界沿いの小径木の伐採は直営で適宜行った。2020 年度に初めて確認されたナラ枯れ被害は 2023 年度も引き続き発生し、マツ材線虫病によるマツの枯損被害も発生した。枯損木を直営および請負にて伐採し、被害の拡大を防ぐため、材は燻蒸処理や木質バイオマスボイラーでの焼却、薪としての利用を行った。

例年施業管理上の配慮を行っている希少猛禽類は 9 小班内のアカマツに営巣し 3 羽が巣立った。

【6】環境安全

毎月の安全衛生マネジメントシステム会議では、他演で発生した災害発生報告や、熱中症やハチ刺され対策など季節に応じた注意喚起を行い、災害を未然に防ぐよう努力した。6 月に室内の片付け作業中に転倒し左肩上部を骨折する災害があり、7 月に利用者が調査中にスズメバチに刺された災害があった。田無キャンパス全体の防災訓練を 10 月に実施し、消火訓練、地震体験等を行った。2022 年 10 月から一般に貸し出しを始めたセミナーハウスの火災通報システム工事が 6 月に行われ、火災報知器作動時に整備保障会社と田無演習林に電話連絡が行く契約をした。

【7】管理運営

2023 年度は COVID-19 感染拡大に伴う活動制限がほぼ解除となり、田無演習林の勤務態勢も通常に戻った。休日公開、子ども樹木博士認定会などのイベントや社会連携活動を引き続き実施した他、平日の一般見学も 4 月から再開した。西東京キャンパス整備の一環として行われていた演習林地区の工事は 2022 年度内に終了し、2023 年度当初から整備の終わった施設を使った活動を行った。

「東京大学の森」育成資金には新たに 1 名の方から寄付いただいた。また「武蔵野に大学の森をたずねて～東京大学田無試験地の 80 年～」を 19 冊、「”森たび” 東京大学演習林のみどころ 100」を 16 冊、「気持ちよく納められる森林環境税とは？」を 9 冊販売した。

2022 年度から開始したセミナーハウス(旧庁舎)の部屋の貸出利用が 6 件あった。

（５）生態水文学研究所

【１】大学教育

第6期計画に基づき、森と水の自然科学的、森と水と人の関係についての社会科学的なテーマの教育活動を実施している。また、「研究」や「社会連携」と連動した「大学教育」とすることを心掛けた。大学院の森林圏水循環機能学の現地講義を12月12～13日に実施し、7名が参加した。農学部森林生物科学専修・森林環境資源科学専修の森林科学基礎実習Ⅳの現地実習を8月21～25日に実施し、13名が参加した。教養学部前期課程Sセメスター総合科目D人間・環境「森林環境資源学」のフィールドワーク「森と水」を6月3日～4日に実施予定であったが、台風のため開講を中止し、前日までに来訪していた3名のみを対象に実施した。全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林」を実施し、6名が参加した。本学体験活動プログラム「森・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える90年を全身で感じてみよう～」を、9月27日～30日で実施し、2名が参加した。

【２】研究

森林の水源涵養機能や水土保持機能が、森林の二次遷移や気候変動へどのように応答するのかを明らかにするために、水文水質、気象、土砂、生態データを継続して取得・分析・公開を行っている。また、マルチスペクトルUAVを導入し、集水域などの定期的なモニタリングを開始した。

白坂・穴の宮・東山・犬山において水文観測、気象、雨水・溪流水サンプリング、水質分析を継続した。白坂小流域固定試験地において毎木調査、リター調査、種子調査、地上徘徊性昆虫調査、鳥類調査を継続した。毎木調査については、毎年行うモニタリング1000愛知赤津サイトだけでなく、白坂小流域固定試験地の毎木調査を行った。次回は2027年度の調査を予定している。

白坂・東山・穴の宮気象観測露場における2022年の観測結果と白坂流域の2021年日流出量、降水と溪流水の水質データ、白坂南北谷小流域の2008～2015年の日流出量、白坂小流域固定試験地におけるコガネムシ上科食糞群に関する報告、ヒノキ人工林各種試験地の成長資料がそれぞれ雑誌「演習林」に掲載された。白坂小流域固定試験地のナラ枯れ被害に関する比較研究論文が日本森林学会誌に掲載された（澤田）。モニタリング1000愛知赤津サイトにおけるコナラ堅果の落下特性に関する論文が中部森林研究に掲載された（澤田）。

Japan Geoscience Union 2023において浅野・水内が東京大学生態水文学研究所における水・土砂観測研究の100年について発表した。2023年度技術職員等試験研究・研修会議において澤田・井上が生態水文学研究所における木材等収入の歴史と生産木材の自家利用状況について発表した。第13回中部森林学会において、澤田が白坂小流域固定試験地における優占樹種と林分構造の変化と同試験地における小径木の23年間の変化について、岸本が広葉樹二次林を皆伐し設置したソーラーパネルが表面流量に及ぼす影響について、それぞれ発表した。第135回日本森林学会大会において澤田がモニタリング1000愛知赤津サイトにおけるアカマツ種子落下数の経年変化について発表した。

研究所に保管されている明治末期から昭和初期の古い地図を対象に、約40点のデジタルアーカイブ化を行った。利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会を5月29日に瀬戸市の施設で開催し、44名の参加があった。データ利用規則に基づき、データ利用を6件許可した。

【３】社会連携

2023年度は新型コロナウイルス感染症の影響も減少し、以前と同水準に回復した。犬山市立今井小学校で開催されている「探鳥会」は今井小学校で4回開催し、梁瀬・澤田が講師として参加した。東京大学赤津研究林サポーターズクラブ「シデコブシの会」、「犬山研究林利用者協

議会」による赤津研究林、犬山研究林での主催行事、見学団体ガイド等がそれぞれ6件、31件行われた。市主催のイベントでは、瀬戸市は2023年度イベントを開催しなかった。犬山市は11月に市民を対象にした自然観察会を主催し、20名が犬山研究林を見学した。また、隔年で開催している犬山市民総合大学環境学部の全2回の講義を生態水文学研究所が担当し、第2回の現地講義では20名が犬山研究林内を見学した。その他に他団体主催で一般向けの公開講座2件にそれぞれ29、15名が参加した。瀬戸市の光陵中学校、水無瀬中学校、水野中学校の職場体験を受け入れ、それぞれ5名、3名、5名が参加した。瀬戸市環境審議会、瀬戸市太陽光発電設備設置審議会と犬山市環境審議会に所長が委員として参加した。

【4】国際

イタリアのサッサリ大からインターンシップ生を1月12日-2月14日に受け入れた。3月11-15日にスイス・チューリッヒ大のIlja van Meerveld先生とMarc Vis氏が来所し、現地視察と研究打ち合わせ、ワークショップ、森林科学セミナーを行った。ROBIN (Reference Observatory of Basins for INternational hydrological climate change detection)プロジェクトに協力した。

【5】森林管理

第6期計画において4つにゾーニングした研究林をそれぞれの施業方針に従って管理した。森林科学基礎実習Ⅳで使用する森林の安全確認と整備を7・8月に実施した。犬山研究林ふれあいゾーンにある歩道の整備を実施した。愛知県の小規模治山事業(森林機能回復緊急整備)により2.87ha、森林ボランティアにより0.08haの間伐を実施した。10月17~19日に森林管理委員会GIS技術指導者養成研修会が開催され、水内が講師として参加した。市町村交付金相当額予算により74林班(旧・新居試験地)の防除薬剤地上散布(5月21日)と浜名バイパス新居弁天I.C.周辺のマツ枯れ危険木処理を実施した。施設整備(修繕)準備金により、五位塚事務所に接する瀬戸市道沿い危険木の除去、74林班の湖西市道沿い及び界を接する民有地沿いのマツ枯れ危険木処理、赤津研究林の瀬戸市道沿いで発生した倒木により破損した道路施設(ガードレール)の復旧及び周辺危険木の伐採処理、瀬戸市道の安全確保のための危険木伐採処理、愛知県道33号線沿い危険木の処理を実施した。また74林班のマツ枯れ被害が浜名バイパス新居弁天I.C.付近の東西でさらに大きく拡大した。そのため2022年度に続き森林病虫獣害担当および他演技術職員の協力を得て1月24~26日に計182本のクロマツにマツ枯れ予防薬剤の樹幹注入を実施した。

【6】環境安全

新型コロナウイルス感染症対策として、本学や農学部の方針に沿って生態水文学研究所の活動制限レベルを設定してきたが、5月8日に本学の活動制限指針の制限レベルがAからSに緩和されたことを受け、教職員各自が基本的な感染防止対策を実施することとした。事故災害は8月にハチ刺され災害が1件、9月に倒木による公道のガードレール破損が1件発生した。産業医による巡視が11月にあり、指摘事項に対し適切に対応した。労働安全衛生会議を毎月開催して、熱中症やゲリラ豪雨、ハチ刺傷など季節に合わせた注意喚起を行い、災害予防に努めた。夏季に外業が多い職員に空調服を貸与し、熱中症予防に努めた。転出・転入者に伴い、緊急連絡先名簿と緊急時連絡体制を随時更新した。

【7】管理運営

特任助教一名を5月、学術専門職員一名を10月にそれぞれ採用した。学術専門職員一名が11月に辞職した。砂出し作業体験(体験日2023年9月28日、2024年6月9日)を瀬戸市ふるさと納税の体験型返礼品として設定した。愛知県との土地貸借契約(東海自然歩道)を4月に更新した。

（６）富士癒しの森研究所

【１】大学教育

1) 実習等の受け入れ

教養学部 of 現地講義 5 件，農学部 of 現地講義 5 件，他大学 of 学生実習 1 件（筑波大），国際教育 2 件を受け入れた。担当教員とコミュニケーションをとり，教育利用における利便性を高めるよう努めた。体験活動プログラムを実施し，2 名の学生が参加した。

2) 教育活動支援

卒業論文 2 件（本学，東京農工大），修士論文 2 件（本学），博士論文 2 件（本学）の利用があり，基礎データ提供およびドローン調査等の支援を行なった。

3) 教育プログラムの企画実施

全学体験ゼミ「東大の別荘「癒しの森」で心も体もリフレッシュ」，総合科目「森林環境資源学」を，続・癒しの森プロジェクトの一環として実施した。体験活動プログラムを企画し，夏の部および冬の部を実施した。運動会学生との共同作業は日程調整が整わず 中止とした。

【２】研究

1) 研究所が組織的に取り組む研究

[1] 森林管理：昨年に続き，DX による単木管理の調査手法を用いて 所内全域のナラ枯れ被害を把握する研究を実施した。昨年に続き，山中湖村と共同して村内のナラ枯れ把握のための調査に協力した。ナラ枯れ被害の予防に関して忌避剤試験を実施した。

[2] 資源化および資源活用：ナラ枯れ被害木の薪活用に関する試験を実施した。

[3] ソーシャルデザイン：所内の一部地区について，一般開放を開始した。

[4] 試験地および基盤データ等：実証林において林内気象データを蓄積した。実証林の管理計画は立案できなかった。I 林班での気象データの回収，蓄積を行った。長期生態系データ調査として，動物センサーカメラ調査，鳥類調査を実施し，昆虫調査，植物調査に協力した。過去の試験地等のデータ確認と整理を行った。

2) 研究利用の受け入れ，共同研究

13 件の研究利用を受け入れ，基礎的データの提供等の支援を行なった。随時研究利用の呼びかけを行なった。共同研究として，山梨県森林総合研究所とのナラ枯れ被害木の処理方法に関する試験を実施した。

【３】社会連携

1) 一部エリアの一般開放

2 月 22 日より一部エリアの一般開放（平日のみ）を開始した。それに先立ち，開放にあたってのルール作成や看板作成に関する議論を，癒しの森の会会員と約半年にわたって続け，案内地図及びルールを記載した看板を各所に設置した。一般開放開始日には，記念企画として一般向けミニガイドツアーを実施した。

2) 知識・技術の提供

山中湖村の後援を得て，研究所の教育研究活動に関する公開講座を開催した。山梨県立吉田高校の授業「理数探求」に協力した。

3) 村行政との共同事業

ナラ枯れ調査および被害木の利活用について，村行政と共同して取り組んだ。村の後援を得て「癒しの森の朝もや音楽会」「森の文化祭」を開催した。100 周年記念事業について協議し，組織立ち上げの準備を行なった。村の健康づくり・ポイント事業に協力した。

4) 住民活動の支援

「癒しの森の会」による活動を支援し、共同して「癒しの森の朝もや音楽会」および「森の文化祭」を企画・実施した。

5) その他

東大教職員向け特別ガイドを2回実施した。ナラ枯れ伐採木の板材を箸材として(株)兵左衛門に販売した。

【4】国際

英語によるウェブサイトでの情報発信を行なった。一般開放エリアの案内看板の英語版を作成し、ウェブサイト上で公開した。海南大サマープログラムの受け入れをおこなった。International Research Meeting of Forest Culture Science in East Asia の開催を受け入れた。

【5】森林管理

路線管理システムによる道路沿線の施業、枯損木・危険木等の処理、景観管理作業(落ち葉焚き)を2023年度当初計画に従って実施した。公道林道沿いや各建物付近、境界沿いの枯損木、危険枝の処理を「東京大学の森」育成資金および施設修繕準備金で実施した。将来の演習林産材利用に向けて、ナラ枯れ伐採木の一部の製材を実施した。

【6】環境安全

2023年度に引き続き教育研究安全衛生マネジメントシステムを実施し、リスク低減に努めた。安全管理のため定期的および随時の情報共有を行うことで職員の安全作業を期するとともに、危険情報を利用者に伝達し、利用者の安全管理を支援した。教職員2名が普通救命講習を受講した。10月に利用者にUAV機材を貸し出した際にバッテリーが紛失する事件が発生したため、対策として機材貸出品チェックリストを作成した。11月に脚立と伐倒作業の安全講習会を実施し、脚立使用時の注意事項を確認したほか、伐倒作業時の注意事項や、見学者が居る場合の注意事項について確認し、対応チェックリストを作成した。COVID19の5類移行に伴い、山中宿泊施設の定員を3名に戻した。夜間休日時の緊急連絡用の携帯電話を導入した。

【7】管理運営

施設整備では、事務所屋根の補修工事を施設修繕準備金で行った。講義室周辺においては講義室外水道流し設置と排水工事を学部教育改革経費で行った。一般開放の案内板・説明板を林内6カ所に新たに設置した。林内掲示板は適宜更新した。Ⅲ林班のゲートの支柱を交換した。

R5技術職員等試験研究・研修会議を開催した。伐木グループ、機械グループ、空間情報技術部門、固定試験地部門の研修に参加し、関連する知識を所内で共有した。技術職員1名が二等無人航空機操縦士の資格を取得した。

（７）樹芸研究所

樹芸研究所の大きな特徴は特用樹種（樹芸植物）の集積であり、これを生かした教育活動に最大のエフォートを割くこととしている。青野研究林での早生樹や油糧植物などの特徴的な造林試験地、温室における多種の有用植物に関する研究は、教育活動にリンクするものとして取り組むこととしている。さらに、教育研究活動を通じた知見や経験に基づき、社会連携活動に展開することを目指している。

上記方針に基づき、2023 年度は以下のような事業を行なった。

【１】大学教育

樹芸研究所は全学教育を担うことになっている。全学体験ゼミナール「夏版・伊豆に学ぶ」を2回実施するとともに、「伊豆に学ぶシリーズ」をもとに新たに立ち上げた「伊豆に学ぶ自然の恵みを活かす技」を1回実施した。農学部3年生向けの森林実習を引き続き実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針における活動制限指針レベルが「レベル S」になったことを受け、全ての実習、全学体験ゼミナールを従来の合宿型で行った。これらの樹芸研究所が主体として実施した講義・実習に加え、全学体験ゼミナール2件、農学部の実習1件および大学院農学生命科学研究科の講義1件を受け入れた。

1) 樹芸研究所主体で実施した講義・実習

- ・教養学部前期課程1, 2年生 主題科目 全学体験ゼミナール
「夏版・伊豆に学ぶ1」, 「夏版・伊豆に学ぶ2」, 「伊豆に学ぶ自然の恵みを活かす技」
- ・農学部 国際開発農学専修3年生
「森林実習」

2) 樹芸研究所で受け入れた講義・実習

- ・教養学部前期課程1, 2年生 主題科目 全学体験ゼミナール
「続伊豆に学ぶ イノシシソーセージは何を語る?」, 「続伊豆に学ぶ 林業体験から見えるコト」
- ・農学部 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修4年生
「森林土壌学実験」
- ・大学院農学生命科学研究科 森林科学専攻・生圏システム学専攻修士課程
「国際森林学特論」

【２】研究

NEDO の「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業」に関連し2022年度伐採した *Eucalyptus saligna* の一部林分について、萌芽発生・成長状況の調査を実施した。

第1期試験研究計画期に造営された「ユーカリ属現地適応試験地」で見いだされた優良個体のクローン増殖に、2022年度に引き続いて取り組んだ。*E. elata* 1個体について、まとまった数のクローン苗が得られる目途が立った。

中部電力(株)との共同研究「バイオマスによる排熱を活用したカカオ豆・南国樹木の栽培・産業育成」に関連して、温室でのカカオ苗木の生産・管理を引き続き行った。

バニラ果実の簡便なキュアリング法の開発に引き続き取り組んだ。種々の新たな手法を試みたが所望の品質を得るには至らなかった。

キャッサバを4月に加納構内に挿木し、1月に塊根(芋)を収穫した。当地で近年頻発するイノシシ害を受けることはなく、春から秋にかけての野外での栽培が可能であることがわかった。

教材として有望な温室内栽培種の増殖研究として、パラゴムノキのクローン増殖に取り組

んだ。

油糧植物の利活用研究の一環で、椿油を搾って利用する教育アクティビティを検討した。上述の全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ自然の恵みを活かす技」に、搾油体験と、得られた油を利用した工作を組み込んだ。

長期生態系データ各部門・空間情報技術部門の活動方針に沿って、必要な計測・調査を実施した。観測機器の異常などについて適切に対処した。

【3】社会連携

伝統工芸木炭生産技術保存会へ研磨炭（駿河炭）の原料であるアブラギリを供給した。また、工芸用白炭製炭技術研修（窯修繕，製炭，意見交換会）と講演を行った。静岡県知事が来所し、加納温室及び青野研究林を案内した。下田市教育委員会と共催で市民向け公開講座「伐って活かそう伊豆の竹-竹の間伐とものづくり-」を開催し、参加者は15名であった。

【4】国際

大学院講義「国際森林学実習」の現地講義に際し、国際的な見地から早生樹の活用や特用樹種の利用について教育プログラムを実施した。

【5】森林管理

アブラギリ林において、天然下種更新を目的とした皆伐を3年に分けて行い2023年度で終了した。竹林では間伐による密度調整，新竹の個体記録を行った。その他，林道への倒木4回，崩落1回をそれぞれ処理した。森林の現況と境界確認のため森林現地踏査を4回実施した。アドバイザーを招き加納温室，青野研究林の管理について意見交換をした。

温室では，植物配置やフェノロジーの記録にFileMakerを活用するとともに，ラズベリーパイを用いた温室監視システムを導入するなどのデジタル化を進めた。植栽森林の落葉から作った腐葉土の導入を試み，施用上の課題を検討した。

【6】環境安全

5月7日まで新型コロナウイルス感染拡大防止策として，温室一般公開を事前申し込み制とし，同時見学者数を5名以下とした。また下賀茂寮宿泊施設の宿泊者数を制限した。その後は温室一般公開を通常通り自由見学とし，下賀茂寮宿泊施設の宿泊者数制限を解除した。

研究所内の安全講習会として，温泉管取扱い講習，マイクロバス運転講習会を実施した。

海岸での全学体験ゼミナールの教員の骨折事故を受けてMS活動に取り入れ対応を見直した。水銀含有物品や不要試薬の処分を行った。

【7】管理運営森林管理・管理運営

下賀茂寮宿泊施設について，「東京大学の森」育成資金にてエアコン7台を更新した。また運営費にて電気工事を行い，老朽化して漏電などの危険のあった状況を改善した。建物などの改修工事として，運営費にて加納事務所展示室および事務室の一部の床修理工事を実施した。青野研究林の看板を更新した。温泉施設のメンテナンスとして共同研究費にて温泉管改修工事を実施した他，施設修繕準備金により温泉櫓湯管布設替工事および温泉管のための町道占有箇所の側溝周囲補強工事を実施した。公用車1台を更新した。

【8】その他

本部ダイバーシティ推進課経費で1名を雇用した。

資料

1. 大学教育	… 50
2. 研究	… 71
3. 社会連携	… 93
4. 国際	…115
5. 森林管理	…122
6. 環境安全	…129
7. 管理運営	…132
8. 組織図	…135
9. 人事	…148
10. 予算・収入	…149
11. 委員会・会議等	…150
12. 利用状況	…151
13. 演習林所在地および連絡先	…201

1. 大学教育

1) 大学院講義等

生圏システム学専攻修士課程

講義名	講義名
森林圏生態学	鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・鈴木智之・前原 忠・久本洋子・福井 大
森林圏生態学演習	鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・福井 大
森林生物機能学	山田利博・鴨田重裕・楠本 大
森林生物機能学演習	山田利博・鴨田重裕・楠本 大
森林生態圏管理学特論	石橋整司
国際森林学特論	安村直樹・齋藤暖生
森林圏水循環機能学	蔵治光一郎・浅野友子・田中延亮
森林圏生態社会学演習	石橋整司・安村直樹・齋藤暖生
森林流域管理学演習	蔵治光一郎・尾張敏章・浅野友子
生圏システム学特論	日浦 勉・鎌田直人・當山啓介・楠本 大・ほか9名
生圏システム学実験・研究	鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井 大

森林科学専攻修士課程

講義名	担当教員
森林圏生態学	鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・鈴木智之・前原 忠・久本洋子・福井 大
森林生物機能学	山田利博・鴨田重裕・楠本 大
国際森林学特論	安村直樹・齋藤暖生
森林生態圏管理学特論	石橋整司
森林圏水循環機能学	蔵治光一郎・浅野友子・田中延亮
森林科学特別実験	鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井 大
森林科学特別演習	鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井 大
森林科学セミナーII	鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井 大

農学国際専攻修士課程

講義名	担当教員
森林昆虫生態学 (Forest Insect Ecology)	鎌田直人

生圏システム学専攻博士課程

講義名	担当教員
森林圏生態学特別演習	鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・福井 大
森林生物機能学特別演習	山田利博・鴨田重裕・楠本 大
森林圏生態社会学特別演習	石橋整司・安村直樹・齋藤暖生
森林流域管理学特別演習	蔵治光一郎・尾張敏章・浅野友子
生圏システム学特別実験・研究	鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井 大

森林科学専攻博士課程

講義名	担当教員
森林生態圏管理学特別演習Ⅰ	鎌田直人・山田利博・後藤 晋・鴨田重裕・平尾聡秀・楠本 大・福井 大
森林生態圏管理学特別演習Ⅱ	石橋整司・蔵治光一郎・尾張敏章・安村直樹・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮
森林生態圏管理学特別実験Ⅰ	鎌田直人・山田利博・後藤 晋・鴨田重裕・平尾聡秀・楠本 大・福井 大
森林生態圏管理学特別実験Ⅱ	石橋整司・蔵治光一郎・尾張敏章・安村直樹・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮

2) 学部講義等

農学部講義・演習・実験実習

講義名	課程・専修等	開講年次・ ターム	担当教員	備考
森林環境科学汎論	農学基礎科目	2 年次・ A1-A2	龍原 哲・蔵治光一郎・尾張敏章・ 安村直樹・ほか 6 名	
森林資源と木材利用	農学総合科目	2 年次・A2	古井戸宏通・安村直樹・ほか 4 名	
農学リテラシー	農学共通科目	2 年次・W (集中)	東原和成・坂上大翼・ほか 10 名	
森林生態圏管理学	応用生命科学課程・ 環境資源科学課程	3 年次・ S1-SP	鎌田直人・山田利博・蔵治光一郎・ 後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾 張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤 暖生・浅野友子・福井 大	
森林政策学	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3 年次・ S1-SP	古井戸宏通・安村直樹・ほか 2 名	
造林学	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3 年次・ S1-SP	丹下 健・益守眞也・後藤 晋	
森林遺伝育種学	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3 年次・SP	後藤 晋・久本洋子	
森林科学基礎実習Ⅰ	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3 年次・ S1-SP	丹下 健・楠本 大・當山啓介・藤 原章雄・竹本周平・ほか 9 名	千葉・田 無で現地 開催
森林科学基礎実習Ⅱ	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3 年次・ S1-SP	熊谷朝臣・田中延亮・ほか 3 名	
森林科学基礎実習Ⅲ	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3 年次・ S1-SP	福田健二・坂上大翼・久本洋子・藤 原章雄・ほか 9 名	秩父・田 無で現地 開催
森林科学基礎実習Ⅳ	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3 年次・ S1-SP	古井戸宏通・安村直樹・齋藤暖生・ 藤原章雄ほか 9 名	富士・生 水で現地 開催
森林科学総合実習	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3, 4 年 次・S2	龍原 哲・尾張敏章・田中延亮・鈴 木智之	
森林政策学演習	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3 年次・ A1-A2	古井戸宏通・齋藤暖生・ほか 2 名	
森林風景計画実習	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3 年次・ A1-A2	山本清龍・藤原章雄	富士で現 地開催
森林実習	国際開発農学専修	3 年次・SP	露木 聡・広嶋卓也・齋藤暖生・鴨 田重裕・平尾聡秀・井上広喜	樹芸で現 地開催

教養学部講義・演習

講 義 名	開講ターム・ セメスター	担 当 教 員	備 考
総合科目「森林環境資源学（森の成長，森とダム，森と癒し）」	S	蔵治光一郎・楠本 大・齋藤暖生・當山啓介・藤原章雄・三浦直子・水内佑輔・安村直樹・浅野友子・福井大	千葉・富士・生水で現地開催
総合科目「森の生物学」	S	久保田耕平・鎌田直人 ほか4名	
全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」	S1	石橋整司・齋藤暖生・井上広喜・前原 忠・久本洋子	富士・千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」	S1	石橋整司・竹本周平	田無・駒場で現地開催
全学体験ゼミナール「徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう，木材のこと〜」	S2	石橋整司・安村直樹・齋藤暖生・藤原章雄・當山啓介	都内・千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「東大の別荘『癒しの森』で心も体もリフレッシュ」	S2	齋藤暖生・後藤 晋・浅野友子・藤原章雄・三浦直子・福井 大	駒場・本郷・富士で現地開催
全学体験ゼミナール夏版伊豆に学ぶ1 ①体験 part	S2	鴨田重裕・齋藤暖生	伊豆で現地開催
全学体験ゼミナール夏版伊豆に学ぶ1 ②総合考察 part	S2	鴨田重裕・齋藤暖生	伊豆で現地開催
全学体験ゼミナール夏版伊豆に学ぶ2 ①体験 part	S2	鴨田重裕	伊豆で現地開催
全学体験ゼミナール夏版伊豆に学ぶ2 ②総合考察 part	S2	鴨田重裕	伊豆で現地開催
全学体験ゼミナール森に学ぶ（森林・林業を意識する低山歩き S1）	S1	鴨田重裕	東京近郊の低山
全学体験ゼミナール森に学ぶ（森林・林業を意識する低山歩き S2）	S2	鴨田重裕	東京近郊の低山
全学体験ゼミナール「森に学ぶ（ふらの）北海道の大地に学ぶ」	S2	鴨田重裕・平尾聡秀・尾張敏章・田中延亮・鈴木智之	北海道で現地開催
全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」	S	山田利博・平尾聡秀・坂上大翼	秩父で現地開催
全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」	S2	鎌田直人・楠本 大・久本洋子・當山啓介・竹本周平	千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」	A1	石橋整司・齋藤暖生・井上広喜・前原 忠・久本洋子	富士・千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング〜GPSを使ったオリジナル地図づくり〜」	A1	石橋整司・露木 聡・藤原章雄	富士で現地開催
全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林」	A1	安村直樹・浅野友子・水内佑輔	生水・明治神宮で現地開催
全学体験ゼミナール「続伊豆に学ぶ イノシソーセージは何を語る？」		鴨田重裕	伊豆と弥生
全学体験ゼミナール「続伊豆に学ぶ 林業体験から見えるコト」		鴨田重裕	伊豆と弥生

講 義 名	開講ターム・ セメスター	担 当 教 員	備 考
全学体験ゼミナール「続伊豆に学ぶ 伝統工芸を守る意義とは」		鴨田重裕	岡山と弥生
全学体験ゼミナール「続伊豆に学ぶ エネルギーの森作り」		鴨田重裕	千葉と駒場
全学体験ゼミナール「森に学ぶ 森林・林業を意識する低山歩き A 1 ①」	A1	鴨田重裕	東京近郊の低山
全学体験ゼミナール「森に学ぶ 森林・林業を意識する低山歩き A 1 ②」	A1	鴨田重裕	東京近郊の低山
全学体験ゼミナール「森に学ぶ 森林・林業を意識する低山歩き A 2 ①」	A2	鴨田重裕	東京近郊の低山
全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」	A	鎌田直人・楠本 大・竹本周平	千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ～北海道演習林」	A2	尾張敏章・田中延亮・鈴木智之	北海道で現地開催
全学体験ゼミナール「(森と人を紡ぎ直す感性と技術の方法論)」	A	藤原章雄・水内佑輔	秩父で現地開催
全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	A	山田利博・平尾聡秀・坂上大翼・久本洋子	秩父で現地開催
全学体験ゼミナール「森に学ぶ SDG s と林業を意識する低山歩き A」	A	鴨田重裕	東京, 山梨, 埼玉で現地開催
全学自由研究ゼミナール「ビーントゥバーチョ コレート作り体験から学ぶべきこと 20A 2」	A2	鴨田重裕	オンライン+弥生
全学自由研究ゼミナール「古典落語で知る江戸の自然・文化」	A	石橋整司・露木 聡	
全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス S」	S	鴨田重裕	駒場対面
全学自由研究ゼミナール「獣害問題とは何の問題か S」	S	鴨田重裕	駒場対面
全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス初級編」	A	鴨田重裕	駒場対面
全学自由研究ゼミナール「獣害問題とは何の問題か A」	A	鴨田重裕	駒場対面
全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス上級編」	A	鴨田重裕	駒場対面
全学自由研究ゼミナール「日本は林業を放棄してよいのか A」	A	鴨田重裕	駒場対面
学術フロンティア講義「デジタル空間社会における研究と社会実装最前線」	S	尾張敏章・ほか 23 名	オンライン
全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ自然の恵みを活かす技」	A	齋藤暖生・鴨田重裕・井上広喜	樹芸で現地開催

3) 他大学の非常勤講師（委嘱あり）

教員名	講義名	大学名	学部	学科等	学年
石橋整司	環境論	電気通信大学	電気通信学部	総合文化講座	1
鈴木智之	生物環境論	群馬大学	社会情報学部/情報学部		2～4
山田利博	風致造園学実習	日本大学	生物資源科学部	森林資源科学科	3
鎌田直人	森林病虫害論（虫害）	宇都宮大学	農学部	森林科学科	2・3
安村直樹	森林生態学・地盤工学	岡山県立大学	デザイン学部	デザイン工学科	1～4
浅野友子	山地流域における水流出プロセスを探る	名古屋大学	大学院生命農学研究科		大学院

4) その他の講義・実習対応

(学内で担当教員以外で対応した場合/他大学で委嘱のない場合の講義・実習)

科目名	大学名	学部等	学科等	学年	対応教職員	備考
バイオマス利用研究特論 II	東京大学	大学院農学生命科学研究科	修士課程共通科目	修士課程	坂上大翼	
生圏システム学特論	東京大学	大学院農学生命科学研究科	生圏システム学専攻	修士課程	鈴木祐紀	千葉で現地開催
科学技術インタープリター論 II	東京大学	大学院総合文化研究科	科学技術インタープリター養成プログラム	修士・博士課程	蔵治光一郎	オンライン
現代科学技術概論 1	東京大学	教養学部後期課程	科学技術インタープリター養成プログラム	3, 4	蔵治光一郎	オンライン
森林生態圏管理学	東京大学	農学部	応用生命科学課程・環境資源科学課程	3	小林徹行・安里咲空良・及川希・井上崇・高橋功一・千井野聡・平間睦樹・大島章生・大飼慎也	オンライン
森林科学総合実習	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修・フィールド科学専修	3	松井理生・中川雄治・小林徹行・安里咲空良・及川希・井上崇・高橋功一・岡平卓巳・千井野聡・遠國正樹・福土憲司・平間睦樹・大島章生・延栄一・福岡哲	北海道で現地開催
森林政策学演習	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3	辻 良子	
森林科学基礎実習 I	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3	栗田直明・相川美絵子・村川功雄・鶴見康幸・塚越剛史・藤平晃司・米道 学・軽込 勉・阿達康真・鈴木祐紀・岡田康則・鈴木 愛・伊藤大雪・吉野淳一	千葉・田無で現地開催
森林科学基礎実習 III	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3, 4	五十嵐勇治・田中亜季・原口竜成・千嶋武・大村和也・高野充広・齋藤俊浩・才木道雄・吉田弓子	
森林科学基礎実習 IV	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3, 4	浅野友子・水内佑輔・澤田晴雄・井上淳・梁瀬桐子・岸本光樹・丹羽悠二	生水で現地開催
バイオマス科学実習・森林科学実習	東京大学	農学部	生物素材化学専修・木質構造科学専修	3	坂上大翼・高德佳絵・田中亜季・五十嵐勇治・原口竜成・千嶋 武・齋藤俊浩	
森圏管理学実習	東京大学	農学部	フィールド科学専修	3	楠本大・當山啓介・軽込 勉・辻 良子・西山教雄	千葉・富士で現地開催

科 目 名	大学名	学部等	学科等	学年	対応教職員	備考
森林環境科学汎論	東京大学	農学部	農学基礎科目	2	鈴木智之・小林徹行・平間睦樹・大島章生・福士憲司・延栄一	オンライン
総合科目「森林環境資源学（森の成長）」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	塚越剛史・軽込勉・三次充和	千葉で現地開催
総合科目「森林環境資源学（森と水）」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	モインファラナク・澤田晴雄・井上淳・梁瀬桐子・岸本光樹・丹羽悠二	生水で現地開催
全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	大村和也・才木道雄	
全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	田中亜季	
全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	村川功雄	千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう，木材のこと〜」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	塚越剛史	千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	軽込 勉・阿達康真	千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	村川功雄	千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	塚越剛史・阿達康真・鈴木祐紀・岡田康則・鈴木 愛・伊藤大雪・吉野淳一	千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「森に学ぶ（ふらの）」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	松井理生・大島章生・佐藤晴樹	北海道で現地開催
全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ〜北海道演習林」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	松井理生・大川あゆ子・中川雄治・小林徹行・安里咲空良・木村徳志・及川希・井上 崇・磯崎靖雄・遠國正樹・高橋功一・岡平卓巳・千井野聡・福士憲司・平間睦樹・大島章生・延 栄一・福岡 哲・犬飼慎也	北海道で現地開催
全学体験ゼミナール「人の手で作り管理する森林」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	澤田晴雄・井上淳・梁瀬桐子・岸本光樹・丹羽悠二	生水で現地開催

科 目 名	大学名	学部等	学科等	学年	対応教職員	備考
全学体験ゼミナール「夏版・伊豆に学ぶ1」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	辻 和明・渡邊良広・木村恒太・江口由典	樹芸で現地開催
全学体験ゼミナール「夏版・伊豆に学ぶ2」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	辻 和明・渡邊良広・木村恒太・江口由典	樹芸で現地開催
全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ自然の恵みを活かす技」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	辻 和明・渡邊良広・木村恒太・江口由典	樹芸で現地開催
全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	相川美絵子・栗田直明・石浦恭子・川村啓	田無で現地開催
森林遺伝育種学	東京大学	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修・フィールド科学専修	3・4年	竹本周平	田無で現地開催
緑地環境実地実習	東京大学	農学部	緑地環境学専修	3年	相川美絵子・栗田直明	田無で現地開催
森林土壌学実験	東京大学	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	4年	辻 和明	樹芸で現地開催
森林実習	東京大学	農学部	国際開発農学専修	3年	辻和明・渡邊良広・木村恒太・江口由典	樹芸で現地開催
国際森林学特論	東京大学	大学院農学生命科学研究科	森林科学専攻・生態圏システム学専攻	修士課程	木村恒太	樹芸で現地開催
学術フロンティア講義「デジタル空間社会における研究と社会実装最前線」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2年	小林徹行・平間睦樹・井上崇・高橋功一・大島章生・遠國正樹	オンライン
森林科学基礎実習Ⅳ	東京大学	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3, 4年	辻 良子	
森林圏水循環機能学	東京大学	大学院農学生命科学研究科	森林科学専攻・生態圏システム学専攻	修士課程	モインファアラナク・澤田晴雄・丹羽悠二	生水で現地開催
流域生態工学	熊本大学	大学院自然科学教育部	土木建築学専攻	M1	蔵治光一郎	現地開催
Beneficial forest mushroom cultivation	ガジャマダ大学	林学部		全学年	竹本周平	オンライン
陸域景観学実習	東京大学	大学院新領域創成科学研究科	自然環境学専攻 自然環境景観学分野	大学院生	松井理生・大川あゆ子	北海道で現地開催
樹木医学演習	法政大学	生命科学科	応用植物科学科	2年	山田利博	

体験活動プログラム

プログラム名	団体名	活動場所	日 程	学生数	対応教職員
中国・海南島の自然保護区管理を知る	附属演習林	中国・海南島	7/31-8/7	8	石橋整司・竹本周平
演習林の教育研究を支援しよう！～日本最初の大学演習林で体験する森林作業～	千葉演習林	千葉演習林	8/22～25	1	鎌田直人・鈴木祐紀・鶴見康幸・塚越剛史・阿達康真
森の人になろうー森と暮らす仕事	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	8/24-25 12/16-17	2	福井 大・三浦直子・西山教雄・辻 良子
森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー	北海道演習林	北海道演習林	9/12-9/26, 2/26-3/1, 3/4-3/15	4	北海道演習林全教職員
森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える 90 年を全身で感じよう～	生態水文学研究所	生態水文学研究所	9/26-29	2	安村直樹・浅野友子・水内佑輔・澤田晴雄・梁瀬桐子・岸本光樹・丹羽悠二
いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう	田無演習林	田無演習林	9/19-20 9/28-29 2/27-3/1	8	石橋整司・竹本周平・前原 忠・栗田直明・相川美絵子

5) 4 研究室の所属メンバー

森林圏生態学研究室

教授	鎌田 直人
准教授	後藤 晋
講師	平尾 聡秀
講師	福井 大
助教	前原 忠
助教	久本 洋子
助教	鈴木 智之
博士 2 年	Aye Myat Myat Paing
博士 1 年	蔡 昕傑
修士 2 年	上野大輔
修士 2 年	安井理香
修士 1 年	兼 祐翔
修士 1 年	秋山 礼
修士 1 年	玉木麻香
修士 1 年	湯 天禹
修士 1/2 年	Gabriel Fiakporu
研究生/修士 1 年	徐 碩飛
学部 4 年	笹田勇麻
学部 4 年	内藤 英理香
研究生	高 亦凡

森林圏生態社会学研究室

教授	石橋 整司
准教授	安村 直樹
講師	齋藤 暖生
助教	藤原 章雄
助教	當山 啓介
博士 2 年	陳 田
博士 1 年	胡 睿喆
修士 2 年	尤 曉安
修士 2 年	倪 寬
修士 2 年	劉 衡
修士 2 年	張 珂
修士 2 年	蘆 美靈
修士 2 年	張 嘯宇
修士 1 年	易 子卉
修士 1 年	章 静怡
修士 1 年	弥 励成
学部 4 年	日高 将景
学部 4 年	坂本 堅藏
学部 4 年	横山 秀太
学部 4 年	渡辺 祐
学部 4 年	藤谷 直樹
特別聴講学生	陳 凌揚, 黄 鵬宇

森林生物機能学研究室

教授	山田 利博
准教授	鴨田 重裕
講師	楠本 大
助教	坂上 大翼
助教	井上 広喜
助教	竹本 周平
博士 1 年	戴 健平
修士 2 年	坂巻 実佳
研究生	呂 飛
特別研究学生	陳 志傑

森林流域管理学研究室

教授	藏治 光一郎
准教授	尾張 敏章
講師	浅野 友子
講師	田中 延亮
助教	三浦 直子
助教	水内 佑輔
特任助教	Moein FARAHNAK
博士 3 年	Huiqing PEI
博士 2/3 年	Nyo Me Htun
博士 2/3 年	Karthigesu Jeyavanan
博士 1 年	Ibtisam Binti Mohd Ghaus
博士 1 年	胡 楠
修士 2 年	卑 依璠
修士 1 年	張 遠哲

6) 所属学生の学位論文

博士論文

学生氏名	研究課題
Huiqing PEI	Combined application of machine learning with multi-modal geospatial data for forest type classification and carbon stock estimation (機械学習とマルチモーダル地理空間データの森林タイプ分類と炭素蓄積量推定への適用)

修士論文

学生氏名	研究課題
卑 依璠	気候変動と森林の回復が山地流域の水収支に及ぼす影響
倪 寛	「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の効果と問題点
張 珂	日中の齢級配置比較をもとにした中国の人工林管理の将来検討
尤 曉安	日本における里山型樹木葬の現状と森林管理～都市部を中心とした検討～
盧 美靈	東京都における街路樹管理の現状と問題点
劉 衡	文化的生態系サービス研究の意義および方法論の展開と課題
坂巻 実佳	広葉樹の乾燥方法の検討- <i>Eucalyptus saligna</i> を対象として-
張 嘯宇	日本における農泊推進の実態と課題
安井 理香	人間活動が食肉目動物の日周性と生息地選択に与える影響

卒業論文

学生氏名	研究課題
笹田 勇麻	トドマツ種苗の葉緑体と核 SSR マーカー分析に基づく採種園構成クローンの母親および父親としての評価
内藤 英理香	樹木実生動態の密度依存性がシカの採食圧からの植生回復に果たす役割
藤谷 直樹	サリグナ種ユーカリ造林による林業経営の可能性～樹芸研究所 10 年生林分の分析から～
坂本 堅蔵	森林環境教育における VR 教材の利用可能性の検討
横山 秀太	秩父演習林におけるクマ剥ぎ発生要因の考察

7) 森林生態圏管理学大講座ゼミ

第1回 (2023年4月21日(金) 13:00~16:10/森林圏生態社会学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
芳賀和樹	林政学研究室	歴史資料から森林と人間の関係を考える:経験知・地域知に着目して
當山啓介	千葉演習林	スギ再造林の植栽密度は300本/haだけでもいいのではないかな?
藤原章雄	FDRC	データ活用社会創成プラットフォーム mdx の紹介と簡単な使い方
石橋整司	田無演習林	田無演習林の林分構造
第2回 (2023年5月19日(金) 13:00~16:10/森林圏生態学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
兼 祐翔	生圏・M1	富士北麓に生息するコウモリのDNAメタバーコーディングによる食性分析
秋山 礼	生圏・M1	再導入されたミヤマシジミ個体群の多様な変動様式とその要因の検討
鈴木 智之	北海道演習林	60年前の風倒後の倒木搬出が現在のシカの分布に与える影響
鎌田直人	千葉演習林	ナラ枯れの媒介昆虫カシノナガキイムシの化学生態
久本洋子	秩父演習林	ハチクの一斉開花の現状と遺伝子発現解析
第3回 (2023年6月16日(金) 13:00~15:30/森林生物機能学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
楠本大	千葉演習林	ナラ菌接種に対する宿主抵抗性の季節変動
坂上大翼	秩父演習林	わが国で9年生ユーカリ人工林に発生した生立木腐朽被害
鴨田重裕	秩父演習林	千葉県北におけるエネルギーの森作りプロジェクトの現在地
第4回 (2023年7月21日(金) 13:00~16:10/森林流域管理学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
Pei Huiqing	D3・IPADS	Graph Neural Network and Convolutional Neural Network Combining for Multi-source Remote Sensing Forest Type Classification in Japan
尾張敏章	北海道演習林	東京大学北海道演習林における115年生カラマツ人工林の成長推移
Jeyavanan KARTHIGESU	D2・IPADS	Estimation of Forest Carbon Stocks Using a Combination of Field Measurement, LiDAR, and UAV Technology - Implications for REDD+ Monitoring
Nyo Me Htun	D2・IPADS	Classifying the composition of uneven-aged mixed conifer-broadleaf forests by using UAV imagery and machine learning algorithms

第 5 回 (2023 年 9 月 22 日 (金) 13 : 00～16:00/森林圏生態社会学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
齋藤 暖生	樹芸研究所	「樹芸」という用語について
陳 田	D2・生圏	PPP(Public-Private Partnership)の定義：政治・行政の観点と学術の観点
胡 睿喆	D1・生圏	ヨーロッパの都市林の歴史
易 子卉	M1・生圏	日本とヨーロッパの森林認証制度の普及状況とその影響要因
章 静怡	M1・生圏	木育マイスターの現状考察ー北海道木育マイスターリストに基づき
第 6 回 (2023 年 10 月 20 日 (金) 13 : 15～17 : 10/森林流域管理学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
久保田 耕平	森林動物学研究室	東アジアにおけるルリクワガタ属とその共生酵母の遺伝的分化および進化的関係
玉木 麻香	M1・生圏	奥秩父山地におけるシカの生息地利用と人間活動に対する行動反応
湯 天禹	M1・生圏	人間活動が中国蘇州のドーム山と光復地区の鳥類多様性に及ぼす影響
福井 大	富士癒しの森研究所	バイオロギングが明らかにするヤマコウモリの採餌生態
前原 忠	田無演習林	田無演習林におけるアカボシゴマダラの発生状況～その 2
第 7 回 (2023 年 11 月 17 日 (金) 13 : 00～17 : 10/森林流域管理学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
蔵治光一郎	企画部	森林の過少利用と過剰利用の流域の洪水
浅野友子	生態水文学研究所	はげ山への森林回復にともなう流域からの土砂流出の変化
Ibtisam Binti Mohd Ghaus	D1・生圏	針葉樹人工林の間伐が水流出特性に与える影響：収入間伐と切置き間伐の比較
田中延亮	北海道演習林	2021 年に東京大学北海道演習林の苗畑で発生した乾燥害について
第 8 回 (2023 年 12 月 8 日 (金) 9 : 00～16 : 00/修士論文発表)		
発表者	所属・学年	演題
尤 曉安	M2・生圏	日本における樹木葬のための森林管理
倪 寛	M2・生圏	公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律
張 珂	M2・生圏	日中の年齢配置比較をもとにした中国の人工林経営管
盧 美靈	M2・生圏	東京都における街路樹整備の取り組み
安井 理香	M2・森林	人間活動の違いが森林に生息する食肉目動物の日周性と生息地選択に与える影響
上野 大輔	M2・森林	房総半島に生息するキョンとニホンジカのニッチ分化
張 嘯宇	M2・森林	日本における農泊推進の取組実態と課題

第9回 (2023年12月22日(金) 13:00~17:00/卒論・修士論文発表)		
発表者	所属・学年	演題
笹田 勇麻	4年生・森林	トドマツ種苗の葉緑体と核 SSR マーカー分析に基づく採種園構成クローンの母親および父親としての評価
内藤 英理香	4年生・森林	シカの排除が樹木実生動態に及ぼす影響：密度依存性と多様性に着目して
藤谷 直樹	4年生・森林	サリグナ種ユーカリ造林による林業経営の可能性 ～樹芸研究所 10 年生林分の分析から～
坂本 堅蔵	4年生・国際開発農学	森林環境教育における VR ゲーム教材の利用可能性
横山 秀太	4年生・国際開発農学	秩父演習林におけるクマ剥ぎ発生要因の考察
卑 依瑠	M2・生圏	気候変動と森林の回復が山地流域の水収支に及ぼす影響
第10回 (2024年1月20日(金) 13:00~15:30/森林生物機能学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
戴 健平	森林・D1	傷害を受けた木部の腐朽初期における菌類相の遷移に関する研究
山田利博	秩父演習林・教授	福島原発事故に起因する野生きのこの放射能汚染の安定同位体を含めた解析
井上広喜	樹芸研究所・助教	<i>Eucalyptus elata</i> のクローン植林地造成に向けた取り組み
竹本周平	千葉演習林・助教	田無演習林のナラ枯れの特徴、とくにコナラとシラカシの比較について
第11回 (2024年2月16日(金) 13:00~16:30/森林圏生態学研究室・森林流域管理学研究室：パレルセッション/森林圏生態学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
Aye Myat Myat Paing	M2・生圏	Effects of Elevated Temperature on Survival and Growth of <i>Betula ermanii</i> revealed by Range-wide Provenance Trials (広域産地試験に基づく気温上昇がダケカンバの生存と成長に及ぼす影響)
蔡 昕傑	D1・生圏	Mitogenome structure in <i>Abies sachalinensis</i> (トドマツのミトコンドリアゲノム構造)
Gabriel Fiakporu	M2・IPADS	Relative importance of environmental and genetic factors on the body size and the number of mycangium pits in <i>Platypus quercivorus</i> : Influence of parent size
徐 碩飛	M1・生圏	研究計画：カシノナガキクイムシの忌避剤としてのヒノキチップの有効範囲と有効期間
平尾 聡秀	FDRC/秩父演習林	リター分解のホームフィールドアドバンテージ効果の持続期間
後藤 晋	教育・社会連携センター	田無のスギ・クローン林を DNA 鑑定して分かったこと

第11回 (2024年2月16日(金) 13:00~16:30/森林圏生態学研究室・森林流域管理学研究室：パ ラレルセッション/森林流域管理学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
Moein FARAHNAK	生態水文学研究 所	Impact of conversion from forest to photovoltaic power farm on river water quality (森林から太陽光発電所への転換が河川水質に及ぼす影響の研 究)
張 遠哲	M2・生圏	Forecasting Hokkaido Forest Runoff: A Comparative Analysis of Time Series and Machine Learning Models
三浦直子	富士癒しの森研 究所	時系列 UAV データを用いた半自然草地における草本類の光環境の評価
水内佑輔	生態水文学研究 所	森林レンタル事業の利用者が好む森林風景
第12回 (2024年3月15日(金) 13:00~16:00/技術職員発表)		
発表者	所属・学年	演題
米道 学	千葉演習林	千葉演習林の平成期(1989-2009)における立木販売の推移
齋藤俊浩	秩父演習林	秩父演習林における広葉樹中小径材の有効利用
及川 希	北海道演習林	iPhone LiDAR スキャナを用いたクマゲラ営巣環境の定量化の試み
井上 崇	北海道演習林	一般流通以外の北海道演習林産木材利用
江口由典	樹芸研究所	樹芸研究所における温室植物管理のための電子野帳を用いた植物リス トの作成

8) 演習林 教育・社会連携センターゼミ

月	日	内容	発表者
4	7	ガイダンス・新入進学生自己紹介・環境安全 MS	全員
	14	自己紹介	全員
5	2	研究進捗報告	Gabriel Fiakporu・張 可・上野 大輔
	12	研究進捗報告	Aye Myat Myat PAING・倪 寛
	26	研究進捗報告	尤 曉安・劉 衡
6	9	研究進捗報告	盧 美靈・張 嘯宇・笹田 勇麻・卑 依璠
	23	研究進捗報告	陳 田・内藤 英理香
	30	研究進捗報告	玉木 麻香・藤谷 直樹・湯 天禹
7	7	研究進捗報告	兼 祐翔・秋山 礼
	14	研究進捗報告	Ibtisam Binti Mohd Ghaus・横山 秀太
	28	研究進捗報告	易 子卉・章 静怡・胡 睿喆・張 遠哲
	29	研究進捗報告	戴 健平・弥 昉成・坂本 堅藏・日高 将景
9	1	ガイダンス・新入進学生自己紹介	全員
	8	研究進捗報告	湯 天禹
	15	研究進捗報告	上野大輔・倪 寛・安井理香・内藤 英理香
	29	研究進捗報告	張 珂・兼 祐翔・秋山 礼・横山 秀太
10	6	研究進捗報告	劉 衡・卑 依璠
	13	研究進捗報告	尤 曉安・笹田勇麻
	27	研究進捗報告	章 静怡・張 嘯宇
11	10	研究進捗報告	陳 田・胡 睿喆・藤谷直樹
	24	研究進捗報告	張 遠哲・玉木麻香・盧 美靈
12	1	研究進捗報告	戴 健平・Ibtisam Binti Mohd Ghaus・蔡 昕傑・易 子卉
	15	研究進捗報告	Aye Myat Myat Paing・Gabriel Fiakporu・徐 碩飛・陳志傑

9) 実習等（各演で引き受けた全ての実習）

演習林名	学 校 名	科 目 名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数	備 考
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「危険生物の知識（春 編）」	教養学部		1・2 年	15	5 月	1	
千葉演習林	東京大学	総合科目「森林環境資 源学」	教養学部		1・2 年	11	5 月	2	
千葉演習林	東京大学	森林科学基礎実習 I	農学部	森林生物科学専 修・森林環境資 源科学専修	3 年	20	6 月	6	
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「徹底検証・スギ&ヒ ノキ〜もっと知ろう、 木材のこと〜」	教養学部		1・2 年	12	6 月	1	
千葉演習林	海南大学	サマープログラム 2023			1・2・ 3 年・ 院生	10	7 月	4	
千葉演習林	東京大学	地球環境学科野外調査 実習 I	理学部	地球環境学科	大学院 生 3 年	17	8 月	6	
千葉演習林	京都大学	課題演習 E2（地質調査 法実習）	理学部	地質学鉱物学教 室	学部生	8	8 月	6	
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「房総の常緑樹林で森 林動態を学ぶ」	教養学部		1・2 年	14	9 月	3	
千葉演習林	東京大学	森園管理学実習	農学部	フィールド科学 専修	3 年	7	9 月	2	
千葉演習林	筑波大学	森林管理学実習	生命環境 系		3・4 年・院 生	8	9 月	3	
千葉演習林	茨城大学	生物野外実習	理学部		3 年	21	9 月	4	
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「危険生物の知識（秋 編）」	教養学部		1・2 年	18	10 月	1	
千葉演習林	千葉大学	地質学野外実験Ⅱ	理学部	地球科学科	3 年	8	10 月	2	
千葉演習林	東京大学	生圏システム学特論	農学生命 科学研究 科	生圏システム学 専攻	大学院 生	9	10 月	1	
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「房総の森と生業（な りわい）を学ぶ」	教養学部		1・2 年	18	2 月	4	1 名感 染症の ため自 宅学習 で代替 （外数）
北海道演習林	東京大学	学術フロンティア講義 「デジタル空間社会に おける研究と社会実装 最前線」	教養学部		1・2 年	12	5 月	1	オンラ イン
北海道演習林	東京大学	森林生態圏管理学「空 間情報技術を用いた森 林情報の管理」	農学部	森林生物科学専 修・森林環境資 源科学専修・フ ィールド科学専 修	3 年	30	6 月	1	オンラ イン
北海道演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「森に学ぶ（ふらの）」	教養学部		1・2 年	8	8 月	5	宿泊

演習林名	学 校 名	科 目 名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数	備考
北海道演習林	東京大学	森林科学総合実習	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修・フィールド科学専修	3 年	17	9 月	4	宿泊
北海道演習林	東京大学	陸域景観学実習Ⅰ・Ⅱ	大学院新領域創成科学研究科	自然環境学専攻 自然環境景観学分野	大学院生	7	9 月	5	宿泊
北海道演習林	東京大学	森林環境科学汎論	農学部		2 年	54	10 月	1	オンライン
北海道演習林	東京大学	全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ」	教養学部		1・2 年	26	2 月	3	宿泊
秩父演習林	東京大学	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」	教養学部		1・2 年	6	5-6 月	3	宿泊（1泊）1回，日帰り1回
秩父演習林	東京大学	バイオマス利用研究特論Ⅱ	農学生命科学研究科	修士課程共通科目	修士課程	10	6 月	1	日帰り
秩父演習林	東京大学	森林科学基礎実習Ⅲ	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3 年	19	7-8 月	2	宿泊，森林植物
秩父演習林	東京大学	森林科学基礎実習Ⅲ	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3 年	22	8 月	3	宿泊，森林動物
秩父演習林	東京大学	バイオマス科学実習・森林科学実習	農学部	生物素材化学専修・木質構造科学専修	3 年	20	9 月	1	外部泊
秩父演習林	東京大学	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	教養学部		1・2 年	5	10 月	4	宿泊（1泊×2回）
秩父演習林	東京大学	全学体験ゼミナール「森と人を紡ぎ直す感性と技術の方法論」	教養学部		1・2 年	4	11 月	1	日帰り
田無演習林	東京大学	森林科学基礎実習Ⅰ	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3 年	19	4, 5 月	3	
田無演習林	東京大学	全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」	教養学部		1・2 年	8	4-6 月	3	
田無演習林	東京大学	森林遺伝育種学	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修・フィールド科学専修	3・4 年	15	7 月	1	
田無演習林	東京大学	森林生態圏管理学特論	農学生命科学研究科	森林科学専攻	修士	15	6 月	1	
田無演習林	海南大学	海南大学サマープログラム	林学院		1・2 年	10	7 月	1	
田無演習林	東京大学	森林科学基礎実習Ⅲ	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3 年	22	9 月	1	
田無演習林	東京大学	森林科学基礎実習Ⅲ〔補講〕	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3 年	1	9 月	1	

演習林名	学校名	科 目 名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数	備考
田無演習林	東京大学	森林土壌学実験	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	4 年	13	12 月	1	
田無演習林	東京大学	緑地環境実地実習	農学部	緑地環境学専修	3 年	10	1 月	1	
生態水文学研究所	東京大学	総合科目「森林環境資源学（森と水）」	教養学部		1・2 年	3	6 月	2	宿泊
生態水文学研究所	東京大学	森林科学基礎実習Ⅳ	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3 年	13	8 月	5	宿泊
生態水文学研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「人の手で作り管理する森林」	教養学部	文科, 理科	1・2 年	6	11 月	2	宿泊
生態水文学研究所	東京大学	森林圏水循環機能学	農学生命科学研究科	森林科学専攻・生圏システム学専攻	大学院生	7	12 月	2	宿泊
富士癒しの森研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」	教養学部		1・2 年	17	5 月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	総合科目「森林資源学」フィールドワーク「森と癒し」	教養学部		1・2 年	15	6 月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	森圏管理学実習	農学部	フィールド科学専修	3・4 年	9	8 月	3	
富士癒しの森研究所	海南大学	海南大学サマープログラム	林学院		1・2 年 大学院生	13	7 月	4	
富士癒しの森研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「東大の別荘「癒しの森」で心も体もリフレッシュ」	教養学部		1・2 年	34	9 月	3	
富士癒しの森研究所	東京大学	森林科学基礎実習Ⅳ	農学部	森林系 2 専修	3, 4 年	19	8, 9 月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」	教養学部		1・2 年	18	10 月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	森林風景計画実習	農学部	森林系 2 専修	3・4 年	7	10 月	4	
富士癒しの森研究所	東京大学	森林政策学演習	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3 年	10	11 月	2	
富士癒しの森研究所	茨城大学	特別野外実習	理学部	地球環境科学コース		7	11 月	5	
富士癒しの森研究所	東京大学	フィールド科学専修	農学部	フィールド科学専修	3・4 年	15	8 月	3	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「夏版・伊豆に学ぶ 1」	教養学部		1・2 年	8	8 月	5	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「夏版・伊豆に学ぶ 2」	教養学部		1・2 年	8	9 月	5	
樹芸研究所	東京大学	森林実習	農学部	国際開発農学専修	3 年	18	8 月	4	

演習林名	学校名	科 目 名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数	備考
樹芸研究所	東京大学	国際森林学特論	農学生命 科学研究 科	森林科学専 攻・生圏シス テム学専攻	修士	8	12 月	2	
樹芸研究所	東京大学	森林土壌学実験	農学部	森林生物科学 専修・森林環 境資源科学専 修	4 年	12	1 月	2	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール 「伊豆に学ぶ自然の恵 みを活かす技」	教養学部		1・2 年	18	2・3 月	4	
樹芸研究所	東京大学	続伊豆に学ぶ イノシ シソーセージは何を語 る？	教養学部		1・2 年	6	2 月	4	
樹芸研究所	東京大学	続伊豆に学ぶ 林業体 験から見えるコト	教養学部		1・2 年	7	3 月	4	

2. 研究

1) 教職員の論文等

発表者全氏名	題目	誌名	巻—号	頁	発行年
Nakamura KW, Miyajima K, Fujiwara A, Saito K	Development of a web application for flowering phenology observation and its applicability to climate-related learning in elementary schools	Cogent Education	10(2)	DOI:10.1080/2331186x.2023.2277045	2023
Htun NM, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Integration of unmanned aerial vehicle imagery and machine learning technology to map the distribution of conifer and broadleaf canopy cover in uneven-aged mixed forests	Drones	7(12)	705	2023
Iwakiri A, Ota H, Matsushita N, Haraguchi R, Yamada T, Fukuda K	Multilocus phylogenetic analysis revealed a new cryptic lineage of <i>Serpula himantoides</i> in Japan	Forest Pathology	53(2)	e12805	2023
Aihara T, Araki K, Onuma Y, Cai Y, Paing AMM, Goto S, Hisamoto Y, Tomaru N, Homma K, Takagi M, Yoshida T, Iio A, Nagamatsu D, Kobayashi H, Hirota M, Uchiyama K, Tsumura Y	Divergent mechanisms of reduced growth performance in <i>Betula ermanii</i> saplings from high-altitude and low-latitude range edges	Heredity	131	387-397	2023
Asano Y, Kawasaki M, Takatoku K, Uchida T, Hiroki S	Lateral flow in bedrock dominates baseflow and flood flow in a catchment underlain with permeable sedimentary rock in the high-relief Chichibu Mountains	Hydrological Processes	37(11)	e15011	2023
Miura N, Niwa Y, Yamada S	Assessment of light environment for herbaceous vegetation in semi-natural grassland using time-series UAV data	ISPRS Annals of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences	X-1/W1-2023	1081-1088	2023
Tatsuhara S, Toyama K, Suzuki M	Effectiveness of the Canopy Closure Curve to Inform Management of Two-Storied Stands	Journal of Forest Planning	29	1-9	2023
Bakar A, Bidin K, Rusli H, Kamlun KU, Kuraji K, Mahali M, Nainar A	Soil erosion risk in relation to rainfall erosivity in Gunung Alab and Inobong of Crocker Range Park in Sabah, Malaysia	Journal of Sustainability Science and Management	18(10)	220-228	2023
Hotta W, Haga C, Morimoto J, Suzuki SN, Matsui T, Owari T, Shibata H, Nakamura F	Leaving disturbance legacies conserves boreal conifers and maximizes net CO ₂ absorption under climate change and more frequent and larger windthrow regimes	Landscape Ecology	38	1785-1805	2023
So MR, Yokota S, Miura N	Data Fusion of Drone and Satellite Imagery for Alien Species Classification on Riverdike	Proceedings of 2023 Asian Conference on Remote Sensing		ACRS2023042	2023
Pei H, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Identifying spatial variation of carbon stock in a warm temperate forest in central Japan using Sentinel-2 and digital elevation model data	Remote Sensing	15(8)	1997	2023
Niga Y, Fujioka E, Heim O, Nomi A, Fukui D, Hiryu S	A glimpse into the foraging and movement behavior of <i>Nyctalus aviator</i> ; a complementary study by acoustic recording and GPS tracking	Royal Society Open Science	10	230035	2023

発表者全氏名	題目	誌名	巻—号	頁	発行年
Karthigesu J, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	UAV photogrammetry for estimating stand parameters of an old Japanese larch plantation using different filtering methods at two flight altitudes	Sensors	23(24)	9907	2023
Farahnak M, Tanaka N, Sato T, Nainar A, Gomyo M, Kuraji K, Suzaki T, Suzuki H, Nakane Y	Enhancing Overland Flow Infiltration through Sustainable Well-Managed Thinning: Contour-Aligned Felled Log Placement in a <i>Chamaecyparis obtusa</i> Plantation	Sustainability	15(19)	e14124	2023
Htun NM, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Mapping the Distribution of High-Value Broadleaf Tree Crowns through Unmanned Aerial Vehicle Image Analysis Using Deep Learning	Algorithms	17(2)	84	2024
Volf M, Fontanilla AM, Vanhakylä S, Abe T, Libra M, Kogo R, Lilip R, Kamata N, Murakami M, Novotny V, Salminen JP, Segar ST	High intraspecific variability and previous experience affect polyphenol metabolism in polyphagous <i>Lymantria mathura</i> caterpillars	Ecology and Evolution	14(2)	e10973	2024
Imamura N, Ohte N, Tanaka N	Factors influencing the difference in dissolved ion inputs to the forest floor between deciduous and coniferous stands: Comparison under high and low atmospheric deposition conditions	Environmental Monitoring and Assessment	196	10.1007/s10661-023-12132-6	2024
Nojiri T, Takechi M, Furutera T, Brualla NLM, Iseki M, Fukui D, Tu VT, Meguro F, Koyabu D	Development of the hyolaryngeal architecture in horseshoe bats: Insights into the evolution of the pulse generation for laryngeal echolocation	EvoDevo	15	https://doi.org/10.1186/s13277-024-00221-7	2024
Aihara T, Araki K, Sarmah R, Cai Y, Paing AMM, Goto S, Hisamoto Y, Taneda H, Tomaru N, Homma K, Takagi M, Yoshida T, Iio A, Nagamatsu D, Kobayashi H, Hirota M, Tsumura Y	Climate-related variation in leaf size and phenology of <i>Betula ermanii</i> in multiple common gardens	Journal of Forest Research	29(1)	62-71	2024
Mizuuchi Y, Son YH	What on-site landscape experiences attract potential visitors to a site? A Japan–Korea cross-cultural comparison	Journal of Forest Research	29(2)	73-80	2024
Carolina A, Sari RK, Nawawi DS, Bahtiar ET, Kusumoto D	Mechanical-chemical induction of balsam from Liquidambar excelsa trees	Silva Fennica	58(2)	23050	2024
Brualla NLM, Wilson LAB, Tu VT, Nojiri T, Carter RT, Ngamprasertwong T, Wannaprasert T, Doube M, Fukui D, Koyabu D	Comparative anatomy of the vocal apparatus in bats and implication for the diversity of laryngeal echolocation	Zoological Journal of the Linnean Society	zlad180	https://doi.org/10.1093/zoolinnean/zlad180	2024
岸本光樹	生態水文学研究所赤津研究林白坂小流域固定試験地において衝突板トラップに捕獲されたコガネムシ上科食糞群	演習林（東大）	68	1-5	2023
三俣学・齋藤暖生	英国イングランドにおける自然アクセス制の実態—Cleeve Hill Common と Epping Forest におけるアンケート調査を中心に—	経済学論叢	75(1)	71-99	2023
蔵治光一郎	森林と治水	月刊「技術士」	9月号	3	2023
蔵治光一郎・福永真弓	意味ある〈水〉を取り戻すために——水の科学と作法のゆくえ	現代思想	11月号	8-22	2023

発表者全氏名	題目	誌名	巻—号	頁	発行年
浅野友子	山地での水の動きを知る 林業動静年報 教育・研究編	山林	1674	50-56	2023
原口竜成・平尾聡秀・山田利博	針葉樹根株心腐菌ナミダタケモドキの子実体の生立木上での発生状況とその特徴	樹木医学研究	27(2)	115-116	2023
山下香菜・小林明・徳江泉・河原典生・梶野 健・石澤伸彰・山田利博	町田市におけるサクラ類街路樹の検査結果の検証—腐朽材の硬さ及び圧縮強度	樹木医学研究	27(4)	200-201	2023
河原典生・高田恵一・徳江 泉・山下香菜・清水隆行・小林明・梶野健・石澤伸彰・山田利博	町田市におけるサクラ類街路樹の検査結果の検証—樹木診断機器 RESI の波形データと材の腐朽状態との関係	樹木医学研究	27(4)	202-203	2023
徳江 泉・山下香菜・河原典生・清水隆行・小林明・梶野 健・石澤伸彰・山田利博	町田市におけるサクラ類街路樹の診断結果の検証—ドクターウッズ画像におけるパラメーターの操作—	樹木医学研究	27(4)	204-205	2023
田中延亮・小川 瞳・福岡 哲・後藤 晋	2021 年に東京大学北海道演習林の苗畑で発生した乾燥害について	森林遺伝育種	12(3)	108-110	2023
當山啓介	学会および教科書の整理を通じた森林計画学を含む各分野の計画学の確認と計画学的共通点の探索	森林計画学会誌	56(2)	39-52	2023
楠本大・久本洋子・村川功雄・澤田晴雄	千葉県鴨川市のマテバシイ林と愛知県瀬戸市のコナラ林におけるナラ枯れ被害の年次推移	日本森林学会誌	105(4)	103-109	2023
平岡裕一郎・西村尚之・小山泰弘・岡田充弘・柳澤賢一・鈴木智之・新其楽図	北八ヶ岳における亜高山帯針葉樹林に及ぼすニホンジカの影響—20 年間の観測に基づく森林動態—	日本森林学会誌	105(4)	216-224	2023
浅野友子・大住克博・内田太郎・齋藤暖生・堀田紀文・南光一樹	日本森林学会 133 回日本森林学会大会企画シンポジウム「山地森林環境の長期的な変化と、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼす影響をふまえた災害予測の可能性」開催報告	日本森林学会誌	105(9)	306-309	2023
橋爪謙治・山下民岐子・山田利博・鈴木 寛	耐風速に着目した倒木リスク定量評価手法の開発	第 35 回日本道路会議 発表論文			2023
蔵治光一郎	球磨川森林計画区の森林の皆伐の現状	不知火海・球磨川流域圏学会誌	17	3-8	2023
斉藤明子・尾崎煙雄・鈴木勝・村川功雄	「東京大学千葉演習林の昆虫相」の追加と訂正 その 7	房総の昆虫	73	15-18	2023
蔵治光一郎	大雨による路網損壊未然防止のための「林業技士」の心得	林業技士会 ニュース	165	1-7	2023
尾張敏章	"Close-to-nature silviculture for global change adaptation and mitigation (地球規模変動への適応と緩和のための近自然型森林施業) "	IUFRO-J NEWS	135	4-5	2024
Paing AMM, Chen S, Araki K, Aihara T, Sarmah R, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Kadomatsu M, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Osumi K, Nagamitsu D, Takagi M, Taneda H, Kimura N, Fukuoka S, Hisamoto Y, Goto S	Site characteristics of <i>Betula ermanii</i> range-wide provenance trials [revised version]	演習林 (東大)	69	11-22	2024

発表者全氏名	題目	誌名	巻一 号	頁	発行年
岸本光樹・松井理生・高橋功一・澤田晴雄・井上淳・高德佳絵・黒木里香・浅野友子	生態水文学研究所赤津研究林白坂南北谷小流域日流出量観測報告（Ⅱ）（自 2008 年 1 月至 2015 年 12 月）	演習林（東大）	69	23-29	2024
大村和也・高德佳絵・原口竜成・才木道雄・高野充広・吉田弓子	秩父演習林における針葉樹人工林試験地成長資料（2019～2022 年）	演習林（東大）	69	31-36	2024
岸本光樹・澤田晴雄・井上淳・高德佳絵・梁瀬桐子	生態水文学研究所ヒノキ人工林各種試験地の成長資料	演習林（東大）	69	37-57	2024
里見重成・藤平晃司・當山啓介	東京大学千葉演習林のスギ高齢人工林長伐期施業試験地の成長資料	演習林（東大）	69	61-69	2024
吉田弓子・高野充広・大村和也	秩父演習林における二次林試験地成長資料（2022）	演習林（東大）	69	71-78	2024
東京大学演習林長期生態系データ生物部門昆虫分野	ピットフォールトラップにより東京大学演習林で捕獲されたオサムシ科甲虫相の目録（2008 年～2012 年）	演習林（東大）	69	79-97	2024
東京大学演習林	東京大学演習林水文観測・水質分析報告（2021 年 1 月～2021 年 12 月）	演習林（東大）	69	99-108	2024
東京大学演習林	東京大学演習林気象報告（2022 年 1 月～2022 年 12 月）	演習林（東大）	69	109-131	2024
蔵治光一郎	森林の保水力と人との関わり	グリーン・エージ	590	36-40	2024
齋藤暖生	森林の恵みと私たちの暮らし	月刊地理	572	10-13	2024
高村 聡・高田恵一・永石憲道・石井匡志・有賀一郎・山下得男・野上一志・飯塚康雄・山田利博	樹木腐朽診断機器によるデータと腐朽程度 の関係(1)～腐朽空洞率と断面性状の比較～	樹木医学研究	28(1)	22-23	2024
高田恵一・永石憲道・高村聡・石井匡志・有賀一郎・山下得男・野上一志・飯塚康雄・山田利博	樹木腐朽診断機器によるデータと腐朽程度 の関係(2)～部位ごとの機器データと材質密度の比較～	樹木医学研究	28(1)	24-25	2024
永石憲道・高村 聡・高田恵一・石井匡志・有賀一郎・山下得男・野上一志・飯塚康雄・山田利博	樹木腐朽診断機器によるデータと腐朽程度 の関係(3)～機器データと材質密度の相関～	樹木医学研究	28(1)	26-27	2024
尾崎煙雄・西内李佳・村川功雄・齊藤明子・樽 宗一郎	千葉県で 60 年ぶりに採集された天然生ヒノキバヤドリギ（ビャクダン科）	千葉中央博 研究報告	17(1)	41-44	2024
鈴木智之・福岡 哲・木村徳志・松井理生	東京大学北海道演習林のミズナラ産地別試験地	北海道の林 木育種	66(2)	8-16	2024
安原有紗・水内佑輔	Google Map レビューからみる国立公園の利用者評価	ランドスケープ研究	87(5)	465-470	2024

2) 学会発表等

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
So MR, Yokota S, Miura N	Data Fusion of Drone and Satellite Imagery for Alien Species Classification on Riverdike	2023 Asian Conference on Remote Sensing	2023
Ishibashi S, Maehara T	Analysis of bear-stripping behaviour using video images taken by automatic camera	XIII EVPMC 2023 (European Vertebrate Pest Management Conference)	2023
Haga C, Mitsui K, Hori K, Matsui T, Fukui D	Visualizing conflicts between terrestrial biodiversity conservation and renewable energy potential in Japan	International Association for Landscape Ecology World Congress, Nairobi, Kenya	2023
Miura N, Niwa Y, Yamada S	Assessment of light environment for herbaceous vegetation in semi-natural grassland using time-series UAV data	ISPRS GEOSPATIAL WEEK 2023	2023
Owari T	Digital transformation of uneven-aged forest management and planning	IUFRO 1.05 & 1.09 Conference “Uneven-aged silviculture: insights into forest adaptation in times of global change”	2023
Toyama K	Relationship between systems of public forest plan and carbon offset in Japanese private forest	IUFRO 3.08.00 Small-scale Forestry Conference 2023 Small-scale Forestry and Modern Society	2023
Mizuuchi Y, Nakamura KW	International comparison on the visual landscape evaluation of the Meiji-Jingu shrine	Japan Geoscience Union Meeting 2023	2023
Shimpo N, Sakamoto Y, Otsuka K, Mizuuchi Y	Towards rural forest sustainability: An exploratory study on how forests are managed through the forest rental business	Japan Geoscience Union Meeting 2023	2023
Owari T	Green and digital transformation of forest management and planning	NTU-UTokyo Joint Conference 2023	2023
Aihara T, Araki K, Onuma Y, Paing AMM, Goto S, Hisamoto Y, Tomaru N, Homma K, Takagi M, Yoshida T, Iio A, Nagamatsu D, Kobayashi H, Uchiyama K, Tsumura Y	Distinct features of growth performance decline and genetic factor in <i>Betula ermanii</i> saplings from high-altitude and low-latitude range edges	The 10th East Asian Federation of Ecological Societies (EAFES) International Congress	2023
Fujiwara A, Saito H, Nakamura KW	Classical concert in the forest with the community	International Research Meeting of Forest Culture Science in East Asia (FOCUSEA)	2024
You X, Ishibashi S, Yasumura N, Saito H	Current status of Satoyama-type tree burial in Japan and forest management -A study focused on urban areas-	International Research Meeting of Forest Culture Science in East Asia (FOCUSEA)	2024
米道 学・軽込 勉・塚越剛史・鈴木祐紀・村川功雄	千葉演習林の平成期（1989-2009 年度）における立木販売の推移	2023（令和5）年度 技術職員等試験研究・研修会議報告	2023
齋藤俊浩	秩父演習林における広葉樹中小径材の有効利用	2023（令和5）年度 技術職員等試験研究・研修会議報告	2023
澤田晴雄・井上 淳	生態水文学研究所における木材等収入の歴史と近年の生産木材の自家利用状況	2023（令和5）年度 技術職員等試験研究・研修会議報告	2023
井上 崇・犬飼 浩・片平可奈	一般流通以外の北海道演習林産木材利用	2023（令和5）年度 技術職員等試験研究・研修会議報告	2023
西山教雄・辻 良子	富士癒しの森研究所産の木材利用	2023（令和5）年度 技術職員等試験研究・研修会議報告	2023

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
木村恒太・辻和明・渡邊良広・江口由典	樹芸研究所におけるユーカリ材の利用	2023（令和5）年度 技術職員等試験研究・研修会議報告	2023
相川美絵子・栗田直明	田無演習林における木材の利用と課題	2023（令和5）年度 技術職員等試験研究・研修会議報告	2023
及川 希・松井理生・木村徳志	簡易 LiDAR スキャナによるクマゲラ営巣環境の定量化の試み	2023（令和5）年度 技術職員等試験研究・研修会議報告	2023
江口由典・辻 和明・渡邊良広・木村恒太	樹芸研究所における温室植物管理のための電子野帳を用いた植物リストの作成	2023（令和5）年度 技術職員等試験研究・研修会議報告	2023
加藤めぐみ・手嶋優風・福井 大・飛龍志津子・土屋隆生	音響シミュレーションを用いた FM コウモリの聴覚指向性の種間比較	2023 年 8 月度聴覚研究会	2023
當山啓介	千葉県における木質バイオマス利用～早生樹を含めた、未利用森林資源の活用可能性～	2023 年度第 1 回木質バイオマス研究会	2023
楠本 大・鎌田直人	ナラ類におけるナラ菌に対する感受性と傷に対する樹液流出の季節変動	樹木医学会第 28 回大会	2023
黄 文倩・梅林利弘・楠本 大・矢崎健一・山岸松平・種子田春彦・渡辺敦史・清水文一・福田健二	明条件と暗黒条件でのマツ材線虫病の通水阻害の進展	樹木医学会第 28 回大会	2023
Wang X, Gomi T, Kotani A, Tanaka T, Chiu CW, Mizuuchi Y	Developing canopy structure model for simulating radiation exposure and evaluating transpiration of Japanese cypress forest	水文・水資源学会／日本水文学会 2023 年度研究発表会	2023
大内憲人・蔵治光一郎・一柳英隆・高田浩志・中村友行・島谷幸宏・皆川朋子	簡易的な計測方法を用いた樹幹流の時間変化に関する研究	水文・水資源学会／日本水文学会 2023 年度研究発表会	2023
卑 依瑠・浅野友子	生態水文学研究所白坂流域における 93 年間の水文要素の変化	水文・水資源学会／日本水文学会 2023 年度研究発表会	2023
浅野友子	付加体堆積岩からなる大起伏な山地流域の降雨-流出特性	水文・水資源学会／日本水文学会 2023 年度研究発表会	2023
青木翔太・五味高志・小谷亜由美・水内佑輔	源流部湧水湿地における炭素蓄積量と温室効果ガスの収支量評価：湿地とその集水域の水文プロセスの関係	第 13 回中部森林学会大会	2023
岸本光樹・田中延亮・吉沢和治・福角朗	広葉樹二次林を皆伐し設置したソーラーパネルが表面流量に及ぼす影響	第 13 回中部森林学会大会	2023
澤田晴雄	白坂小流域固定試験地における小径木の 23 年間の変化	第 13 回中部森林学会大会	2023
澤田晴雄	白坂小流域固定試験地における優占樹種と林分構造の変化	第 13 回中部森林学会大会	2023
青山周平・佐藤貴紀・松本嘉孝・江端一徳・寛 優祐	着葉期及び落葉期のコナラにおける樹幹流下量と樹木形状の関係解析	第 13 回中部森林学会大会	2023
玉木麻香・谷川鴻介・角田裕志・梅木 清・平尾聡秀	人間活動がシカの行動特性と生息地利用、日周性に及ぼす影響：流域スケールでの検証	第 28 回「野生生物と社会」学会大会	2023

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
安井理香・平尾聡秀	人間活動の時空間的変動と環境要因が奥山に生息する食肉目動物の日周性と生息地選択に与える影響：同所的に生息する6種の種間差に着目して	第28回「野生生物と社会」学会大会	2023
Okumura Y, Saito Y, Kurokochi H, Kamoda S	Efficient extraction and characterization of cellulose nanofibers from cacao pod husk	第33回日本MRS年次大会	2023
尾張敏章	森林DXから森林GXへ：北海道演習林の挑戦	第65回東京大学農学部公開セミナー	2023
小林 剛・武 颯一・藤田涼太・篠原拓一朗・水野理央・鈴木重雄・福島慶太郎・小林慧人・和田譲二・久本洋子	世界遺産・石見銀山（島根県大田市）におけるハチク開花林の様相	竹林景観ネットワーク第31回研究集会	2023
久本洋子	ハチクの一斉開花過程における花成関連遺伝子の発現解析	竹林景観ネットワーク第31回研究集会	2023
久本洋子・綱本良啓・小林慧人・福島慶太郎・鈴木重雄・小林剛	120年ぶりの開花期にあるハチクの遺伝構造解析	竹林景観ネットワーク第32回研究集会	2023
三井健矢・芳賀智宏・福井 大・堀 啓子・松井孝典	日本の陸域生態系保全と再生可能エネルギー導入のコンフリクトの地図化	日本景観生態学会 第33回淡路大会	2023
野尻太郎・武智正樹・Nicolas Brualla・福井大・Vuong Tan Tu・目黒史也・小薮大輔	What shapes acoustic diversity in laryngeal echolocation of bats?	日本進化学会第25回大会	2023
才木道雄	ヨタカのさえずり頻度の変異と効率的な生息調査法（自由集会 ヨタカの生態－これまでの研究とこれからの課題－）	日本鳥学会 2023 年度大会	2023
牧 貴大・平尾聡秀・福井 大	緯度と面積が規定する日本列島におけるコウモリの種数及び機能的多様性パターン	日本哺乳類学会 2023 年度大会	2023
兼 祐翔・高田隼人・早川卓志・福井 大・井上英治	DNA メタバーコーディングを用いた富士北麓に生息する食虫性コウモリ 3 種の食性解析	日本哺乳類学会 2023 年度大会	2023
小薮大輔・Chi Tzu-Chin・武智正樹・古寺敏子・Vuong Tan Tu・野尻太郎・福井 大	コウモリ類におけるエコーロケーション能と頸耳介筋群の進化	日本哺乳類学会 2023 年度大会	2023
仁賀佳史・藤岡慧明・Olga Heim・野見亮人・福井大・飛龍志津子	野外環境下におけるヤマコウモリの音響採餌行動－音響計測と GPS トラッキングによる相補的研究－	日本哺乳類学会 2023 年度大会	2023
尾張敏章・田中延亮・鈴木智之	炭素蓄積，生物多様性，水源涵養機能を増進する森林施業法の探求：北海道演習林での取り組み	住友林業－東京大学産学協創事業公開シンポジウム	2024
Pei H, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Combining Graph and Convolutional Neural Networks with multi-sensor remote sensing for forest type classification	第135回日本森林学会大会	2024
Mohd Ghaus IB, Tanaka N, Sato T, Farahnak M, Otani Y, Nainar A, Kuraji K, Gomyo M	Comparison of hydrological response to commercial thinning and clear-cutting of dense Japanese cedar plantation	第135回日本森林学会大会	2024

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
Htun NM, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Detecting high-value hardwood trees using deep learning algorithm with unmanned aerial vehicle (UAV) imagery	第 135 回日本森林学会大会	2024
Paing AMM, Chen S, Araki K, Aihara T, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Nagamitsu D, Takagi M, Hisamoto Y, Taneda H, Goto S	Effects of elevated temperature on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> revealed by range-wide provenance trial	第 135 回日本森林学会大会	2024
Karthigesu J, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Estimating structural parameters of a complex mixed conifer-broadleaf forest using UAV photogrammetry	第 135 回日本森林学会大会	2024
Tsuji S, Nakashizuka T, Kuraji K, Kume A, Hanba Y	Relationship between stem hydraulic conductivity and stomatal conductance sensitivity to VPD in Borneo's canopy trees	第 135 回日本森林学会大会	2024
倪 寛・石橋整司・安村直樹・當山啓介	「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の効果と問題点	第 135 回日本森林学会大会	2024
飯尾淳弘・中田修人・早川朋花・相原隆貴・吉田俊也・戸丸信弘・小林 元・後藤 晋・津村義彦	5 つの産地試験林を用いたダケカンバの光合成特性の種内変異の評価	第 135 回日本森林学会大会	2024
鈴木智之・小山泰弘・西村尚之	60 年前の風倒後の倒木搬出が現在のシカの景観スケールでの分布に与える影響	第 135 回日本森林学会大会	2024
ヤン カメイ・三浦直子・郭 威・海野大和・楠 和隆・岩田洋佳	UAV-LiDAR を用いたカラマツの単木樹幹検出と自動計測	第 135 回日本森林学会大会	2024
戸口侑紀・上田実希・黒河内寛之・中村琢磨・平尾聡秀・芝野萌菜実・斎藤陽子	カエデ属 <i>Palmeta</i> 節 6 種の秩父山地における葉緑体 DNA の種間及び種内変異	第 135 回日本森林学会大会	2024
内藤英理香・梅木清・平尾聡秀	シカの排除が樹木実生動態に及ぼす影響：密度依存性とニッチ分化に着目して	第 135 回日本森林学会大会	2024
中田修人・早川朋花・相原隆貴・吉田俊也・戸丸信弘・小林 元・津村義彦・後藤 晋・水永博己・檜本正明・飯尾淳弘	ダケカンバにおける電子伝達速度と気孔コンダクタンスの産地間変異の評価	第 135 回日本森林学会大会	2024
早川朋花・中田修人・檜本正明・相原隆貴・吉田俊也・戸丸信弘・小林 元・後藤 晋・津村義彦	ダケカンバの葉形質の種内変異：5 つの産地試験林を用いた評価	第 135 回日本森林学会大会	2024
室谷楓香・小林 元・後藤 晋・戸丸信弘・津村義彦	ダケカンバ産地試験地における 4 年生苗の萌芽幹動態	第 135 回日本森林学会大会	2024
後藤 晋	ダケカンバ産地試験林の設立経緯と現代的意義	第 135 回日本森林学会大会	2024

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
廣田 充・柘榴匡・Ragini Sarmah・後藤晋・津村義彦	ダケカンバ実生の個葉および個体スケールの光合成特性とその種内変異	第 135 回日本森林学会大会	2024
小長谷賢一・七里吉彦・平尾知士・楠本大・谷口亨	ヒノキのゲノム編集に向けた遺伝子組換え系の効率化	第 135 回日本森林学会大会	2024
田中延亮・Mocin Farahnak・Ibtisam Mohd Ghaus・蔵治光一郎	ヒノキの枝打ち処理が樹冠の降雨再配分過程に与える影響	第 135 回日本森林学会大会	2024
平尾知士・小長谷賢一・楠本 大・七里吉彦	ヒノキの薬剤感受性に関する遺伝学的研究	第 135 回日本森林学会大会	2024
洲崎燈子・蔵治光一郎・豊田市森林課	ヒノキ人工林の小面積皆伐に対する林床植生の対応	第 135 回日本森林学会大会	2024
戴健平・楠本大・原口竜成・平尾聡秀・山田利博	ヒノキ生立木の剥皮木部でみられた菌類相の経時的变化の特徴	第 135 回日本森林学会大会	2024
蛭間英恵・平尾聡秀・梅木 清	奥秩父山地におけるシカ食害後の下層植生回復に対する光強度とシカ柵の効果	第 135 回日本森林学会大会	2024
梅木 清・石川直樹・平尾聡秀	奥秩父山地におけるスズタケの 一斉枯死・更新プロセスのモデル化	第 135 回日本森林学会大会	2024
卑 依璠・浅野友子	気候変動と森林回復が山地流域の流出に与える影響 -93 年間のデータ分析-	第 135 回日本森林学会大会	2024
安井理香・平尾聡秀	高尾山城における高頻度なレクリエーション活動が野生動物に与える影響	第 135 回日本森林学会大会	2024
黄 文倩・梅林利弘・楠本 大・矢崎健一・山岸松平・種子田春彦・渡辺敦史・清水文一・福田健二	材線虫病感染における壁孔の病変	第 135 回日本森林学会大会	2024
浅野友子・岸本光樹・芳賀弘和	山地流域における豪雨時の流出応答を過去のデータから評価する	第 135 回日本森林学会大会	2024
水内佑輔・大塚啓太・坂本優紀・新保奈穂美	森林レンタル事業の利用者が好む森林風景	第 135 回日本森林学会大会	2024
中村和彦・藤原章雄・小野明子	森林体験と探究的学習を定点カメラ映像で繋ぐプログラムのプロトタイプ開発	第 135 回日本森林学会大会	2024
齋藤暖生・竹本太郎	神奈川県における太平洋戦争末期の松根油緊急増産	第 135 回日本森林学会大会	2024
齋藤暖生・竹本太郎	神奈川県における太平洋戦争末期の松根油緊急増産	第 135 回日本森林学会大会	2024
坂上大翼	千葉県北部地域に造成した幼齢ユーカリ人工林に発生した葉枯性病害	第 135 回日本森林学会大会	2024
湯 天禹・平尾聡秀	都市の鳥類の種子散布ネットワークに影響を及ぼす要因	第 135 回日本森林学会大会	2024

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
胡 睿喆・齋藤暖生	土地所有からみたヨーロッパ諸国における都市林の生成と発展	第 135 回日本森林学会大会	2024
尤 曉安・石橋整司・ 安村直樹・齋藤暖生	日本における樹木葬のための森林管理	第 135 回日本森林学会大会	2024
澤田晴雄	白坂小流域固定試験地におけるアカマツの種子落下特性	第 135 回日本森林学会大会	2024
滝口慶人・佐藤貴紀・ 浅野友子・橘 隆一	複数の堆積岩流域における降雨流出特性の把握	第 135 回日本森林学会大会	2024
玉木麻香・平尾聡秀	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	第 135 回日本森林学会大会	2024
石橋整司・横山秀太・ 齋藤暖生・藤原章雄・ 前原 忠	林業経営面から見たクマ剥ぎ被害抑制のための方策	第 135 回日本森林学会大会	2024
山岸松平・児嶋美穂・ 黒田克史・安部久・鴨 田重裕	ユーカリ・サリグナにおける木部繊維中の水分布の可視化	第 74 回日本木材学会大会	2024
岸本光樹・梁瀬桐子・ 澤田晴雄・丹羽悠二・ 井上 淳	ジブクレーンを用いた量水堰の排砂作業の省力化	第 5 回東京大学技術発表会	2024
原口竜成	学外技術研修制度を活用した無人航空機操縦者技能証明取得と演習林業務への活用	第 5 回東京大学技術発表会	2024
大島章生・中川雄治	森林内における最新型 UAV-LiDAR の計測試験	第 5 回東京大学技術発表会	2024
丹羽悠二・梁瀬桐子・ 岸本光樹・井上 淳・ 澤田晴雄	生態水文学研究所におけるドローンの導入と利活用	第 5 回東京大学技術発表会	2024
田中亜季	リモートセンシング技術を用いた森林調査研修の報告	第 5 回東京大学技術発表会	2024
平間睦樹・大島章生・ 福士憲司・延 栄一	大面積の森林管理における UAV オルソ画像活用の試み	第 5 回東京大学技術発表会	2024
澤田晴雄・丹羽悠二・ 岸本光樹・梁瀬桐子・ 井上 淳	生態水文学研究所 100 周年記念事業で技術職員が分担した役割	第 5 回東京大学技術発表会	2024
相川美絵子・栗田直明	田無演習林における木材活用の紹介	第 5 回東京大学技術発表会	2024
鶴見康幸・鈴木祐紀・ 塚越剛史・阿達康真	千葉演習林における体験活動プログラムについて	第 5 回東京大学技術発表会	2024
Tsuji S, Nakashizuka T, Kuraji K, Kume A, Hanba YT	How do the stomata of nine canopy tree species in the Borneo rainforest respond to changes in atmospheric drought?	第 71 回日本生態学会大会	2024
佐藤 匠・芳賀智宏・ 前川侑子・牛込祐司・ 名波哲・福井 大・松 井孝典	AI 技術を用いた生物音響モニタリング：大規模鳥類識別モデルの複数分類群への応用	第 71 回日本生態学会大会	2024

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
藤岡薫子・久本洋子・ 鈴木 牧	カエデ属 2 種の樹冠頂端部の伸長量における枝の光条件操作と個体の光環境の影響	第 71 回日本生態学会大会	2024
久本洋子	タケ類における数十年に一度の一斉開花現象を制御するメカニズムを探る	第 71 回日本生態学会大会	2024
小林 剛・久本洋子・ 小林慧人	ハチク開花後の枯死過程と開花後の植生変化から考える無性繁殖の適応的意義	第 71 回日本生態学会大会	2024
鈴木重雄・小林 剛・ 小林慧人・久本洋子・ 福島慶太郎・和田譲二	石見銀山石銀集落跡におけるハチク開花の経過	第 71 回日本生態学会大会	2024
芳賀智宏・三井健矢・ 三宮望・牧 貴大・松 井孝典・福井 大	日本産コウモリ類の分布と陸上風力導入ポテンシャルのオーバーレイ解析	第 71 回日本生態学会大会	2024
山下裕太郎・黒川紘 子・兵藤不二夫・小川 裕也・吉田俊也・柴田 銃江・田代直明・平尾 聡秀・齊藤 哲・高木 正博・日浦 勉	日本列島の主要森林タイプにおける落葉養分濃度の長期変化	第 71 回日本生態学会大会	2024
鈴木智之・Tiwari Ravi Mohan・香川聡	北方針広混交林における落葉広葉樹と針葉樹の成長量変化と年輪安定同位体比の関係	第 71 回日本生態学会大会	2024

3) 著書

著者名	題目	著書名	発行会社	頁	発行年
Toshihiro Yamada	Chapter 16 Ten-Year Transition of Radiocesium Contamination in Wild Mushrooms in the University of Tokyo Forests After the Fukushima Accident	Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident (IV) After 10 Years. Nakanishi TM, Tanoi K (Eds)	Springer	185-196	2023
佐野明・福井大 (監修)		識別図鑑 日本のコウモリ	文一総合出版	239pp	2023
齋藤暖生	4. フィンランドの旅	自然アクセス「みんなの自然」をめぐる旅- 三俣学 (編著)	日本評論社	63-80	2023
齋藤暖生	8. 米国の旅 (共著)	自然アクセス「みんなの自然」をめぐる旅- 三俣学 (編著)	日本評論社	143-166	2023
齋藤暖生	9. 日本の旅の始まり (共著)	自然アクセス「みんなの自然」をめぐる旅- 三俣学 (編著)	日本評論社	167-185	2023
齋藤暖生	10. 旅の終わりに (共著)	自然アクセス「みんなの自然」をめぐる旅- 三俣学 (編著)	日本評論社	187-206	2023
蔵治光一郎	人工林の皆伐と保水力の関係	自分で地域で 手づくり防災術: 土砂崩れ, 洪水, 地震に備える 農山漁村文化協会 (編)	農文協	62-67	2023
齋藤暖生	木材だけではない森林からの恵み	テーマで探究 世界の食・農林漁業・環境 第3巻 ほんとうのエコシステムってなに? 二平章・佐藤宣子 (編)	農山漁村文化協会	94-97	2023
齋藤暖生	新興する薪ビジネス	テーマで探究 世界の食・農林漁業・環境 第3巻 ほんとうのエコシステムってなに? 二平章・佐藤宣子 (編)	農山漁村文化協会	102-103	2023
蔵治光一郎 (編)		長良川のアユと河口堰 川と人の関係を結びなおす	農文協	223p	2024
蔵治光一郎	はじめにー世界農業遺産, 日本三大清流のアユは語る	長良川のアユと河口堰 川と人の関係を結びなおす 蔵治光一郎 (編)	農文協	1-3	2024
蔵治光一郎	長良川に「健全な水循環」を取り戻す	長良川のアユと河口堰 川と人の関係を結びなおす 蔵治光一郎 (編)	農文協	112-120	2024
蔵治光一郎	おわりにー近くて遠い川と人の関係を結びなおすために	長良川のアユと河口堰 川と人の関係を結びなおす 蔵治光一郎 (編)	農文協	203-205	2024

4) 演習林を利用して行った論文等

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
Ban T	A new species of the genus <i>Stigmatonotum</i> (Hemiptera: Heteroptera: Rhyparochromidae) from Japan, with notes on related species from the East Palearctic and Oriental Regions	ACTA ENTOMOLOGICA	63(2)	265-278	2023	千葉
Kusakabe G, Mori H, Hiura T	Distribution patterns of lianas from subtropical to subboreal zones of the Japanese archipelago and the difference between climbing types	Basic and Applied Ecology	72	1-9	2023	秩父・生態水文
Htun NM, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Integration of unmanned aerial vehicle imagery and machine learning technology to map the distribution of conifer and broadleaf canopy cover in uneven-aged mixed forests	Drones	7(12)	705	2023	北海道
Sakio H, Kon A, Kubo M, Nakano Y	Long-term fluctuations and mechanisms of seed production of riparian tree canopy species	Ecological Research	38(3)	370-385	2023	秩父
Takagi E	Colonization success of a tree-killing bark beetle: Geographic variation and mismatch with host preference	Ecology and Evolution	13(7)	DOI: 10.1002/ecs3.10274	2023	北海道
Tatsumi S, Loreau M	Partitioning the biodiversity effects on productivity into density and size components	Ecology Letters	26(11)	1963-1973	2023	北海道
Iwakiri A, Ota H, Matsushita N, Haraguchi R, Yamada T, Fukuda K	Multilocus phylogenetic analysis revealed a new cryptic lineage of <i>Serpula himantoides</i> in Japan	Forest Pathology	53(2)	e12805	2023	秩父
Aihara T, Araki K, Onuma Y, Cai YH, Paing AMM, Goto S, Hisamoto Y, Tomaru N, Homma K, Takagi M, Yoshida T, Iio A, Nagamatsu D, Kobayashi H, Hirota M, Uchiyama K, Tsumura Y	Divergent mechanisms of reduced growth performance in <i>Betula ermanii</i> saplings from high-altitude and low-latitude range edges	Heredity	131	387-397	2023	千葉
Asano Y, Kawasaki M, Takatoku K, Uchida T, Hiroki S	Lateral flow in bedrock dominates baseflow and flood flow in a catchment underlain with permeable sedimentary rock in the high-relief Chichibu Mountains	Hydrological processes	37(11)	e15011	2023	秩父
Hiura T, Yoshida H, Miyata U, Asami T, Suzuki Y	Conferring High IAA Productivity on Low-IAA-Producing Organisms with PonAAS2, an Aromatic Aldehyde Synthase of a Gallling Sawfly, and Identification of Its Inhibitor	Insects	14(7)	598. doi: 10.3390	2023	千葉
Yamasaki T, Hamamoto S, Nishimura T	Base flow separation for soil erosion simulation in a granitic forested headwater catchment using a process-based model, GeoWEPP	International Journal of Sediment Research	38(4)	494-502	2023	生態水文

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
Tatsuhara S, Toyama K, Suzuki M	Effectiveness of the Canopy Closure Curve to Inform Management of Two-Storied Stands	Journal of Forest Planning	29	1-9	2023	千葉
Hotta W, Haga C, Morimoto J, Suzuki SN, Matsui T, Owari T, Shibata H, Nakamura F	Leaving disturbance legacies conserves boreal conifers and maximizes net CO ₂ absorption under climate change and more frequent and larger windthrow regimes	Landscape Ecology	38	1785-1805	2023	北海道
Djotan AKG, Matsushita N, Fukuda K	Paired root-soil samples and metabarcoding reveal taxon-based colonization strategies in arbuscular mycorrhizal fungi communities in Japanese cedar and cypress stands	Microbial Ecology	86	2133-2146	2023	千葉・秩父・田無
Suzuki S, Yoshimura K, Ueno S, Worth JRP, Ujino-Ihara T, Katsuki T, Noshiro S, Fujii T, Arai T, Yoshimaru H	A DNA barcode reference library for the native woody seed plants of Japan	Molecular Ecology Resources	23(4)	855-871	2023	秩父
Pei HQ, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Identifying Spatial Variation of Carbon Stock in a Warm Temperate Forest in Central Japan Using Sentinel-2 and Digital Elevation Model Data	Remote Sensing	15(8)	1997. https://doi.org/10.3390	2023	千葉
Karthigesu J, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	UAV photogrammetry for estimating stand parameters of an old Japanese larch plantation using different filtering methods at two flight altitudes	Sensors	23(24)	9907	2023	北海道
Iwasaki K, Fukushima K, Nagasaka Y, Ishiyama N, Sakai M, Nagasaka A	Real-Time Monitoring and Postprocessing of Thermal Infrared Video Images for Sampling and Mapping Groundwater Discharge	Water Resources Research	59(4)	1-11	2023	北海道
Toshihiro Yamada	Chapter 16 Ten-Year Transition of Radiocesium Contamination in Wild Mushrooms in the University of Tokyo Forests After the Fukushima Accident	Agricultural Implications of Fukushima Nuclear Accident (IV) After 10 Years. Nakanishi TM, Tanoi K (Eds)		185-196	2023	千葉・北海道・秩父・富士
Htun NM, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Mapping the Distribution of High-Value Broadleaf Tree Crowns through Unmanned Aerial Vehicle Image Analysis Using Deep Learning	Algorithms	17(2)	84	2024	北海道
Imamura N, Ohte N, Tanaka N	Factors influencing the difference in dissolved ion inputs to the forest floor between deciduous and coniferous stands: Comparison under high and low atmospheric deposition conditions	Environmental Monitoring and Assessment	196	10.1007/s10661-023-12132-6	2024	秩父・田無

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
Aihara T, Araki K, Sarkah R, Cai YH, Paing AMM, Goto S, Hisamoto Y, Taneda H, Tomaru N, Homma K, Takagi M, Yoshida T, Iio A, Nagamatsu D, Kobayashi H, Hirota M, Tsumura Y	Climate-related variation in leaf size and phenology of <i>Betula ermanii</i> in multiple common gardens	Journal of Forest Research	29(1)	62-71	2024	千葉
野中咲葉	トドマツ優占天然針広混交林におけるエゾモモンガ <i>Pteromys volans orii</i> の食性：葉食性の季節変化の検討	帯広畜産大学 卒業論文		40pp	2024	北海道
藤谷直樹	サリグナ種ユーカリ造林による林業経営の可能性 ～樹芸研究所 10 年生林分の分析から～	東京大学 卒業論文		46pp	2024	樹芸
内藤英理香	樹木実生動態の密度依存性がシカの採食圧からの植生回復に果たす役割	東京大学 卒業論文		53pp	2024	秩父
菖 蒲周	秩父地方の天然生ヒノキと共生するアーバスキュラー菌根菌群集の解明	東京大学 卒業論文		23pp	2024	秩父
笹田勇麻	トドマツ種苗の葉緑体と核 SSR マーカー分析に基づく採種園構成クローンの母親および父親としての評価	東京大学 卒業論文		35pp	2024	北海道
金子拓未	北海道針広混交林の倒木上蘚類群落に生育する菌類とシアノバクテリアの群集組成	東京大学 卒業論文		46pp	2024	北海道
馬場森寛	ミズナラ (<i>Quercus crispula</i>) 樹幹木部の通水の季節変化	東京大学 卒業論文		35pp	2024	秩父
白石健太	外来種と交雑個体の長期的な存続：北海道空知川のサケ科魚類に着目した分布と種組成の時間的变化	東京農業大学 卒業論文		33pp	2024	北海道
滝口慶人	複数の堆積岩流域との比較による降雨流出特性の比較	東京農業大学 卒業論文		52pp	2024	秩父・生態水文
三宅康太	落葉広葉樹林斜面における林内雨の時空間分布	東京農業大学 卒業論文		25pp	2024	生態水文
志賀有紗	水晶体安定炭素・窒素同位体比を用いたカエルの成長履歴の復元可能性の検証	東京農工大学 卒業論文		22pp	2024	秩父
笥 優祐	コナラ二次林における樹幹流の DOC 負荷量と樹木特性因子の関係	豊田工業高等専門学校 卒業論文		23pp	2024	生態水文
青山周平	コナラの樹幹流下量に影響を与える樹木特性因子の検討	豊田工業高等専門学校 卒業論文		28pp	2024	生態水文
大沼裕貴	森林流域における蛍光回帰法を用いた溶存有機炭素流出負荷量の推定	豊田工業高等専門学校 卒業論文		22pp	2024	生態水文

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
清水 将	富良野市東大演習林を活用した 中学生の森林学習プログラム	北海道教育大学 卒業論文		66pp	2024	北海道
日置大河	ササ類における地下茎形質の変 異とジェネットの空間的混在度	山形大学 卒業 論文		32pp	2024	北海道
山田 穂	ヒグマの匂いコミュニケーション の季節変化と行動パターンの 多様性の検討	酪農学園大学 卒業論文		60pp	2024	北海道
佐々木乃梨	繁殖期におけるヒメネズミ <i>Apodemus argenteus</i> の集団営巣 および巣箱利用に関する研究	帯広畜産大学 修士論文		94pp	2024	北海道
卑 依瑠	気候変動と森林の回復が山地流 域の水収支に及ぼす影響	東京大学 修士 論文		54pp	2024	生態水文
加藤大樹	偶蹄類の利用頻度の異なるナラ 枯れ被害地の更新可能性	東京大学 修士 論文		40pp	2024	生態水文
坂巻実佳	広葉樹の乾燥方法の検討 ― <i>Eucalyptus saligna</i> を対象とし て―	東京大学 修士 論文		35pp	2024	樹芸
金子竣亮	数理モデルを用いた事業計画ツ ールの開発と木材利用への応用 可能性	東京大学 修士 論文		60pp	2024	北海道
村田智也	フェノロジーを考慮した深層学 習モデルによるミズナラ・コナ ラの画像検出に関する研究	東京大学 修士 論文		65pp	2024	富士
上野大輔	房総半島に生息するキョンとニ ホンジカのニッチ分化	東京大学 修士 論文		57pp	2024	千葉・秩 父
藤井恵理奈	ミヤマハンノキの共生微生物群 集と宿主成長促進作用	東京大学 修士 論文		40pp	2024	北海道
菅原悠斗	気候変動と人工林化が土壌微生 物群集の分解機能に与える地域 スケールの影響	北海道大学 修 士論文		37pp	2024	秩父
岩切鮎佳	雪腐病菌の多様な種および種内 系統が針葉樹の更新に与える影 響の解明	東京大学 博士 論文		186pp	2024	北海道
岸本光樹	生態水文学研究所赤津研究林白 坂小流域固定試験地において衝 突板トラップに捕獲されたコガ ネムシ上科食糞群	演習林（東大）	68	1-5	2023	生態水文
伊藤茉美・佐藤雅 俊・押田龍夫	北海道の山間部天然林において ヒメネズミ <i>Apodemus argenteus</i> が巣材に利用する植物種の選好 性	帯広畜産大学学 術研究報告	44	105- 116	2023	北海道
鈴木義人・徳田誠	虫こぶ形成と植物ホルモン	植物の生長調節	58 (1)	105- 111	2023	千葉
田中延亮・小川 瞳・福岡哲・後藤 晋	2021 年に東京大学北海道演習林 の苗畑で発生した乾燥害につい て	森林遺伝育種	12 (3)	108- 110	2023	北海道
石塚 航	樹木の遺伝的な適応の実態を知 る	森林技術	976	8-11	2023	北海道

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
楠本大・久本洋 子・村川功雄・澤 田晴雄	千葉県鴨川市のマテバシイ林と 愛知県瀬戸市のコナラ林におけ るナラ枯れ被害の年次推移	日本森林学会誌	105(4)	103- 109	2023	千葉・生 態水文
斉藤明子・尾崎煙 雄	「ナラ枯れ」に関連する甲虫 3 種 -タイショウオオキノコ, ル イスホソカタムシ, ナガフトヒ ゲナガゾウムシ-	房総の昆虫	73	12-14	2023	千葉
斉藤明子・尾崎煙 雄・鈴木勝・村川 功雄	「東京大学千葉演習林の昆虫 相」の追加と訂正 その 7	房総の昆虫	73	15-18	2023	千葉
植田睦之	巣箱カメラで見たヤマガラの 繁殖経緯	モニタリングサ イト 1000 陸生 鳥類調査情報	15(1)	5	2023	秩父
當山啓介・藤平晃 司・村川功雄	東京大学千葉演習林のスギ・ヒ ノキ高齢人工林試験地における 各立木の胸高線地上高の約 100 年間の変化	演習林 (東大)	69	1-10	2024	千葉
Paing AMM, Chen S, Araki K, Aihara T, Sarmah R, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Kadomatsu M, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Osumi K, Nagamitsu D, Takagi M, Taneda H, Kimura N, Fukuoka S, Hisamoto Y, Goto S	Site characteristics of <i>Betula ermanii</i> range-wide provenance trials [revised version]	演習林 (東大)	69	11-22	2024	千葉
岸本光樹・松井理 生・高橋功一・澤 田晴雄・井上淳・ 高德佳絵・黒木里 香・浅野友子	生態水文学研究所赤津研究林白 坂南北谷小流域日流出量観測報 告 (II) (自 2008 年 1 月至 2015 年 12 月)	演習林 (東大)	69	23-29	2024	生態水文
大村和也・高德佳 絵・原口竜成・才 木道雄・高野充 広・吉田弓子	秩父演習林における針葉樹人工 林試験地成長資料 (2019~2022 年)	演習林 (東大)	69	31-36	2024	秩父
岸本光樹・澤田晴 雄・井上淳・高德 佳絵・梁瀬桐子	生態水文学研究所ヒノキ人工林 各種試験地の成長資料	演習林 (東大)	69	37-57	2024	生態水文
里見重成・藤平晃 司・當山啓介	東京大学千葉演習林のスギ高齢 人工林長伐期施業試験地の成長 資料	演習林 (東大)	69	61-69	2024	千葉
吉田弓子・高野充 広・大村和也	秩父演習林における二次林試験 地成長資料 (2022)	演習林 (東大)	69	71-78	2024	秩父
東京大学演習林長 期生態系データ生 物部門昆虫分野	ピットフォールトラップにより 東京大学演習林で捕獲されたオ サムシ科甲虫相の目録 (2008 年 ~2012 年)	演習林 (東大)	69	79-97	2024	千葉・北 海道・秩 父・田 無・生態 水文・富 士・樹芸

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
東京大学演習林	東京大学演習林水文観測・水質分析報告（2021 年 1 月～2021 年 12 月）	演習林（東大）	69	99-108	2024	千葉・北海道・秩父・生態水文・樹芸
東京大学演習林	東京大学演習林気象報告（2022 年 1 月～2022 年 12 月）	演習林（東大）	69	109-131	2024	千葉・北海道・秩父・田無・生態水文・樹芸
尾崎煙雄・西内李佳・村川功雄・斉藤明子・樽宗一朗	千葉県で 60 年ぶりに採集された天然生ヒノキバヤドリギ（ビャクダン科）	千葉中央博研究報告	17(1)	41-44	2024	千葉
鈴木智之・福岡哲・木村徳志・松井理生	東京大学北海道演習林のミズナラ産地別試験地	北海道の林木育種	66(2)	8-16	2024	北海道
石塚航・津山幾太郎	産地別トドマツ苗木の植栽適地を考えるー適地適木の転換へ向けてー	北方森林研究	72	5-9	2024	北海道

2022 年度より前に発表し、これまでの年報に未掲載の論文

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
石田 健	埼玉県奥秩父・突出峠におけるスズタケの衰退経過と森林下層棲鳥類への影響	Bamboo Journal	31	50-56	2019	秩父
石塚 航	植栽に適した苗木産地を知るー北方針葉樹トドマツの地域適応性に基づいてー	ベース設計資料	188	49-52	2021	北海道
Evans MJ, Barton P, Niwa S, Soga M, Seibold S, Tsuchiya K, Hisano M	Climate-driven divergent long-term trends of forest beetles in Japan	Ecology Letters	25(9)	2009-2021	2022	秩父
石塚航	葉緑体ゲノム解析によるカラマツ属種内系統分化の解明と育種への展開	森林遺伝育種	11(2)	63-68	2022	北海道
Yamashita K, Fujiwara T, Tonasaki M	Changes in Hemicellulose Structure Associated with the Transition from Earlywood to Latewood at Juvenile Wood in <i>Cryptomeria japonica</i>	WOOD RESEARCH	68(3)	413-424	2023	千葉
市川 輝	ハバチの芳香族アルデヒド合成酵素の基質特異性に関する研究	茨城大学 卒業論文		49pp	2023	千葉
向ひな胡	ヒグマの匂いコミュニケーションにおける行動パターンが地域によって異なるのはなぜか	酪農学園大学 卒業論文		58pp	2023	北海道
佐々木晴大	日本産ヒメノヤガラの分類学的再検討と新産種オトメヤガラの報告	福島大学 修士論文		39pp	2023	千葉

5) 受賞・特許等

全国大学演習林協議会第 25 回森林管理技術賞

受賞者氏名	受賞理由
特別功労賞	
大村和也	秩父演習林における森林管理の運営と教育研究活動への多大な貢献
技術貢献賞	
辻 良子	温室管理技術と熱帯・亜熱帯産植物の育成技術に関する貢献
学術貢献賞	
藤平晃司	博物館との連携構築および植物インベントリー調査による学術的貢献
若手奨励賞	
小林徹行	モバイル GIS を活用した天然林択伐施業の DX 推進への顕著な貢献

2023 年度 日本哺乳類学会優秀ポスター賞

受賞者氏名	題 目
兼 祐翔	DNA メタバーコーディングを用いた富士北麓に生息する食虫性コウモリ 3 種の食性解析

2023 年度 日本生態学会第 71 回全国大会最優秀ポスター賞

受賞者氏名	題 目
秋山 礼	再導入されたミヤマシジミ 7 局所個体群における 6 世代の動態

2023 年度 森林科学専攻長賞

受賞者氏名	題 目
笹田勇麻	トドマツ種苗の葉緑体と核 SSR マーカー分析に基づく採種園構成クローンの母親および父親としての評価

6) 外部資金によって行われた研究

科学研究費補助金

氏 名	研究種目	研究課題	研究代表者	代表者所属
鎌田直人・ 楠本 大・ 竹本周平	基盤研究 (A)	ナラ枯れにおける植物－菌－昆虫 3 者関係 のフェノロジーと樹木の枯死の関係	鎌田直人	東京大学
後藤 晋・ 久本洋子	基盤研究 (A)	大規模産地試験林を用いた樹木の局所環境 適応遺伝子の解明	津村義彦	筑波大学
福井 大・ 平尾聡秀	基盤研究 (A)	風力発電施設におけるコウモリ類衝突リス ク低減に向けた情報・技術基盤形成	福井 大	東京大学
楠本 大	基盤研究 (A)	マツ材線虫病の萎凋枯死メカニズムの全容 解明	福田健二	東京大学
後藤 晋・ 久本洋子	基盤研究 (B)	縞枯れ現象を通して常緑針葉樹の衰退・枯 死過程を解き明かす	種子田春彦	東京大学
鈴木智之・ 竹本周平	基盤研究 (B)	森林土壌圏の炭素収支における枯死木効果 の包括的評価	小南裕志	森林研究・整 備機構
三浦直子	基盤研究 (B)	粗放管理時代における河川堤防の合理的な 植生管理・生態緑化手法の開発	山田 晋	東京農業大学
當山啓介	基盤研究 (B)	日本全国の長期的な森林バイオマス利用可 能量算定モデルの構築と環境影響評価	有賀一広	宇都宮大学
平尾聡秀	基盤研究 (B)	攪乱を受けた森林のレジリエンスに寄与す る生物間相互作用・機能群を特定する	梅木 清	千葉大学
後藤 晋・ 久本洋子	基盤研究 (B)	高標高産トドマツはなぜ早熟なのか：マツ 科針葉樹における繁殖開始の遺伝的制御に 迫る	後藤 晋	東京大学
平尾聡秀	基盤研究 (B)	環境変動に伴う森林の植生衰退が土壌レガ シー効果を引き起こすメカニズムの解明	平尾聡秀	東京大学
楠本 大	基盤研究 (B)	有機リン系殺虫剤によるヒノキの異常落葉 現象に関する分子メカニズムの解明	小長谷賢一	森林研究・整 備機構
楠本 大・ 坂上大翼	基盤研究 (B) (一般)	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と 林床植物との菌根菌ネットワークの解明	松下範久	東京大学
藤原章雄	基盤研究 (B)	非日常の森林体験と日常の探究を定点カメ ラ映像で有機的に繋ぐ学習プログラムの開 発	中村和彦	東京大学
藤原章雄	基盤研究 (B)	電源・通信インフラのない環境で自律的に 稼働する海鳥の生態観測システムの開発	坂本健太郎	東京大学
平尾聡秀	基盤研究 (C)	森林の急激な環境変化が野生植物の生態 的・進化的変化に与える影響	森長真一	帝京科学大学
久本洋子	基盤研究 (C)	日本におけるタケ類の開花現象の実態とそ の生態系影響	小林 剛	香川大学
鈴木智之	基盤研究 (C)	景観スケールにおける亜高山帯針葉樹林の 更新に及ぼす風倒攪乱と獣害の相互作用的 影響	西村尚之	群馬大学
鈴木智之	基盤研究 (C)	北方林において落葉広葉樹は増加している のか？多地点・長期・年輪データの利用	鈴木智之	東京大学
山田利博	基盤研究 (C)	樹木における心材形成様式の種特性の解明 と心材腐朽菌類の感染経路の特定	梅林利弘	秋田県立大学

氏 名	研究種目	研究課題	研究代表者	代表者所属
當山啓介	基盤研究 (C)	森林計画の分析を通じた実効的な行政計画のあり方の提示	當山啓介	東京大学
當山啓介	基盤研究 (C)	木材生産が可能な林分はどこにあるのか？災害リスクを考慮した供給可能量の推定	齋藤仁志	岩手大学
水内佑輔	若手研究	公共空間としての神社の風致計画論の形成過程と展開の解明	水内佑輔	東京大学
水内佑輔	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 (B)）	アメリカ日系人強制収容所における日本庭園群の調査による日米協力体制基盤の構築	五島聖子	長崎大学
福井 大	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 (B)）	未知の新奇形質「耳舌骨」の進化的起源・機能・ゲノミクス	小藪大輔	筑波大学
福井 大	学術変革領域研究 (A) 計画研究	音響サイバー空間を利用したコウモリの階層ナビゲーションの理解	飛龍志津子	同志社大学
原口竜成	奨励研究	ナミダタケモドキによる針葉樹根株心腐の被害実態把握と感染経路の推定	原口竜成	東京大学
軽込 勉	奨励研究	LiDAR を用いたヒノキ立木幹材積表の検証	軽込 勉	東京大学

その他補助金

氏 名	研 究 課 題	研究代表者	代表者所属
水内佑輔	国土地理協会学術研究助成	森林レンタル事業がもたらす新たなライフスタイル像と森林経営・管理方法の解明	新保奈穂美 兵庫県立大学

奨学寄付金

氏 名	寄 付 目 的	寄 付 者
山田利博	学術研究の経費	サントリーホールディングス株式会社
山田利博	森林動態にかかる学術研究の経費	一般財団法人自然環境研究センター
安村直樹	炭素循環動態にかかる学術研究の経費	認定特定非営利活動法人バー ドリサーチ
安村直樹	森林動態にかかる学術研究の経費	一般財団法人自然環境研究センター
蔵治光一郎	農学に関する研究助成	日本工営都市空間株式会社
平尾聡秀	学術研究の経費	公益財団法人旭硝子財団
後藤 晋	クリーンラーチ若齢木を用いた初期成長性の系統評価に関する研究	住友林業株式会社
尾張敏章	再造林放棄地の森林 CO2 吸収に関する研究	住友林業株式会社
田中延亮	森林の水資源に関する研究	住友林業株式会社
鈴木智之	森林の生物多様性評価(植物)に関する研究	住友林業株式会社
浅野友子	学術研究の経費	一般財団法人河川情報センター
齋藤暖生	産学民連携による学生・社会人向けの導入的な「森林サービス産業」（健康経営）プログラム・システムのあり方の実証的研究開発	公益社団法人国土緑化推進機構

受託研究

氏 名	研 究 課 題 名	委 託 機 関
鴨田重裕・井上広喜・當山啓介・鎌田直人・坂上大翼	千葉県におけるユーカリを活用した持続可能なエネルギーの森づくり実証事業	NEDO（株式会社エコグリーンホールディングス）
蔵治光一郎・田中延亮・安村直樹・浅野友子	水源かん養機能モニタリング研究委託	豊田市
蔵治光一郎	「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点	JST
尾張敏章・田中延亮・鈴木智之	デジタル技術と3次元空間情報を活用した近自然型林業の計画・管理システム構築と実証	農林水産省農林水産技術会議

共同研究

氏 名	研 究 課 題 名	共 同 研 究 機 関
尾張敏章	環境変動下における森林生態系攪乱に対する北海道演習林の順応的管理に関する研究	王子木材緑化株式会社 北海道支店
後藤 晋	カラマツ類及びトドマツの種苗配置適正化と優良品種導入による炭素吸収量増加効果の評価	北海道総合研究機構
鎌田直人	地域性種苗トレーサビリティ普及促進のための管理手法の研究	箱根植木株式会社
三浦直子	樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発	住友林業株式会社
田中延亮・安村直樹	太陽光発電施設周辺の河川環境や気温のモニタリング	株式会社鈴鹿インベストメント
田中延亮・安村直樹	裸地斜面への太陽光パネル敷設が雨水の表面流発生に与える影響	株式会社鈴鹿インベストメント
鴨田重裕	バイオマスによる排熱を活用したカカオ豆・南国樹木の栽培・産業育成	中部電力株式会社
齋藤暖生	国立民族学博物館所蔵木製品標本資料にもとづく森林資源利用史の研究——桶と樽に着目して	国立民族学博物館
尾張敏章・鈴木智之	天然林におけるミズナラ優良木の単木管理及び樽材好適ミズナラの選定法開発に向けたデータ収集	サントリー株式会社、北日本木材株式会社
久保田耕平・鎌田直人・安村直樹	マツ材線虫病防除薬剤の開発	株式会社ニッソーグリーン

3. 社会連携

1) 学外各種委員会等委員

氏 名	委 員 会 等 名 称	肩 書
鎌田直人	日本昆虫学会英文誌編集部	編集諮問委員
鎌田直人	石川県兼六園マツ等保全対策指導者会議	委員
鎌田直人	森林野生動物研究会	事務局代表補佐
鎌田直人	(一社)日本森林技術協会 令和5年度林野庁委託事業「森林病虫害等被害対策事業のうち森林病虫害等被害対策技術調査事業のうちナラ枯れ被害対策実態調査」検討委員会	委員長
鎌田直人	千葉県森林審議会	委員
鎌田直人	千葉県土石採取対策審議会	委員
鎌田直人	鴨川市環境審議会	委員
鎌田直人	鴨川市文化財保護審議会	委員
楠本 大	樹木医学会	理事
當山啓介	日本森林学会	林業遺産選定委員
當山啓介	森林計画学会企画運営委員会	委員長
竹本周平	樹木医学会	理事
竹本周平	我孫子市鳥の博物館（教育委員会委嘱）	市民スタッフ
竹本周平	日本土壌微生物学会	和文誌編集委員
尾張敏章	北海道森林管理局地域管理経営計画等に関する懇談会	委員
尾張敏章	林野庁「新しい林業」経営モデル構築事業「北欧をモデルにした北海道・十勝型機械化林業経営」	アドバイザー
尾張敏章	北海道林木育種協会	顧問
尾張敏章	富良野市環境審議会	委員
尾張敏章	富良野市防災会議	委員
尾張敏章	日本森林学会	代議員
尾張敏章	森林計画学会	和文誌編集委員
尾張敏章	森林利用学会	理事
尾張敏章	北方森林学会	評議員
尾張敏章	International Union of Forest Research Organizations (IUFRO)	Research Group 1.05.00: Uneven-aged silviculture, Deputy Coordinator
尾張敏章	International Union of Forest Research Organizations (IUFRO)	Working Party 1.01.09: Ecology and silviculture of fir, Deputy Coordinator
尾張敏章	Frontiers in Forests and Global Change	Review Editor
尾張敏章	Frontiers in Environmental Science	Topic Editor
尾張敏章	Trees, Forests and People	Guest Editor
田中延亮	日本森林学会編集委員会	編集委員
鈴木智之	日本生態学会キャリア支援専門委員会	委員
鈴木智之	北海道林木育種協会	編集委員
鈴木智之	北海道林木育種協会	評議員
鈴木智之	北海道林木育種協会	地方連絡員

氏 名	委 員 会 等 名 称	肩 書
鈴木智之	日本森林学会	ダイバーシティ推進委員
山田利博	樹木医学会	理事／評議員／表彰委員／編集委員長
山田利博	日本樹木医会事例集等改訂委員会	委員長
山田利博	埼玉県特定鳥獣保護管理検討委員会	委員
山田利博	山梨県甲武信ユネスコエコパーク保全活用委員会	委員
山田利博	草加市国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」保存活用委員会	副委員長
山田利博	埼玉県（関東山地）特別天然記念物カモシカ保護対策事業通常調査指導委員会	委員
山田利博	環境省／自然環境研究センターモニタリングサイト1000（森林・草原調査）コアサイト・準コアサイト検討会	サイト代表者
山田利博	国土交通省東京国道事務所街路樹点検結果等有識者確認	有識者
山田利博	中日本高速道路株式会社東京支社	道路区域外倒木の倒木リスクに関するアドバイザー
山田利博	秩父市秩父地域森林林業活性化協議会	会員
山田利博	埼玉県秩父地域鳥獣被害対策協議会	会員
山田利博	第75回全国植樹祭秩父地域推進協議会／推進委員会	会員／委員
山田利博	茨城県文化財保護審議会	委員
山田利博	森林総合研究所研究報告編集委員会	委員
平尾聡秀	JaLTER 代表者委員会	委員
平尾聡秀	JaLTER 運営委員会	委員
平尾聡秀	秩父市秩父地域森林林業活性化協議会	幹事
平尾聡秀	埼玉県生物多様性保全戦略改定検討委員会	副委員長
坂上大翼	日本森林学会	Journal of Forest Research 常任編集委員
久本洋子	樹木医学会	理事（技術）
久本洋子	日本樹木医会	技術部会員
久本洋子	竹林景観ネットワーク	運営委員
久本洋子	森林遺伝育種学会	森林遺伝育種 編集委員
久本洋子	種生物学会	Plant Species Biology 編集委員
高野充広	埼玉県秩父地域鳥獣被害対策協議会	幹事
高野充広	秩父市秩父地域森林林業活性化協議会分科会	委員
石橋整司	埼玉県河川整備計画策定専門会議	委員
相川美絵子	日本樹木医会	業務担当理事（技術部会）
相川美絵子	NPO 法人 樹の生命を守る会	広報委員
前原 忠	日本土壌動物学会評議員会	評議員
安村直樹	愛知県瀬戸市せと環境塾運営協議会	会員
安村直樹	日本山岳会東海支部猿投の森づくりの会	理事
安村直樹	全国林業改良普及協会	全国林業グループコンクール審査委員長

氏 名	委 員 会 等 名 称	肩 書
安村直樹	林業経済研究所	企画委員
安村直樹	愛知県犬山市環境審議会	委員
安村直樹	愛知県瀬戸市環境審議会	委員
安村直樹	愛知県瀬戸市太陽光発電設備設置審議会	委員
浅野友子	東京都森林審議会	委員
浅野友子	水文・水資源学会	Hydrological Research Letter 編集委員
浅野友子	埼玉県第 75 回全国植樹祭埼玉県準備委員会	委員
水内佑輔	日本造園学会編集委員会	幹事
水内佑輔	日本造園学会企画委員会	委員
水内佑輔	日本造園学会学術委員会	委員
水内佑輔	日本造園学会中部支部常任運営委員会	委員
水内佑輔	森林学会森林科学編集委員会	委員
水内佑輔	森林学会日本森林学会誌編集委員会	委員
水内佑輔	森林学会林業遺産選定委員会	委員
福井 大	日本生態学会	Ecological Research 編集委員
福井 大	生物音響学会	理事
福井 大	和歌山市	専門技術委員
福井 大	日本哺乳類学会	代議員
福井 大	日本哺乳類学会保護管理専門委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会保護管理専門委員会レッドデータ作業部会	部会員
福井 大	日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会大会企画・将来構想委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会奨励賞選考委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会国際交流委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会英文誌編集委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会	理事
福井 大	IUCN SSC Bat Specialist Group	Member
福井 大	北海道空知総合振興局道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会	構成員
福井 大	自然環境研究センター絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会哺乳類分科会	委員
齋藤暖生	中部森林学会	理事
齋藤暖生	林業経済学会表彰委員会	委員
齋藤暖生	コモンズ研究会	世話人
齋藤暖生	公益財団法人 栗井英朗環境財団公募助成事業選考委員会	委員
齋藤暖生	山中湖エコミュージアム推進事業団	顧問
蔵治光一郎	水循環基本法フォローアップ委員会	座長
蔵治光一郎	超党派水制度改革議員連盟	参与

氏 名	委 員 会 等 名 称	肩 書
蔵治光一郎	矢作川流域圏懇談会	副座長
蔵治光一郎	矢作川流域圏懇談会山部会	部会長
蔵治光一郎	大阪府森林環境整備事業評価審議会	委員
蔵治光一郎	愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会	委員
蔵治光一郎	静岡県森林審議会	委員
蔵治光一郎	静岡県環境審議会	特別委員
蔵治光一郎	静岡県環境審議会水循環保全部会	部会長
蔵治光一郎	岡崎市水循環推進協議会	委員
蔵治光一郎	岡崎市森づくり協議会	会長
蔵治光一郎	豊田市森づくり委員会	委員
蔵治光一郎	水文・水資源学会国際委員会	委員
蔵治光一郎	不知火海・球磨川流域圏学会	理事
蔵治光一郎	不知火海・球磨川流域圏学会編集委員会	委員
蔵治光一郎	猿投の森づくりの会	顧問
蔵治光一郎	矢作川森の研究者グループ	共同代表
蔵治光一郎	NPO 法人 才の木	理事
蔵治光一郎	公益財団法人 ニッセイ緑の財団	理事
後藤 晋	埼玉県農林総合研究センター研究等	評価委員
後藤 晋	森林遺伝育種学会	理事

2) 小中高等学校への対応

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	4/21
蔵治光一郎	森林の保水力に関する講義と小馬床演習林での雨水遮断量計測装置の設置の打ち合わせ	熊本県立南稜高校・「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点	熊本県立南稜高校および同校小馬床演習林	5/1
石橋整司 相川美絵子 栗田直明	校外学習	実践学園中学校	田無演習林	5/26
蔵治光一郎	小馬床演習林での雨水遮断量計測装置の設置	熊本県立南稜高校・「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点	熊本県立南稜高校小馬床演習林	6/1-2,9
鈴木智之 高橋功一 岡平卓巳 千井野聡 井上 崇 安里咲空良	SSH 道内研修	北海道札幌啓成高等学校	北海道演習林	6/15-16
軽込 勉	校外学習	千葉県立君津青葉高校	千葉演習林	6/19
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	6/21
相川美絵子 栗田直明	職場体験(事前訪問)	西東京市立青嵐中学校	田無演習林	6/28
福井 大	理数探求	山梨県立吉田高等学校	吉田高校	7/4,7/28,8/18,9/5,10/11
相川美絵子 栗田直明	職場体験	西東京市立青嵐中学校	田無演習林	7/6
千嶋 武	樹木採集実習	埼玉県立秩父農工科学高等学校	秩父演習林	7/24
鈴木智之 小林徹行	1年：道内研修	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	北海道演習林	7/27
蔵治光一郎	小馬床演習林での雨水遮断量計測装置の説明(県議会議員視察対応)	熊本県立南稜高校・「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点	熊本県立南稜高校小馬床演習林	7/29
大川あゆ子	富良野の高校生による水源探訪フィールドワーク	地独) 北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所	北海道演習林	8/7
松井理生 小林徹行 延 栄一 大川あゆ子 遠國正樹	生物部 夏季生物教室(北海道合宿)	東京大学教育学部附属中等教育学校	北海道演習林	8/7-10

教職員名	講 演 名	主催	開催場所	日程
相川美絵子 栗田直明	校外学習 (下見)	西東京市立田無小学校	田無演習林	8/30
田中延亮 高橋功一 天山 学	「農業と環境」	富良野緑峰高等学校	北海道演習林	9/12
蔵治光一郎	小馬床演習 林での雨水 遮断量計測 装置の説明 (学会視察 対応)	熊本県立南稜高校・「流 域治水を核とした復興を 起点とする持続社会」地 域共創拠点	熊本県立南稜高校小 馬床演習林	10/8
相川美絵子 栗田直明	校外学習 (下見)	自由学園初等部	田無演習林	10/13
栗田直明	職場体験 (事前訪 問)	西東京市立田無第二中学 校	田無演習林	10/17
栗田直明	校外学習	自由学園初等部	田無演習林	10/18
相川美絵子 栗田直明	校外学習 (下見)	西東京市立中原小学校	田無演習林	10/30
澤田晴雄 丹羽悠二 岸本光樹 築瀬桐子 井上 淳	職場体験	瀬戸市立光陵中学校	生態水文学研究所	10/30-11/1
澤田晴雄 丹羽悠二 岸本光樹 築瀬桐子 井上 淳	職場体験	瀬戸市立水無瀬中学校	生態水文学研究所	11/7-8
久本洋子 吉田弓子 大村和也 千嶋 武 才木道雄 齋藤俊浩 田中亜季	秩父市中学 生社会体験 チャレンジ 事業・影森 中学校	秩父市立影森中学校	秩父演習林	11/7-9
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	11/11
三次充和	鴨川市「中 学校職場体 験」	鴨川市立鴨川中学校、鴨 川市立安房東中学校	千葉演習林	11/14-15
前原 忠 相川美絵子 栗田直明	校外学習	西東京市立中原小学校	田無演習林	11/16
前原 忠 相川美絵子 栗田直明 石浦恭子	職場体験	西東京市立田無第二中学 校	田無演習林	11/17
相川美絵子 栗田直明	校外学習	西東京市立田無小学校	田無演習林	12/8
澤田晴雄 丹羽悠二 岸本光樹 築瀬桐子 井上 淳	職場体験	瀬戸市立水野中学校	生態水文学研究所	12/12-13

教職員名	講 演 名	主催	開催場所	日程
蔵治光一郎	小馬床演習 林での雨水 遮断量計測 結果の発表 に対する講 評（オンラ イン）	熊本県立南稜高校・「流 域治水を核とした復興を 起点とする持続社会」地 域共創拠点	熊本県立南稜高校	1/22
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	2/1
蔵治光一郎	中高一貫 4, 5 年生対象の 講義「もの づくり産業 は私たちの 土地をどう 変えてきた か」	愛知工業大学附属名電高 校	愛知工業大学附属名 電高校	2/1

3) 公開講座・セミナー等

講 座 名	主催	開催場所	日程
東大教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	4/22
鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう! (観察編)」	鴨川市	千葉演習林	4/23
休日公開	田無演習林	田無演習林	4/23
東京大学秩父演習林ボランティア養成講座	秩父演習林	秩父演習林	4/26
公開講座「松の世界」第1講	田無演習林	田無演習林	4/29
休日公開	田無演習林	田無演習林	5/7
春の一般公開～新緑の清澄・郷台畑～	千葉演習林	千葉演習林	5/10
ぶらり 東大の森さんぽ ～新緑の「カツラの谷」を訪ねる～	北海道演習林	北海道演習林	5/10
森林教育パートナー研修	田無演習林	田無演習林	5/15
公開講座「松の世界」第2講	田無演習林	田無演習林	5/21
見学コースを歩く	シデコブシの会	生態水文学研究所	5/21
「東京大学の森」育成資金イベント 「秩父演習林見学会」	秩父演習林	秩父演習林	5/27
第42回子ども樹木博士認定会	田無演習林	田無演習林	6/4
休日公開	田無演習林	田無演習林	6/4
とよた森林学校「森林入門セミナー」	豊田市役所産業部森林課	生態水文学研究所	6/4
ガイドツアー「しおじの会と東大秩父演習林を歩こう」	秩父演習林	秩父演習林	6/10
犬山市民総合大学環境学部 第1回講義	犬山市経済環境部環境課	犬山市	6/11
犬山市民総合大学環境学部 第2回講義	犬山市経済環境部環境課	生態水文学研究所	6/17
北の森づくり専門学院 北海道演習林の技術系業務の見学	北海道演習林	北海道演習林	6/22
公開講座「松の世界」第3講	田無演習林	田無演習林	6/24
大麓山ハイキング登山会	北海道演習林	北海道演習林	7/8
昆虫観察会	シデコブシの会	生態水文学研究所	7/16
癒しの森の朝もや音楽会	「癒しの森で親しむクラシック音楽と森の時間」実行委員会	富士癒しの森研究所	7/16
千葉県立中央博物館・千葉演習林連携事業「ナラ枯れのメカニズムと防除の実態」 「南房総地域で発生したナラ枯れ被害」	千葉県立中央博物館・千葉演習林	千葉県立中央博物館 (ハイブリッド)	7/22
千葉県立中央博物館・千葉演習林連携事業「夏の山の昆虫」	千葉県立中央博物館・千葉演習林	千葉演習林	7/22-23
公開講座「東大の森林で昆虫採集」	秩父演習林	秩父演習林	7/27
高校生のための森と海のゼミナール ～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～	千葉演習林・千葉大学海洋バイオシステム研究センター	千葉演習林・千葉大学海洋バイオシステム研究センター	7/27-29
公開セミナー (親子向け) 空知川の水はどこから来るの? ～森と川の関係を知る～	北海道演習林	北海道演習林	8/5
夏休み親子水生生物観察会	シデコブシの会	生態水文学研究所	8/6

講 座 名	主催	開催場所	日程
全国大学演習林協議会（全演協）令和5年秋季 総会現地見学会	全国大学演習林協議会	秩父演習林	9/29
東大教職員向け特別ガイド「きのこに親しむ」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	10/1
令和5年度農学部事務連絡会	田無演習林	田無演習林	10/5-6
神社山自然観察路一般公開	北海道演習林	北海道演習林	10/7
とよた森林学校「森林と災害」講座第1回	おいでん・さんそん とよた森林学校運営委員会	生態水文学研究所	10/22
公開講座「松の世界」第4講	田無演習林	田無演習林	10/29
森の文化祭	富士癒しの森研究所・癒し の森の会	富士癒しの森研究所	10/30
第43回「子ども樹木博士」認定会	田無演習林	田無演習林	11/5
休日公開	田無演習林	田無演習林	11/5
ガイドツアー「しおじの会と東大秩父演習林を 歩こう」	秩父演習林	秩父演習林	11/11
公開講座「伐っていかそう 伊豆の竹 -竹の間伐 とものづくり-」	樹芸研究所	樹芸研究所	11/12
犬山市秋のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所	11/19
体験型プロジェクト「犬山里山学」	名古屋経済大学	生態水文学研究所	11/21
公開講座「松の世界」第5講	田無演習林	田無演習林	11/25
休日公開	田無演習林	田無演習林	11/26
標石ツアー	シデコブシの会	生態水文学研究所	12/1
鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけ よう！（巣箱作り編）」	鴨川市	千葉演習林	12/2
東大教職員向け「リース作り体験会」	田無演習林	田無演習林	12/3
休日公開	田無演習林	田無演習林	12/3
公開講座「松の世界」第6講	田無演習林	田無演習林	12/23
森林博物資料館一般公開	千葉演習林	千葉演習林	2/3
一般開放記念公開講座「富士癒しの森研究所の 研究 2023」	富士癒しの森研究所	山中湖村公民館	2/22
一般開放記念ミニガイドツアー	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	2/22
ジビエを学ぶ会と巣箱作成会	シデコブシの会	生態水文学研究所	3/17
長期生態系プロットの計測と林業遺産を含む研 究林の見学	名古屋経済大学市邨高等学 校	生態水文学研究所	3/22

4) 学会・研究・市民教育等における講師等（招待講演を含む）

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
後藤 晋	第2回樹木医実践技術講座「気候変動が森林樹木に及ぼす影響を考える」	日本樹木医会	弥生講堂一条ホール	4/8
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs時代の環境・みどり・防災）	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ 3F 301 会議室（オンライン視聴あり）	4/13
三次充和・阿達 康真	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう（観察会）」	鴨川市	千葉演習林	4/23
相川美絵子	休日公開ガイドツアー	田無演習林	田無演習林	4/23
竹本周平ほか	田無演習林公開講座「松の世界」第1講	田無演習林	田無演習林	4/29
竹本周平	休日公開ガイドツアー	田無演習林	田無演習林	5/7
相川美絵子	歩こう!学ぼう!東大田無演習林観察会	練馬区立関町リサイクルセンター	田無演習林	5/8
竹本周平ほか	田無演習林公開講座「松の世界」第2講	田無演習林	田無演習林	5/21
田中延亮	東大演習林・森林学習プログラム推進事業 森林学習サポーター研修会	富良野市生涯学習センター	北海道演習林	5/24
鈴木智之・小池 征寛	東大演習林・森林学習プログラム推進事業 森林学習サポーター認定研修とスキル向上のための研修会	富良野市生涯学習センター	北海道演習林	6/1
竹本周平	樹木講座	自由学園リビングアカデミー	自由学園南沢キャンパス	6/3
石橋整司・竹本周平・相川美絵子・栗田直明・石浦恭子	子ども樹木博士	西東京市「子ども樹木博士」を育てる会（田無演習林）	田無演習林	6/4
蔵治光一郎	とよた森林学校「森林入門セミナー」第3回「森林の公益的機能・防災」	豊田市	藤岡交流館および生態水文学研究所 赤津研究林	6/4
久本洋子	森林・林業講演会「放置竹林の駆除と広葉樹林誘導に有効な稈伐採と塩素酸ナトリウム・クロレートS土壌散布を組み合わせた手法の紹介」	鳥取県中部森林組合	鳥取県立倉吉体育文化会館	6/7
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり合同講座	かわさき市民アカデミー	蓼科中央高原、横谷峡、尖石遺跡	6/8
浅野友子	犬山市民総合大学環境学部 第1回講義「はげ山に森林が戻って水と土はどう変化したか」	犬山市	犬山市民交流センター「フロイデ」	6/11
齋藤暖生	ミラツクセミナー『多元的な環境のためのデザイン』第3回「自然環境と共につくるコモンズ」	NPO 法人ミラツク	オンライン	6/13
福岡 哲	ゴルフ場の自然返還事業における育苗方法について	NPO 法人富良野自然塾	北海道演習林	6/19
松井理生・井上 崇	東京大学北海道演習林における天然林施業の見学会	次世代の会（若手の設計士と工務店の会）	北海道演習林	6/21
蔵治光一郎	「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」シンポジウム「緑の流域治水×地域気象データ～災害激甚化する国土について考える～」講演「流域治水と森林」	熊本県立大学地域共創拠点運営機構	先端科学技術研究センター3号館南棟 ENEOS ホール（オンライン視聴あり）	6/23

教職員名	講 演 名	主催	開催場所	日程
楠本 大・竹本 周平ほか	田無演習林公開講座「松の世界」第 3 講	田無演習林	田無演習林	6/24
澤田晴雄・岸本 光樹	大山市民総合大学環境学部 第 2 回 講義「東京大学犬山研究林 ～現地 講義～」	犬山市	生態水文学研究所 犬山研究林	6/24
尾張敏章・田中 延亮・松井理 生・及川 希・ 犬飼 浩・安里 咲空良・高橋功 一・岡平卓巳・ 井上 崇・小池 征寛・笠原久 臣・石崎雄太・ 佐藤晴樹・福士 憲司・平間睦 樹・大島章生・ 延 栄一	天然林施業に関する現地見学	北海道森林管理局上 川中部森林管理署	北海道演習林	6/28
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみ どり講座（SDGs 時代の環境・みど り・防災）	かわさき市民アカデ ミー	川崎市生涯学習プ ラザ 3F 301 会議室 （オンライン視聴 あり）	6/29
蔵治光一郎	となみの誇りー水資料館・庄川美術 館 未来に生かす講演と音楽の集 い「健全な水循環と持続可能な流域 社会」	未来に生かす講演と 音楽の集い実行委員 会	庄川生涯学習セン ター多目的ホール	7/2
蔵治光一郎	桂川・相模川流域協議会流域治水オ ンライン勉強会講義「流域治水と森 林」	桂川・相模川流域協議 会 流域シンポジウ ム実行委員会	オンライン	7/8
松井理生	演習林内での天然性林施業の択伐 及び皆伐後の地拵え、植栽の実施施 業	山梨県中北地区県有 林造林推進協議会	北海道演習林	7/10
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみ どり講座（SDGs 時代の環境・みど り・防災）	かわさき市民アカデ ミー	川崎市生涯学習プ ラザ 3F 301 会議室 （オンライン視聴 あり）	7/13
鎌田直人・楠本 大	菌類から生物多様性を考えるー1 ナラ枯れのメカニズムと防除の現 状 南房総地域で発生したナラ枯れ被 害	千葉県立中央博物館・ 東京大学千葉演習林	千葉県立中央博物 館	7/22
蔵治光一郎	とよた森林学校「地域の森・健康診 断」第 2 回講義	一般社団法人おいで ん・さんそん とよた 森林学校運営委員会	敷島公民館	7/22
村川功雄	千葉県立中央博物館・東京大学千葉 演習林連携事業「夏の山の昆虫」	千葉県立中央博物館・ 千葉演習林	千葉演習林	7/22- 23
當山啓介・塚越 剛史	高校生のための森と海のゼミナール ～大学の先生と考える環境問題 と生物多様性～	千葉演習林・千葉大学 海洋バイオシステム 研究センター	千葉演習林・千葉 大学海洋バイオシ ステム研究センタ ー	7/27- 29
松井理生	上川管内における優良広葉樹資源 視察のため	上川総合振興局南部 森林室	北海道演習林	7/31
尾張敏章	「林分施業法」及び「人工林の「公 益的機能と効率的な木材生産を両 立する施業の実証実験」	関東弁護士会連合会 環境保全委員会	北海道演習林	8/5

教職員名	講 演 名	主催	開催場所	日程
齋藤暖生	東日本入会・山村研究会研究大会講演「自然に生きる術を考え直す:『森の経済学』をめぐる思索」	東日本入会・山村研究会	岩手県立大学アイーナキャンパス	8/25
齋藤暖生	岩手・木質バイオマス研究会第 22 回定例セミナー・いわて森林インストラクター会研修会「薪暮らしの楽しみと癒しの森づくり」	岩手・木質バイオマス研究会・いわて森林インストラクター会	外山森林公園	8/26
尾張敏章・松井理生・井上崇・及川 希・高橋功一・岡平卓巳	栄林会青年部 現地研修会	栄林会	北海道演習林	9/13
松井理生	森林施業の総合学習	酒井秀夫	北海道演習林	9/19
竹本周平ほか	田無演習林公開講座「松の世界」第 4 講	田無演習林	田無演習林	9/23
齋藤暖生・渡邊良広	工芸用白炭製炭技術研修（窯修繕，製炭，意見交換会）講演「木材利用史からみた桶・樽」	伝統工芸木炭生産技術保存会	樹芸研究所	9/27
竹本周平（分担）	特別ガイド「きのこに親しむ」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	10/1
尾張敏章	林分施業法が実践され、約 60 年を経過した森林の現況を学ぶ	（株）湘南ウッドロード	北海道演習林	10/2-3
松井理生・大川あゆ子	優良森林視察研修会	帯広の森サポーターの会	北海道演習林	10/3
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs 時代の環境・みどり・防災）	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ 3F 301 会議室（オンライン視聴あり）	10/5
山田利博	樹木医研修「幹の外科技術と機器による診断」	日本緑化センター	実習：研究学園駅前公園，講義：オンデマンド（オンライン）	実習 10/6,27
尾張敏章	天然林の生態および施業の見学	北海道立北の森づくり専門学院	北海道演習林	10/7
三次充和	公民館活動「松丘探検隊」地域の事を学ぶ	君津市上総交流センター	千葉演習林	10/13
尾張敏章・松井理生・及川 希・高橋功一・岡平卓巳	JICA 研修「地域住民の参加による持続的な森林管理」	アジア航測株式会社	北海道演習林	10/17
尾張敏章・松井理生・井上崇・犬飼 浩・片平可奈・小池征寛・笠原久臣・算用子麻未・石崎雄太・高橋功一・岡平卓巳・千井野聡・福士憲司・平間睦樹・大島章生・延 栄一	天然林施業実習	北海道立北の森づくり専門学院	北海道演習林	10/19-20
齋藤暖生	PARA 神保町『共有の知恵レクチャーシリーズ』「コモンズをめぐる知恵と新しいコモンズの可能性」	株式会社 PARA	PARA 神保町	10/21

教職員名	講 演 名	主催	開催場所	日程
蔵治光一郎	とよた森林学校「森林と災害～豪雨災害を忘れない～」第1回「水害、土砂災害と森林の働き」	一般社団法人おいでん・さんそん とよた森林学校運営委員会	生態水文学研究所 赤津宿泊施設講義室・赤津研究林	10/22
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs 時代の環境・みどり・防災）	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ 3F 301 会議室（オンライン視聴あり）	11/2,1/ 11,1/25
竹本周平	樹木講座	自由学園リビングアカデミー	自由学園南沢キャンパス	11/4
石橋整司・前原忠・相川美絵子・栗田直明・石浦恭子・小幡理恵	子ども樹木博士	西東京市「子ども樹木博士」を育てる会（田無演習林）	田無演習林	11/5
蔵治光一郎	とよた森林学校（森林と災害～東海豪雨を忘れない～）第2回「間伐すれば 人工林はよみがえる」	一般社団法人おいでん・さんそん とよた森林学校運営委員会	小原交流館・大洞市有林（水源涵養モニタリング研究サイト）	11/5
松井理生・小林徹行・福土憲司・平間睦樹・大島章生・延栄一	上川総合振興局林務関係若手職員職場研修	上川総合振興局産業振興部	北海道演習林	11/9
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり合同講座	かわさき市民アカデミー	宮ヶ瀬ダムとその周辺	11/9
鎌田直人	昆虫の大発生を防ぐ菌類と助ける菌類	神奈川県立生命の星・地球博物館友の会	神奈川県立生命の星・地球博物館	11/11
竹本周平	「コケ」と名のつく生き物	我孫子市鳥の博物館	手賀沼遊歩道	11/11
松井理生・小林徹行・中川雄治・高橋功一・千井野聡・井上崇・石崎雄太	天然林素材生産現場の見学	北海道森林管理局 上川中部森林管理署	北海道演習林	11/16
蔵治光一郎	熊本県立大学オンライン特別講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」第12回「森林の保水力と流域治水」	熊本県立大学	オンライン	11/16
相川美絵子・栗田直明・石浦恭子	田無演習林見学会・リースづくり体験会	大山研究林利用者協議会	田無演習林	11/17
澤田晴雄・岸本光樹	「犬山の森」秋のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所 犬山研究林	11/19
水内佑輔・岸本光樹	体験型プロジェクト「犬山里山学」	名古屋経済大学	生態水文学研究所	11/21
齋藤暖生	GEN なんでも勉強会「『みんなの自然』を求めて」	認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク	オンライン	11/21
三次充和	日本林業技士会千葉県支部 現地見学会	日本林業技士会 千葉県支部	千葉演習林	11/24
前原 忠・相川美絵子	休日公開ガイドツアー	田無演習林	田無演習林	11/26
三次充和・阿達康眞	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう（巣箱づくり）」	鴨川市	千葉演習林	12/2

教職員名	講 演 名	主催	開催場所	日程
石橋整司・前原忠・相川美絵子・栗田直明・石浦恭子・小幡理恵	リース作り体験会	田無演習林	田無演習林	12/3
蔵治光一郎	連続展示「地域協創流域治水展」第8回 「流域治水と森林」トークカフェ講演「森林の保水力と木材ビジネスは両立できるか」	熊本県立大学地域共創拠点運営機構	肥後銀行人吉支店 2階大会議室	12/16
才木道雄	2023 秩父サイエンスアカデミー「森林性鳥類のモニタリングー東京大学秩父演習林での取り組みの事例ー」	NPO NPU（日本薬科大学）サイエンスアカデミア	秩父看護専門学校	12/23
蔵治光一郎	緑の流域治水のリテラシーの向上に関する勉強会講演「流域治水と森林」	熊本県立大学 緑の流域治水研究室	熊本県庁防災センター 313 会議室（1/9），多良木町交流館石倉（1/10）	1/9,10
松井理生・井上崇・犬飼 浩	東京大学北海道演習林 第2回素材販売における現地見学	武部建設株式会社	北海道演習林	1/11
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs 時代の環境・みどり・防災）	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ 3F 301 会議室（オンライン視聴あり）	1/11,1/25
山田利博	樹木腐朽と巨木保全	兵庫県みどりのヘリテージマネージャー会	たんば黎明館	1/27
竹本周平	樹木講座	自由学園リビングアカデミー	自由学園南沢キャンパス	2/3
蔵治光一郎	第2回東京大学地域連携シンポジウム講演「演習林と所在地自治体が連携した取り組み」	東京大学社会連携本部，未来社会協創推進本部社会連携分科会	山上会館（オンライン視聴あり）	2/7
蔵治光一郎	第七回 COI-NEXT: ClimCORE 勉強会講師「流域治水の要素技術としての森林マネジメントシステムの可能性」	ClimCORE	先端科学技術研究センター4号館 1階 RCAST 学舎	2/16
前原 忠・栗田直明	「再発見！都市林・屋敷林の魅力，大切さー専門家，関係者から現地で学ぶー」	保谷駅前公民館	田無演習林	2/17
蔵治光一郎	グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン 2024 全国大会ミーティング企画1「森林の多面的機能の活用に向けて」講演「日本の森林は多面的機能への期待に応えられるか」	グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン 2024 全国大会実行委員会	オンライン	2/18
蔵治光一郎	グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン 2024 全国大会ミーティング企画6「球磨川流域における NbS をベースとした流域治水の取り組み1」講演「森林の治水効果を どう考えればよいか」	グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン 2024 全国大会実行委員会	オンライン	2/18
後藤 晋	トドマツの種苗配布に関わる意見交換会での話題提供	北海道水産林務部，道総研森林研究本部	札幌 第2水産ビル 5E 会議室	2/20
蔵治光一郎	さがみはら地球温暖化対策協議会研修会講義「相模原市の森林が温暖化防止に寄与できること」	さがみはら地球温暖化対策協議会	相模原市民会館 第2大会議室	2/21

教職員名	講 演 名	主催	開催場所	日程
福井 大・三浦直子・西山教雄	一般開放記念公開講座「富士癒しの森研究所の研究 2023」	富士癒しの森研究所	山中湖村公民館	2/22
竹本周平	みんなの「てが宝」をみつけよう	我孫子市鳥の博物館	手賀沼遊歩道	3/9
蔵治光一郎	県民講座「長良川河口堰の最適運用について～韓国・洛東江の先進事例から学ぶ～」講演「『長良川のアユと河口堰 川と人の関係を結びなおす』（農文協）の紹介」	愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会	ウイंक あいち 10 階 1002 会議室	3/9
蔵治光一郎	映画「サステナ・フォレスト～森の国の守人たち～」舞台登壇	TBS テレビ	ヒューマントラストシネマ渋谷	3/16
前原 忠	中高生向け春のワークショップ スキル・アカデミー 土に学ぶ, 五感で考える	エルメス財団	田無演習林	3/25

5) 演習林報告・演習林

演習林報告

第 149 号 (2023 年 9 月 20 日 発行)

開始頁	終了頁	著者	表題
1	26	井口和信	風害による餌資源量の増加がヤツバキクイムシの繁殖に及ぼす影響

演習林

第 68 号 (2023 年 9 月 20 日 発行)

開始頁	終了頁	著者	表題
1	5	岸本光樹	生態水文学研究所赤津研究林白坂小流域固定試験地において衝突板トラップに捕獲されたコガネムシ上科食糞群

第 69 号 (2024 年 3 月 27 日 発行)

開始頁	終了頁	著者	表題
1	10	當山啓介・藤平晃司・村川功雄	東京大学千葉演習林のスギ・ヒノキ高齢人工林試験地における各立木の胸高線地上高の約 100 年間の変化
		AYE MYAT MYAT PAING・Shufen CHEN・Kyoko ARAKI・Takaki AIHARA・Ragini SARMAH・Mitsuru HIROTA・Yoshihiko TSUMURA・Nobuhiro TOMARU・Kousuke HOMMA・Masahiko KADOMATSU・Hajime KOBAYASHI・Atsuhiko IIO・Katsuhiko OSUMI・Dai NAGAMATSU・Masahiro TAKAGI・Haruhiko TANEDA・Noriyuki KIMURA・Satoshi FUKUOKA・Yoko HISAMOTO・Susumu GOTO	Site characteristics of <i>Betula ermanii</i> range-wide provenance trials [revised version]
23	29	岸本光樹・松井理生・高橋功一・澤田晴雄・井上 淳・高德佳絵・黒木里香・浅野友子	生態水文学研究所赤津研究林白坂南北谷小流域日流出量観測報告 (II) (自 2008 年 1 月至 2015 年 12 月)
31	36	大村和也・高德佳絵・原口竜成・才木道雄・高野充広・吉田弓子	秩父演習林における針葉樹人工林試験地成長資料 (2019~2022 年)
37	57	岸本光樹・澤田晴雄・井上 淳・高德佳絵・梁瀬桐子	生態水文学研究所ヒノキ人工林各種試験地の成長資料
59	60	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	演習林年報 2022
61	69	里見重成・藤平晃司・當山啓介	東京大学千葉演習林のスギ人工林長伐期施業試験地の成長資料
71	78	吉田弓子・高野充広・大村和也	秩父演習林における二次林試験地成長資料 (2022)
79	97	東京大学演習林長期生態系データ生物部門昆虫分野	ピットフォールトラップにより東京大学演習林で捕獲されたオサムシ科甲虫相の目録 (2008 年~2012 年)
99	108	東京大学演習林	東京大学演習林水文観測・水質分析報告 (2021 年 1 月~2021 年 12 月)
109	131	東京大学演習林	東京大学演習林気象報告 (2022 年 1 月~2022 年 12 月)

6) morikara

■第1号■ 2023年5月10日発行

<Topics>

- ・生態水文学研究所設立100周年
- ・秩父演習林とサントリー社の連携による不成熟造林地の天然林誘導
- ・富良野市主催のエゾシカ捕獲事業
- ・田無演習林の休日公開
- ・国立台湾大学 炭素クレジット取得のため千葉演習林を視察
- ・公開講座「樹木のボディランゲージ」を対面で開催
- ・ナラ枯れ被害木の簡易製材
- ・カカオが名古屋に
- ・楠本大講師が2022年度樹木医学会賞を受賞

<教育>

演習林における教養教育

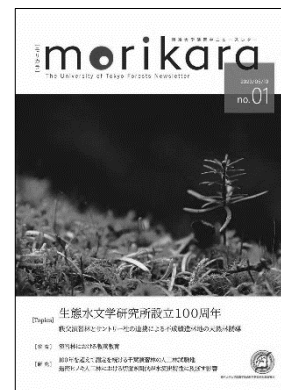
<研究紹介>

- ・100年を超えて測定を続ける千葉演習林の人工林試験地（森林圏生態社会学研究室 千葉演習林 當山啓介）
- ・過密ヒノキ人工林における切置き間伐が水流出特性に及ぼす影響（森林流域管理学研究室 北海道演習林 田中延亮・博士課程 Mohd Ghaus Ibtisam Binti）

<演習林のおしごと>

演習林の怖い話

<morkara 川柳>



■第2号■ 2023年11月10日発行

<Topics>

- ・演習林産木材の新たな活用の模索
- ・技術職員と教員の受賞つぎつぎと
- ・千葉演習林「高校生ゼミナール」開催
- ・東京大学の森育成資金イベント「秩父演習林見学会」を開催
- ・富士癒しの森研究所の一般開放に向けて
- ・演習林画像データアーカイブズの紹介
- ・ふるさと納税で「砂出し」体験
- ・田無演習林で公開講座「松の世界」を開講
- ・富良野市森林学習サポーターのスキルアップに協力

<教育>

演習林ゼミ・センターゼミの紹介

<研究紹介>

- ・樹木は微生物の感染からどう身を守るのか？（森林生物機能学研究室 千葉演習林 楠本大）
- ・大雨時の山地流域におけるピーク生起時刻の遅れは斜面ではなく主に河川で生じる（森林流域管理学研究室 生態水文学研究所 浅野友子）

<演習林のおしごと>

台風のあと

<morkara 川柳>



7) 新聞・雑誌・放送等

演習林名	メディア	日付	内容
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.4.7	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：すぐそばに、自分なりの春」（斎藤講師）
企画部	日本経済新聞・日本経済新聞電子版	2023.4.12	「キャンパス発この一品」演習林の木材活用した箸の紹介と蔵治教授のコメント
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.4.21	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：つわものを食す幸せ」（斎藤講師）
千葉演習林	NHK「ニュースLIVE！ゆう5時」	2023.5.1	千葉演習林の「郷台モウソウチク開花周期実証試験地」について紹介
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.5.5	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：節目、節目と人は言うけれど」（斎藤講師）
千葉演習林	房日新聞	2023.5.10	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（観察編）」の様子
北海道演習林	北海道新聞	2023.5.11	「新緑の『カツラの谷』を訪ねる」の様子
企画部	矢作新報	2023.5.12	「やはぎウィークリー」蔵治教授が委員を務める水循環基本法フォローアップ委員会の矢作川流域視察についての記事
企画部	矢作新報	2023.5.12	「山里NPO雑記帳」蔵治教授が講師を務める「森の健康診断」講座開催のお知らせ記事
北海道演習林	日本テレビ「所さんの目がテン！」	2023.5.14	「あまり使われていない？広葉樹の本当のポテンシャル」で北海道演習林から提供した広葉樹の伐採映像とマカバの立木画像が使用された
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.5.19	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：風まかせ、生き方さまざま」（斎藤講師）
樹芸研究所	岩手日報・日報総研マンスリーレポート5月号	2023.5.31	斎藤講師のインタビュー記事
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.6.2	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：あきらめるという作法」（斎藤講師）
秩父演習林	東奥日報（青森県紙）	2023.6.2	クロチク開花についてのコメント（久本助教）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.6.16	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：身近なのに知り難い」（斎藤講師）
秩父演習林	伊賀タウン情報ユ- Vol.846	2023.6.24	ハチク開花についてのコメント（久本助教）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.6.30	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：机にして知った、木の表情」（斎藤講師）
富士癒しの森研究所	教養学部報	2023.7.3	駒場キャンパスの桜史と植栽管理のなかで、富士癒しの森研究所のマメザクラの紹介
北海道演習林	北海道新聞	2023.7.11	大麓山ハイキング登山会の様子
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.7.14	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：木の宿命 挑むか、いなすか」（斎藤講師）
企画部	矢作新報	2023.7.28	矢作川流域3県の全4森林組合による合同研修会の様子（蔵治教授）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.7.28	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：自然まかせの音楽会、聴き方自由」（斎藤講師）
北海道演習林	北海道新聞	2023.8.8	北海道演習林内を散策し川の生き物と森の関係を学ぶ親子セミナーの様子
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.8.11	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：戦争 草木までも総動員」（斎藤講師）

演 習 林 名	メ デ ィ ア	日 付	内 容
千葉演習林	朝日放送テレビ「NEWS おかえり」	2023.8.25	村川技術専門員の撮影した「熱殺峰球（ミツバチの必殺技）」（千葉演習林 Facebook 掲載）の動画が放送された
富士癒しの森研究所	山梨放送「ワイドニュース」	2023.8.25	カエントケについて
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.8.25	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：野の味に手間かけ、晴れの食」（斎藤講師）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.9.7	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：薪で火、ものという生身の知恵」（斎藤講師）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.9.21	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：キノコと台風のつながり」（斎藤講師）
北海道演習林	北海道新聞	2023.9.28	北海道演習林の自然を学ぶ「森林学習プログラム」学習の様子
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.10.5	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：ヒガンバナの謎に思う」（斎藤講師）
北海道演習林	北海道新聞	2023.10.11	神社山自然観察路一般公開の様子
北海道演習林	北海道新聞	2023.10.16	南富良野町の牧場でシカ被害に関してコメント（鈴木助教）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.10.19	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：暮らしが生んだマツタケ文化」（斎藤講師）
企画部	林業技士会ニュース No.165	2023.10.25	蔵治教授の記事「大雨による路網損壊未然防止のための「林業技士」の心得」が掲載
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.11.2	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：キノコ採りは怠け者？」（斎藤講師）
北海道演習林	北海道新聞	2023.11.16	「<ふらの百景>11 樹海峠 東大演習林、眼下に一望」に北海道演習林の記事
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.11.16	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：飯びつ、味わう年月と技」（斎藤講師）
生態水文学研究所	静岡新聞	2023.11.22	74 林班のマツ枯れに関する記事
企画部	朝日新聞（中部地方）・朝日新聞デジタル	紙面：2023.11.28-12.1 デジタル：2023.11.22	「29 年目の長良川河口堰」連載 3 回目に蔵治教授が提供した洛東江河口堰の画像が掲載
企画部	熊本日日新聞・熊本日日新聞電子版	2023.11.28	企画展「流域治水と森林」で蔵治教授が関わる個別相談会やトークイベントについて
北海道演習林	北海道新聞・北海道新聞デジタル	紙面：2023.11.28 デジタル：2023.11.27	北海道演習林の記事<富良野 樹海のお手伝い 東大北海道演習林のいま>上：森林管理スマート化
北海道演習林	北海道新聞・北海道新聞デジタル	2023.11.29	北海道演習林の記事<富良野 樹海のお手伝い 東大北海道演習林のいま>中：高品質の木材 安定供給
北海道演習林	北海道新聞・北海道新聞デジタル	2023.11.30	北海道演習林の記事<富良野 樹海のお手伝い 東大北海道演習林のいま>下：市と連携 この学び場に
秩父演習林	浦和経済新聞電子版	2023.11.30	ハチク開花についてのコメント（久本助教）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.11.30	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：めぐる秋、恵みの落ち葉」（斎藤講師）
千葉演習林	房日新聞	2023.12.14	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（巣箱編）」の様子
企画部	朝日新聞（熊本版）	2023.12.27	人吉・球磨地域意見交換の様子と蔵治教授のコメント

演習林名	メディア	日付	内容
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2023.12.28	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：旬の山仕事，重なるリズム」（斎藤講師）
全演	NHK E テレ「出川哲朗のクイズほお〜スクール」	2024.1.15	東京大学がテーマに取り上げられ，演習林に関連したクイズが出題された
千葉演習林	林業技士会ニュース No.166	2024.1.15	令和5年度・「茨城・千葉・埼玉県三支部現地研修会 in 千葉」で千葉演習林の三次技術専門職員が講師として視察案内をした記事
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2024.1.18	森と暮らしをめぐるコラム「斎藤暖生の森からみれば：山の神に祈る，恵みと安全」（斎藤講師）
北海道演習林	北海道新聞・北海道新聞デジタル	紙面： 2024.1.29 デジタル： 2024.1.28	北海道演習林材出品の旭川銘木市の記事
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2024.2.1	森と暮らしをめぐるコラム「キノコの山ばなれ」（斎藤講師）
北海道演習林	北海道新聞・北海道新聞デジタル	2024.2.19	北海道演習林設置 125 周年林業スマート化推進（尾張准教授）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2024.2.15	森と暮らしをめぐるコラム「雪と生きるための技」（斎藤講師）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2024.2.29	森と暮らしをめぐるコラム「「スター」の魅力 その陰に」（斎藤講師）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2024.3.14	森と暮らしをめぐるコラム「暮らしの中の竹，得意技はいま」（斎藤講師）
樹芸研究所	朝日新聞・朝日新聞デジタル	2024.3.28	森と暮らしをめぐるコラム「時の重なり，恵みに感謝」（斎藤講師）
北海道演習林	フリーマガジン JP01 特別号ゼロワンエリア<富良野市>	2024.3.29	北海道演習林の記事

8) 地方自治体等との協定

演習林名	自治体等の名称	協定の名称	期間
千葉演習林	千葉県鴨川市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林と鴨川市との間における地域交流に関する協定書	2009.7.1～
千葉演習林	千葉県君津市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林と君津市との間における地域交流に関する協定書	2009.7.21～
千葉演習林	千葉県立中央博物館	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林と千葉県立中央博物館との連携協力に関する協定書	2021.3.25～
北海道演習林	北海道富良野市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林と北海道富良野市との交流に関する協定書	2016.1.13～
北海道演習林	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林と国立大雪青少年交流の家との連携・交流に関する協定書	2018/10/18～
北海道演習林	公益財団法人アイヌ民族文化財団	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林と公益財団法人アイヌ民族文化財団との連携に関する協定書	2022/7/1～
秩父演習林	埼玉県秩父市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林と秩父市との間における地域交流に関する協定書	2019.3.26～
田無演習林	多摩六都科学館	東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構と多摩六都科学館の連携協力に関する協定（田無演習林は直接は協定は結んでいないが機構は田無演習林の教育研究機能を組み込んで設立されているので間接的な関係にある）	2017.6.3～
生態水文学研究所	愛知県瀬戸市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所と瀬戸市との間における地域交流に関する協定書	2011.11.10～
生態水文学研究所	愛知県犬山市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所と犬山市との間における地域交流に関する協定書	2011.6.1～
生態水文学研究所	静岡県湖西市	東京大学大学院農学生命科学研究科と静岡県湖西市との連携・協力に関する協定書	2022.7.15～
富士癒しの森研究所	山梨県山中湖村	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所と山中湖村との間における地域交流に関する協定書	2017.3.7～
樹芸研究所	静岡県南伊豆町	東京大学大学院農学生命科学研究科と静岡県南伊豆町との連携・協力に関する協定書	2018.10.29～

9) SNS の運用

演習林名	運用媒体	アクセス URL
千葉演習林	Facebook	https://www.facebook.com/東京大学-千葉演習林-/509050409292447/
千葉演習林	Instagram	https://www.instagram.com/chibaen_insta/
北海道演習林	Facebook	https://www.facebook.com/東京大学北海道演習林/101023278753701/
田無演習林	X (旧 Twitter)	https://twitter.com/tanashi_forest
生態水文学研究所	Tumblr	https://www.tumblr.com/blog/view/eri-utf
富士癒しの森研究所	Facebook	https://www.facebook.com/fuji.iyashinomori
富士癒しの森研究所	Blogger	https://fpri-utf.blogspot.com/
樹芸研究所	Facebook	https://www.facebook.com/people/東京大学樹芸研究所/100094725966803/

4. 国際

1) 交流事業・国際シンポジウム・国際共同研究

交流事業

相手大学および機関名	国名	協定締結の有無	交流期間	目的
ソウル国立大学校農学生命科学院	韓国	有		

国際シンポジウム

参加者氏名	シンポジウム名	主 催	開催地	日 程
石橋整司・前原 忠	XIII EVP MC 2023 (European Vertebrate Pest Management Conference)	Academic conference secretariat of EVP MC 2023	Florence , Italy	2023/8/28-9/1
尾張敏章	The 20th IBFRA Conference (IBFRA 2023): "Climate Resilient and Sustainable Forest Management"	The International Boreal Forest Research Association	Helsinki , Finland (Hybrid)	2023/8/28-31
尾張敏章・鈴木智之	IUFRO 1.05 & 1.09 Conference: "Uneven-aged silviculture: insights into forest adaptation in times of global change"	Mendel University in Brno	Brno, Czech Republic	2023/9/18-23
久保田耕平・蔵治光一郎・鎌田直人・尾張敏章	NTU-UTokyo Joint Conference 2023: Plenary Session	National Taiwan University	Taipei, Taiwan	2023/12/7
久保田耕平・蔵治光一郎・鎌田直人・尾張敏章	NTU-UTokyo Joint Conference 2023: Parallel Session "The sustainable future of agriculture: Challenges and resilience"	National Taiwan University	Taipei, Taiwan (Hybrid)	2023/12/7
久保田耕平・石橋整司・山田利博・蔵治光一郎・鎌田直人・尾張敏章・浅野友子・楠本大・斎藤暖生・田中延亮・鈴木智之・竹本周平・大川あゆ子・平間睦樹・延 栄一・大島章生	NTU-UTokyo Joint Conference 2023: Parallel Session "Challenges and Progresses in Forest Science and Biomaterial Sciences between NTU and UTokyo"	National Taiwan University	Taipei, Taiwan (Hybrid)	2023/12/6
福井 大	The 8th International Bio-Logging Science Symposium	International Bio-Logging Society	Tokyo, Japan	2024/3/4-8
福井 大	International Symposium on Hierarchical Bio-Navigation	Grant-in-Aid For Transformative Research Areas (A), Hierarchical Bio-navigation	Tokyo, Japan	2024/3/11-12
石橋整司・斎藤暖生・藤原章雄	International Research Meeting of Forest Culture Science in East Asia (FOCUSEA)	Executive committee of FOCUSEA	Yamaguchi, Japan	2024/3/16-20

国際共同研究

氏名	研究課題	共同研究者所属	氏名	国籍
鎌田直人	Environmental factors and phylogenetic constraints influencing a risk of tree mortality by ambrosia beetle attacks	カセサート大学	Sunisa Sanguansub	タイ
		チェンマイ大学	Sawai Buranapanichpan	タイ
		チェンマイ大学	Teerapong Saowaphak	タイ
		マレーシアサバ大学	Maria Lourdes	マレーシア
		東海大学（台湾）	Li-Wei Wu	台湾
		国立台湾大学	Chun-Lin Li	台湾
鎌田直人・楠本大・竹本周平	Environmental factors and phylogenetic constraints influencing a risk of tree mortality by ambrosia beetle attacks	ガジャマダ大学	Sri Rahayu	インドネシア
鎌田直人	アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築	国立台湾大学	Biing T. GUAN	台湾
鎌田直人	ブナアオシャチホコの密度変動に関する研究	海南大学	Hui Zhang	中国
蔵治光一郎	Impact of climate change on rainfall variability in Mae Chaem Watershed and Whole Mountainous Area in the Upper Chao Phraya River Basin	Office of the National Water Resources	Nilobol Aranyabhaga	タイ
蔵治光一郎	Hydrological Monitoring in Mount Alab and Inobong, Crocker Range Park, Sabah	マレーシアサバ大学	Anand Nainar	マレーシア
浅野友子	Hydrological effects of forest regrowth in steep mountain catchments	University of Zurich	Ilja van Meerveld	スイス
尾張敏章・田中延亮・鈴木智之	デジタル技術と3次元空間情報を活用した近自然型林業の計画・管理システム構築と実証	リュブリャナ大学	Andrej Bončina, Matija Klopčič, Matevž Mihelič	スロベニア

2) 海外渡航

氏名	所属演習林	行き先	用務	出発日	帰着日
蔵治光一郎	企画部	韓国	ナクトンガン河口堰視察	2023/7/3	2023/7/5
石橋整司	田無演習林	中国	体験活動プログラム	2023/7/31	2023/8/7
竹本周平	田無演習林	中国	体験活動プログラム	2023/7/31	2023/8/7
鎌田直人	千葉演習林	タイ	キクイムシ類標本整理	2023/8/24	2023/9/4
前原 忠	田無演習林	イタリア	XIII EVPCM 2023 でのポスター発表	2023/8/26	2023/9/3
石橋整司	田無演習林	イタリア	XIII EVPCM 2023 でのポスター発表	2023/8/26	2023/9/3
三浦直子	富士癒しの森研究所	エジプト	GeoSpatial Week 2023 で研究発表	2023/8/31	2023/9/10
尾張敏章	北海道演習林	チェコ	異齢林施業に関する IUFRO 国際会議に参加のため	2023/9/16	2023/9/27
山田利博	秩父演習林	中国	講義	2023/11/26	2023/11/29
楠本 大	千葉演習林	中国	講義	2023/11/26	2023/11/29
鎌田直人	千葉演習林	台湾	キクイムシ類研究打ち合わせ・NTU-UTokyo Joint Conference 2023 に参加	2023/11/30	2023/12/8
尾張敏章	北海道演習林	台湾	SGU の一環として、NTU-UTokyo Joint Conference 2023 に参加するため	2023/12/5	2023/12/8
蔵治光一郎	企画部	台湾	UTokyo-NTU Joint Conference 2023:	2023/12/7	2023/12/8
鎌田直人	千葉演習林	マレーシア	キクイムシ類標本整理	2024/2/26	2022/3/5
尾張敏章	北海道演習林	スロベニア	二国間国際共同研究事業「デジタル技術と3次元空間情報を活用した近自然型林業の計画・管理システム構築と実証」にかかる研究打合せおよび現地下見	2024/3/2	2024/3/11
鎌田直人	千葉演習林	タイ	キクイムシ類標本整理・データ解析	2022/3/11	2022/3/21

3) 外国人研究者・学生等の来訪

演習林名	来 訪 目 的	日 程	国	人数
千葉演習林	千葉演習林におけるスギ及びヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地に関する研究	2023/4/24-28 2023/5/15-26 2023/6/26-30 2023/7/18-24 2023/9/15-22 2024/1/5-11 2024/2/19-25 2024/3/14-18	ミャンマー	1
千葉演習林	2023 千葉演習林利用者交流会	2023/5/25	中国・ミャンマー	2
千葉演習林	地殻変動に関連する電磁気現象の解明	2023/5/27	中国	1
千葉演習林	地域性種苗トレーサビリティ普及促進のための管理手法の研究	2023/6/26	イギリス	1
千葉演習林	全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンバの応答解明	2023/8/8	ミャンマー	1
千葉演習林	同上	2023/11/28	中国・ミャンマー	2
千葉演習林	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	2023/11/27-30	中国	2
千葉演習林	研究集会「炭酸塩コロキウム」の開催	2024/3/8-10	インド	1
北海道演習林	日本と中国におけるブナ科群集の分布パターン及び堅果の多様性に関する研究	2023/4/3-12/31	中国	1
北海道演習林	Classification of the composition of mixed conifer-broadleaf forests by integrating Unmanned Aerial Vehicle (UAV) imagery and machine learning algorithm	2023/4/3-14	ミャンマー	1
北海道演習林	Estimation of Forest Carbon Stocks using a Combination of Field Measurement, LiDAR and UAV Technology - Implications for REDD+ Monitoring	2023/4/3-14	スリランカ	1
北海道演習林	森林施業手法がもたらす水源涵養機能への影響解明	2023/5/15-29 2023/7/27-8/7 2023/10/4-17 2024/2/27-3/9	中国	1
北海道演習林	土地利用形態のマダニ分布への影響	2023/5/16-19	オーストラリア	1
北海道演習林	土地利用形態のマダニ分布への影響	2023/6/13-16	オーストラリア・コロンビア・タイ	3
北海道演習林	天然林管理業務への女性参画に関する実態調査	2023/8/2-4	台湾・ブータン	2
北海道演習林	野鼠における寄生虫糞叢の解析	2023/9/7	オーストラリア	1
北海道演習林	地域住民の参加による持続的な森林管理 (JICA 研修)	2023/10/17	ボスニア・カメルーン・コンゴ・マラウイ・ネパール・フィリピン・ソロモン・東ティモール・ウガンダ・ベトナム	
北海道演習林	ウィスキー樽に適したミズナラ表徴の自動判別技術の開発	2023/10/18-11/2	中国	2

演習林名	来 訪 目 的	日 程	国	人数
北海道演習林	Application of Improved PointNet++ and New Descriptors to Close-to-nature Forest Management	2023/10/23-27 2024/3/25-29	中国	1
北海道演習林	カラマツ林のリモートセンシングと DNA 解析	2023/11/14-16	中国	2
北海道演習林	海外学生のインターンシップ	2024/2/15-3/11	イタリア	1
北海道演習林	森林施業手法がもたらす水源涵養機能への影響解明	2024/3/1-8	マレーシア	1
北海道演習林	Estimation of Forest Carbon Stocks using a combination of UAV Photogrammetry and LiDAR Technology in a complex mixed conifer-broadleaf forest	2024/3/25-29	スリランカ	1
秩父演習林	Examining the development and historical significance of the Japanese bow	2023/4/17-18	イギリス	1
秩父演習林	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	2023/5/24, 8/2, 28, 9/11, 14	ベナン	1
秩父演習林	日本産カラマツの外生菌根菌群集構造	2023/6/21-22	中国	1
秩父演習林	森林環境や気候条件の生態的影響を比較する国際共同野外マイクロズム実験	2023/6/23, 7/13-14, 10/10-11	ブラジル	1
秩父演習林	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫 3 者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係ーナラ菌に対する宿主感受性の変動は生物季節と温度のどちらの影響か？	2023/7/13	中国	1
秩父演習林	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫 3 者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係ーカシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	2023/8/31, 9/5-8, 11-15, 19-22, 25-29, 10/2-31, 11/1-2, 6-10, 13-17, 20-22, 24, 27-12/1, 4-8, 11-15, 18-21, 28, 2024/1/4, 10, 15, 22, 29, 2/5, 13	ガーナ	1
秩父演習林	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	2023/8/23-25, 11/20-22, 12/25-26, 2024/1/9-12, 15-19, 22-24, 2/20-22	中国	1
田無演習林	カシノナガキクイムシのマイカンギアの数と体サイズおよび羽化消長に影響する要因	2023/4/1, 5/11, 16, 23, 29, 31, 6/2, 5, 7, 9, 12, 14, 16, 19-23, 26-30, 7/3-7, 10-14, 18-21, 26, 27, 31, 8/1-4, 7, 9-11, 14, 16, 21, 28, 10/2, 12/13, 2024/1/25, 2/23, 3/26, 29	ガーナ	1
田無演習林	樹木の傷口から侵入する菌類相の遷移に関する研究	2023/5/23-25, 29-30, 6/1, 4, 6-7, 7/4-7, 12, 8/7-8, 25, 9/14-15, 10/26, 12/8, 12-14, 19	中国	1

演習林名	来 訪 目 的	日 程	国	人数
田無演習林	<i>Afzelia africana</i> と共生する菌根菌の多様性の解明	2023/5/11	ベナン	1
田無演習林	経営史研究の課題と展望	2023/5/23	韓国・中国	3
田無演習林	Comparative Study on the Protection and Utilization of Cultural Heritage in National Parks of China and Japan	2023/10/1-2024/9/30	中国	1
生態水文学研究所	博士論文の現地データ収集と執筆	2023/4/1-2024/3/31	マレーシア	1
生態水文学研究所	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査地	2023/4/5, 11, 13, 18, 28, 5/2, 10, 7/14, 25, 8/3, 10/12, 25, 2024/1/17, 26, 2/7-8, 15-16 3/11	中国	1
生態水文学研究所	名古屋大学大学院講義「山地流域における水流出プロセスを探る」現地講義	2023/6/27	中国	1
生態水文学研究所	森林湿地環境の物質循環	2023/7/14, 8/1, 3	中国	1
生態水文学研究所	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	2023/7/31-8/24, 9/28-10/8, 11/20-2024/1/5	中国	1
生態水文学研究所	岐阜県森林公社・木曽三川水源造成公社の聞き取り調査	2023/8/28-31	中国	1
生態水文学研究所	融合ライダーデータに基づく人工林の単木樹冠構造解析による降雨の遮断率推定	2023/9/6-9		3
生態水文学研究所	民間との共同研究の現地調査と樹液流センサー作成実演	2023/10/31-11/2	マレーシア	1
生態水文学研究所	体験型プロジェクト「犬山里山学」	2023/11/21	ネパール	2
生態水文学研究所	大学院講義「森林圏水循環機能学」	2023/12/12-13	中国	3
生態水文学研究所	国際短期プログラム	2024/1/16-2/14	イタリア	1
生態水文学研究所	生態水文研究所ワークショップ参加と南谷流域視察	2024/3/11-3/12	ベトナム	1
生態水文学研究所	ETHZ/UZH 戦略的パートナーシップ大学プロジェクト	2024/3/11-3/15	スイス	2
富士癒しの森研究所	カラマツのリモートセンシング研究会	2023/4/12-13	中国	4
富士癒しの森研究所	カラマツのリモートセンシング	2023/4/24-28 2023/5/8-12 2023/8/28	中国	1
富士癒しの森研究所	科研費基盤(B)粗放管理時代における河川堤防の合理的な植生管理・生態緑化手法の開発	2023/5/22	ベナン, カンボジア	2
富士癒しの森研究所	海南大学サマープログラム	2023/7/11-14	中国	16
富士癒しの森研究所	東京大学東アジア藝文書院 (E A A) 留学生との国際交流	2023/12/9	中国	13

演習林名	来 訪 目 的	日 程	国	人数
富士癒しの森研究所	研究交流および見学	2024/2/20	中国	4
富士癒しの森研究所	International Research Meeting of Forest Culture Science in East Asia (FOCUSEA)	2024/3/19	中国, 韓国, インドネシア, 台湾	19
樹芸研究所	森林科学専攻・生圏システム学専攻「国際森林学特論」	2023/12/18-19	中国	4
企画部	共同研究打ち合わせ (Hydrological Monitoring in Mount Alab and Inobong, Crocker Range Park, Sabah)	2023/11/16	マレーシア	1

5. 森林管理

1) 管理面積集計表・林相別蓄積集計表・植栽樹種

管理面積集計表

2023 年 4 月 1 日現在 ha

演習林名	管理 面積 合計	立　木　地								無 立 木 地	そ の 他
		人　工　林				天　然　林					
		小　計	針葉 樹林	針広 混交林	広葉 樹林	小　計	針葉 樹林	針広 混交林	広葉 樹林		
千葉演習林※	2,170	866	852		14	1,294		279	1,015	1	9
北海道演習林	22,714	3,445	3,127	171	147	18,398		13,839	4,559	25	846
秩父演習林※	5,812	713	695	5	14	5,013	167	1,027	3,819		86
田無演習林※	8	7	1	4	1						2
生態水文学 研究所※	1,292	304	302		2	949		949			39
富士癒しの森 研究所※	41	37	25	9	3						4
樹芸研究所※	247	109	49		59	106			106	32	
合　計	32,284	5,481	5,051	189	240	25,760	167	16,094	9,499	58	986

但し、「立木地」は実験林、樹木園、採穂園、採種園を含む森林の合計面積、「無立木地」は竹林、伐採跡地、未立木地の合計面積、「その他」は道路敷、林道敷、集材路、土場、河川敷、水路敷、池敷、崩壊地、荒廃地、苗畑、苗畑跡地、圃場、圃場付帯地、庁舎構内、事務所構内、作業所構内、宿舍、建物敷、馬房、露場、湖畔広場、古在ヶ原、グラウンド、貸付地、鉄塔敷、送電線、鉱山跡、採石跡、鹿柵敷、林班外の土地の合計面積（誤差を含む）とした。端数処理を四捨五入で行っているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

※2021 年 4 月 1 日現在の値

林相別蓄積集計表

2023 年 4 月 1 日現在 m³

演習林名	計	人工林	天然林
千葉演習林※	1,262,363	605,061	657,302
北海道演習林	5,537,876	709,295	4,828,581
秩父演習林※	2,128,144	445,624	1,682,521
田無演習林※	2,389	2,389	
生態水文学研究所※	297,219	134,177	163,042
富士癒しの森研究所※	16,151	16,151	
樹芸研究所※	79,059	53,428	25,631
合 計	9,323,201	1,966,125	7,357,077

端数処理を四捨五入で行っているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

※2021 年 4 月 1 日現在の値

注) 演習林年報 2021 年度活動報告等および同 2022 年度活動報告等に記載の秩父演習林の人工林の蓄積値を 445,624 m³に訂正する。また、同 2021 年度活動報告等に記載の人工林の合計値を 1,963,736 m³に訂正、同 2022 年度活動報告等に記載の人工林の合計値を 1,962,953 m³に訂正する。

植栽樹種

演習林名	樹種			
	本数			
千葉演習林	スギ (裸苗)	スギ (コンテナ苗)	ヒノキ (裸苗)	
	445	945	550	
北海道演習林	トドマツ	エゾマツ	アカエゾマツ	グイマツ F1
	7,160	9,420	3,255	2,000
秩父演習林				
田無演習林				
生態水文学研究所				
富士癒しの森研究所				
樹芸研究所				

2) 立木伐採量

m³

演習林名	主伐材積						利用 間伐 材積	主伐・間伐 合計
	人工林		天然林		小計			
	針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹				
千葉演習林	立木販売				10	10		10
	素材生産資材量	594				594		594
	その他							
	合　計	594			10	604		604
北海道演習林	立木販売	2,244	318	4,082	5,813	12,457	5,523	17,980
	素材生産資材量			497	851	1,348		1,348
	その他							
	合　計	2,244	318	4,579	6,664	13,805	5,523	19,328
秩父演習林	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合　計							
田無演習林	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合　計							
生態水文学 研究所	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合　計							
富士癒しの 森研究所	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合　計							
樹芸研究所	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合　計							
合　計	立木販売	2,244	318	4,082	5,823	12,467	5,523	17,990
	素材生産資材量	594		497	851	1,942		1,942
	その他							
	合　計	2,838	318	4,579	6,674	14,409	5,523	19,932

立木・素材等の販売に関する数量を記載。伐捨間伐は含まない。
端数処理を四捨五入で行っているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

3) 育林実行量①(地拵え, 新植および補植, 下刈り, 除伐)

演習 林名	地拵え			新植および補植				下刈り			除伐		
	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	植栽本数	備考	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	備考
千葉 演習林	21C2	0.60		21C2	0.60	1,750	新植	10C4-3	0.50		22C10-5	0.77	
				21C1-2	0.03	190	新植 (教育 特別林)	10C4-4	0.23				
								21C1	0.58				
								21C1-1	0.03				
								21C1-2	0.03				
								44C5-1	0.10				
北海道 演習林	68 E	2.19		71 D	0.42	543		2 A	3.06				
	69 A	2.73		15 A	5.28	5,724	請負	2 B	2.75				
	69 B	1.55		68 A	5.97	6,317	請負	3 E	4.70				
	15 A	6.15		68 E	0.92	982	請負	98 B	3.75				
	15 A	0.40	樹冠下地がき	69 A	1.48	1,643	請負	41 C	1.24	請負			
	71 B	0.38	樹冠下地がき	69 B	1.18	1,259	請負	44 A	8.13	請負			
	71 D	5.08	請負	71 D	2.02	3,367	請負	44 B	1.14	請負			
	68 A	6.00	請負	71 D	2.65	2,000	請負	43 A	0.46	請負			
								43 B	0.25	請負			
								64 A	4.29	請負			
								72 A	2.97	請負			
								59 A	1.88	請負			
								59 D	0.93	請負			
								61 B	0.35	請負			
								62 A	1.15	請負			
								63 A	1.92	請負			
								73 C	6.58	請負			
秩父 演習林								29 い 40	0.10				
合 計		25.08			20.55	23,775			47.12			0.77	

田無演習林, 生態水文学研究所, 富士癒しの森研究所, 樹芸研究所では該当する業務はなかった。

育林実行量②（枝打ち，保育間伐，獣害対策，その他）

演習 林名	枝打ち			保育間伐			獣害対策(シカ柵設置など)			その他		
	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	備考
千葉 演習林				11C3-2	2.02	請負(jクレ対象地)	21C2	0.08	ヒノキ植栽地			
				3C2-4	1.17	請負	21C1-2	0.03	教育特別林			
				33C1-4	0.54	直営						
				33C4	0.12	直営(伐木グループ研修)						
北海道 演習林				96	B	17.02	請負補助金	51	C	0.73	野鼠毒餌	
								71	D	2.63	野鼠毒餌	
								72	D	7.01	野鼠毒餌	
								73	C	2.09	野鼠毒餌	
								74	C	2.66	野鼠毒餌	
								74	H	4.74	野鼠毒餌	
								74	J	0.91	野鼠毒餌	
								74	K	2.19	野鼠毒餌	
								74	P	0.23	野鼠毒餌	
								74	D	1.12	野鼠毒餌	
								75	B	3.09	野鼠毒餌	
								87	J	0.81	野鼠毒餌	
								87	C	1.80	野鼠毒餌	
								87	K	0.56	野鼠毒餌	
秩父 演習林								1	4	0.45	樹皮ガード設置(水源地域森づくり事業)	
								1	11	1.25	樹皮ガード設置(水源地域森づくり事業)	
								29	2	1.78	樹皮ガード設置	
								29	1	-	シカ柵撤去	
								29	38	0.27	シカ柵撤去	
生態水文学 研究所				63	い1	0.98	愛知県小規模治山整備事業					
				63	い4	0.30	〃					
				63	い6	0.20	〃					
				63	い10	0.64	〃					
				63	い12	0.65	〃					
				71	い9	0.08	ボランティア					
富士癒しの森 研究所								I	2	1.65	樹皮ガード設置(小班内一部樹木)	
合 計					23.72					36.08		

4) 素材生産総括表・土木実行総括表・道路現況

素材生産総括表

m³

演習林名	素材生産資材量			素材生産量			歩留(%)		
	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	平均	針葉樹	広葉樹
千葉演習林	919.66	919.66		594.15	594.15		64.61	64.61	
北海道演習林	1,348.01	496.93	851.08	821.20	337.26	483.95	60.92	67.87	56.86
秩父演習林									
田無演習林									
生態水文学 研究所									
富士癒しの森 研究所									
樹芸研究所									
合 計	2,267.67	1,416.59	851.08	1,415.35	931.41	483.95	62.41	65.75	56.86

土木実行総括表

m, 箇所

演習林名	実行内容				
	実行数量				
千葉演習林	林道維持	林道改修	林道災害復旧	歩道維持	
	54,763	68	25	7,670	
北海道演習林	林道維持	災害復旧			
	303,160	9			
秩父演習林	林道維持	林道改修	災害復旧	歩道維持	モノレール維持
	29,325	20	3	15,830	4,812
田無演習林	歩道維持				
	1,245				
生態水文学研究所	林道維持	歩道維持			
	5,850	2,230			
富士癒しの森 研究所	林道維持	歩道維持			
	600	900			
樹芸研究所	車道維持	歩道維持	災害復旧		
	23,816	6,200	8		

道路現況

m

演習林名	車道延長				歩道延長	
	林道延長	作業道延長	計	密度(m/ha)	延長	密度(m/ha)
千葉演習林	31,436		31,436	14.5	125,361	57.8
北海道演習林	947,080		947,080	41.7	6,649	
秩父演習林	11,395	10,132	21,527	3.7	182,371	31.4
田無演習林					1,550	186.1
生態水文学 研究所	3,150	10,070	13,220	10.2	26,470	20.5
富士癒しの森 研究所	2,422		2,422	59.1	2,287	55.8
樹芸研究所	3,486	3,657	7,143	29.0	11,753	47.8
合 計	998,969	23,859	1,022,828		356,441	

5) 演習林林産物収入細分表

演習林名	立 木		素 材		そ の 他			合 計
					ヒサカキ	苗 木	※その他林産物	
千葉 演習林	9.990	m ³	550.000	m ³	24 束			18,719,000 円
	5,000	円	18,700,000	円	14,000 円			
北海道 演習林	17,979.990	m ³	811.228	m ³	束	本	5.751 m ³	98,226,298 円
	46,989,455	円	50,489,206	円	円	円	747,637 円	
合 計	17,989.98	m ³	1,361.23	m ³	24 束	本	5.751 m ³	116,945,298 円
	46,994,455	円	69,189,206	円	14,000 円	円	747,637 円	

※全国演習林協議会にイチイ（0.001 m³ 1,731 円）、知多カリモクに広葉樹板材（5.75 m³ 745,906 円）の販売を行った。

6. 環境安全

1) 安全・防災のための講習会等

研 修 名	開 催 機 関 等	開催月	参加人数
運搬車, バッテリーチャージャー, 三脚脚立の安全実地講習	田無演習林	4 月	6
環境安全講習会 web 版	環境安全本部	4 月	1
温泉管取り扱い講習	樹芸研究所	4 月	7
令和 5 年度第 1 回化学物質管理者講習会	環境安全衛生部環境安全課安全推進チーム	5 月	1
普通救命講習 I	富士癒しの森研究所	5 月	2
教育研究安全衛生マネジメントシステム会議	秩父演習林	5 月	17
MS 会議及びハチ対策講習会	北海道演習林	6 月	36
安全運転管理者講習	北海道旭川方面公安委員会	6 月	1
フォークリフト安全運転講習会	秩父演習林	6 月	5
マイクロバス運転講習会	樹芸研究所	7 月	5
教育研究安全衛生マネジメントシステム会議	秩父演習林	9 月	15
安全の日 (構内環境整備他)	北海道演習林	10 月	38
ドローン安全講習会	酪農学園大学	10 月	2
第 20 回環境安全見学会	東京大学	11 月	2
建物火災避難訓練	北海道演習林	11 月	34
林内安全作業総合訓練 (安全運転講習)	北海道演習林	11 月	30
交通安全講習会	北海道演習林	11 月	30
伐倒作業安全講習会	富士癒しの森研究所	11 月	4
脚立安全講習会	富士癒しの森研究所	11 月	6
スノーモービル安全運転講習会 (新人・初級者講習)	北海道演習林	12 月	4
スノーモービル安全運転講習会 (全体講習)	北海道演習林	1 月	26
交通安全講習会	秩父演習林	1 月	18
防災訓練	秩父演習林	1 月	21
教育研究安全衛生マネジメントシステム会議	秩父演習林	2 月	17
教育研究安全衛生マネジメントシステム会議	田無演習林	毎月	6~7
労働安全衛生会議	生態水文学研究所	毎月	10
環境安全委員会	北海道演習林	毎月	10

2) 資格取得のための講習等

研 修 名	開 催 機 関 等	開催月	参加人数
大型特殊自動車運転免許教習	富良野自動車学校	4 月	1
「安全衛生推進者」養成講習	秩父地区労働基準協会	4 月	1
刈払い機安全衛生教育	秩父地区労働基準協会	4 月	1
車両系木材伐出機械等の運転業務特別教育	林材業労災防止協会旭川分会	6 月	1
中型自動車運転免許教習	下田自動車学校	6～7 月	1
二等無人航空機操縦士講習	JULC 神奈川西教習所	6 月	1
車両系建設機械（整地等）運転技能講習会	株式会社 PEO 建機教習センタ北海道教習所	7 月	1
無人航空機操縦士（二等）	国土交通大臣	7 月	1
伐木等業務特別教育講習会	林業・木材製造業労働災害防止協会東京都支部	7 月	1
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	大原自動車学校	7 月	1
MRS3 ツリークライマー	ツリークライミングジャパン	8 月	1
はい作業主任者技能講習	キャタピラー教習所株式会社埼玉教習センター	11 月	1
第一回全演環境安全研修 フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	12 月	8
伐木等業務安全衛生特別教育	林業・木材製造業労働災害防止協会北海道支部北見分会	3 月	1
フォークリフト運転技能講習	コマツ教習所株式会社埼玉センター	1 月	1
ロープ高所作業特別教育	キャタピラー教習所株式会社埼玉教習センター	1 月	2

3) 災害発生状況

災害種別	被災者		
	教職員（件）	学生（件）	その他（件）
重大災害			
設備災害			
通勤災害	1		
人的被害あり	15		
人的被害なし (設備災害でない機器・施設損傷あり)	12	1	
人的被害・機器・施設損傷なし			

東京大学安全衛生管理業務月報に基づく演習林災害統計

休業種別	被災者		
	教職員（件）	学生（件）	その他（件）
休業災害(4日以上)	2		
休業災害(4日未満)	9		
不休災害	5		
合計	16		

4) 山火事予防活動

演習林名	名 称	開 催 場 所	日 程	参加人数
北海道演習林	巡視及び注意喚起の幟、 設置と撤去	北海道演習林一円	2023/4/21～ 2023/6/30	全職員
秩父演習林	消火訓練	秩父演習林	2023/8/21	16

7. 管理運営

1) 令和5年度演習林技術職員等試験研究・研修会議

参加者

演習林名	参加者
林長・企画部	久保田耕平・蔵治光一郎・村瀬一隆
千葉演習林	米道 学
北海道演習林	井上 崇・及川 希
秩父演習林	鴨田重裕・齋藤俊浩・田中亜希
田無演習林	相川美絵子
生態水文学研究所	澤田晴雄
富士癒しの森研究所	福井 大・三浦直子・西山教雄・辻 良子・齋藤純子
樹芸研究所	木村恒太・江口由典



発表

表題	発表者全氏名（○発表者）
千葉演習林の平成期（1989-2009）における立木販売の推移	○米道 学・軽込 勉・塚越剛史・鈴木祐紀・村川功雄（千葉演習林）
秩父演習林における広葉樹中小径材の有効利用	○齋藤俊浩（秩父演習林）
生態水文学研究所における木材等収入の歴史と近年の生産木材の自家利用状況	○澤田晴雄・井上 淳（生態水文学研究所）
一般流通以外の北海道演習林産木材利用	○井上 崇・犬飼 浩・片平可奈（北海道演習林）
富士癒しの森研究所産の木材利用	○西山教雄・辻 良子（富士癒しの森研究所）
樹芸研究所におけるユーカリ材の利用	○木村恒太・辻 和明・渡邊良広・江口由典（樹芸研究所）
田無演習林における木材の利用と課題	○相川美絵子・栗田直明（田無演習林）
簡易 LiDAR スキャナによるクマゲラ営巣環境の定量化の試み	○及川 希・松井理生・木村徳志（北海道演習林）
樹芸研究所における温室植物管理のための電子野帳を用いた植物リストの作成	○江口由典・辻 和明・渡邊良広・木村恒太（樹芸研究所）

2) 技術職員研修

研 修 名	開 催 機 関	開催月	参加人数
2023 年度（前期）教室系技能職員学外研修 車両系建設機械（整地等）運転技能講習	十勝教育センター 芽室自動車 学校	4 月	1
令和 5 年度附属施設実務研修（令和 5 年 6 月 8 日～6 月 14 日：附属演習林千葉演習林）	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（千葉演習林）	6 月	1
2023 年度研究委員会・長期生態系データ生物部門・脊椎 動物分野脊椎動物小型哺乳類調査研修	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（田無演習林）	6 月	3
2023 年度（前期）教室系技術職員学外研修 中型自動車運転免許教習	下田自動車学校	6-7 月	1
2023 年度研究委員会・生物部門・植物分野の実生調査・ 下層植生調査の講習会	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	7 月	2
2023 年度度（前期）教室系技術職員学外研修 二等無人航空機操縦士：民間ライセンス保有者向けコース	サイニチドローンスクール	7 月	1
2023 年度（前期）教室系技術職員学外研修 InDesign 講座（DTP 入門）	デジハリ・オンラインスクール （Web 講習）	7-11 月	1
2023 年度研究委員会・気象水文水質部門・量水観測研修	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（秩父演習林）	10 月	6
第 25 回関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（秩父演習林）	10 月	8
2023 年度森林管理委員会技術担当空間情報技術部門・ GIS 技術指導者養成研修会	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（生態水文学研究所）	10 月	8
第 25 回関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（秩父演習林）	10 月	8
令和 5 年度技術職員等試験研究・研修会議	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（富士癒しの森研 究所）	10-11 月	12
2023 年度（後期）教室系技能職員学外研修 二等無人航空操縦技能証明講習	WHOOPS! ドローンスクール	11 月	1
2023 年度度（後期）教室系技術職員学外研修 中国四国近畿地区大学演習林等技術職員研修	島根大学生物資源科学部附属生 物資源教育研究センター	11 月	1
高所作業車の操作に関する研修	東京大学大学院農学生命科学研究科技術部機械グループ	11 月	3
2023 年度森林管理委員会・病虫獣害担当による生態水文 学研究所 74 林班マツ樹幹注入研修	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	1 月	11
2023 年度森林管理委員会・技術担当・基礎技術部門 伐木グループ研修	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（千葉演習林）	2 月	8
2023 年度研究委員会固定試験地部門・フィールドデータ 研究センター合同研修「ファイルメーカーと試験地電子 野帳」	研究委員会固定試験地部門・フ ィールドデータ研究センター	2 月	15
第 9 回 東京大学大学院農学生命科学研究科 技術部分析 技術グループ研修「バイオ取扱基礎技術（核酸取扱法）」	東京大学大学院農学生命科学研究科技術部 分析技術グループ WG	2 月	7

研 修 名	開 催 機 関	開催月	参加人数
JAXA スターダストプログラムのドローンマニュアル作成 検討会	京都大学フィールド科学教育研 究センター	3 月	1
ArcGIS Pro の講習会 1 日目：1 日で学ぶ ArcGIS Pro	東京大学空間情報科学研究セン ター (CSIS)	3 月	2
第 5 回東京大学技術発表会	東京大学総合技術本部第 5 回東 京大学技術発表会 実行委員会	3 月	24

3) 事務職員研修

研 修 名	開 催 機 関	開催月	参加人数
2023 年度機械翻訳の効果的利用～英文ビジネス編	東京大学研究推進部国際研究推進課	1-3 月	3

8. 組織図

地方演習林・センター

1) 千葉演習林

組織（主任職員）		配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
林長	教授	鎌田直人			
林長補佐	講師	楠本 大			
技術主任	技術専門員	村川功雄			
技術副主任	技術専門員	米道 学			
教育研究主任	助教	當山啓介			
		2023/9/30 まで			
	助教	竹本周平			
		2023/10/1 から			
		助教	竹本周平	2023/9/1 から	
		教授	鎌田直人(兼)		
		講師	楠本 大(兼)		
利用促進チーム主任	技術専門職員	里見重成			
	(利用促進担当)		技術専門職員	三次充和	
	(資料管理担当)		一般技術職員	鶴見康幸(再)	
森林管理チーム主任	技術専門職員	塚越剛史			
	(森林管理担当)		技術専門職員	米道 学(兼)	
			技術専門職員	軽込 勉	
	(土木担当)		技術専門職員	塚越剛史(兼)	
			技術専門職員	藤平晃司	
作業所チーム主任	技術専門員	鈴木祐紀			
	(清澄作業所)		技術専門職員	阿達康真	特任専門職員 吉野淳一
			技術員	岡田康則	特任専門職員 鈴木 愛
					特任専門職員 小林道子(兼)
					特任専門職員 伊藤大雪
				2023/6/1 から 2024/3/31 まで	
事務主任	事務室係長	田山勝則			
	(総務担当)		事務室係長	吉田明子	主事員 藤後紗和子
			一般職員	野山 智(再)	
	(資産管理担当)		事務室係長	田山勝則(兼)	
	(施設（作業所）担当)		技術専門員	鈴木祐紀(兼)	
	(宿泊管理担当)		事務室係長	吉田明子(兼)	特任専門職員 小林道子

2) 北海道演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
林長	准教授	尾張敏章				
林長補佐	講師	田中延亮				
教育研究主任	助教	鈴木智之				
	准教授	尾張敏章(兼)				
	講師	田中延亮(兼)				
事務室	係長	吉村太志	主任	天山 学 2023/12/25 から		
			一般職員 (育児休業)	橋場 唯 2023/9/27 から		
総務チーム セミナーハウス	係長	横山和宏			事務補佐員 鈴木恵理 技能補佐員 杉原時子 技能補佐員 望月 睦 技能補佐員 松村裕美 2023/5/1 から 2023/10/31 まで 特任専門職員 佐々木智子(兼) 2023/6/1 から 2024/3/31 まで	
経理チーム	係長(会計担当)	米田久和 2023/6/30 まで	主任	天山 学 2023/12/24 まで	特任専門職員	佐々木智子 2023/6/1 から 2024/3/31 まで
	係長(資産管理担当)	岡田教和 2023/6/30 まで	一般職員 (代替)	宮地夏子 2023/12/1 から 2024/3/31 まで		
	係長	岡田教和 2023/7/1 から				
技術主任	技術専門職員	松井理生				
技術副主任	技術専門職員	中川雄治				
企画調整係主任	技術専門職員	松井理生(兼)	技術専門職員	大川あゆ子	主事員	片平可奈(兼)
調査資料係主任	技術専門職員	中川雄治(兼)	技術専門職員	小林徹行	技能補佐員	犬飼雅子 2023/5/1 から 2023/10/31 まで
			一般技術職員	安里咲空良	技能補佐員	高島義和 2023/5/1 から 2023/10/31 まで
			技術専門職員	遠國正樹(兼)		
種苗造林係主任	技術専門職員	木村徳志	技術専門職員	及川 希	技能補佐員	羽塚冬馬 2023/5/1 から 2023/10/31 まで
造林資料係主任	技術専門職員	木村徳志(兼)	技術専門職員	宅間隆二		
生産販売係主任	技術専門職員	井上 崇	一般技術職員	犬飼 浩(再)	主事員	片平可奈
土木生産係(土木 担当)主任	技術専門職員	磯崎靖雄	技術専門職員	遠國正樹		
土木生産係(生産担 当)主任	技術専門職員	高橋功一	技術専門職員	井上 崇(兼)		
			技術専門職員	岡平卓巳		
			技術専門職員	千井野聡		
調査第一係主任	技術専門職員	小池征寛	技術専門員	笠原久臣		
			技術専門職員	算用子麻未 (育児休業)2023/8/31 まで		
			一般技術職員	石崎雄太		
			技術専門職員	岸本光樹 2024/3/1 から		
			一般技術職員	佐藤晴樹 (代替) 2023/8/31 まで		

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
調査第二係主任	技術専門員	福土憲司	一般技術職員	平間睦樹		
			一般技術職員	大島章生		
			特任専門職員	延 栄一		
山部樹木園主任	技術専門職員	福岡 哲	技術専門職員	犬飼慎也	技能補佐員	中坪優子
			技術専門職員	千井野聡(兼)	2023/4/1 から 2023/11/30 まで	
			(5月～6月)		技能補佐員	安藤佳子
				2023/4/1 から 2023/11/30 まで		
				技能補佐員	安藤雅恵	
			2023/4/1 から 2023/10/31 まで			
	技能補佐員	中村朝子				
		2023/4/1 から 2023/10/31 まで				
	特任研究員	北條 愛				
	2023/6/16 から 2024/3/31 まで					

3) 秩父演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
林長	教授	山田利博				
林長補佐	准教授	鴨田重裕				
林長補佐	講師	平尾聡秀(兼)				
教育研究主任	助教	坂上大翼				
	助教	久本 洋子				
事務室	専門員	大村 栄	主任	渡邊幸司	用務補佐員	内田 理恵
			一般職員	亀原弥生	主事員	平沼かやの
技術主任	技術専門職員	高野充広			主事員	富沢貴志
森林管理 チーム	技術専門職員	高德佳絵	技術専門員	五十嵐勇治		
			技術専門職員	原口竜成		
			一般技術職員	田中亜季		
利用促進 チーム	技術専門職員	吉田弓子	技術専門員	大村和也	技術補佐員	新井容子
			技術専門員	千嶋 武	技術補佐員	濱田邦子
作業所 チーム	技術専門職員	才木道雄	技術専門員	齋藤俊浩	技術補佐員	山中五郎
					技術補佐員	山中淑子
影森苗畑主任	技術専門職員	高野充広(兼)				

4) 田無演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
林長	教授	石橋 整司				
林長補佐	助教	竹本周平				
		2023/8/31 まで				
教育研究主任	助教	竹本周平(兼)				
		2023/8/31 まで				
		前原 忠				
		2023/9/1 から				
技術主任	技術専門職員	相川美絵子	技術専門員	栗田直明	技能補佐員	川村 啓
					特任専門職員	石浦恭子
					事務補佐員	小幡理恵
						2023/10/1 から

5) 生態水文学研究所

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
所長	准教授	安村直樹				
所長補佐	講師	浅野友子				
教育研究主任	助教	水内佑輔	講師	浅野友子(兼)	技能補佐員 特任助教	加藤敦美 ファラナク モイン 2023/5/1 から
技術主任	技術専門員	澤田晴雄	技術専門職員	丹羽悠二	学術支援職員	森本 亘 2023/10/1 から 11/30 まで
			技術専門職員	岸本光樹 2024/2/29 まで		
			一般技術職員	梁瀬桐子(兼)		
			技術専門職員	澤田晴雄(兼)		
過去データ管理室長	講師	浅野友子	助教	水内佑輔(兼)	技能補佐員	黒木里香
事務主任	事務室長	平野圭二			事務補佐員	加藤正勝
					事務補佐員	加藤純子
研究林管理係主任	技術専門員	澤田晴雄(兼)	一般技術職員	梁瀬桐子	用務補佐員	渡辺平和
			一般技術職員	井上 淳	用務補佐員	橋本 聖
			技術専門職員	岸本光樹 2024/2/29 まで		
環境安全推進室長	技術専門職員	丹羽悠二(兼)	事務室長	平野圭二(兼)		

6) 富士癒しの森研究所

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
所長	講師	福井 大				
所長補佐	助教	三浦直子				
教育研究主任	助教	三浦直子(兼)	講師	福井 大(兼)		
技術主任	技術専門職員	辻 良子			用務補佐員	高村史香
技術主任補佐	技術専門職員	西山教雄			特任専門職員	齋藤純子

7) 樹芸研究所

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
所長	講師	齋藤暖生				
所長補佐	助教	井上広喜				
教育研究係 教育研究主任	助教	井上広喜(兼)				
技術係 技術主任	技術専門職員	辻 和明				
	研究支援チーム		一般技術職員	江口由典	技能補佐員	大島浩子
			技術専門職員	木村恒太		
	森林管理チーム		技術専門員	渡邊良広		
			一般技術職員	江口由典(兼)		
			技術専門職員	木村恒太(兼)		
事務係			技術専門職員	辻 和明(兼)	主事員	進士真理子

8) 企画部, 教育・社会連携センター, フィールドデータ研究センター

組織（主任職員）		配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
演習林長	教授	久保田耕平			
企画部					
企画部長	教授	蔵治光一郎		特任専門職員	柴田ゆう子
統括技術長	技術専門員	村瀬一隆		事務補佐員	川野千恵
教育・社会連携センター					
センター長	准教授	後藤 晋		事務補佐員	清水智子
教育研究主任	助教	前原 忠			
		2023/8/31 まで			
	技術専門員	大石 諭(兼)	技術専門職員	近澤静恵	
フィールドデータ研究センター					
センター長	講師	平尾聡秀(兼)			
教育研究主任	助教	藤原章雄			
	技術専門員	大石 諭			
農学系事務部		研究支援チーム			
事務部長	浅川敏秀	専門員	中村正俊		
総務課長	山吹尚弘	係長	榎山なお美		
経理課長	石塚泰史				
教務課長	鎌倉 恒				
国際化推進 支援担当課長	松本秀幸	他 事務部各係			
学生等	氏名				
博士 3 年	Pei Huiqing				
博士 2/3 年	Nyo Me Htun				
博士 2 年	Aye Myat Myat Paing				
博士 2/3 年	Karthigesu Jeyavanan				
博士 2 年	陳 田				
博士 1 年	戴 健平				
博士 1 年	Ibtisam Binti Mohd Ghaus				
博士 1 年	胡 睿喆				
博士 1 年	胡 楠				
博士 1 年	蔡 昕傑				
修士 2 年	上野大輔				
修士 2 年	安井理香				
修士 2 年	坂巻実佳				
修士 2 年	尤 晓安				
修士 2 年	倪 寛				
修士 2 年	劉 衡				
修士 2 年	張 珂				
修士 2 年	蘆 美霊				
修士 2 年	張 嘯宇				
修士 2 年	卑 依璠				
修士 1 年	易 子卉				
修士 1 年	章 静怡				
修士 1 年	弥 欣成				
修士 1 年	張 遠哲				

学生等	氏名
修士 1 年	兼 祐翔
修士 1 年	秋山 礼
修士 1 年	玉木麻香
修士 1 年	Gabriel Fiakporu
修士 1 年	湯 天禹
修士 1 年	徐 碩飛
学部 4 年	日高将景
学部 4 年	笹田勇麻
学部 4 年	内藤英理香
学部 4 年	藤谷直樹
学部 4 年	坂本堅藏
学部 4 年	横山秀太
学部 4 年	渡辺 祐
研究生	高 亦凡
研究生	呂 飛
特別研究学生	陳 志傑
特別聴講学生	陳 凌楊
特別聴講学生	黄 鵬宇

常置専門委員会

1) 大学教育委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）	
委員長	准教授	後藤 晋 2023/9/30 まで
	講師	福井 大 2023/10/1～
プロジェクト担当		
企画部門	助教	坂上大翼
	助教	水内佑輔
	助教	當山啓介 2023/9/30 まで
情報発信部門	助教	水内佑輔
	助教	三浦直子
演習林ゼミ部門	助教	三浦直子
	助教	久本洋子
	助教	當山啓介 2023/9/30 まで
	助教	竹本周平
支援担当		
経費執行部門	助教	井上広喜
情報収集部門	助教	前原 忠
	助教	坂上大翼
国際部門	講師	福井 大
	助教	竹本周平
公開森林実習部門	准教授	後藤 晋

2) 研究委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）
委員長	講師	楠本 大	
長期生態系データ担当 コーディネーター	教授	鎌田直人	
企画担当	助教	鈴木智之	
集計担当	助教	井上広喜	
	助教	竹本周平	
	助教	藤原章雄	
長期生態系データ担当			
気象水文水質部門長	講師	浅野友子	
（気象分野）	観測機器管理総括	講師	田中延亮
	観測データ管理総括	教授	蔵治光一郎
	観測データ管理総括補助		技能補佐員 加藤敦美
	各演担当 千葉	技術専門職員	阿達康真
	千葉	技術専門員	鈴木祐紀
	千葉アドバイザー	講師	楠本 大
	北海道	講師	田中延亮
	北海道	技術専門職員	中川雄治
	北海道	一般技術職員	安里咲空良
	秩父	技術専門職員	吉田弓子
	秩父	技術専門員	千嶋 武

組織（委員）		配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
	田無	技術専門員	栗田直明		
	生水研	技術専門職員	丹羽悠二		
	生水研	一般技術職員	梁瀬桐子		
	富士研	技術専門職員	辻 良子		
	樹芸研	助教	井上広喜		
	樹芸研	技術専門員	渡邊良広		
(水文水質分野)	観測機器管理総括	講師	田中延亮		
	観測データ管理総括	教授	蔵治光一郎		
	観測データ管理総括補助			技能補佐員	加藤敦美
	各演担当 千葉	技術専門職員	阿達康真		
	千葉	技術専門員	鈴木祐紀		
	北海道	講師	田中延亮		
	北海道	技術専門職員	高橋功一		
	北海道	技術専門職員	松井理生		
	秩父	技術専門職員	吉田弓子		
	秩父	技術専門員	千嶋 武		
	生水研	技術専門職員	岸本光樹		
	生水研	技術専門職員	丹羽悠二		
	生水研	一般技術職員	梁瀬桐子		
	秩父	准教授	鴨田重裕		
	樹芸研	助教	井上広喜		
	樹芸研	技術専門職員	辻 和明		
生物部門長	講師 平尾聡秀				
	全演アドバイザー	助教	久本洋子		
	全演アドバイザー	講師	福井 大		
	全演アドバイザー	教授	鎌田直人		
(植物分野)	代表	技術専門職員	吉田弓子		
	各演担当 千葉	技術専門職員	藤平晃司		
	千葉	技術専門職員	軽込 勉		
	北海道	技術専門職員	木村徳志		
	北海道	技術専門職員	及川 希		
	秩父	技術専門員	五十嵐勇治		
	秩父	技術専門職員	吉田弓子		
	田無	技術専門職員	相川美絵子		
	生水研	一般技術職員	梁瀬桐子		
	富士研	技術専門職員	西山教雄		
	樹芸研	技術専門員	渡邊良広		
(脊椎動物分野)	代表	技術専門職員	松井理生		
	脊椎動物グループ責任者	技術専門職員	三次充和		
	脊椎動物グループ副責任者	技術専門職員	小林徹行		
	各演担当 千葉	技術専門職員	三次充和		

組織（委員）		配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
（昆虫分野）		北海道	技術専門職員	小林徹行	
		秩父	技術専門職員	高野充広	
		田無	技術専門員	栗田直明	
		生水研	技術専門職員	丹羽悠二	
		富士研	技術専門職員	辻 良子	
		樹芸	技術専門員	渡邊良広	
	鳥類グループ責任者		技術専門職員	才木道雄	
	鳥類グループ副責任者		技術専門職員	福岡 哲	
	各演担当 千葉		技術専門職員	阿達康真	
		北海道	技術専門職員	福岡 哲	
		秩父	技術専門職員	高德佳絵	
		田無	技術専門職員	相川美絵子	
		生水研	一般技術職員	梁瀬桐子	
		富士研		特任専門職員	齋藤純子
		樹芸研	一般技術職員	江口由典	
	代表		技術専門員	栗田直明	
	各演担当 千葉		技術専門員	村川功雄	
		北海道	技術専門職員	遠國正樹	
		秩父	技術専門員	千嶋武	
		田無	技術専門員	栗田直明	
		生水研	一般技術職員	井上 淳	
		富士研	技術専門職員	西山教雄	
		樹芸	助教	井上広喜	
固定試験地部門長	准教授	尾張敏章			
	固定試験地部門長補佐		助教	鈴木智之	
			助教	藤原章雄	
			助教	當山啓介	
	各演担当 千葉		技術専門職員	鶴見康幸	
	千葉アドバイザー		助教	當山啓介	
				2023/9/30 まで	
		北海道	技術専門職員	小林徹行	
		北海道	技術専門職員	中川雄治	
		北海道アドバイザー	助教	鈴木智之	
		秩父	技術専門職員	吉田弓子	
		田無	技術専門員	栗田直明	
		生水研	技術専門職員	岸本光樹	
		富士研	技術専門職員	西山教雄	
		樹芸研	一般技術職員	江口由典	
			技術専門職員	木村恒太	

3) 社会連携委員会

組織（委員）		配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
委員長	講師	齋藤暖生			
経理執行担当	准教授	後藤 晋			
	講師	田中延亮		事務補佐員	清水智子
アウトリーチ担当	助教	久本洋子			
出版広報部門					
広報・ウェブサイト	助教	久本洋子（兼）			
		技術専門職員	近澤静恵		
	（アドバイザー）	講師	楠本 大		
	（各演広報担当・千葉）	技術専門職員	軽込 勉		
	（同・北海道）	係長	横山和宏		
	（同・秩父）	技術専門職員	吉田弓子		
	（同・田無）	技術専門職員	相川美絵子		
	（同・生水研）	一般技術職員	梁瀬桐子		
	（同・富士研）	技術専門職員	辻 良子		
	（同・樹芸研）	一般技術職員	江口由典		
morikara 編集会議	講師	齋藤暖生（兼）			
		技術専門職員	近澤静恵		
	（各演 morikara 担当・教社連）	准教授	後藤 晋（兼）		
	（同・千葉）	技術専門職員	里見重成		
	（同・北海道）	技術専門職員	大川あゆ子		
	（同・秩父）	技術専門職員	吉田弓子		
	（同・田無）	技術専門職員	相川美絵子		
	（同・生水研）	一般技術職員	梁瀬桐子		
	（同・富士研）	技術専門職員	辻 良子		
	（同・樹芸研）	一般技術職員	江口由典		
	（同・生水研）	助教	水内佑輔		
	（同・千葉）	講師	楠本 大（兼）		
東京大学演習林出版局	准教授	後藤 晋（兼）			
育成資金部門	教授	蔵治光一郎			
	准教授	後藤 晋（兼）			
				特任専門職員	柴田ゆう子
	（各演育成資金担当・千葉）	技術専門職員	三次充和		
	（同・北海道）	係長	横山和宏		
	（同・秩父）	技術専門員	千嶋 武		
	（同・田無）	技術専門職員	相川美絵子		
	（同・生水研）	一般技術職員	梁瀬桐子		
	（同・富士研）	講師	福井 大		
	（同・樹芸研）	一般技術職員	江口由典		
演習林編集委員会	（主事）	講師	田中延亮（兼）		
		技術専門職員	近澤静恵		
連携推進担当	講師	田中延亮			
	（各演連携推進担当・千葉）	技術専門職員	里見重成		
	（同・北海道）	技術専門員	大川あゆ子		

組織（委員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
	技術専門員	大村和也
（同・秩父）	技術専門員	栗田直明
（同・田無）	一般技術職員	梁瀬桐子
（同・生水研）	技術専門職員	辻 良子
（同・富士研）	一般技術職員	江口由典
（同・樹芸研）		

4）国際委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）
委員長 インターンシップ担当	教授 鎌田直人
委員 海南大学担当，特任教員[旧外国人研究員（客員Ⅲ種）]担当	教授 石橋整司
SP 国立台湾大学担当	准教授 尾張敏章
SP ETHZ 担当	教授 蔵治光一郎
SP ソウル国立大学校担当，サマースクール担当	講師 福井 大

5）森林管理委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）
委員長	准教授 尾張敏章
副委員長	技術専門員 村瀬一隆
管理担当	主担当 技術専門員 村瀬一隆（兼）
	副担当 助教 當山啓介 2023/9/30 まで
各演担当	千葉 技術専門員 村川功雄
	北海道 技術専門職員 松井理生
	秩父 技術専門職員 高野充広
	田無 技術専門職員 相川美絵子
	生水研 技術専門員 澤田晴雄（兼）
	富士研 技術専門職員 辻 良子
	樹芸研 技術専門職員 辻 和明
	FDRC 技術専門員 大石 諭
病虫獣害担当	主担当 教授 鎌田直人
	副担当 技術専門員 澤田晴雄
	病害 教授 山田利博
	助教 坂上大翼
	虫害 教授 鎌田直人（兼）
	獣害 講師 福井 大
	生水研 技術専門員 澤田晴雄（兼）
技術担当	主担当 准教授 尾張敏章（兼）
	副担当 技術専門員 村瀬一隆（兼）
空間情報技術部門	事務局 技術専門職員 犬飼慎也
	アドバイザー 助教 藤原章雄
	助教 三浦直子
	助教 水内佑輔

組織（委員）	配置職員（教職員）		
各演担当	千葉	技術専門職員	米道 学
	北海道	技術専門職員	犬飼慎也（兼）
	秩父	技術専門職員	原口竜成
	田無	技術専門職員	相川美絵子
	生水研	技術専門職員	岸本光樹
	富士研	技術専門職員	辻 良子
	樹芸研	一般技術職員	江口由典
	FDRC	技術専門員	大石 諭
	全演研修指導担当	技術専門職員	軽込 勉
		技術専門職員	原口竜成（兼）
基礎技術部門	千葉	技術専門員	鈴木祐紀
各演担当		技術専門職員	阿達康真
	北海道	技術専門職員	小池征寛
		一般技術職員	千井野聡
	秩父	技術専門員	五十嵐勇治
	田無	技術専門職員	相川美絵子
		技術専門員	栗田直明
	生水研	技術専門員	澤田晴雄（兼）
	富士研	技術専門職員	辻 良子
	樹芸研	技術専門員	渡邊良広

6）環境安全委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）	
委員長	准教授	鴨田重裕
委員	教授	山田利博
	助教	坂上大翼
	技術専門員	村瀬一隆
	技術専門職員	松井理生
各演担当者	企画部	村瀬一隆
	千葉演習林	村川功雄
	北海道演習林	松井理生
	秩父演習林	高野充広
	田無演習林	相川美絵子
	生態水文学研究所	平野圭二
	富士癒しの森研究所	西山教雄
	樹芸研究所	辻 和明

7) 管理運営委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）	
委員長	准教授	安村直樹
委員	教授	久保田耕平
	教授	蔵治光一郎
	准教授	鴨田重裕
	助教	藤原章雄
	技術専門員	村瀬一隆
	技術専門職員	相川美絵子
ネットワーク担当	（下線は全演アドバイザー，アドバイザーは担当者も兼ねる）	
各演担当者		
千葉演習林	講師	楠本 大
	係長	田山勝則
北海道演習林	助教	<u>鈴木智之</u>
	技術専門職員	中川雄治
	技術専門職員	犬飼慎也
	係長	米田久和 2023/6/30 まで
	一般技術職員	大島章生 2024/1/26 から
	技術専門職員	遠國正樹
秩父演習林	技術専門職員	原口竜成
	専門員	大村 栄
田無演習林	教授	石橋整司
	助教	<u>竹本周平</u> 2023/8/31 まで
生態水文学研究所	助教	前原 忠 2023/9/1 から
	助教	<u>水内佑輔</u>
	一般技術職員	梁瀬桐子
富士癒しの森研究所	技術専門職員	辻 良子
	技術専門職員	西山教雄
樹芸研究所	技術専門職員	木村恒太
	技術専門職員	江口由典
弥生	教授	蔵治光一郎
	助教	前原 忠 2023/8/31 まで
	技術専門員	大石 諭
長期構想班		
	准教授	鴨田重裕
	助教	坂上大翼
	技術専門職員	阿達康真
	技術専門員	五十嵐勇治

9. 人事

日付	異動	新所属・職名		氏名	旧所属・職名	
2023.4.1	勤務換	秩父演習林	准教授	鴨田重裕	樹芸研究所・秩父演習林（兼）	准教授（樹芸研究所長）
2023.4.1	勤務換	樹芸研究所	講師（樹芸研究所長）	齋藤暖生	富士癒しの森研究所	講師（富士癒しの森研究所長）
2023.4.1	勤務換	富士癒しの森研究所	講師（富士癒しの森研究所長）	福井 大	北海道演習林・富士癒しの森研究所（兼）	講師
2023.4.1	勤務換	秩父演習林	助教	久本洋子	千葉演習林	助教
2023.4.1	昇任	企画部	技術専門員（統括技術長）	村瀬一隆	企画部	技術専門職員（統括技術長）
2023.4.1	昇任	北海道演習林	技術専門員	福士憲司	北海道演習林	技術専門職員
2023.4.1	昇任	北海道演習林	技術専門職員	千井野聡	北海道演習林	一般技術職員
2023.4.1	昇任	北海道演習林	技術専門職員	小林徹行	北海道演習林	一般技術職員
2023.4.1	昇任	千葉演習林	係長	吉田明子	千葉演習林	主任
2023.4.1	採用	北海道演習林	一般技術職員	大島章生		
2023.4.1	採用	北海道演習林	一般技術職員	石崎雄太		
2023.4.1	採用	北海道演習林	一般技術職員	安里咲空良		
2023.4.1	採用	秩父演習林	一般技術職員	田中亜季		
2023.4.1	再雇用	千葉演習林	一般技術職員	鶴見康幸		
2023.5.1	採用	生態水文学研究所	特任助教	Moein Farahnak	生態水文学研究所	特任研究員
2023.5.1	育休復帰	北海道演習林	技術専門職員	千井野聡		
2023.7.1	転出	附属牧場	係長	米田久和	北海道演習林	係長
2023.8.31	任期満了退職			佐藤晴樹	北海道演習林	育休代替職員
2023.9.1	育休復帰	北海道演習林	技術専門職員	算用子麻未		
2023.9.1	勤務換	フィールドデータ研究センター・教育社会連携センター（兼）・秩父演習林（兼）	講師（フィールドデータ研究センター長）	平尾聡秀	秩父演習林・フィールドデータ研究センター（兼）	講師（フィールドデータ研究センター長）
2023.9.1	勤務換	千葉演習林	助教	竹本周平	田無演習林	助教
2023.9.1	勤務換	田無演習林	助教	前原 忠	教育・社会連携センター	助教
2023.9.30	退職	岩手大学	准教授	當山啓介	千葉演習林	助教
2023.12.1	採用	北海道演習林	臨時的採用職員（産休・育休代替職員）	宮地夏子		
2023.12.20	育休開始			橋場 唯	北海道演習林	一般事務職員
2024.3.1	勤務換	北海道演習林	技術専門職員	岸本光樹	生態水文学研究所	技術専門職員
2024.3.31	退職	北海道演習林	一般事務職員	宮地夏子	北海道演習林	臨時的採用職員（産休・育休代替職員）
2024.3.31	定年退職			石橋整司	田無演習林	教授
2024.3.31	退職	北海道大学	准教授	鈴木智之	北海道演習林	助教

10. 予算・収入

1) 予算

区分	内訳	金額 (千円)
運営費予算配分額	年度当初配分額	228,262
	市町村交付金相当額予算	55,274
	追加配分・協力金	4,773
	その他の予算	28,520
	計	316,829
外部資金	科学研究費	26,927 *
	奨学寄附金	8,595
	受託研究費	20,591
	他機関との共同研究費	10,432
	その他補助金	0
	計	66,545
合 計		383,374

*前年度から繰り越された予算を含む。
翌年度へ繰り越した予算は含まない。

2) 収入

区分	内訳	金額 (千円)
収入	演習林林産物収入	116,954
	刊行物販売等売払収入	220
	講習料収入	555
	その他の収入	24,414
合 計		142,143

1 1. 委員会・会議等

1) 演習林規則に則って開催された委員会・会議

運営委員会	演習林規則第5条により設置されている演習林の管理および運営に関する最高議決機関である。委員は演習林の教授・准教授のほか研究科長が推薦する研究科の教授または准教授（10名以内）と演習林統括技術長、研究科事務部長であり、演習林長が委員長を務める。今年度は2024年3月25日（月）にオンラインで開催し、地方演習林と常置委員会を軸とする演習林の管理および運営に関する重要事項の審議を行う。
演習林会議	演習林規則第6条により設置されている演習林の管理および運営の実務に関する事項を審議決定する機関である。議員は演習林長、演習林長補佐、演習林所属の教授、准教授、講師、演習林統括技術長のほか演習林長が必要と認めた者になる（今年度は研究科総務附属施設担当副課長が指名された）。演習林長が議長を務める。原則として毎月1回（8月をのぞく）教授会開催日の前日に開催する。今年度は11回対面とオンラインのハイブリッドで開催した。

2) その他委員会・会議

教員総会	演習林所属の全教員（演習林長補佐を含む）、統括技術長、フィールドデータ研究センター技術主任による、意見交換を目的とする会議。今年度は2023年2月13～14日に対面方式（一部の教員のみオンライン参加）で開催した。
技術主任会議	統括技術長と地方演習林技術主任による、意見交換を目的とする会議。今年度は9月8日にオンラインで開催した。
事務担当者・技術主任合同会議	技術主任会議メンバーに地方演習林の事務担当者を加えたメンバーによる意見交換を目的とした会議。今年度は事務担当者連絡会議が地方演習林で開催されたため、開催を見送った。
事務担当者連絡会議	大学院農学生命科学事務担当者による会議であり、地方演習林事務担当者を含めて事務処理遂行上の問題点等について報告、意見交換を行う。隔年（偶数年度）に開催されてきたが、コロナ禍の影響により、直近は2021年度の2022年3月11日にオンラインで開催された。2022年度は開催されなかった。2023年度は田無演習林にて10月5～6日に開催された。
演習林編集委員会	「東京大学農学部演習林報告」と「演習林」の編集発行を行っている。委員は演習林の教授・准教授のほか関連専攻から推薦された教授・准教授（7名）と編集委員長が指名する者になる。原則として奇数月に開催し、今年度は6回オンラインで開催した。

12. 利用状況

1) 千葉演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	15	鴨川市有害鳥獣対策協議会				15	15	有害鳥獣捕獲	日帰り
2	4	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
3	4	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	2	1			3	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
4	4	1	千葉県立中央博物館	1				1	下見	日帰り
5	4	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
6	4	1	鴨川市教育委員会生涯学習課				21	21	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう! (観察編)」	日帰り
7	4	4	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考 (国際農業開発学コース)	1		4 (4)		5 (4)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	清澄宿泊施設 2
8	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考 (国際農業開発学コース)			1 (1)		1 (1)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	日帰り
9	4	1	千葉県君津警察署上総幹部交番				25	25	山岳事故防止対策に伴う実査※危険箇所・崩落状況・滑落箇所の確認	日帰り
10	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1				1	「森林科学基礎実習Ⅰ」にかかる実習地下見	日帰り
11	4	1	東京大学地震研究所技術部	2				2	定常地震観測設置の点検および保守※都合により、通常会回線の点検のため NTT から業者と作業を行う可能性あり。	日帰り
12	5	18	鴨川市有害鳥獣対策協議会				18	18	有害鳥獣捕獲	日帰り
13	5	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
14	5	1	千葉県立中央博物館	1				1	下見	日帰り
15	5	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
16	5	11	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考 (国際農業開発学コース)			11 (11)		11 (11)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	清澄宿泊施設 2
17	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考 (国際農業開発学コース)			1		1	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	日帰り
18	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	1				1	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明 (土壌の採集)	日帰り
19	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林 (企画広報委員会)				127	127	千葉演習林 春の一般公開	日帰り
20	5	1	東京大学農学生命科学研究科 生圏システム学 森林圏管理研究室	1				1	協同繁殖鳥類の社会構造に依存する腸内細菌群衆構造と群居性のコスト	日帰り
21	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室	2		2 (1)		4 (1)	森林科学基礎実習Ⅰ	清澄宿泊施設 2
22	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室	2		2 (1)		4 (1)	森林科学基礎実習Ⅰ	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
23	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林				5	5	2023 年度 Abies 第一回活動（キンシバイ駆除）	日帰り
24	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1				1	全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンバの応答解明	日帰り
25	5	1	国土防災技術株式会社				5	5	カブスガードプラスによる獣害対策効果確認試験の片付け	日帰り
26	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3		15		18	全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」	日帰り
27	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	22		7		29	2023 年度千葉演習林利用者交流会	日帰り
28	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森林圏生態学研究室	1		2		3	ユビナガコウモリの集団遺伝学的研究	清澄宿泊施設 2
29	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森林圏生態学研究室	1		2		3	ユビナガコウモリの集団遺伝学的研究	日帰り
30	5	1	千葉県南部林業事務所				4	4	野生きのご調査の下見	日帰り
31	5	1	千葉大学大学院理学研究院	3	1	3 (1)		7 (1)	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
32	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	3	10	1		14	総合科目「森林環境資源学」	清澄宿泊施設
33	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	3	10	1		14	総合科目「森林環境資源学」	日帰り
34	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2		2		4	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	清澄宿泊施設 2
35	6	17	鴨川市有害鳥獣対策協議会				17	17	有害鳥獣捕獲	日帰り
36	6	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
37	6	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
38	6	3	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考（国際農業開発学コース）			3 (3)		3 (3)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	清澄宿泊施設 2
39	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考（国際農業開発学コース）			1 (1)		1 (1)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	日帰り
40	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森林圏生態学研究室	2	1	2		5	ユビナガコウモリの集団遺伝学的研究	清澄宿泊施設 2
41	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森林圏生態学研究室	2	1	2		5	ユビナガコウモリの集団遺伝学的研究	日帰り
42	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		1		2	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	日帰り
43	6	1	千葉県南部林業事務所				11	11	野生きのご調査	日帰り
44	6	5	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	11	105	4 (7)		120 (7)	森林科学基礎実習 1	清澄宿泊施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
45	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	2	16	2 (1)		20 (1)	森林科学基礎実習 1	日帰り
46	6	2	千葉県立中央博物館	2				2	樹幹流を利用した樹上生物多様性モニタリングの実証検証	日帰り
47	6	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	5				5	暖地性植物に関する同定技術の向上 「森林科学基礎実習Ⅰ（植物）同行など」	日帰り
48	6	2	千葉県昆虫談話会				27	27	千葉県における昆虫相の調査	日帰り
49	6	1	東京大学農学部				6	6	現地見学会	日帰り
50	6	1	千葉県立君津青葉高等学校 総合学科環境系列	2			13	15	郊外学習	日帰り
51	6	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業（臨時））	日帰り
52	6	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	3				3	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
53	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	2	12			14	教養学部 全学体験ゼミナール 徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう木材のこと〜	日帰り
54	6	1	箱根植木株式会社				4	4	地域性種苗トレーサビリティ普及促進のための管理手法の研究	日帰り
55	6	1	千葉県立中央博物館庶務部企画調整課	1			1	2	千葉演習林内に産する大型菌類（きのこ類）を調査する	日帰り
56	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考（国際農業開発学コース）			1 (1)		1 (1)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	清澄宿泊施設
57	6	1	東京大学 森林科学専攻	1				1	試験地の観察	日帰り
58	7	16	鴨川市有害鳥獣対策協議会				16	16	有害鳥獣捕獲	日帰り
59	7	10	千葉県環境生活部大気保全課				10	10	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
60	7	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
61	7	6	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考（国際農業開発学コース）			6 (6)		6 (6)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	清澄宿泊施設 2
62	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考（国際農業開発学コース）			1 (1)		1 (1)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	日帰り
63	7	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	4				4	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
64	7	1	箱根植木株式会社				3	3	地域性種苗トレーサビリティ普及促進のための管理手法の研究	日帰り
65	7	1	千葉県立中央博物館庶務部企画調整課	1			1	2	千葉演習林内に産する大型菌類（きのこ類）を調査する	日帰り
66	7	2	東京大学大学院森林科学専攻・森林生物地球科学研究室	6	2	6		14	新田露場と袋山沢における機器メンテナンス（袋山 A 堰の砂出し、新田に残置した不要ボトルの回収含む）	清澄宿泊施設 2
67	7	1	東京大学大学院森林科学専攻・森林生物地球科学研究室	1	1	1		3	新田露場と袋山沢における機器メンテナンス（袋山 A 堰の砂出し、新田に残置した不要ボトルの回収含む）	日帰り
68	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境評価学分野	2				2	下見	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
69	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室	1				1	下見（森林内データの活用による樹木の炭素固定量算出）	日帰り
70	7	1	福島大学共生システム理工学類（生物多様性保全研究室）	2		1		3	千葉演習林に産するヒメノヤガラ（ラン科）を調査する	日帰り
71	7	3	東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	12	21	14 (44)	9	56 (44)	海南大学サマープログラム 2023「東京大学演習林で学ぶ森林管理～生産・景観・都市～」	清澄宿泊施設
72	7	1	東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	4	7 (7)	4 (4)	3 (3)	18 (14)	海南大学サマープログラム 2023「東京大学演習林で学ぶ森林管理～生産・景観・都市～」	日帰り
73	7	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	4			26	30	東京大学千葉演習林連携事業 夏の山の昆虫	清澄宿泊施設
74	7	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	4			27	31	東京大学千葉演習林連携事業 夏の山の昆虫	日帰り
75	7	1	住化エンバイロメンタルサイエンス（株）研究開発本部				1	1	シャーリーの現地評価確認	日帰り
76	7	1	東京大学農学部国際開発農学専修森林圏生態社会学研究室		1			1	秩父演習林で採取したスギ形成層における糖分量の測定	日帰り
77	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3			20	23	高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～	清澄宿泊施設
78	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1			10	11	高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～	日帰り
79	7	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	清澄宿泊施設 2
80	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1				1	シカ柵試験地の状況確認	清澄宿泊施設 2
81	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	千葉県房総丘陵のヒメコマツ繁殖量モニタリング	日帰り
82	8	18	鴨川市有害鳥獣対策協議会				18	18	有害鳥獣捕獲	日帰り
83	8	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
84	8	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
85	8	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
86	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		1 (1)		2 (1)	全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンパの応答解明	日帰り
87	8	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	4				4	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
88	8	1	東京大学大学院森林科学専攻・森林生物地球科学研究室	1	1	1		3	新田露場と袋山沢における機器メンテナンス（袋山 A 堰の砂出し、新田に残置した不要ボトルの回収含む）	日帰り
89	8	8	茨城大学農学部応用生命科学科	8		7		15	シバヤナギに形成される虫えいの形成誘導機構の解明	日帰り
90	8	1	東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻	6	14	3		23	東京大学地球環境科学科野外調査実習 (1)	清澄宿泊施設
91	8	4	東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻	28	56	12		96	東京大学地球環境科学科野外調査実習 (1)	清澄宿泊施設 2
92	8	1	東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻	7	14	3		24	東京大学地球環境科学科野外調査実習 (1)	日帰り
93	8	5	京都大学理学部地質学鉱物学教室	25	34	5		64	課題演習 E2（地質調査法実習）	清澄宿泊施設
94	8	1	京都大学理学部地質学鉱物学教室	5	6	1		12	課題演習 E2（地質調査法実習）	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
95	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林		3			3	体験活動プログラム	清澄宿泊施設 2
96	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林		1			1	体験活動プログラム	日帰り
97	8	1	千葉大学・理学研究科・地球科学	1	1	1	1	4	研究下見（卒論）	日帰り
98	9	5	鴨川市有害鳥獣対策協議会				5	5	有害鳥獣捕獲	日帰り
99	9	4	千葉県環境生活部大気保全課				4	4	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
100	9	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
101	9	7	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考（国際農業開発学コース）			7 (7)		7 (7)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	清澄宿泊施設 2
102	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考（国際農業開発学コース）			1 (1)		1 (1)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	日帰り
103	9	1	東京大学農学生命科学研究科 生圏システム学 森林圏管理研究室	1				1	協同繁殖鳥類の社会構造に依存する腸内細菌群衆構造と群居性のコスト」	日帰り
104	9	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業（臨時））	日帰り
105	9	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	3				3	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
106	9	1	東京大学農学部国際開発農学専修森林圏生態社会学研究室		1			1	秩父演習林で採取したスギ形成層における糖分量の測定	日帰り
107	9	3	千葉県庁環境生活部自然保護課				12	12	令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区）	日帰り
108	9	4	東京大学大学院新領域創成科学研究科	4		7		11	ナラ枯れ跡地の更新に与える偶蹄類の影響	清澄宿泊施設 2
109	9	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1		1		2	ナラ枯れ跡地の更新に与える偶蹄類の影響	日帰り
110	9	2	東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4	28			32	全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」	清澄宿泊施設
111	9	1	東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2	14			16	全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」	日帰り
112	9	1	愛媛大学農学研究科（森林コース）	4				4	J クレジット認証に関する現地視察	日帰り
113	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻	3	7			10	フィールド科学専修森圏管理学実習	清澄宿泊施設
114	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻	3	7			10	フィールド科学専修森圏管理学実習	日帰り
115	9	3	東京大学農学生命科学研究科 生圏システム学 森林圏管理研究室	3				3	協同繁殖鳥類の社会構造に依存する腸内細菌群衆構造と群居性のコスト」	清澄宿泊施設 2
116	9	3	東京大学農学生命科学研究科 生圏システム学 森林圏管理研究室	3				3	「キクイムシ類における近親交配の種間差の評価」のための野外調査	清澄宿泊施設 2
117	9	1	東京大学農学生命科学研究科 生圏システム学 森林圏管理研究室	1				1	「キクイムシ類における近親交配の種間差の評価」のための野外調査	日帰り
118	9	1	東京大学生命科学部分子微生物学科	1	4			5	ヒメコマツ絶滅危惧個体群に生息する外生菌根菌の群衆および集団遺伝構造	日帰り
119	9	2	筑波大学生命環境系（東京大学農学部非常勤講師）	6	6	10		22	筑波大学生物資源学類「森林管理学実習」及び筑波大学林政学分野ゼミ合宿	清澄宿泊施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
120	9	1	筑波大学生命環境系 (東京大学農学部非常勤講師)	2	3	5		10	筑波大学生物資源学類「森林管理学実習」及び筑波大学林政学分野ゼミ合宿	日帰り
121	9	1	東京大学農学生命科学研究科森林圏生態社会学研究室			1 (1)		1 (1)	博論の検討会	清澄宿泊施設
122	9	1	東京大学農学生命科学研究科森林圏生態社会学研究室			1 (1)		1 (1)	博論の検討会	日帰り
123	9	1	帝京科学大学 生命環境学部自然環境学科		1			1	ヤマビルの遺伝構造における低温耐性の違いと低体温での行動比較(卒論)	日帰り
124	9	3	茨城大学・理学部・生物科学領域	9	63	6		78	授業(生物野外実習[理学部3年生対象])	清澄宿泊施設
125	9	1	茨城大学・理学部・生物科学領域	3	21	2		26	授業(生物野外実習[理学部3年生対象])	日帰り
126	9	1	一般財団法人自然環境研究センター				2	2	令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定業務(ニホンジカ・イノシシ)	日帰り
127	10	5	鴨川市有害鳥獣対策協議会				5	5	有害鳥獣捕獲	日帰り
128	10	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
129	10	2	千葉県南部林業事務所				15	15	野生きこの調査	日帰り
130	10	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	4				4	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
131	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3	18			21	全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」	日帰り
132	10	1	千葉県立中央博物館	3				3	樹幹流を利用した樹上生物多様性モニタリングの実証検証、樹幹流を用いた環境DNA分析による樹上生物多様性のモニタリング手法の開発	日帰り
133	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻国際植物材料科学研究室	2		1		3	スギ心材バインダーレスポートの心材色による比較検討(現地地下見)	日帰り
134	10	1	君津市上総地域交流センター(上総公民館)				17	17	公民館活動「松丘探検隊」地域の事を学ぶ	日帰り
135	10	1	千葉県立中央博物館	2				2	日本産地衣類の総合的なデータベースの整備のための地衣類調査	日帰り
136	10	2	千葉大学理学研究院地球科学	6	16	4		26	地質学野外実験Ⅱ(千葉大学理学部地球科学科選択必修実験)	日帰り
137	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	2		9 (3)		11 (3)	大学院講義「生研システム学特論」	日帰り
138	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科 森林科学専攻・森林生物科学研究室			1		1	新田露場と袋山沢における機器メンテナンス(袋沢A堰の砂出し含む)	日帰り
139	11	9	鴨川市有害鳥獣対策協議会				9	9	有害鳥獣捕獲	日帰り
140	11	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
141	11	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1		1		2	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
142	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2		2 (2)		4 (2)	全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンバの応答解明	日帰り
143	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		2		3	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	日帰り
144	11	1	東京大学農学部国際開発農学専修森林圏生態社会学研究室		1			1	秩父演習林で採取したスギ形成層における糖分量の測定	日帰り
145	11	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1		1		2	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	清澄宿泊施設2

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
146	11	30	千葉県庁環境生活部自然保護課				100	100	令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区）	日帰り
147	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻国際植物材料科学研究室	1		1		2	スギ心材バインダーレスポートの心材色による比較検討（現地下見）	日帰り
148	11	2	鴨川市教育委員会				4	4	鴨川市「中学校職場体験」	日帰り
149	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林				3	3	ちばえんサポートチーム Abies 第4回活動	日帰り
150	11	1	日本林業技師会千葉県支部				18	18	日本林業技師会千葉県支部 現地見学会	日帰り
151	11	2	coast to coast 2023 房総半島横断レース実行委員会				9	9	コース整備	日帰り
152	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3		6 (5)	2	11 (5)	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	清澄宿泊施設
153	11	1	慶応義塾大学経済学部生物学教室	1	10			11	きのこ類・昆虫寄生菌類の野外調査方法（慶応義塾大学「きのこ学」野外調査法実習）	清澄宿泊施設
154	11	1	慶応義塾大学経済学部生物学教室	1	8			9	きのこ類・昆虫寄生菌類の野外調査方法（慶応義塾大学「きのこ学」野外調査法実習）	日帰り
155	11	2	京都大学大学院地質鉱物学科	2		2	2	6	小断層解析を用いたマストランスポート堆積物（MTD）内部の応力場の復元	清澄宿泊施設2
156	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科			1		1	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査	清澄宿泊施設
157	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科			1		1	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査	日帰り
158	11	1	千葉県立中央博物館 生態学・環境研究科	4				4	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
159	12	14	鴨川市有害鳥獣対策協議会				14	14	有害鳥獣捕獲	日帰り
160	12	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
161	12	1	東京大学大学院理学系研究科生物学専攻	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
162	12	1	箱根植木株式会社				3	3	地域性種苗トレーサビリティ普及促進のための管理手法の研究	日帰り
163	12	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境評価学分野	2				2	下見	日帰り
164	12	10	千葉県庁環境生活部自然保護課				43	43	令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区）	日帰り
165	12	1	一般財団法人自然環境研究センター				2	2	令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定業務（ニホンジカ・イノシシ）	日帰り
166	12	2	coast to coast 2023 房総半島横断レース実行委員会				4	4	コース整備	日帰り
167	12	19	京都大学大学院地質鉱物学科	1		19	1	21	小断層解析を用いたマストランスポート堆積物（MTD）内部の応力場の復元	清澄宿泊施設2
168	12	1	千葉県立中央博物館 生態学・環境研究科	4				4	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
169	12	1	京都大学大学院地質鉱物学科			1		1	小断層解析を用いたマストランスポート堆積物（MTD）内部の応力場の復元	日帰り
170	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林				20	20	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（巣箱作り編）」	日帰り
171	12	1	千葉大学大学院園芸学研究科			1		1	調査対象植物（リンドウ・ツルアリドオシ）のサンプリング	日帰り
172	12	1	coast to coast 2023 房総半島横断レース実行委員会				1	1	大会のルート表示の取り付け	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
173	12	1	coast to coast 2023 房 総半島横断レース実行 委員会				453	453	coast to coast 房総横断レース	日帰り
174	1	12	鴨川市有害鳥獣対策協 議会				12	12	有害鳥獣捕獲	日帰り
175	1	10	千葉県環境生活部大気 保全課				10	10	化学物質大気環境調査・ダイオキシン 類に係る大気環境調査及び非汚染地域 大気環境調査	日帰り
176	1	6	東京大学大学院農学生 命科学研究科農学国際 選考（国際農業開発学 コース）			6 (6)		6 (6)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植 栽適地の広域推定のための予備踏査	清澄宿泊 施設 2
177	1	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科農学国際 選考（国際農業開発学 コース）			1 (1)		1 (1)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植 栽適地の広域推定のための予備踏査	日帰り
178	1	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科生圏シス テム学専攻森林圏生態 学研究室	2	1	2		5	ユビナガコウモリの集団遺伝学的研究	清澄宿泊 施設 2
179	1	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科生圏シス テム学専攻森林圏生態 学研究室	2	1	2		5	ユビナガコウモリの集団遺伝学的研究	日帰り
180	1	1	東京大学大学院森林科 学専攻・森林生物地球 科学研究室	1		1		2	新田露場と袋山沢における機器メンテ ナンス	日帰り
181	1	1	千葉県鳥獣保護管理員				1	1	カモの調査	日帰り
182	1	5	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林秩父演習林	5				5	日本におけるタケ類の開花現象の実態 とそのた生態系影響	日帰り
183	1	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林千葉演習林				4	4	Abies 活動（モウソウチク手入）	日帰り
184	1	3	株式会社一成東京支店				12	12	令和 5 年度ニホンジカ・キョン生息状 況調査業務委託	日帰り
185	2	15	鴨川市有害鳥獣対策協 議会				15	15	有害鳥獣捕獲	日帰り
186	2	2	千葉県環境生活部大気 保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン 類に係る大気環境調査及び非汚染地域 大気環境調査	日帰り
187	2	1	東京大学大学院理学系 研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境 応答の解明	日帰り
188	2	6	東京大学大学院農学生 命科学研究科農学国際 選考（国際農業開発学 コース）			6 (6)		6 (6)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植 栽適地の広域推定のための予備踏査	清澄宿泊 施設 2
189	2	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科農学国際 選考（国際農業開発学 コース）			1 (1)		1 (1)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植 栽適地の広域推定のための予備踏査	日帰り
190	2	1	東京大学大学院理学系 研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境 応答の解明	清澄宿泊 施設 2
191	2	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科生圏シス テム学専攻生物多様性 科学研究室			4		4	異質環境下におけるシカ・イノシシの 個体推定モデルと持続可能な管理シス テムの開発	日帰り
192	2	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林フィールドデータ研 究センター	6				6	千葉演習林の古い文書や東京大学の歴 史に関する演習林業務	日帰り
193	2	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林千葉演習林				6	6	森林博物資料館一般公開	日帰り
194	2	3	東京大学 大学院農学 生命科学研究科附属演 習林千葉演習林		54			54	全学体験ゼミナール「房総の森と生業 （なりわい）を学ぶ」	清澄宿泊 施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
195	2	1	東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林		18			18	全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」	日帰り
196	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室	1	2	1		4	博論研究における調査候補地の下見	日帰り
197	2	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	12				12	2023 年度森林管理委員会技術担当基礎技術部門伐木グループ研修	清澄宿泊施設
198	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	5				5	2023 年度森林管理委員会技術担当基礎技術部門伐木グループ研修	日帰り
199	2	1	東京学芸大学自然科学系	1	9			10	地質調査研修	清澄宿泊施設
200	2	1	東京学芸大学自然科学系	1	9			10	地質調査研修	日帰り
201	2	1	神奈川工科大学工学部応用科学科	1				1	流水性水生昆虫の活動と環境 DNA	日帰り
202	3	11	鴨川市有害鳥獣対策協議会				11	11	有害鳥獣捕獲	日帰り
203	3	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
204	3	4	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考（国際農業開発学コース）			4 (4)		4 (4)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	清澄宿泊施設 2
205	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際選考（国際農業開発学コース）			1 (1)		1 (1)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	日帰り
206	3	3	千葉県立中央博物館	3				3	日本産地衣類の総合的なデータベースの整備のための地衣類調査	日帰り
207	3	11	京都大学大学院地質鉱物学科			11		11	小断層解析を用いたマストランSPORT堆積物（MTD）内部の応力場の復元	清澄宿泊施設 2
208	3	1	筑波大学・生命環境科学研究科	1				1	さび菌の系統関係を明らかに、分析を再検討する	日帰り
209	3	2	東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻	24	6	6 (2)		36 (2)	研究会（炭酸塩コロキウム）の開催	清澄宿泊施設
210	3	1	東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻	11	3	3 (1)		17 (1)	研究会（炭酸塩コロキウム）の開催	日帰り
211	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室	2	1			3	人による種子散布が森林の下層植生に与える影響	日帰り
212	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	1				1	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	日帰り
213	3	2	国立研究開発法人産総研地質調査総合センター 地質情報研究部門	2				2	国の基本図 5 万分の 1 地質図幅「大多喜」作成のための地質調査	日帰り
214	3	1	東京大学教育学部附属中等教育学校	2	1		5	8	関東の天然林の観察	清澄宿泊施設
215	3	1	東京大学教育学部附属中等教育学校	2	1		5	8	関東の天然林の観察	日帰り
216	3	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1				1	シカ柵試験地の状況確認	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す。

利用者数合計 2,621
(140)
利用件数 216

2) 北海道演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	12	東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻			12 (12)		12 (12)	Classification of the composition of mixed conifer-broadleaf forests by integr-ating Unmanned Aerial Vehicle (UAV) imagery and machine learning algorithm	山部宿泊施設
2	4	12	東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻			12 (12)		12 (12)	Estimation of Forest Carbon Stocks using a Combination of Field Measurement, LiDAR and UAV Technology - Implications for REDD+ Monitoring	山部宿泊施設
3	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物研究室	2		2		4	雪腐病菌の種構成の解明	山部宿泊施設
4	4	4	東京都立大学都市環境部	4	4			8	モミ属を加害するキクイムシ類の調査	山部宿泊施設
5	4	2	東京大学農学系総務課人事チーム	8				8	北海道演習林林内視察	山部宿泊施設
6	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒やしの森研究所	1				1	残存研究機械の整理と発送	外部宿泊
7	6	4	帯広畜産大学生命科学研究部門	4	4	16		24	エゾノモモンガ・ヒメズミ調査	日帰り
8	6	2	富良野市生涯学習センター	2			10	12	森林学習プログラム推進事業	日帰り
9	6	2	北海道大学大学院農学研究院	8		8	2	18	th International Soil Classification Congress (国際土壌分類会議) エクスカーションのための土壌断面調査	日帰り
10	6	2	サントリー株式会社				6	6	天然林におけるミズナラ優良木の単木管理及び樺材好適ミズナラの選定法開発に向けたデータ収集	日帰り
11	6	4	東京大学大学院理学系研究科	4				4	温暖な環境に移植された北方針葉樹のストレス応答評価	外部宿泊
12	6	1	北海道地方環境事務所				9	9	猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守	日帰り
13	6	2	大阪府立自然史博物館	2				2	ツガ樹上を巡る生態系の調査	外部宿泊
14	6	4	北海道大学大学院獣医学研究院	2	2	4 (8)	4	12 (8)	土地利用形態のマダニ分布への影響	山部宿泊施設
15	6	1	酪農学園大学農食環境学群	1		1		2	ヒグマのマーキング行動の複雑さと生息密度の関係	日帰り
16	6	2	北海道札幌啓成高等学校	4			32	36	北海道札幌啓成高等学校SSH道内研修B (自然環境)	セミナーハウス
17	6	2	北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所	4				4	ネズミ・トガリネズミ類の保有するウイルス叢の解析	山部宿泊施設
18	6	1	NPO 法人富良野自然塾				2	2	ゴルフ場の自然返還事業における育苗方法について	日帰り
19	6	4	東京芸術大学美術学部			4		4	森林空間美についての研究	山部宿泊施設
20	6	1	北海道大学大学院農学研究院	1	3			4	樹木個体レベルの強風被害プロセスの解明	日帰り
21	6	1	次世代の会		8		33	41	東京大学北海道演習林における天然林施業の見学会	日帰り
22	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒やしの森研究所	6		4	2	12	カラマツ林のリモートセンシングとDNA 解析	日帰り
23	6	1	北海道立北の森づくり専門学院	1	3			4	北海道演習林職場見学会	日帰り
24	6	1	室蘭工業大学大学院	1		1		2	気候変動が積雪寒冷地の河川水温に与える影響の研究	日帰り
25	6	1	北海道森林管理局上川中部森林管理署	63				63	天然林施業に関する現地見学	日帰り
26	6	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科	2				2	感性と倫理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究	山部宿泊施設
27	6	1	国立大雪青少年交流の家	6				6	アクティビティの実施にともなう倒木の提供	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
28	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2				2	ｶｼﾉﾊｶﾞｷｸｲﾓｼの体サイズとﾏｲｶﾝｷﾞｱの数に及ぼす環境要因と遺伝子要因の相対的な重要性の解明	山部宿泊施設
29	7	4	東京都立大学都市環境部	4	4			8	モミ属を加害するｷｸｲﾓｼ類の調査	山部宿泊施設
30	7	2	帯広畜産大学生命科学研究部門	2	2	14		18	ｴﾞｼﾞ'ﾓﾓﾝｶﾞ・ﾋﾒﾈｽﾞ'ﾐ調査	日帰り
31	7	2	富良野市生涯学習センター	6	2		15	23	森林学習プログラム推進事業	日帰り
32	7	1	北海道大学大学院農学研究大学院		1	1		2	樹木個体レベルの強風被害プロセスの解明	日帰り
33	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3				3	ｶｼﾉﾊｶﾞｷｸｲﾓｼの体サイズとﾏｲｶﾝｷﾞｱの数に及ぼす環境要因と遺伝子要因の相対的な重要性の解明	山部宿泊施設
34	7	1	北海道大学地球環境科学大学院生物圏科学専攻	1	1	4 (1)		6 (1)	富良野地方におけるサケ科魚類の保全生態学的研究	山部宿泊施設
35	7	1	帯広の森サポーターの会				3	3	優良森林視察研修会の下見	日帰り
36	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林				20	20	大麓山ハイキング登山会	日帰り
37	7	1	北海道新聞社富良野支局				1	1	大麓山ハイキング登山会の取材	日帰り
38	7	1	山梨県中北地区県有林造林推進協議会				9	9	演習林内での天然性林施業の択伐及び皆伐後の地拵え、植栽の実施施業	日帰り
39	7	3	東京大学大学院理学系研究科	3				3	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	山部宿泊施設
40	7	1	住友林業株式会社				1	1	奨学寄付金研究「森林施業手法がもたらす水源涵養機能への影響解明」の調査地視察	日帰り
41	7	3	東京農業大学生物産業学部	3	3	3		9	富良野地方におけるサケ科魚類の保全生態学的研究	山部宿泊施設
42	7	1	酪農学園とわの森三愛高校	1			10	11	道内研修	日帰り
43	7	1	上川総合振興局南部森林管理室	15				15	上川管内における優良広葉樹資源視察のため	日帰り
44	7	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			5 (5)		5 (5)	森林施業手法がもたらす水源涵養機能への影響解明	山部宿泊施設
45	8	2	帯広畜産大学生命科学研究部門	2	1	8		11	ｴﾞｼﾞ'ﾓﾓﾝｶﾞ・ﾋﾒﾈｽﾞ'ﾐ調査	日帰り
46	8	2	富良野市生涯学習センター	12	2		30	44	森林学習プログラム推進事業	日帰り
47	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4				4	ｶｼﾉﾊｶﾞｷｸｲﾓｼの体サイズとﾏｲｶﾝｷﾞｱの数に及ぼす環境要因と遺伝子要因の相対的な重要性の解明	山部宿泊施設
48	8	7	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			7 (7)		7 (7)	森林施業手法がもたらす水源涵養機能への影響解明	山部宿泊施設
49	8	1	北海道大学地球環境科学大学院	1		2		3	風穴の温度と植生動態	日帰り
50	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻	3		6 (6)		9 (6)	天然林管理業務への女性参画に関する実態調査	山部宿泊施設
51	8	1	関東弁護士会連合会				6	6	「林分施業法」及び「人工林の「公益的機能と効率的な木材生産を両立する施業の実証実験」	日帰り
52	8	2	北海道立総合研究機構	16			12	28	富良野の高校生による水源探訪フィールドワーク	日帰り
53	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林				9	9	公開セミナー	日帰り
54	8	1	北海道新聞社富良野支局				1	1	公開セミナー同行取材	日帰り
55	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	8	32			40	全学体験ゼミ「森に学ぶ（ふらの）」	山部宿泊施設
56	8	4	東京大学教育学部附属中等教育学校	8			56	64	生物部 夏季合宿	セミナーハウス

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
57	8	3	北海道大学大学院農学 研究院	6	6	3		15	樹木個体レベルの強風被害プロセスの 解明	山部宿泊 施設
58	8	4	東京大学農業・資源経 済学専攻	8				8	林分施業法に関する見学と研究打合せ	山部宿泊 施設
59	8	1	北海道立総合研究機構 林業試験場	2				2	UAVを用いたトドマツ標高別見本展示 林の球果数推定	日帰り
60	8	1	北海道立総合研究機構 林業試験場	3				3	水資源開発・管理のための支援システ ム「水資源Navi」の開発	日帰り
61	8	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科森園管理 学	2		1		3	ササの開花が生態系機能に及ぼす影響	セミナー ハウス
62	8	3	東京大学大学院農学生 命科学研究科森林植物 研究室	3	3	3		9	倒木更新する針葉樹実生の育成にかか わる菌類相の解明	山部宿泊 施設
63	9	2	帯広畜産大学生命科学 研究部門	2	3	6		11	エゾ・モモンガ・ヒメネズミ調査	日帰り
64	9	1	富良野市生涯学習セン ター	7	2		9	18	森林学習プログラム推進事業	日帰り
65	9	1	酪農学園大学農食環境 学群	2	6			8	ヒグマのマーキング行動の複雑さと生 息密度の関係	日帰り
66	9	3	東京大学大学院理学系 研究科	3	3			6	温暖地域に移植したトドマツの成長が 低下する生理生態学的要因の解明	山部宿泊 施設
67	9	2	北海道大学大学院農学 研究院		6			6	樹木個体レベルの強風被害プロセスの 解明	山部宿泊 施設
68	9	2	東京大学大学院農学生 命科学研究科森園管理 学	4		2		6	ササの開花が生態系機能に及ぼす影響	セミナー ハウス
69	9	1	北海道大学大学院獣医 学研究院			1 (1)	1	2 (1)	野鼠における寄生虫糞の解析	日帰り
70	9	4	東京大学大学院農学生 命科学研究科森林科学 専攻	4	68			72	森林科学総合実習	セミナー ハウス
71	9	1	東京大学名誉教授				2	2	記念樹及び記念植樹の見学	日帰り
72	9	4	フォトグラファー				4	4	創立125周年記念事業 記念誌に関わ る施業、林相、景観等の写真撮影	日帰り
73	9	5	東京藝術大学美術学部			5		5	森林空間美についての研究（陸域景観 学実習）	山部宿泊 施設
74	9	5	東京大学新領域創成科 学研究科	10		35		45	陸域生態学実習	セミナー ハウス
75	9	1	北海道富良野緑峰高等 学校	2			17	19	農業と環境	日帰り
76	9	15	東京大学教養学科		25			25	東京大学体験活動プログラム「森が社 会に貢献するー持続可能な森づくりへ の挑戦ー」	山部宿泊 施設
77	9	1	栄林会				63	63	栄林会青年部 現地研修会	日帰り
78	9	1	東京大学名誉教授				8	8	森林施業の総合実習	日帰り
79	9	1	北海道新聞社富良野支 局				1	1	「森林学習プログラム」取材	日帰り
80	10	2	帯広畜産大学生命科学 研究部門	2	2	6		10	エゾ・モモンガ・ヒメネズミ調査	日帰り
81	10	1	富良野市生涯学習セン ター	7	2		18	27	森林学習プログラム推進事業	日帰り
82	10	1	サントリー株式会社				12	12	天然林におけるミズナラ優良木の単木 管理及び樺材好適ミズナラの選定法開 発に向けたデータ収集	日帰り
83	10	5	東京藝術大学美術学部			10	10	20	森林空間美についての研究	山部宿泊 施設
84	10	3	住友林業株式会社				18	18	奨学寄付金研究「森林施業手法がもた らす水源涵養機能への影響解明」の調 査地視察	日帰り
85	10	14	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林			14 (14)		14 (14)	森林施業手法がもたらす水源涵養機能 への影響解明	山部宿泊 施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
86	10	2	フォトグラファー				2	2	創立 125 周年記念事業 記念誌に関わる施業、林相、景観等の写真撮影	日帰り
87	10	1	北海道新聞社富良野支局				1	1	「森林学習プログラム」取材	日帰り
88	10	2	榊湖南ウッドロード	2			2	4	林分施業法が実践され、約 60 年を経過した森林の現況を学ぶ	山部宿泊施設
89	10	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	8				8	長期生態系データ生物部門脊椎動物グループによる魚類相調査	山部宿泊施設
90	10	1	帯広の森サポーターの会				10	10	有料森林視察研修会	日帰り
91	10	2	公益財団法人アイヌ民族文化財団				16	16	アイヌ伝統の丸太舟・板綴船の技術伝承及び展示・体験交流活動について	日帰り
92	10	2	北海道新聞社富良野支局				2	2	ウポバイ職員丸木樹木氏冊への取材	日帰り
93	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林				17	17	神社山自然観察路一般公開	日帰り
94	10	1	北海道立北の森づくり専門学院	1				1	天然林の生態および施業の見学	日帰り
95	10	1	北海道新聞社富良野支局				1	1	「神社山」自然観察会」取材	日帰り
96	10	1	株式会社 METIS				3	3	富良野市プロモーション動画撮影	日帰り
97	10	1	アジア航測株式会社				12	12	2023 年度課題別研修 「地域住民の参加による持続的な森林管理」コース	日帰り
98	10	1	株式会社にしかわ				3	3	東京大学北海道演習林におけるストロープ人工林の現地見学	日帰り
99	10	1	NPO 法人富良野自然塾				4	4	東京大学の森育成資金 記念樹の訪問	日帰り
100	10	14	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻	10		14 (14)	14 (14)	38 (28)	ウィスキー樽に適したミズナラ表徴の自動判別技術の開発	山部宿泊施設
101	10	2	北海道立北の森づくり専門学院	4	60			64	天然林施業実習	日帰り
102	10	5	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻			5 (5)		5 (5)	Application of Improved PointNet++ and New Descriptors to Close-to-nature Forest Management	山部宿泊施設
103	10	3	山形大学理学部	3	3	3		9	タケササ類の開花習性とクローン特性の進化的解析	山部宿泊施設
104	11	1	酪農学園大学農食環境学群	1	2		1	4	ヒグマのマーキング行動の複雑さと生息密度の関係	日帰り
105	11	1	北海道森林管理局上川中部森林管理署	31				31	天然林施業に関する現地見学	日帰り
106	11	3	東京大学大学院理学系研究科	3				3	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	山部宿泊施設
107	11	8	フォトグラファー				8	8	創立 125 周年記念事業 記念誌に関わる施業、林相、景観等の写真撮影	日帰り
108	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻			2 (4)	2	4 (4)	ウィスキー樽に適したミズナラ表徴の自動判別技術の開発	山部宿泊施設
109	11	1	上川総合振興局産業振興部	19				19	上川総合振興局林務関係若手職員職場研修	日帰り
110	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	6		6 (6)	6	18 (6)	カラマツ林のリモートセンシングと DNA 解析	外部宿泊
111	11	1	北海道立総合森林機構森林研究本部	2				2	苗畑用除草剤試験・登録	日帰り
112	11	1	ホクサン㈱				2	2	苗畑用除草剤試験・登録	日帰り
113	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文研究所	3				3	事務	山部宿泊施設
114	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	2			4	6	GNSS 測位機とタブレット端末の技術手法の習得	山部宿泊施設
115	12	1	総合商研株式会社				1	1	フリーマガジン「JP01 エリア富良野市」取材	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
116	1	1	北海道文化放送				1	1	第2回素材販売における現地での取材	日帰り
117	1	1	武部建設株式会社		5	5	1	11	第2回素材販売における現地見学	日帰り
118	1	1	北海道新聞社富良野支局				1	1	尾張林長インタビュー	日帰り
119	1	2	株式会社カンディハウス				18	18	RA-2号物件の伐採業の動画・制止が撮影	日帰り
120	2	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			3 (3)		3 (3)	森林施業手法がもたらす水源涵養機能への影響解明	山部宿泊施設
121	2	4	東京大学教養学科		4			4	東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」	山部宿泊施設
122	2	3	幻冬舎メディアコンサルティング				18	18	相田木材株式会社100周年記念社史編集	外部宿泊
123	2	15	サッサリ大学		15 (15)			15 (15)	海外学生のインターンシップ	山部国際宿泊施設
124	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	2		2		4	トドマツ母樹別種子を用いた当年生実生の挿し木試験	外部宿泊
125	2	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林		78			78	教養学部全学体験ゼミナール 雪の森林に学ぶ	セミナーハウス
126	3	5	東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻			5 (5)		5 (5)	Estimation of Forest Carbon Stocks using a Combination of Field Measurement, LiDAR and UAV Technology - Implications for REDD+ Monitoring	山部宿泊施設
127	3	2	酪農学園大学農食環境学群	2	5	5		12	ヒグマのマーキング行動の複雑さと生息密度の関係	日帰り
128	3	9	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			18 (18)		18 (18)	森林施業手法がもたらす水源涵養機能への影響解明	山部宿泊施設
129	3	13	東京大学教養学科		13			13	東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」	山部宿泊施設
130	3	5	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻			5 (5)		5 (5)	Application of Improved PointNet++ and New Descriptors to Close-to-nature Forest Management	山部宿泊施設
131	3	12	サッサリ大学		12 (12)			12 (12)	海外学生のインターンシップ	山部国際宿泊施設
132	3	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	2				2	葉緑体 SSR と核 SSR マーカーを用いたトドマツ採種圃構成クローンの実生への寄与度解明	外部宿泊
133	3	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	6				6	演習林 FDRC 業務としての北海道演習林の古い文書や東京大学の歴史に関する資料視察	山部宿泊施設
134	3	1	富良野市生涯学習センター				20	20	博物館事業・富良野の自然に親しむ集い	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す。

利用者数合計 1,668
(167)
利用件数 134

3) 秩父演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	University of Exeter (England)			1		1	Examining the development and historical significance of the Japanese bow	外部宿泊
2	4	1	University of Exeter (England)			1		1	Examining the development and historical significance of the Japanese bow	日帰り
3	4	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
4	4	1	ニホンオオカミを探す会				2	2	絶根としたとされるニホンオオカミの生存を確認する作業	日帰り
5	4	1	奥秩父山塊イヌワシ調査グループ				2	2	奥秩父山地におけるニホンイヌワシの生態繁殖調査	日帰り
6	4	2	東京農工大学	1		2		3	都市域と山地に生息するヒキガエルの生態比較	栃本自炊 宿舎
7	4	4	東京農工大学	1		4		5	都市域と山地に生息するヒキガエルの生態比較	日帰り
8	4	1	東京大学農学部森林環境資源科学専修				1	1	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセスの解明	日帰り
9	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	1				1	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
10	4	1	個人				1	1	長期生態系プロットによる森林動態の解明、鳥類群集の長期動態、疾病および外来種、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	日帰り
11	5	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
12	5	1	東京大学農学部森林環境資源科学専修				1	1	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセスの解明	日帰り
13	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	1	1 (1)		1	3 (1)	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
14	5	1	埼玉県立川の博物館	1			1	2	ヒガンヒダサンショウウオの生息調査	日帰り
15	5	1	特定非営利活動法人パードリサーチ	1				1	鳥類調査	川俣学生 宿舎(自 炊泊)
16	5	2	特定非営利活動法人パードリサーチ	2				2	鳥類調査	日帰り
17	5	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	4	8	4		16	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	栃本自炊 宿舎
18	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	4	2		8	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	日帰り
19	5	1	秋田県立大学生物資源科学部	1				1	冷温帯域に植栽された落葉広葉樹の成長特性の解明	外部宿泊
20	5	1	秋田県立大学生物資源科学部	1				1	冷温帯域に植栽された落葉広葉樹の成長特性の解明	日帰り
21	5	1	特定非営利活動法人パードリサーチ	1				1	鳥類調査	川俣自炊 宿舎
22	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	日帰り
23	5	1	東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻	1			1	2	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	外部宿泊
24	5	1	東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻	1			1	2	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	日帰り
25	5	1	個人				1	1	鳥類群集の長期動態、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	日帰り
26	5	1	個人				3	3	森林調査にかかる森林見学と情報交換	外部宿泊

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
27	5	1	個人				3	3	森林調査にかかる森林見学と情報交換	日帰り
28	5	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1				1	感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究	日帰り
29	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	1	1	1 (1)		3 (1)	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	日帰り
30	5	1	東京大学農学部森林環境資源科学専修		1			1	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセス	日帰り
31	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		6	0 (1)		6 (1)	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」	川俣学生 宿舎（食 事あり）
32	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		6			6	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」	日帰り
33	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林				13	13	秩父演習林見学会（寄付者対象）	日帰り
34	6	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
35	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室		1			1	ナラ枯れにおける植物ー菌ー昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
36	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	1	2		4	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	日帰り
37	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	日帰り
38	6	1	個人				1	1	鳥類群集の長期動態，スズタケ結実，シカ個体群動態との関係解明	日帰り
39	6	4	東京大学農学部森林環境資源科学専修		4	1		5	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセス	日帰り
40	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		2	0 (1)		2 (1)	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」	川俣学生 宿舎（食 事あり）
41	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科			2		2	日本産カラマツの外生菌根群集構造	栃本自炊 宿舎
42	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科			2		2	日本産カラマツの外生菌根群集構造	日帰り
43	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	日帰り
44	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2				2	ナラ菌に対する宿主感受性の変動は生物季節と温度のどちらの影響か？	日帰り
45	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室	1		1		2	秩父山地におけるカエデ属 <i>Palmata</i> 節6種の交雑解明のための遺伝マーカーの開発	日帰り
46	6	5	東京大学農学部森林環境資源科学専修		4	2		6	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセス	影森自炊 宿舎
47	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻	3	1	17 (3)		21 (3)	「バイオマス利用研究特論Ⅱ」現地講義	日帰り
48	6	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	奥秩父におけるオゾン濃度のモニタリングとアサガオとブナを用いたオゾンによる植物影響調査	日帰り
49	6	1	日本原子力研究開発機構	2			2	4	森林の下層土壌における炭素・窒素循環の解明	日帰り
50	6	1	(株) エコグリーン				3	3	秩父演習林の天然林視察	外部宿泊
51	6	1	(株) エコグリーン				3	3	秩父演習林の天然林視察	日帰り
52	6	3	東京大学農学部国際開発農学専修森林圏生態社会学研究室	3	2			5	クマ剥ぎ行動の発生要因について	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
53	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室	3				3	森林科学基礎実習Ⅲにおける動物分野野外実習の下見	日帰り
54	6	1	埼玉県茶業研究所	3				3	茶樹の山間冷涼地育種	日帰り
55	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻保全生態学研究室	3		0 (1)	1	4 (1)	森林環境や気候条件の生態的影響を比較する国際共同野外マイクロコスモス実験	日帰り
56	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林				9	9	「しおじの会と東大秩父演習林を歩こう」	日帰り
57	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	ナラ菌に対する宿主感受性の変動は生物季節と温度のどちらの影響か？	外部宿泊
58	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			2		2	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
59	6	1	大学院農学生命科学研究科	5			4	9	(株)ダイセルと東京大学の産学協創事業の検討（現地地下見）	日帰り
60	7	1	ニホンオオカミを探す会				2	2	絶根としたとされるニホンオオカミの生存を確認する作業	日帰り
61	7	1	東京農工大学	1		1		2	都市域と山地に生息するヒキガエルの生態比較	栃本自炊 宿舎
62	7	1	東京農工大学	1		1		2	都市域と山地に生息するヒキガエルの生態比較	日帰り
63	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室		2			2	ナラ枯れにおける植物―菌―昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
64	7	1	特定非営利活動法人バードリサーチ	2				2	鳥類調査	日帰り
65	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	日帰り
66	7	2	個人				2	2	鳥類群集の長期動態、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	日帰り
67	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1				1	感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究	日帰り
68	7	2	東京大学農学部森林環境資源科学専修		4			4	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセス	日帰り
69	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	日帰り
70	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		1 (1)		2 (1)	ナラ菌に対する宿主感受性の変動は生物季節と温度のどちらの影響か？	日帰り
71	7	1	東京大学農学部森林環境資源科学専修		1			1	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセス	影森自炊 宿舎
72	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻保全生態学研究室	3			1 (1)	4 (1)	森林環境や気候条件の生態的影響を比較する国際共同野外マイクロコスモス実験	日帰り
73	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
74	7	1	埼玉県立秩父農工科学高校	2			40	42	樹木採集実習（樹木50種の枝葉の採集）	日帰り
75	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻生物素材科学研究室	1		1		2	樹皮模様の形成機構に関する研究	日帰り
76	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	1				1	森林科学基礎実習Ⅲ現地地下見	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
77	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻保全生態学研究室	3			1 (1)	4 (1)	森林環境や気候条件の生態的影響を比較する国際共同野外マイクロリズム実験	外部宿泊
78	7	1	新潟大学佐渡自然共生科学センタ				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
79	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	2		4		6	秩父山地におけるカエデ属 <i>Palmata</i> 節 6 種の交雑解明のための遺伝マーカーの開発	栃本自炊 宿舎
80	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1		2		3	秩父山地におけるカエデ属 <i>Palmata</i> 節 6 種の交雑解明のための遺伝マーカーの開発	日帰り
81	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	2	19 (2)	1		22 (2)	森林科学基礎実習Ⅲ	川俣学生 宿舎（食 事あり）
82	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1			14	15	公開講座「東大の森林で昆虫採集」	日帰り
83	8	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
84	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室		1			1	ナラ枯れにおける植物一菌一昆虫 3 者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
85	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			2		2	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	日帰り
86	8	1	個人				1	1	鳥類群集の長期動態、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	日帰り
87	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	2	1	2 (2)		5 (2)	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	日帰り
88	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		1 (1)		2 (1)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	日帰り
89	8	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	奥秩父におけるオゾン濃度のモニタリングとアサガオとブナを用いたオゾンによる植物影響調査	日帰り
90	8	1	東京大学農学部国際開発農学専修森林圏生態社会学研究室	1	1			2	クマ剥ぎ行動の発生要因について	日帰り
91	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			4		4	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
92	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻生物素材科学研究室	1		1		2	樹皮模様の形成機構に関する研究	日帰り
93	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	4		2		6	秩父山地におけるカエデ属 <i>Palmata</i> 節 6 種の交雑解明のための遺伝マーカーの開発	栃本自炊 宿舎
94	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1		1		2	秩父山地におけるカエデ属 <i>Palmata</i> 節 6 種の交雑解明のための遺伝マーカーの開発	日帰り
95	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	8	66	10 (6)		84 (6)	森林科学基礎実習Ⅲ	川俣学生 宿舎（食 事あり）
96	8	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	外部宿泊
97	8	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	日帰り
98	8	1	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	1		1		2	森林土壌微生物群集の機能と環境応答の広域スケール応答と空間スケール依存性の解明	栃本自炊 宿舎

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
99	8	1	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	1		1		2	森林土壌微生物群集の機能と環境応答の広域スケール応答と空間スケール依存性の解明	日帰り
100	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	ナラ菌に対する宿主感受性の変動は生物季節と温度のどちらの影響か	外部宿泊
101	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2				2	ナラ菌に対する宿主感受性の変動は生物季節と温度のどちらの影響か	日帰り
102	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1				1	感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究	日帰り
103	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	2	22	3 (2)		27 (2)	森林科学基礎実習Ⅲ	日帰り
104	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	1				1	来年度以降の森林植物学実習の白泰山での実施可能生の検討	日帰り
105	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			2		2	外来種キョウの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム	影森自炊 宿舎
106	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	外来種キョウの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム	日帰り
107	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			2 (2)		2 (2)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	影森自炊 宿舎
108	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1 (1)		1 (1)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	日帰り
109	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習			1 (1)		1 (1)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	日帰り
110	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室		1			1	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
111	9	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	5	10	2		17	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	栃本自炊 宿舎
112	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	4	1		7	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	日帰り
113	9	1	個人				1	1	鳥類群集の長期動態、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	日帰り
114	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	2	1	2 (1)		5 (1)	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	日帰り
115	9	1	埼玉県茶業研究所	4				4	茶樹の山間冷涼地育種	日帰り
116	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻生物素材科学研究室	1		1		2	樹皮模様の形成機構に関する研究	日帰り
117	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	2		1		3	秩父山地におけるカエデ属 <i>Palmata</i> 節6種の交雑解明のための遺伝マーカーの開発	日帰り
118	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	ナラ菌に対する宿主感受性の変動は生物季節と温度のどちらの影響か	外部宿泊
119	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	ナラ菌に対する宿主感受性の変動は生物季節と温度のどちらの影響か	日帰り
120	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			2		2	外来種キョウの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム	影森自炊 宿舎

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
121	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	外来種キョンの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム	日帰り
122	9	26	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		26 (26)		27 (26)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	影森自炊 宿舎
123	9	1	東京農業大学生命科学部	1	3			4	ヒメコマツ絶滅危惧個体群に生息する外生菌根菌の群集および集団遺伝構造	日帰り
124	9	20	東京大学大学院農学生命科学研究科森林環境資源科学専修		20			20	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセス	影森自炊 宿舎
125	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻	2	40	6		48	バイオマス科学実習・森林科学実習	外部宿泊
126	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻	1	20	3		24	バイオマス科学実習・森林科学実習	日帰り
127	10	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
128	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室		1			1	ナラ枯れにおける植物―菌―昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
129	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	日帰り
130	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻保全生態学研究室	4			1 (1)	5 (1)	森林環境や気候条件の生態的影響を比較する国際共同野外マイクロズム実験	日帰り
131	10	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			4		4	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
132	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻保全生態学研究室	4			1 (1)	5 (1)	森林環境や気候条件の生態的影響を比較する国際共同野外マイクロズム実験	外部宿泊
133	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	ナラ菌に対する宿主感受性の変動は生物季節と温度のどちらの影響か	日帰り
134	10	9	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			9		9	外来種キョンの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム	影森自炊 宿舎
135	10	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3		31 (30)		34 (30)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	影森自炊 宿舎
136	10	13	東京大学大学院農学生命科学研究科森林環境資源科学専修		16	2	1	19	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセス	影森自炊 宿舎
137	10	1	職業能力開発短期大学校 東京建築カレッジ	6			23	29	「地域住宅研修」における「飯能・秩父宿泊研修」	日帰り
138	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	10				10	気象水文水質部門 流量観測に関する研修	川俣学生 宿舎（食 事あり）
139	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	5				5	気象水文水質部門 流量観測に関する研修	日帰り
140	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		6			6	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	外部宿泊
141	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		5			5	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
142	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		5			5	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	川俣学生宿舎（食事あり）
143	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林環境資源科学専修		3		3	6	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセス	日帰り
144	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	14				14	関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修	川俣学生宿舎（食事あり）
145	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	7				7	関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修	日帰り
146	11	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
147	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			3 (1)	1	4 (1)	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	日帰り
148	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1	1			2	感性和論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究	日帰り
149	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	3	3			6	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	日帰り
150	11	1	東京大学農学部国際開発農学専修森林圏生態社会学研究室	1	1			2	クマ剥ぎ行動の発生要因について	日帰り
151	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林				5	5	「しおじの会と東大秩父演習林を歩こう」	日帰り
152	11	5	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			5 (1)	1	6 (1)	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	影森自炊宿舎
153	11	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	外部宿泊
154	11	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	日帰り
155	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			2 (2)		2 (2)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	影森自炊宿舎
156	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1 (1)		1 (1)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	日帰り
157	11	30	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		30 (30)		31 (30)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	影森自炊宿舎
158	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林環境資源科学専修		3			3	シカによる更新阻害が森林植生の均質化を引き起こす生態学的プロセス	日帰り
159	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	3	9			12	全学体験ゼミナール「森と人を紡ぎ直す感性和技術の方法論」	日帰り
160	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室	2				2	森林生態系におけるコウチュウ目一微生物群集共生系の共進化動態解析	日帰り
161	11	1	個人				1	1	ミズナラ結実の動態	日帰り
162	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1			3	4	森林の間伐による保水力および下層植生の変化の検証	日帰り
163	11	3	秩父市立影森中学校				6	6	令和5年度社会体験チャレンジ	日帰り
164	11	1	埼玉県立自然の博物館環境担当				2	2	自動撮影カメラによる補足的生息地研究	日帰り
165	12	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
166	12	1	ニホンオオカミを探索会				2	2	絶根としたとされるニホンオオカミの生存を確認する作業	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
167	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			2		2	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	日帰り
168	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		1		2	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	日帰り
169	12	1	東京大学農学部国際開発農学専修森林圏生態社会学研究室		1			1	クマ剥ぎ行動の発生要因について	日帰り
170	12	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			5 (1)		5 (1)	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
171	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1 (1)		1 (1)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	影森自炊 宿舎
172	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1 (1)		1 (1)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	日帰り
173	12	21	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		21 (21)		22 (21)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	影森自炊 宿舎
174	12	2	個人				2	2	ミズナラ結実の動態	日帰り
175	12	1	埼玉県立自然の博物館環境担当				2	2	自動撮影カメラによる補足的生息地研究	日帰り
176	12	1	東京大学薬学系	4			2	6	秩父演習林影森苗畑ストックヤードの視察	影森自炊 宿舎
177	12	1	東京大学薬学系	4			2	6	秩父演習林影森苗畑ストックヤードの視察	日帰り
178	12	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	ミヤマスカシユリの維持に関する調査	日帰り
179	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2				2	全国多地点におけるコナラ丸太の分解と生物間相互作用	日帰り
180	1	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
181	1	1	特定非営利活動法人パードリサーチ	1				1	鳥類調査	日帰り
182	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1				1	捕食者の非消費型効果がシカの行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	日帰り
183	1	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林			5 (5)		5 (5)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	日帰り
184	1	1	東京大学農学部国際開発農学専修森林圏生態社会学研究室		1			1	クマ剥ぎ行動の発生要因について	日帰り
185	1	15	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			15 (15)		15 (15)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	影森自炊 宿舎
186	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1 (1)		1 (1)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	日帰り
187	1	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	ミヤマスカシユリの維持に関する調査	日帰り
188	1	1	特定非営利活動法人パードリサーチ	1				1	鳥類調査	外部宿泊
189	1	1	特定非営利活動法人パードリサーチ	1				1	鳥類調査	栃本自炊 宿舎
190	1	1	東京農工大学			1		1	都市化に対するヒキガエルの生存戦略	日帰り
191	2	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
192	2	1	特定非営利活動法人パードリサーチ	1				1	鳥類調査	日帰り
193	2	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		3 (3)		4 (3)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
194	2	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	外部宿泊
195	2	2	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	2				2	温暖地域に移植したトドマツの成長が低下する生理生態学的要因の解明	日帰り
196	2	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			3 (2)		3 (2)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	影森自炊 宿舎
197	2	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			3 (2)		3 (2)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	日帰り
198	2	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林			4 (4)		4 (4)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	影森自炊 宿舎
199	2	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2	4	1 (1)		7 (1)	柏キャンパスサイエンスキャンプ「音と技術が紡ぎだす 森と人の将来像」	日帰り
200	2	1	東京大学大学院理学系研究科附属植物園	1				1	カタクリの斑の大型草食動物に対するカムフラージュ効果の検討	日帰り
201	3	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
202	3	1	埼玉県茶業研究所	4				4	茶樹の山間冷涼地育種	日帰り
203	3	11	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			12 (11)		12 (11)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	影森自炊 宿舎
204	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			2 (1)		2 (1)	シカ食害下の森林における鳥類の種子散布ネットワークの解明	日帰り
205	3	29	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		29 (29)		30 (29)	カシナガの体サイズとマイカンギアの孔数に及ぼす温度と遺伝的な要因の影響	影森自炊 宿舎
206	3	3	東京大学大学院理学系研究科附属植物園	7	1	4	1	13	カタクリの斑の大型草食動物に対するカムフラージュ効果の検討	日帰り
207	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻	1				1	樹木少数集団の探索手法の開発	日帰り
208	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室	1	1			2	人による種子散布が森林の下層植生に与える影響	日帰り
209	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林フィールドデータ研究センター				1 (1)	1 (1)	森林生態系における微生物間相互作用が土壌有機物の分解速度に及ぼす影響(仮)	影森自炊 宿舎
210	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林フィールドデータ研究センター				1 (1)	1 (1)	森林生態系における微生物間相互作用が土壌有機物の分解速度に及ぼす影響(仮)	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計	1,086 (222)
利用件数	210

4) 田無演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギコンテナ苗の発根促進効果と翌春の成長促進」 修士1年 小林裕子	日帰り
2	4	1	一般個人見学者				309	309	見学(ガイドツアー47人、一般見学262人、全来場者数309人)	日帰り
3	4	1	一般個人見学者				175	175	見学	日帰り
4	4	5	高知大学大学院農林海洋科学部生物多様性管理学研究室	1	5			6	卒業論文 学部4年 福島 可純 テントウムシのサンプリング	日帰り
5	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2		2 (2)	1 (1)	5 (3)	修士論文「カシノナガキクイムシのマイカンギアに影響する要因」 修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り
6	4	4	東京大学大学院農学生命科学研究科応用昆虫学研究室			4		4	博士論文「野外捕食者(野鳥)を用いた蝶類斑紋の弁別実験(エサ台の設置)」 博士3年 網野 海	日帰り
7	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	コナラの養分吸収	日帰り
8	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				5	5	2023年度東京大学田無演習林公開講座「松の世界」第1講～第3講	日帰り
9	4	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス(仮称)整備計画 モニタリング調査(希少猛禽類の繁殖状況調査)	日帰り
10	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1		1		2	修士論文「コウモリのメチル化解明のための、分子生物学実験」(修論兼 祐翔 M1)	日帰り
11	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1		1		2	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う、分子生物学実験」(修論 秋山 礼 M1)	日帰り
12	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	2				2	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギコンテナ苗の発根促進効果と翌年の成長促進」 修士2年 小林裕子	日帰り
13	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		1 (1)		2 (1)	修士論文「カシノナガキクイムシのマイカンギアの数と体サイズおよび羽化消長に影響する要因」 修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り
14	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構	1		1		2	光合成の実験に使用するポプラの挿し穂の受け取り(修士論文 M1 伊藤 輝)	日帰り
15	5	1	一般個人見学者				124	124	見学	日帰り
16	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科応用昆虫学研究室			2		2	博士論文「野外捕食者(野鳥)を用いた蝶類斑紋の弁別実験(エサ台の設置)」 博士3年 網野 海	日帰り
17	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	コナラの養分吸収	日帰り
18	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				5	5	2023年度東京大学田無演習林公開講座「松の世界」第1講～第3講	日帰り
19	5	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス(仮称)整備計画 モニタリング調査(希少猛禽類の繁殖状況調査)	日帰り
20	5	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2		3		5	修士論文「コウモリのメチル化解明のための、分子生物学実験」(修論兼 祐翔 M1)	日帰り
21	5	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2		4		6	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う、分子生物学実験」(修論 秋山 礼 M1)	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
22	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギコンテナ苗の発根促進効果と翌年の成長促進」 修士2年 小林裕子	日帰り
23	5	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	5		5 (5)		10 (5)	修士論文「カシノナガキクイムシのマイカンギアの数と体サイズおよび羽化消長に影響する要因」 修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り
24	5	1	一般個人見学者				79	79	見学(ガイドツアー28人、一般見学51人、全来場者数79人)	日帰り
25	5	1	練馬区立関町リサイクルセンター				25	25	見学	日帰り
26	5	1	株式会社サブラヒ・テクノロジス				8	8	安全保障貿易管理研究会	日帰り
27	5	1	実践学園中学校(1年)	7			116	123	校外授業	日帰り
28	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				15	15	2023年度田無演習林森林教育パートナー研修 5/15 予備日 5/16	日帰り
29	5	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	4		2 (1)		6 (1)	博士論文、卒業論文「スギと共生する菌根菌の多様性の解明」 博士3年ジョタン ケビン, B4年菖蒲 周	日帰り
30	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	2		2 (2)		4 (2)	博士論文「Afzelia africana と共生する菌根菌の多様性の解明」 博士3年ジョタン ケビン	日帰り
31	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	4	18			22	全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」の現地講義	日帰り
32	5	1	東京大学大学院経済学研究科山本研究室	1		12		13	経営史研究の課題と展望	日帰り
33	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		1 (1)		2 (1)	樹木の傷口から侵入する腐朽菌類相の遷移に関する研究の下見(博士論文 D1 戴 健平)	日帰り
34	5	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4		5 (5)		9 (5)	樹木の傷口から侵入する腐朽菌類相の遷移に関する研究(博士論文 D1 戴 健平)	日帰り
35	5	1	株式会社ハウフルス				6	6	テレビ東京「出沒! アド街ック天国」の撮影のため	日帰り
36	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属アジア生物資源環境センター	2				2	田無演習林内に留置していた実験資材、実験材料の後片付け	日帰り
37	6	2	一般個人見学者				169	169	見学	日帰り
38	6	5	東京大学大学院農学生命科学研究科応用昆虫学研究室			5		5	博士論文「野外捕食者(野鳥)を用いた蝶類斑紋の弁別実験(エサ台の設置)」 博士3年 網野 海	日帰り
39	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				7	7	2023年度東京大学田無演習林公開講座「松の世界」第1講～第3講	日帰り
40	6	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			5		5	修士論文「コウモリのメチル化解明のための、分子生物学実験」(修論兼 祐翔 M1)	日帰り
41	6	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			3		3	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う、分子生物学実験」(修論 秋山 礼 M1)	日帰り
42	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギコンテナ苗の発根促進効果と翌年の成長促進」 修士2年 小林裕子	日帰り
43	6	16	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	7		16 (16)		23 (16)	修士論文「カシノナガキクイムシのマイカンギアの数と体サイズおよび羽化消長に影響する要因」 修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
44	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1 (1)				1 (1)	博士論文「Afzelia africana と共生する菌根菌の多様性の解明」 博士3年ジョタン ケビン	日帰り
45	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	4	18 (1)			22 (1)	全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」の現地講義	日帰り
46	6	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2		4 (4)		6 (4)	樹木の傷口から侵入する腐朽菌類相の遷移に関する研究（博士論文 D1 戴健平）	日帰り
47	6	1	国分寺市在住				1	1	都内におけるオオタカの繁殖状況モニタリング調査	日帰り
48	6	1	いであ株式会社				1	1	希少猛禽類の繁殖状況調査	日帰り
49	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1		15 (5)		16 (5)	森林生態圏管理学特論	日帰り
50	6	1	東大農場・演習林の存続を願う会				8	8	演習林内生物（動植物）観察・調査・記録	日帰り
51	6	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	15				15	長期生態系脊椎動物部門小型哺乳類ネズミ類・モグラ類）の目録整備に向けた調査	日帰り
52	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林圏生態社会学研究室		1			1	クマ剥ぎ行動の発生要因について（卒業論文 B4 横山 秀太）	日帰り
53	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物機械工学研究室	1		3		4	林内移動ロボットのための3次元マッピング（修士論文 M1 米田 翔）	日帰り
54	6	1	学校法人小金井学園前沢幼稚園	3				3	七夕飾り用の笹の分譲	日帰り
55	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属アジア生物資源環境研究センター	2	7	7	1	17	子実体の採集	日帰り
56	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	5	8		71	84	第42回子ども樹木博士認定会	日帰り
57	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	森林経理学研究室教授伊藤昭彦先生の新任のご挨拶と今後の打合せと林内見学	日帰り
58	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	5	1	3 (2)	2	11 (2)	2023年度田無演習林利用者交流会	日帰り
59	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				2	2	間伐材、未利用材の活用について、森林教育パートナーの開戸さん、柳田さんが相談のために来演（竹本、相川対応）	日帰り
60	7	1	一般個人見学者				167	167	見学	日帰り
61	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科応用昆虫学研究室			1		1	博士論文「野外捕食者（野鳥）を用いた蝶類斑紋の弁別実験（エサ台の設置）」博士3年 網野 海	日帰り
62	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2		3		5	修士論文「コウモリのメチル化解明のための、分子生物学実験」（修論 兼 祐翔 M1）	日帰り
63	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギコンテナ苗の発根促進効果と翌年の成長促進」 修士2年 小林裕子	日帰り
64	7	17	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3		17 (17)		20 (17)	修士論文「カシノナガキイムシのマイカンギアの数と体サイズおよび羽化消長に影響する要因」修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り
65	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	2		1 (1)		3 (1)	博士論文「Afzelia africana と共生する菌根菌の多様性の解明」 博士3年ジョタン ケビン	日帰り
66	7	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	5		5 (5)		10 (5)	樹木の傷口から侵入する腐朽菌類相の遷移に関する研究（博士論文 D1 戴健平）	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
67	7	1	東大農場・演習林の 存続を願う会				8	8	演習林内生物（動植物）観察・調査・ 記録	日帰り
68	7	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 アジア生物資源環境 研究センター	2		7 (7)		9 (7)	子実体の採集	日帰り
69	7	2	学習院大学理学部生 命科学科生物遺伝資 源学研究室	2	2			4	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの 植栽と利用	日帰り
70	7	2	西東京市立青嵐中学 校				8	8	職場体験 7/6 （事前訪問 6/28）	日帰り
71	7	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス（仮称）整 備計画モニタリング調査（希少猛禽類 の繁殖状況調査）	日帰り
72	7	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林教育・社会連 携センター	1	1			2	卒業論文「北海道演習林におけるトド マツ採種園産種苗の遺伝的構成の解 明」（卒論 笹田 勇麻 B4）	日帰り
73	7	1	キンラン保護研究会				2	2	キンランの生育環境調査	日帰り
74	7	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林田無演習林	4	10	6		20	海南大学サマープログラム	日帰り
75	7	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林秋夕演習林	1				1	演習林研究委員会長期生態系データ生 物部門植物分野植生調査	日帰り
76	7	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科国際 森林環境学研究室	1		1 (1)		2 (1)	航空および衛星レーザデータを利用し た全国レベル森林バイオマスの推定 （仮題）（博士論文 D1 李 瀚韜 Hantao LI）	日帰り
77	7	1	社会福祉法人てつな ぎの会 田無ひまわ り保育園	4			17	21	七夕飾り用の笹の分譲	日帰り
78	7	1	東京大学農学部・農 学生命科学研究科事 務部総務課	3				3	令和5年度農学部事務連絡会 10/6 の 下見と事前打ち合わせ（農学部総務課 山吹課長、戸田副課長、中村専門員）	日帰り
79	7	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林教育・社会連 携センター	2	11			13	講義「森林遺伝育種学」における樹木 品種の現地講義，フィールド観察	日帰り
80	8	1	一般個人見学者				64	64	見学	日帰り
81	8	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林富士癒しの森 研究所			1		1	修士論文「コウモリのメチル化解明の ための，分子生物学実験」（修論 兼 祐翔 M1）	日帰り
82	8	8	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林富士癒しの森 研究所			8		8	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研 究に伴う，分子生物学実験」（修論 秋山 礼 M1）	日帰り
83	8	12	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林千葉演習林			12 (12)		12 (12)	修士論文「カシノナガキイムシのマ イカンギアの数と体サイズおよび羽化 消長に影響する要因」 修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り
84	8	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 植物学研究室	1				1	博士論文「Afzelia africana と共生 する菌根菌の多様性の解明」 博士3年ジョタン ケビン	日帰り
85	8	3	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林千葉演習林			3 (3)		3 (3)	樹木の傷口から侵入する腐朽菌類相の 遷移に関する研究（博士論文 D1 戴 健平）	日帰り
86	8	1	学習院大学理学部生 命科学科生物遺伝資 源学研究室	1				1	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの 植栽と利用	日帰り
87	8	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス（仮称）整 備計画モニタリング調査（希少猛禽類 の繁殖状況調査）	日帰り
88	8	1	駒場子ども会（東京 大学教養学部学生有 志）		8			8	竹の分譲（伐採と加工）駒場子ども会 での流しそうめんイベントのため	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
89	8	1	奈良山園				1	1	東久留米市屋柳窪の屋敷林の維持管理についての相談	日帰り
90	8	1	西東京市立田無小学校	4				4	秋の生活科見学の相談と実地踏査	日帰り
91	9	1	一般個人見学者				64	64	見学	日帰り
92	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科応用昆虫学研究室			1		1	博士論文「野外捕食者（野鳥）を用いた蝶類斑紋の弁別実験（エサ台の設置）」博士3年 網野 海	日帰り
93	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			2		2	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う、分子生物学実験」（修論 秋山 礼 M1）	日帰り
94	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギコンテナ苗の発根促進効果と翌年の成長促進」修士2年 小林裕子	日帰り
95	9	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3		3 (3)		6 (3)	樹木の傷口から侵入する腐朽菌類相の遷移に関する研究（博士論文 D1 戴健平）	日帰り
96	9	1	東大農場・演習林の存続を願う会				8	8	演習林内生物（動植物）観察・調査・記録	日帰り
97	9	2	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室	2	5			7	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	日帰り
98	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	2				2	卒業論文「北海道演習林におけるトドマツ採種園産種苗の遺伝的構成の解明」（卒論 笹田 勇麻 B4）	日帰り
99	9	1	いであ株式会社				2	2	東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画モニタリング調査（希少猛禽類の繁殖状況調査、希少植物のモニタリング調査）	日帰り
100	9	1	日本大学文理学部生活科学科井上研究室	1	2			3	ヤマノイモのウィルス感染と環境調査（修士論文 M2年 前田 裕 卒業論文 B4 齋藤 奨悟）	日帰り
101	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1	22			23	森林科学基礎実習Ⅲ	日帰り
102	9	1	東京大学農学部・農学生命科学研究科事務部総務課	1				1	令和5年度農学部事務連絡会 10/5～10/6 開催。下見と事前打ち合わせ 7/24、（農学部総務課 山吹課長、戸田副課長、中村専門員、絹笠上席係長）	日帰り
103	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1	1			2	森林科学基礎実習Ⅲ（補講）	日帰り
104	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	森林生物科学実習（落葉・落枝の採取）	日帰り
105	9	2	田無演習林森林教育パートナー				4	4	田無演習林未利用材及び芳香樹等蒸留実験	日帰り
106	9	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林		21			21	体験活動プログラム	日帰り
107	10	1	一般個人見学者				226	226	見学	日帰り
108	10	4	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	4				4	コナラの養分吸収	日帰り
109	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			1		1	修士論文「コウモリのメチル化解明のための、分子生物学実験」（修論 兼祐翔 M1）	日帰り
110	10	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			6		6	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う、分子生物学実験」（修論 秋山 礼 M1）	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
111	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギコンテナ苗の発根促進効果と翌年の成長促進」 修士2年 小林裕子	日帰り
112	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林			1 (1)		1 (1)	修士論文「カシノナガキクイムシのマイカンギアの数と体サイズおよび羽化消長に影響する要因」 修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り
113	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林			1 (1)		1 (1)	樹木の傷口から侵入する腐朽菌類相の遷移に関する研究(博士論文 D1 戴健平)	日帰り
114	10	1	東大農場・演習林の存続を願う会						演習林内生物(動植物)観察・調査・記録	日帰り
115	10	1	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室	1				1	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	日帰り
116	10	1	いであ株式会社				3	3	東京大学西東京キャンパス(仮称)整備計画モニタリング調査(希少猛禽類の繁殖状況調査, 希少植物のモニタリング調査)	日帰り
117	10	2	東京大学農学部・農学生命科学研究科事務部総務課	51				51	令和5年度農学部事務連絡会 10/5～10/6 開催。下見と事前打ち合わせ 7/24, (農学部総務課 山吹課長, 戸田副課長, 中村専門員, 絹笠上席係長)	日帰り
118	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	環境教育素材の開発	日帰り
119	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会・連携センター	6				6	DNA マーカーを用いた田無のスギ品種展示林の識別と整理	日帰り
120	10	2	自由学園初等部	7			28	35	生活科見学 10/18, 下見と相談 10/13	日帰り
121	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	8	10	31		49	森林生態圏社会学研究室ゼミ	日帰り
122	10	1	西東京市立田無第二中学校				4	4	職場体験 11/17 (事前訪問 10/17)	日帰り
123	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林経理学研究室	1				1	バーチャル・フィジカル空間の融合による自然体験プログラム等の効果検証	日帰り
124	10	1	エルメスジャパン株式会社				2	2	エルメス財団主催「スキル・アカデミー: 中高生向け 春のワークショップ 2024」 開催 3/25 と事前相談・下見・打合せ 10/19	日帰り
125	10	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				11	11	2023 年度田無演習林森林教育パートナー 秋の小学生案内のための事前研修とばーとなーの活動予定日程の調整	日帰り
126	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				7	7	2023 年度東京大学田無演習林公開講座「松の世界」第4講～第6講	日帰り
127	10	1	西東京市立中原小学校1年	5				5	生活科見学 11/16 予備日 11/10, 11/24 下見, 相談 10/30	日帰り
128	11	3	一般個人見学者				515	515	見学	日帰り
129	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	3				3	コナラの養分吸収	日帰り
130	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			2		2	修士論文「コウモリのメチル化解明のための, 分子生物学実験」(修論 兼 祐翔 M1)	日帰り
131	11	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			5		5	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う, 分子生物学実験」(修論 秋山 礼 M1)	日帰り
132	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギコンテナ苗の発根促進効果と翌年の成長促進」 修士2年 小林裕子	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
133	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	博士論文「Afzelia africana と共生する菌根菌の多様性の解明」 博士3年ジョタン ケビン	日帰り
134	11	1	東大農場・演習林の存続を願う会				8	8	演習林内生物（動植物）観察・調査・記録	日帰り
135	11	1	学習院大学理学部生命科学研究科生物遺伝資源学研究室	1		1		2	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	日帰り
136	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター		1			1	卒業論文「北海道演習林におけるトドマツ採種圃産種苗の遺伝的構成の解明」（卒論 笹田 勇麻 B4）	日帰り
137	11	1	西東京市立田無第二中学校				4	4	職場体験 11/17 （事前訪問 10/17）	日帰り
138	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林経理学研究室	1		2		3	バーチャル・フィジカル空間の融合による自然体験プログラム等の効果検証	日帰り
139	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				7	7	2023 年度東京大学田無演習林公開講座「松の世界」第4 講～第6 講	日帰り
140	11	1	西東京市立中原小学校1 年	8			176	184	生活科見学 11/16 予備日 11/10, 11/24 下見, 相談 10/30	日帰り
141	11	1	個人				3	3	シリブカガシ里親, シリブカガシのドングリ採集（育成資金寄付者の家族）	日帰り
142	11	1	株式会社自由が丘フラワーズ				2	2	不用枝物出荷と見学	日帰り
143	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	生物指標としての地表徘徊性甲虫類の多様な飛翔性と食性の解明	日帰り
144	11	2	田無演習林森林教育パートナー				4	4	秋の休日公開 11/26・田無演習林未利用材を活用したワークショップの実施（11/20, 材料の採取）	日帰り
145	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2				2	1997 年開花後の実生モウソウチクの現況調査	日帰り
146	11	1	渋谷ファッション&アート専門学校	2			23	25	風景写生（スケッチ） 演習林内の草木や道などの自然風景の写生	日帰り
147	11	1	第25 期所沢市民大学終了サークル「街歩き」				15	15	見学	日帰り
148	11	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				18	18	2023 年10 月～12 月, 田無演習林森林教育パートナー 秋の小学生案内, 演習林行事のための事前研修, パートナーの活動日程の調整, 活動日	日帰り
149	11	1	筑波大学生物圏資源科学専攻土壌環境化学研究室	1		2		3	土壌マイクロプラスチックの存在量測定のための土壌試料採取	日帰り
150	11	2	株式会社リクルート				48	48	見学イベント	日帰り
151	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	7	2		91	100 (3)	第43 回子ども樹木博士認定会	日帰り
152	11	1	大山研究林利用者協議会（生態水文学研究所協力団体）				6	6	見学とリースづくり体験	日帰り
153	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構	4				4	農学生命科学研究科技術部機械グループ 高所作業車の操作に関する研修	日帰り
154	12	2	一般個人見学者				220	220	見学	日帰り
155	12	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1		5		6	修士論文「コウモリのメチル化解明のための, 分子生物学実験」（修論 兼 祐翔 M1）	日帰り
156	12	9	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1		9		10	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う, 分子生物学実験」（修論 秋山 礼 M1）	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
157	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	修士論文「カシノナガキクイムシのマイカンギアの数と体サイズおよび羽化消長に影響する要因」 修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り
158	12	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4		5 (5)		9 (5)	樹木の傷口から侵入する腐朽菌類相の遷移に関する研究 (博士論文 D1 戴健平)	日帰り
159	12	1	東大農場・演習林の存続を願う会				8	8	演習林内生物 (動植物) 観察・調査・記録	日帰り
160	12	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会・連携センター	5		3 (1)		8 (1)	DNA マーカーを用いた田無のスギ品種展示林の識別と整理	日帰り
161	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				10	10	2023 年度東京大学田無演習林公開講座「松の世界」第4講～第6講	日帰り
162	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				5	5	2023 年 10 月～12 月, 田無演習林森林教育パートナー 秋の小学生案内, 演習林行事のための事前研修, パートナーの活動日程の調整, 活動日	日帰り
163	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構	2				2	緑地環境実地実習 2023/1/11, 実習準備, 材料の採集 2022/12/26	日帰り
164	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1	13			14	森林土壌学実験	日帰り
165	12	1	西東京市立田無小学校1年生	8			118	126	生活科見学 12/8 予備日 12/15	日帰り
166	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	40			23	63 (3)	2023 年度リースつくり体験会	日帰り
167	12	1	探訪ウォーク会				12	12	見学	日帰り
168	1	1	一般個人見学者				144	144	見学	日帰り
169	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			1		1	修士論文「コウモリのメチル化解明のための, 分子生物学実験」(修論 兼 祐翔 M1)	日帰り
170	1	14	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			14		14	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う, 分子生物学実験」(修論 秋山 礼 M1)	日帰り
171	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林			1 (1)		1 (1)	修士論文「カシノナガキクイムシのマイカンギアの数と体サイズおよび羽化消長に影響する要因」 修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り
172	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	博士論文「Afzelia africana と共生する菌根菌の多様性の解明」 博士3年ジョタン ケビン	日帰り
173	1	1	東大農場・演習林の存続を願う会				8	8	演習林内生物 (動植物) 観察・調査・記録	日帰り
174	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	1	1			2	卒業論文「北海道演習林におけるトドマツ採種圃産種苗の遺伝的構成の解明」(卒論 笹田 勇麻 B4)	日帰り
175	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構	1	9			10	緑地環境実地実習	日帰り
176	2	1	一般個人見学者				52	52	見学	日帰り
177	2	7	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			7		7	修士論文「コウモリのメチル化解明のための, 分子生物学実験」(修論 兼 祐翔 M1)	日帰り
178	2	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			4		4	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う, 分子生物学実験」(修論 秋山 礼 M1)	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
179	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林			1 (1)		1 (1)	修士論文「カシノナガキクイムシのマイカンギアの数と体サイズおよび羽化消長に影響する要因」 修士1年 Gabriel Fiakpurnu	日帰り
180	2	1	東大農場・演習林の存続を願う会						演習林内生物（動植物）観察・調査・記録	日帰り
181	2	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画モニタリング調査（希少猛禽類の繁殖状況調査，希少植物のモニタリング調査）	日帰り
182	2	1	西東京市保谷駅前公民館				23	23	環境講座（都市林・屋敷林の魅力と大切さを知る）講義とフィールドワーク	日帰り
183	2	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林		11		1	12	体験活動プログラム「いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう」	日帰り
184	2	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3				3	カシノナガキクイムシ随伴菌の分析	日帰り
185	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2				2	演習林教育社会連携センター准教授 後藤 晋氏と業務引継ぎ打合せ	日帰り
186	2	1	国立研究開発法人森林総合研究所	1			1	2	相談と打合せ	日帰り
187	3	1	一般個人見学者				114	114	見学	日帰り
188	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			1		1	修士論文「コウモリのメチル化解明のための，分子生物学実験」（修論 兼 祐翔 M1）	日帰り
189	3	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			2		2	修士論文「コウモリの集団遺伝学的研究に伴う，分子生物学実験」（修論 秋山 礼 M1）	日帰り
190	3	1	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室	1		1		2	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	日帰り
191	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林		1			1	体験活動プログラム「いちばん近い演習林で樹木調査を体験しよう」	日帰り
192	3	1	エルメス財団						非営利の中高生向けワークショップの開催「スキルアカデミー 土に学ぶ，五感で考える」	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計 4,230
(112)
利用件数 192

5) 生態水文学研究所

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	5	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	6	1	8 (6)		15	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査	日帰り
2	4	2	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	2	4			6	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
3	4	3	犬山研究林利用者協議会				31	31	ギフチョウ観察会	日帰り
4	4	1	シデコブシの会				5	5	ギフチョウ観察会	日帰り
5	4	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	蝶モニター	日帰り
6	4	1	名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター	4	1	2		7	猿投山北断層帯の比抵抗構造解明のための電気探査	日帰り
7	4	1	森林総合研究所関西支所	1		1		2	科研「科学的林業の受容と変容に関する国際比較研究：現場森林官が持つ仕事観に着目して」に関する調査	日帰り
8	4	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	2	1		4	植生回復に伴う土壌炭素回復過程の解明・コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	赤津宿泊施設
9	4	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	2	1		4	植生回復に伴う土壌炭素回復過程の解明・コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り
10	5	2	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	3		2 (2)		5 (2)	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査	日帰り
11	5	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
12	5	1	シデコブシの会				6	6	シデコブシの会 定例会	日帰り
13	5	2	犬山研究林利用者協議会				15	15	定例活動	日帰り
14	5	1	シデコブシの会				21	21	見学コースを歩く会	日帰り
15	5	6	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			6 (6)		6 (6)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在者用宿舎
16	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1 (1)		1 (1)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	日帰り
17	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1	1			2	生態水文学研究所見学	日帰り
18	6	2	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	2	4			6	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
19	6	1	シデコブシの会				6	6	シデコブシの会 定例会	日帰り
20	6	2	犬山研究林利用者協議会				19	19	定例活動	日帰り
21	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	4	5			9	森林環境資源学フィールドワーク「森と水」(中止)	赤津宿泊施設
22	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	2	3			5	森林環境資源学フィールドワーク「森と水」(中止)	日帰り
23	6	1	豊田市産業部森林課				29	29	とよた森林学校「森林入門セミナー」講座	日帰り
24	6	1	シデコブシの会				3	3	とよた森林学校案内・補助	日帰り
25	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	4				4	受託研究の現地実験・民間との共同研究打合せ	外部宿泊
26	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2				2	受託研究の現地実験・民間との共同研究打合せ	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
27	6	2	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	4	4			8	森林湿地環境の物質循環	日帰り
28	6	1	犬山研究林利用者協議会				6	6	蝶モニタリング	日帰り
29	6	2	株式会社ニッソーグリーン				4	4	マツ材線虫病防除薬剤の効果検証	日帰り
30	6	1	犬山市経済環境部環境課				26	26	犬山市民総合大学環境学部第2回講義	日帰り
31	6	1	犬山研究林利用者協議会				9	9	犬山市民総合大学環境学部現地案内補助	日帰り
32	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	2	5	3 (1)		10 (1)	名古屋大学大学院講義「山地流域における水流出プロセスを調べる」現地講義	日帰り
33	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科	5			4	9	㈱ダイセルと東大との産学共創事業を検討し、実証事業の実施場所としての演習林利用の検討	日帰り
34	6	1	シデコブシの会				6	6	昆虫観察会下見	日帰り
35	7	2	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	2	1	3 (2)		6 (2)	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査	日帰り
36	7	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	3			4	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
37	7	2	シデコブシの会				9	9	シデコブシの会 定例会	日帰り
38	7	1	犬山研究林利用者協議会				9	9	定例活動	日帰り
39	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1 (1)		1 (1)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在 者用宿舎
40	7	1	犬山研究林利用者協議会				6	6	蝶モニタリング	日帰り
41	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2				2	ハチク開花地における開花状況調査の研究下見	日帰り
42	7	1	日本原子力研究開発機構原子力基礎工学研究センター	2				2	森林の下層土壌における炭素・窒素循環の解明	日帰り
43	7	1	シデコブシの会				27	27	昆虫観察会	日帰り
44	7	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	7			8	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	赤津宿泊 施設
45	8	2	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	3	5	3 (2)		11 (2)	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査	日帰り
46	8	1	犬山研究林利用者協議会				10	10	定例活動	日帰り
47	8	23	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			23 (23)		23 (23)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在 者用宿舎
48	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1 (1)		1 (1)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	日帰り
49	8	2	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	2	4			6	森林湿地環境の物質循環	日帰り
50	8	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	蝶モニタリング	日帰り
51	8	2	株式会社ニッソーグリーン				4	4	マツ材線虫病防除薬剤の効果検証	日帰り
52	8	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	7			8	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	赤津宿泊 施設
53	8	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	7			8	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
54	8	1	シデコブシの会				37	37	親子水生生物観察会	日帰り
55	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林生物地球科学研究室	4	55	4		63	2023 年度森林科学基礎実習Ⅳ	赤津宿泊施設
56	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林生物地球科学研究室	1	14	1		16	2023 年度森林科学基礎実習Ⅳ	日帰り
57	8	4	長野県林業大学校		7			7	公開森林実習 森林と溪流と土砂の測量実習	赤津宿泊施設
58	8	1	長野県林業大学校		1			1	公開森林実習 森林と溪流と土砂の測量実習	日帰り
59	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1				1	クロチク開花場所の見学	日帰り
60	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2				2	ハチク開花地における開花状況調査	外部宿泊
61	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2				2	ハチク開花地における開花状況調査	日帰り
62	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻森林生態社会学研究室			3 (3)		3 (3)	岐阜県森林公社・木曽三川水源造成公社の聞き取り調査	長期滞在 者用宿舍
63	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻森林生態社会学研究室			1 (1)		1 (1)	岐阜県森林公社・木曽三川水源造成公社の聞き取り調査	日帰り
64	9	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	4	2			6	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
65	9	1	シデコブシの会				6	6	シデコブシの会 定例会	日帰り
66	9	3	犬山研究林利用者協議会				22	22	定例活動	日帰り
67	9	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			3 (3)		3 (3)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在 者用宿舍
68	9	1	名古屋大学生命科学研究科森林水文・砂防学研究室	1	1			2	森林湿地環境の物質循環	日帰り
69	9	1	犬山研究林利用者協議会				4	4	蝶モニタリング	日帰り
70	9	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	4			5	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	赤津宿泊施設
71	9	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	4			5	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り
72	9	3	筑波大学放射線・アイソトープ地球システム研究センター	6		10 (9)		16 (9)	融合ライダーデータに基づく人工林の単木樹冠構造解析による降雨の遮断率推定	赤津宿泊施設
73	9	1	筑波大学放射線・アイソトープ地球システム研究センター	1		4 (3)		5 (3)	融合ライダーデータに基づく人工林の単木樹冠構造解析による降雨の遮断率推定	日帰り
74	9	1	犬山研究林利用者協議会				5	5	愛知県による田口大洞池湿地調査への協力	日帰り
75	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	2	4			6	体験活動プログラム 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験	赤津宿泊施設
76	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1	2			3	体験活動プログラム 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験	日帰り
77	10	1	名古屋大学生命科学研究科森林水文・砂防学研究室	1		1 (1)		2 (1)	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
78	10	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
79	10	1	シデコブシの会				6	6	シデコブシの会 定例会	日帰り
80	10	1	犬山研究林利用者協議会				6	6	定例活動	日帰り
81	10	7	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			7 (7)		7 (7)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在 者用宿舎
82	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1 (1)		1 (1)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	日帰り
83	10	2	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	2		4 (4)		6 (4)	森林湿地環境の物質循環	日帰り
84	10	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	7			8	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り
85	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2				2	ハチク開花地における開花状況調査	外部宿泊
86	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1				1	ハチク開花地における開花状況調査	日帰り
87	10	1	猿投の森づくりの会				8	8	間伐	日帰り
88	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	18				18	森林管理委員会空間情報技術部門 GIS 技術指導者養成研修会	赤津宿泊 施設
89	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	9				9	森林管理委員会空間情報技術部門 GIS 技術指導者養成研修会	日帰り
90	10	1	おいでん・さんそんとよた森林学校運営委員会	1			14	15	とよた森林学校「森林と災害」講座第1回	日帰り
91	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2				2	民間との共同研究の現地調査と樹液流センサー作成実演	外部宿泊
92	11	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
93	11	1	シデコブシの会				6	6	シデコブシの会 定例会	日帰り
94	11	2	犬山研究林利用者協議会				11	11	定例活動	日帰り
95	11	10	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			10 (10)		10 (10)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在 者用宿舎
96	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1 (1)		1 (1)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	日帰り
97	11	4	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	4	5			9	森林湿地環境の物質循環	日帰り
98	11	1	犬山研究林利用者協議会				13	13	蝶モニタリング	日帰り
99	11	1	猿投の森づくりの会				6	6	間伐	日帰り
100	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2				2	民間との共同研究の現地調査と樹液流センサー作成実演	赤津宿泊 施設
101	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2				2	民間との共同研究の現地調査と樹液流センサー作成実演	日帰り
102	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所				4	4	瀬戸市立水無瀬中学校職場体験	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
103	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1	6			7	全学体験ゼミナール「人の手で作り管理する森林」	赤津宿泊施設
104	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1	6			7	全学体験ゼミナール「人の手で作り管理する森林」	日帰り
105	11	1	愛知県森林・林業技術センター技術開発部	2				2	林分収穫表改良に関する調査地選定の下見	日帰り
106	11	1	シデコブシの会				7	7	見学コース案内	日帰り
107	11	1	犬山市役所経済環境部環境課	2			18	20	東京大学犬山研究林秋のふれあい自然観察会	日帰り
108	11	1	名古屋経済大学犬山学研究センター	4	16	0 (4)		20 (4)	体験型プロジェクト「犬山里山学」	日帰り
109	11	1	北海道立総合研究機構林業試験場	1				1	見学	日帰り
110	12	1	シデコブシの会				6	6	シデコブシの会 定例会	日帰り
111	12	2	犬山研究林利用者協議会				16	16	定例活動	日帰り
112	12	27	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			27 (27)		27 (27)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在 者用宿舎
113	12	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			4 (4)		4 (4)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	日帰り
114	12	2	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	2	2			4	森林湿地環境の物質循環	日帰り
115	12	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	6			7	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	赤津宿泊施設
116	12	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	6			7	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り
117	12	1	猿投の森づくりの会				8	8	間伐	日帰り
118	12	1	シデコブシの会				3	3	標石ツアー	日帰り
119	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1		7		8	大学院講義「森林圏水循環機能学」	赤津宿泊施設
120	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1		7		8	大学院講義「森林圏水循環機能学」	日帰り
121	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1			8	9	瀬戸市立水野中学校職場体験	日帰り
122	12	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所四国支所	3				3	赤津研究林の下見および浅野講師との研究打合せ	赤津宿泊施設
123	12	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所四国支所	3				3	赤津研究林の下見および浅野講師との研究打合せ	日帰り
124	1	1	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室			1 (1)		1 (1)	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査	日帰り
125	1	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
126	1	2	犬山研究林利用者協議会				20	20	定例活動	日帰り
127	1	12	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			12 (12)		12 (12)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在 者用宿舎

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
128	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1 (1)		1 (1)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	日帰り
129	1	1	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	1		1 (1)		2 (1)	森林湿地環境の物質循環	日帰り
130	1	3	株式会社ニッソーグリーン	9				9	マツ材線虫病防除薬剤の効果検証	日帰り
131	1	1	猿投の森づくりの会				5	5	間伐	日帰り
132	1	1	千葉県立中央博物館 分館 海の博物館	1				1	研究打合せ	日帰り
133	1	17	University of Sassari		17 (17)			17 (17)	国際短期プログラム	長期滞在 者用宿舎
134	2	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	13 (13)			4	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
135	2	1	シデコブシの会		17 (17)		6	6	シデコブシの会 定例会	日帰り
136	2	1	犬山研究林利用者協議会		13 (13)		9	9	定例活動	日帰り
137	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	17 (17)			2	ハチク開花地における開花状況調査	外部宿泊
138	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	13 (13)			2	ハチク開花地における開花状況調査	日帰り
139	2	1	猿投の森づくりの会		17 (17)		9	9	間伐	日帰り
140	2	13	University of Sassari		13 (13)			13 (13)	国際短期プログラム	長期滞在 者用宿舎
141	2	1	University of Sassari		1 (1)	0 (1)		1 (1)	国際短期プログラム	日帰り
142	2	4	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	3		4 (4)		7 (4)	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査地	日帰り
143	2	1	アジア航測株式会社 海外プロジェクト部 海外技術課				2	2	赤津研究林内の流量観測サイトや研究林に付帯して設置されている施設等	日帰り
144	2	1	林野庁中部森林管理局計画保全部				4	4	j 研究所施設の視察	日帰り
145	3	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	3			4	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
146	3	3	犬山研究林利用者協議会				29	29	定例活動	日帰り
147	3	1	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	1	1	1 (1)		3 (1)	森林湿地環境の物質循環	日帰り
148	3	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	3			4	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	赤津宿泊 施設
149	3	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	3			4	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り
150	3	1	猿投の森づくりの会				9	9	間伐	日帰り
151	3	1	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	1	1	1 (1)		3 (1)	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査地	日帰り
152	3	1	東京農工大学農学部地域生態システム学科山地保全研究室	1	2	3		6	生態水文研究所ワークショップ参加と南谷流域視察	赤津宿泊 施設
153	3	1	東京農工大学農学部地域生態システム学科山地保全研究室	1	2	3 (1)		6 (1)	生態水文研究所ワークショップ参加と南谷流域視察	日帰り
154	3	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			5 (4)		5 (4)	生態水文学研究所ワークショップ参加	長期滞在 者用宿舎
155	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1 (1)		1 (1)	生態水文学研究所ワークショップ参加	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
156	3	4	University of Zurich, Department of Geography	8		0 (4)		8 (4)	研究打ち合わせ, 試験地見 (赤津研究林, 穴の宮試験地, 東山流域, 犬山研究林)	外部宿泊
157	3	1	University of Zurich, Department of Geography	2		0 (1)		2 (1)	研究打ち合わせ, 試験地見 (赤津研究林, 穴の宮試験地, 東山流域, 犬山研究林)	日帰り
158	3	1	筑波大学生命環境系 環境科学学位プログラム	1		3		4	量水施設等の水文観測地の見学	日帰り
159	3	1	シデコブシの会				3	3	総会と巣箱作成会準備	日帰り
160	3	1	シデコブシの会				35	35	総会と巣箱作成会	日帰り
161	3	1	名古屋経済大学市邨 高等学校	11			28	39	長期生態系プロットの計測と林業遺産を含む研究林の見学	日帰り
162	3	1	犬山研究林利用者協 議会				6	6	高校生樹木調査支援・定例活動	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

	利用者数合計	1,313 (186)
、	利用件数	162

6) 富士癒しの森研究所

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	弘前大学農学生命科学部植物生態学研究室			1		1	カエデ属における冬季の日長認識に関与する光受容器官の適応進化	日帰り
2	4	1	住友林業株式会社筑波研究所				3	3	研究打ち合わせ	山中寮内藤セミナーハウス
3	4	1	住友林業株式会社筑波研究所				3	3	研究打ち合わせ	日帰り
4	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	5		3		8	研究打ち合わせ	山中寮内藤セミナーハウス
5	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	5		3		8	研究打ち合わせ	日帰り
6	4	1	東京大学大学院総合文化研究科	3			1	4	演習林の見学（総合文化研究科環境委員会の用務として）	日帰り
7	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	富士山中宿泊施設
8	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	日帰り
9	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験	日帰り
10	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	5			7	12	癒しの森の会の森林散策および第 19 回例会	日帰り
11	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	18			11	29	特別ガイド「春の彩りを訪ねて」	日帰り
12	4	1	株式会社クリエイティブネクサス				5	5	NHK 教育テレビ「ヴィランの言い分」福井大教授へのインタビュー撮影	日帰り
13	4	4	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			8 (4)		8 (4)	カラマツのリモートセンシング	外部宿泊
14	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			2 (1)		2 (1)	カラマツのリモートセンシング	日帰り
15	5	4	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	4		8		12	カラマツのリモートセンシング	外部宿泊
16	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	1		2		3	カラマツのリモートセンシング	日帰り
17	5	4	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			8 (4)	4	12 (4)	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	外部宿泊
18	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			2 (1)	1	3 (1)	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	日帰り
19	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	2				2	アロマオイルを用いたカシノナガキイムシ忌避効果の検証	日帰り
20	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所	6	17			23	全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」	山中寮内藤セミナーハウス
21	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所	6	17			23	全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」	日帰り
22	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	5			9	14	癒しの森の会の森林散策および例会	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
23	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	実証林に設置した自動撮影カメラによるインターナル撮影	富士山中宿泊施設
24	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	実証林に設置した自動撮影カメラによるインターナル撮影	日帰り
25	5	1	東京都市大学環境学部環境創成学科	1		2 (2)		3 (2)	研究打合せ	日帰り
26	5	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		2	1	4	足裏感覚の差異による森林散策時の行動と認識への影響の比較	富士山中宿泊施設
27	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	富士山中宿泊施設
28	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星の観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	日帰り
29	6	11	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	5		20	36	61	足裏感覚の差異による森林散策時の行動と認識への影響の比較	富士山中宿泊施設
30	6	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻			3	2	5	足裏感覚の差異による森林散策時の行動と認識への影響の比較	日帰り
31	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室	1		2	19	22	林内見学	日帰り
32	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			2	6	癒しの森の朝もや音楽会の下見	日帰り
33	6	1	山梨県森林総合研究所	4				4	薪化处理によるカシノナガキイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
34	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	1		2 (1)		3 (1)	カラマツの調査フローの確認とリモートセンシング調査	日帰り
35	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	6	15			21	総合科目「森林資源学」フィールドワーク「森と癒し」	山中寮内藤セミナーハウス
36	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	6	15			21	総合科目「森林資源学」フィールドワーク「森と癒し」	日帰り
37	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	9			14	23	癒しの森の会打ち合わせ	日帰り
38	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	3				3	サワラ溝腐症状に関する研究 試料採取	日帰り
39	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	8			20	28	癒しの森の会打ち合わせ	日帰り
40	7	1	社会福祉法人静岡恵明学園こども園グループ				1	1	こども園園児の遠足の下見	日帰り
41	7	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	12				12	ピットフォールトラップによる地上徘徊性昆虫調査	富士山中宿泊施設
42	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	3				3	ピットフォールトラップによる地上徘徊性昆虫調査	日帰り
43	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	24	21	18	9	72	中国海南大学サマープログラム	山中寮内藤セミナーハウス
44	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	8	7	6	3	24	中国海南大学サマープログラム	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
45	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	実証林に設置した自動撮影カメラによるインターバル撮影・星の観察可能時間調査	外部宿泊
46	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	実証林に設置した自動撮影カメラによるインターバル撮影・星の観察可能時間調査	日帰り
47	7	1	社会福祉法人静岡恵明学園こども園グループ	15			96	111	こども園園児の遠足	日帰り
48	7	1	個人				1	1	林内散策	日帰り
49	7	1	東京大学秩父演習林しおじの会				8	8	林内見学	日帰り
50	7	1	立教大学	1	20		10	31	林内のクロスズメバチ生態の保全と安全管理	日帰り
51	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4				4	環境省レッドリスト改訂作業	日帰り
52	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所				4	4	県立吉田高校理数探求	日帰り
53	7	7	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	28		14	7	49	森林音のエンタテイメント性を向上させる音楽演奏とインターネット配信	山中寮内 藤セミナーハウス
54	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	4		2	1	7	森林音のエンタテイメント性を向上させる音楽演奏とインターネット配信	日帰り
55	7	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	42		12	54	108	癒しの森で親しむクラシック音楽と森の時間	山中寮内 藤セミナーハウス
56	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	7		2	9	18	癒しの森で親しむクラシック音楽と森の時間	日帰り
57	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	5			209	214	癒しの森の朝もや音楽会	日帰り
58	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	1				1	アロマオイルを用いたカシノナガキイムシ忌避効果の検証	日帰り
59	8	1	山梨県森林総合研究所				2	2	薪化处理によるカシノナガキイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
60	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			2		2	カラマツの調査フローの確認とリモートセンシング調査	日帰り
61	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所				4	4	県立吉田高校理数探求	日帰り
62	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻	6			4	10	樹冠構造3次元計測及び光強度測定	日帰り
63	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻保全生態学研究室	1				1	保全生態学実習の実習課題のための現地視察	日帰り
64	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2			6	8	癒しの森の会	日帰り
65	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	8				8	実証林に設置した自動撮影カメラによるインターバル撮影	富士山中 宿泊施設
66	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	実証林に設置した自動撮影カメラによるインターバル撮影	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
67	8	1	東大 EMP 受講生				4	4	東大 EMP の演習林課題対応を目的とした、演習林見学ならびにフィールドワーク	日帰り
68	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	3				3	生物部門植物分野樹木実生調査	山中寮内藤セミナーハウス
69	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	3				3	生物部門植物分野樹木実生調査	日帰り
70	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室	8	18			26	フィールド科学専修森圏管理学実習	山中寮内藤セミナーハウス
71	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室	4	9			13	フィールド科学専修森圏管理学実習	日帰り
72	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	6	30			36	フィールド科学専修保全生態学実習	山中寮内藤セミナーハウス
73	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	3	15			18	フィールド科学専修保全生態学実習	日帰り
74	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4	2			6	体験活動プログラム	山中寮内藤セミナーハウス
75	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4	2			6	体験活動プログラム	日帰り
76	8	1	東京農工大学農学部地域生態システム学科		1			1	ニホンジカの対捕食者行動の機能的意義	日帰り
77	8	2	東京農工大学農学部地域生態システム学科		2			2	ニホンジカの対捕食者行動の機能的意義	富士山中宿泊施設
78	8	1	東京大学農学部森林科学専攻林政学研修室	4	18	1		23	森林科学基礎実習Ⅳ	山中寮内藤セミナーハウス
79	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星野観察可能時間調査（「環境教育素材Ⅱ」）	富士山中宿泊施設
80	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星野観察可能時間調査（「環境教育素材Ⅱ」）	日帰り
81	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	1				1	自動撮影カメラ調査	日帰り
82	9	1	山梨県森林総合研究所	2				2	薪化处理によるカシノナガキイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
83	9	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	12				12	ビットフォールトラップによる地上徘徊性昆虫調査	富士山中宿泊施設
84	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	3				3	ビットフォールトラップによる地上徘徊性昆虫調査	日帰り
85	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻	1				1	樹冠構造 3 次元計測及び光強度測定	日帰り
86	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	6			17	23	癒しの森の会	日帰り
87	9	2	東京農工大学農学部地域生態システム学科		2	1		3	ニホンジカの対捕食者行動の機能的意義	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
88	9	3	東京農工大学農学部 地域生態システム学 科		3	2		5	ニホンジカに対捕食者行動の機能的意 義	富士山中 宿泊施設
89	9	1	東京大学農学部森林 科学専攻林政学研修 室	4	15	1		20	森林科学基礎実習Ⅳ	日帰り
90	9	1	防衛大学校情報工学 科	1				1	樹冠構造 3 次元計測及び光強度測定	日帰り
91	9	3	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 田無演習林	6				6	星野観察可能時間調査および染色実験 （「環境教育素材の開発ⅠおよびⅡ」）	
92	9	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 田無演習林	2				2	星野観察可能時間調査および染色実験 （「環境教育素材の開発ⅠおよびⅡ」）	
93	9	1	赤門乗馬会（東京大 学運動会馬術部 OB 会）		4		1	5	見学	
94	9	1	（株）きんばら				2	2	ミズナラ材の見学	
95	9	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林富士癒しの森 研究所	12	68			80	全学体験ゼミナール「東大の別荘「癒 しの森」で心も体もリフレッシュ	山中寮内 藤セミナ ーハウス
96	9	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林富士癒しの森 研究所	6	34			40	全学体験ゼミナール「東大の別荘「癒 しの森」で心も体もリフレッシュ	日帰り
97	10	3	東京大学大学院農学 生命科学研究科生 産・環境生物学専攻			6		6	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	外部宿泊
98	10	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科生 産・環境生物学専攻			2		2	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	日帰り
99	10	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 千葉演習林	1				1	アロマオイルを用いたカシノナガキク イムシ忌避効果の検証	日帰り
100	10	1	山梨県森林総合研究 所	5				5	薪化处理によるカシノナガキクイムシ 拡散防止効果の確認	日帰り
101	10	1	東京農工大学農学部 地域生態システム学 科		1			1	ニホンジカに対捕食者行動の機能的意 義	日帰り
102	10	1	東京農工大学農学部 地域生態システム学 科		1			1	ニホンジカに対捕食者行動の機能的意 義	富士山中 宿泊施設
103	10	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 田無演習林	2				2	星野観察可能時間調査（「環境教育素 材Ⅱ」）	日帰り
104	10	1	東京大学農学生生命 科学研究科附属演習林 富士癒しの森研究所	14			10	24	特別ガイド「キノコに親しむ」	日帰り
105	10	3	東京大学大学院農学 生命科学研究科生 産・環境生物学専攻			6		6	カラマツのリモートセンシング調査	外部宿泊
106	10	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科生 産・環境生物学専攻			2		2	カラマツのリモートセンシング調査	日帰り
107	10	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 生物地球科学研究室	1		1		2	森林生態系純一次生産の地上部・地下 部分配フェノロジーと環境応答の判明	富士山中 宿泊施設
108	10	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 生物地球科学研究室	1		1		2	森林生態系純一次生産の地上部・地下 部分配フェノロジーと環境応答の判明	日帰り
109	10	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林フィールドデ ータ研究センター	3				3	山中寮周辺の散策路の散策利用と講義 室前での楽器演奏	日帰り
110	10	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 田無演習林	7	18			25	全学体験ゼミナール「危険生物の知識 （秋編）」	山中寮内 藤セミナ ーハウス

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
111	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	7	18			25	全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」	日帰り
112	10	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	17			54	71	癒しの森の会打ち合わせおよび文化祭	日帰り
113	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所				100	100	森の文化祭	日帰り
114	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星野観察可能時間調査（「環境教育素材Ⅱ」）	山中寮内藤セミナーハウス
115	10	1	東京大学農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2	8			10	研究打合せ	日帰り
116	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室	6	21			27	森林風景計画実習	山中寮内藤セミナーハウス
117	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室	2	7			9	森林風景計画実習	日帰り
118	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	18				18	R5 年度技術職員等試験研究・研修会議	山中寮内藤セミナーハウス
119	11	3	東京農工大学農学部地域生態システム学科		3			3	ニホンジカの対捕食者行動の機能的意義	日帰り
120	11	2	東京農工大学農学部地域生態システム学科		2			2	ニホンジカの対捕食者行動の機能的意義	富士山中宿泊施設
121	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星野観察可能時間調査（「環境教育素材Ⅱ」）	富士山中宿泊施設
122	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星野観察可能時間調査（「環境教育素材Ⅱ」）	日帰り
123	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	18				18	R5 年度技術職員等試験研究・研修会議	日帰り
124	11	1	東京大学総合文化研究科・教養学部	2			3	5	マメザクラの採取（環境整備，駒場Ⅰキャンパス桜再生）	日帰り
125	11	1	山中湖村役場福祉健康課健康係	1			22	23	基礎代謝アップ教室	日帰り
126	11	4	茨城大学理学部	4	8	20		32	茨城大学地球環境科学コース特別野外実習	外部宿泊
127	11	1	茨城大学理学部	1	2	5		8	茨城大学地球環境科学コース特別野外実習	日帰り
128	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	8	2			10	全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング」	山中寮内藤セミナーハウス
129	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4	2			6	全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング」	日帰り
130	11	1	東京大学農学部森林科学専攻林政学研究室	4	9	1		14	森林政策学演習	山中寮内藤セミナーハウス
131	11	1	東京大学農学部森林科学専攻林政学研究室	4	9	1		14	森林政策学演習	日帰り
132	11	1	東京大学演習林森林圏生態社会学研究室	1	1			2	森林環境教育における VR 教材の利用可能性の検討	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
133	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	5			6	11	癒しの森の会	日帰り
134	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所		2			2	体験活動プログラム	山中寮内 藤セミナーハウス
135	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所		2			2	体験活動プログラム	日帰り
136	12	1	東京大学東アジア藝文書院（EAA）	3	11 (11)	4		18 (11)	留学生との国際交流	山中寮内 藤セミナーハウス
137	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星野観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	山中寮内 藤セミナーハウス
138	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星野観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	日帰り
139	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	3	1	8	7	19	落ち葉焚き	山中寮内 藤セミナーハウス
140	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	3	1	8	7	19	落ち葉焚き	日帰り
141	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	7			6	13	落ち葉焚き	日帰り
142	1	5	東京農工大学農学部地域生態システム学科		5			5	ニホンジカの対捕食者行動の機能的意義	日帰り
143	1	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星野観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	山中寮内 藤セミナーハウス
144	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星野観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	日帰り
145	2	1	東京大学農学部附属アジア生物資源環境研究センター	6		1 (1)	1	8 (1)	日本の大学演習林の管理と教育について見学	日帰り
146	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	1				1	カラマツ精英樹保存林毎木調査	日帰り
147	3	3	東京農工大学農学部地域生態システム学科		3			3	ニホンジカの対捕食者行動の機能的意義	日帰り
148	3	1	株式会社 NT システム	2				2	ライブカメラシステム撤去	日帰り
149	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	14	2	6	4	26 (18)	International Research Meeting of Forest Culture Science in East Asia (FOCUSEA)	日帰り
150	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	12			1	13	潮田記念基金による建物建築に向けた下見	山中寮内 藤セミナーハウス
151	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	10			1	11	潮田記念基金による建物建築に向けた下見	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計 2,116
(21)
利用件数 151

7) 樹芸研究所

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	個人				2	2	温室見学	日帰り
2	4	2	東京大学農学部森林環境資源学科 森林圏生態社会学研究室		2			2	卒業論文のための研究	下賀茂寮 宿泊施設
3	4	1	東京大学農学部森林環境資源学科 森林圏生態社会学研究室		1			1	卒業論文のための研究	日帰り
4	4	1	坂井森林組合				4	4	NEDO「エネルギーの森づくり実証事業」に係る視察	日帰り
5	5	2	東京大学農学部森林環境資源学科 森林圏生態社会学研究室		2			2	卒業論文のための研究	下賀茂寮 宿泊施設
6	5	1	東京大学農学部森林環境資源学科 森林圏生態社会学研究室		1			1	卒業論文のための研究	日帰り
7	5	1	静岡県賀茂地域局				5	5	静岡県職員視察	日帰り
8	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林フィールドデータ研究センター	1				1	樹芸研究所のネットワーク整備	下賀茂寮 宿泊施設
9	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林フィールドデータ研究センター	1				1	樹芸研究所のネットワーク整備	日帰り
10	5	1	一般				1	1	温室植物見学	日帰り
11	6	1	東京大学農学部森林環境資源学科 森林圏生態社会学研究室		1			1	卒業論文のための研究	日帰り
12	6	1	一般				4	4	温室植物見学	日帰り
13	6	1	伝統工芸木炭生産技術保存会				1	1	今年度活動打合せ	日帰り
14	6	1	愛知県森林・林業研究センター	4				4	「早生樹等の生育特性及び強度性能評価に関する研究」に係る知見を得るため	日帰り
15	6	1	国立大学法人筑波大学生命環境系	1	2			3	伊豆半島南部常緑広葉樹林における土壌有機物分解菌類の調査	日帰り
16	6	1	東京大学農学生命科学研究科生物材料科学専攻高分子材料科学研究室	4			4	8	(株)ダイセルと東大の産学協創事業を検討しており、実証事業の実施場所として演習林の利用を検討しているため	下賀茂寮 宿泊施設
17	6	1	東京大学農学生命科学研究科生物材料科学専攻高分子材料科学研究室	4			4	8	(株)ダイセルと東大の産学協創事業を検討しており、実証事業の実施場所として演習林の利用を検討しているため	日帰り
18	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所	4				4	無人航空機による源泉槽・温室天井等設備点検及び無人航空機飛行訓練	日帰り
19	7	1	国立大学法人東京農工大学農学研究院	2	1	2 (1)		5 (1)	ユーカリ挿し木方法の研究・教育	日帰り
20	8	1	個人				2	2	温室見学	日帰り
21	8	1	静岡県賀茂地域局				4	4	静岡県職員視察	日帰り
22	8	1	国立大学法人筑波大学生命環境系		1			1	伊豆半島南部常緑広葉樹林における土壌有機物分解菌類の調査	日帰り
23	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	3		2		5	研究プロジェクト立ち上げのための下見、気象水文水質部門打合せ	下賀茂寮 宿泊施設
24	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	3		2		5	研究プロジェクト立ち上げのための下見、気象水文水質部門打合せ	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
25	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所	2		1		3	Anna Tsing “Friction”研究会	下賀茂寮 宿泊施設
26	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所	2		1		3	Anna Tsing “Friction”研究会	日帰り
27	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	8	32			40	全額体験ゼミ「夏版・伊豆に学ぶ1」	下賀茂寮 宿泊施設
28	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	2	8			10	全額体験ゼミ「夏版・伊豆に学ぶ1」	日帰り
29	8	5	東京大学運動会総務部		23		38	61	地元生徒との地域交流事業	下賀茂寮 宿泊施設
30	8	1	東京大学運動会総務部		5		13	18	地元生徒との地域交流事業	日帰り
31	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属樹芸研究所	12	54			66	森林実習	下賀茂寮 宿泊施設
32	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属樹芸研究所	4	18			22	森林実習	日帰り
33	9	4	森林総合研究所 木材加工・特性研究領域	45			4	49	木材標本採集	外部宿泊
34	9	1	森林総合研究所 木材加工・特性研究領域	12			1	13	木材標本採集	日帰り
35	9	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	4	20			24	森林実習	下賀茂寮 宿泊施設
36	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	1	5			6	森林実習	日帰り
37	9	7	伝統工芸木炭生産技術保存会				61	61	工芸用白炭製炭技術研修（窯修繕、製炭、意見交換会）	下賀茂寮 宿泊施設
38	10	5	個人				7	7	温室見学	日帰り
39	10	1	東京大学農学部森林環境資源学科 森林圏生態社会学研究室		1			1	卒業論文のための研究	日帰り
40	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所	2				2	無人航空機による樹芸研究所の空撮	日帰り
41	10	1	東京大学農学部森林環境資源学科 森林圏生態社会学研究室		1			1	卒業論文のための研究	外部宿泊
42	10	1	静岡県賀茂農林事務所				4	4	樹芸研究所の森林・林業に関する試験・研究状況の視察	日帰り
43	11	3	個人				5	5	温室見学	日帰り
44	11	1	TBS テレビ「報道特集」ディレクター				4	4	取材	日帰り
45	11	1	東京大学生産技術研究所	3	1	2		6	渓流域における流量モニタリング手法の開発	下賀茂寮 宿泊施設
46	11	1	東京大学生産技術研究所	3	1	2		6	渓流域における流量モニタリング手法の開発	日帰り
47	11	1	静岡県賀茂地域局				7	7	移動知事室に向けた行程試走	日帰り
48	11	1	下田市教育委員会生涯学習課社会教育係				17	17	自然体験講座（伐っていかそう伊豆の竹-竹の干ばつとものづくり-）	日帰り
49	11	1	静岡県賀茂地域局				19	19	移動知事室（知事視察）	日帰り
50	11	1	東京大学アジア生物資源環境研究センター	1				1	樹芸研究所視察	下賀茂寮 宿泊施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
51	11	1	東京大学アジア生物 資源環境研究センタ ー	1				1	樹芸研究所視察	日帰り
52	11	9	一般				63	63	狩猟	日帰り
53	12	5	個人				10	10	温室見学	日帰り
54	12	10	一般				70	70	狩猟	日帰り
55	12	1	東京農業大学地域環 境科学部森林総合科 学科	1				1	国内で生育するユーカリの肥大成長の 季節変化について	日帰り
56	12	1	信州大学農学部				8	8	見学（市民メンバーを含む「東京林業 研究会」による見学）	日帰り
57	12	1	三菱商事（株）所属 （株）MC アグリアラ イアンス出向				1	1	カカオポッド・剪定枝を元に製造した バイオ炭の土壌改良剤としての活用に ついての実証実験	日帰り
58	12	1	株式会社森のエネル ギー研究所	1			2	3	研究所内のユーカリ伐採後の萌芽状況 確認のため	日帰り
59	12	4	伝統工芸木炭生産技 術保存会			4	16	20	工芸用白炭製炭技術研修（製炭），工 芸用白炭原木育成研修	下賀茂寮 宿泊施設
60	12	1	伝統工芸木炭生産技 術保存会				4	4	工芸用白炭製炭技術研修（製炭），工 芸用白炭原木育成研修	日帰り
61	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 樹芸研究所	1		8 (5)		9 (5)	国際森林学特論	下賀茂寮 宿泊施設
62	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 樹芸研究所	1		8		9	国際森林学特論	日帰り
63	1	1	個人				2	2	温室見学	日帰り
64	1	11	一般				77	77	狩猟	日帰り
65	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻造林学研究 室	1	12			13	森林土壌学実験	下賀茂寮 宿泊施設
66	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻造林学研究 室	2	12			14	森林土壌学実験	日帰り
67	2	6	個人				14	14	温室見学	日帰り
68	2	10	一般				70	70	狩猟	日帰り
69	2	3	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 秩父演習林	3	12	6		21	全額体験ゼミ続伊豆に学ぶ イノシシ ソーセージは何を語る？	下賀茂寮 宿泊施設
70	2	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 秩父演習林	1	4	2		7	全額体験ゼミ続伊豆に学ぶ イノシシ ソーセージは何を語る？	日帰り
71	2	3	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 樹芸研究所	9	51			60	全額体験ゼミナール「伊豆に学ぶ自然 の恵みを活かす技」	下賀茂寮 宿泊施設
72	3	3	個人				5	5	温室見学	日帰り
73	3	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林樹芸研究所	2				2	無人航空機による樹芸研究所の空撮	日帰り
74	3	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 樹芸研究所	3	17			20	全額体験ゼミナール「伊豆に学ぶ自然 の恵みを活かす技」	日帰り
75	3	1	癒しの森の会（富士 癒しの森研究所）				7	7	癒しの森の会による樹芸研究所の見学	日帰り
76	3	1	慶応義塾大学経済学 部	1	4			5	菌類民俗学に関する意見交換，青野研 究林の菌類相調査	下賀茂寮 宿泊施設
77	3	1	慶応義塾大学経済学 部	1	4			5	菌類民俗学に関する意見交換，青野研 究林の菌類相調査	日帰り
78	3	1	中部電力株式会社 事業創造本部				4	4	カカオのハウス栽培について	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
79	3	1	住友林業株式会社				5	5	ユーカリ試験植林地の視察	日帰り
80	3	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3	12			15	全学体験ゼミ続伊豆に学ぶ 林業体験から見えるコト	下賀茂寮 宿泊施設
81	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	4			5	全学体験ゼミ続伊豆に学ぶ 林業体験から見えるコト	日帰り
82	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	ユーカリ樹木から分離された菌類の腐朽力検定	外部宿泊
83	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	ユーカリ樹木から分離された菌類の腐朽力検定	日帰り
84	3	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 森林昆虫研究領域	5				5	With/Post ナラ枯れ時代の広葉樹林管理戦略の構築	日帰り
85	3	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2				2	気象水文水質部門の各演の水サンプルのイオン分析	下賀茂寮 宿泊施設
86	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1				1	気象水文水質部門の各演の水サンプルのイオン分析	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計	1,091 (6)
利用件数	86

13. 各演習林所在地および連絡先

演習林名 作業所名	郵便番号	住所	電話	FAX
企画部/教育・社会 連携センター/フイ ールドデータ研究 センター	113-8657	東京都文京区弥生 1-1-1 農学部 1 号館 116 号室	03-5841-5497	03-5841-5494
千葉演習林	299-5503	千葉県鴨川市天津 770	04-7094-0621	04-7094-2321
清澄作業所	299-5505	千葉県鴨川市清澄 135	04-7094-0585	
札郷作業所	292-0537	千葉県君津市黄和田畑字前沢 1442-1		
郷台作業所	292-0533	千葉県君津市折木沢字相ノ沢 1542-1		
北海道演習林	079-1563	北海道富良野市山部東町 9 番 61 号	0167-42-2111	0167-42-2689
山部樹木園	079-1582	北海道富良野市字山部第一苗圃	0167-39-6017	
セミナーハウス	076-0161	北海道富良野市字麓郷市街地 1	0167-42-2111	
秩父演習林	368-0034	埼玉県秩父市日野田町 1-1-49	0494-22-0272	0494-23-9620
栃本作業所	369-1901	埼玉県秩父市大滝 3450-2	0494-55-0355	0494-55-0355
大血川作業所	369-1901	埼玉県秩父市大滝 5198	0494-54-1220	
影森苗畑	369-1871	埼玉県秩父市下影森 764	0494-23-9768	
田無演習林	188-0002	東京都西東京市緑町 1-1-1	042-461-1528	042-461-2302
生態水文学研究所	489-0031	愛知県瀬戸市五位塚町 11-44	0561-82-2371	0561-85-2838
赤津作業所	489-0014	愛知県瀬戸市北白坂町 1-1	0561-21-1185	
犬山作業所	484-0094	愛知県犬山市塔野地字大畔 178-2		
富士癒しの森研究所	401-0501	山梨県南都留郡山中湖村山中 341-2	0555-62-0012	0555-62-4798
樹芸研究所	415-0304	静岡県賀茂郡南伊豆町加納 457	0558-62-0021	0558-62-3170
青野作業所	415-0327	静岡県賀茂郡南伊豆町青野 851	0558-62-0254	

演習林年報

令和 7 年 2 月 10 日

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
文京区弥生 1 丁目 1 番 1 号